

飛田遺跡群 2

一般国道 3 号熊本北バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

2016.3

熊本県教育委員会

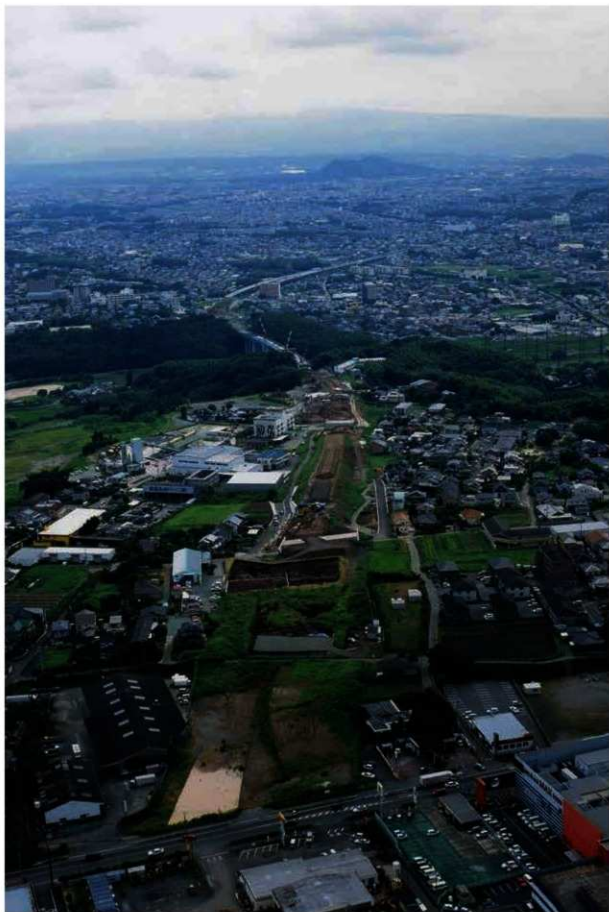
飛田遺跡群 2

一般国道3号熊本北バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査



2016.3

熊本県教育委員会



飛田遺跡群 調査区全景 西より



2区 SZ02 遺物出土状況 南東より



2区 SZ05 遺物出土状況 南西より



2区 S702 出土土器



2区 S205 出土土器



2区 SZ03 主体部石棺内人骨出土状況 東より



2区 SZ03 主体部石棺さしこみ根固め石 南東より



2区 SZ03 高坏



3-1·2·3区 4-5层 出土石器

序 文

熊本県教育委員会では、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所による一般国道3号熊本北バイパス改築事業に伴い、予定地内の埋蔵文化財発掘調査を実施しました。

本書は、熊本市北区四方寄町に所在する飛田遺跡群2区・3区の発掘調査報告書です。

飛田遺跡群は調査工程により1～3区に分割し、平成22年度～平成26年度まで発掘調査を実施しました。平成25年度から順次整理作業を行い、昨年度1区の調査成果についての報告書を刊行し、本年度ここに2区・3区の報告書をまとめることができました。

今回報告する2区では、縄文時代から古代までの遺構・遺物が検出され、特に、古墳時代のお墓に関わる方形周溝墓（6基）などの遺構群や古代においては、墨書土器が出土しました。3区では、旧石器時代から古代までの遺構・遺物が検出され、特に縄文時代での、竪穴建物や祭祀に使われたであろうと思われる土偶の出土、古代においては、道路・溝状遺構が検出されました。

各当該時期の生活を考えるうえで貴重な資料・情報を提供することができました。

本書が学術資料としてはもとより、広く県民の皆様の埋蔵文化財に対する認識と理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助としてご活用いただけると幸いです。

最後に、埋蔵文化財発掘調査にご理解、ご協力をいただいた地元の皆様をはじめ、熊本市教育委員会並びに同市観光文化交流局文化振興課、事業主体である国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所に対し、心より感謝申し上げます。

平成28年3月31日

熊本県教育長 田 崎 龍 一

例言

- 1 本書は、熊本市北区四方奇町に所在する飛田遺跡群 2 区・3 区の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所から依頼を受けて、一般国道 3 号熊本北バイパス建設工事に伴う記録保存のための発掘調査として、平成 22 年度から熊本県教育委員会が実施した。
- 3 現地での発掘調査は、第 1 章第 1 節 2 に記した調査担当者が担当し、現地での遺構実測及び写真撮影も調査担当者で行った。
- 4 現地での 4 級基準点及びメッシュ杭設置業務は、熊本九州文化財研究所・熊本有明測量開発社・熊本十八測量設計に委託した。
- 5 遺構の実測は、調査担当者が担当した。
- 6 遺物の整理は、熊本県文化財資料室で行った。
- 7 遺物の実測及び製図は、戸田紀美子・徳永文香・築出直美・藤本香織・岩下恵美子・立石美代子・結城あけみが行い、石器と土器の一部を熊本県文化財サポートシステム・熊本有明測量開発社に委託した。
- 8 遺構の製図は、熊本九州文化財研究所に委託した。
- 9 遺物の写真撮影は、写測エンジニアリング株式会社が行った。
- 10 古墳人骨の科学分析は、特定非営利活動法人 人類学研究機構 松下孝幸・松下真実氏に依頼した。
- 11 飛田遺跡群における地質の科学分析は、熊本火山灰考古学研究所に委託した。
- 12 付論の執筆は鶴崎俊彦氏に依頼した。
- 13 本書の執筆は、村崎孝宏・須藤美代が担当した。
- 14 本書の編集は、村崎・須藤が担当し、戸田・徳永・築出・藤本・岩下・立石・結城が補助した。
- 15 本書に掲載した資料は、熊本県文化財資料室で保管している。

凡例

- 1 本書で使用している方位は、座標軸を基準とした北を示している。
- 2 報告書に掲載した実測図の縮尺は、不統一であり各頁に明記した。
- 3 土層及び土器類の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版 標準土色帖」(財団法人日本色彩研究所; 2004) に準拠した。
- 4 写真の縮尺は任意である。
- 5 遺物の実測は一部を除き原則として原寸大で行い、報告書に掲載した実測図の縮尺は挿図ごとにスケールを示した。
- 6 遺構の種類については、一部を除いて発掘調査時に判断し略号を付した。
S I : 堅穴建物跡 S K : 土坑 S Z : 周溝墓 S F : 道路跡 S T : 土墳墓
S D : 溝 S P : 柱穴

本文目次

巻頭カラー	
序文	
例言・凡例	
第Ⅰ章 調査の概要	1
第Ⅰ節 調査に至る経緯及び調査の組織	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査の組織	1
第Ⅱ節 調査の方法と経過	4
1 予備調査	4
2 本調査	4
3 整理作業	28
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	29
第Ⅰ節 遺跡の環境	29
1 地理的環境	29
2 歴史的環境	29
第Ⅲ章 調査の成果	35
第Ⅰ節 調査2区	35
1 遺構とその分布	35
観察表	68
2 まとめ	76
第Ⅱ節 調査3区	81
1 遺構とその分布	81
観察表	138
〈自然科学分析〉	
第Ⅲ節 飛田遺跡群2区出土の古墳人骨	146
第Ⅳ節 地質分析の報告	166
第Ⅳ章 総括	177
第Ⅰ節 旧石器時代遺構と遺物	177
第Ⅱ節 縄文時代遺構と遺物	177
第Ⅲ節 古墳時代遺構と遺物	177
第Ⅳ節 古代以降遺構と遺物	178
第Ⅴ節 まとめ	179
参考文献	179
写真図版	
付論	221
抄録	

挿図目次

- 第1図 基本土層柱状図
- 第2図 一般国道3号熊本北バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財試掘・確認調査位置図 (S=1/2500)
- 第3図 H19年度試掘・確認調査トレンチ柱状図
- 第4図 H19年度試掘・確認調査トレンチ柱状図
- 第5図 H21年度8月試掘・確認調査トレンチ柱状図
- 第6図 H21年度10月試掘・確認調査トレンチ柱状図
- 第7図 周辺地形図 (S=1/2500)
- 第8図 飛田遺跡群周辺遺跡地図 (S=1/25000)
- 2区**
- 第9図 飛田遺跡群2区 遺構配置図 (1/600)
- 第10図 2-1区 北・南側調査区壘土層断面図 (S=1/60)
- 第11図 2-4区 北側調査区土層断面図 (S=1/60)
- 第12図 2-2区 南側調査区土層断面図 (S=1/60)
- 第13図 2-5区 北側調査区土層断面図 (S=1/60)
- 第14図 飛田遺跡群2区 遺構配置図 (1/600)
- 古墳時代 -
- 第15図 SZ01 (1/250)・土層断面 (1/80) 実測図
- 第16図 SZ01 遺物実測図 (1/3)
- 第17図 SZ02 実測図 (1/200)
- 第18図 SZ02 土層断面実測図 (1/80)
- 第19図 SZ02 主体部実測図 (1/40)
- 第20図 SZ02 遺物実測図-1-
- 第21図 SZ02 遺物実測図-2-
- 第22図 SZ03 (1/100)・土層断面図 (1/40) 実測図
- 第23図 SZ03 蓋石 (1/40)・主体部実測図 (1/40)
- 第24図 SZ03 主体部人骨出土実測図 (1/30)
- 第25図 SZ03 遺物実測図
- 第26図 SZ04 (1/150) 土層断面図 (1/50)
- 第27図 SZ04 遺物実測図
- 第28図 SZ05 (1/150)・土層断面図 (1/40)
- 第29図 SZ05 主体部実測図 (1/40)
- 第30図 SZ05 遺物実測図-1-
- 第31図 SZ05 遺物実測図-2-
- 第32図 SZ06 (1/150)・土層断面図 (1/80) 実測図
- 第33図 SZ06 遺物実測図
- 第34図 SK10 (1/20)・遺物 (1/4) 実測図
- 第35図 調査区遺物実測図-古墳-
- 第36図 飛田遺跡群2区 遺構配置図 (1/600)
- 古代以降 -
- 第37図 ST01 (1/30)・遺物 (1/4) 実測図
- 第38図 遺構外出土遺物実測図-1- 古代
- 第39図 遺構外出土遺物実測図-2- 古代
- 第40図 遺構外出土遺物実測図-3- 古代
- 第41図 遺構外出土遺物実測図-1-
- 第42図 遺構外出土遺物実測図-2-
- 第43図 遺構外出土石器実測図-1-
- 第44図 遺構外出土石器実測図-2-
- 第45図 飛田遺跡群 調査区位置図 (S=1/5000)
- 第46図 飛田遺跡群 方形周溝墓・土器配置図
- 3区**
- 第47図 飛田遺跡群3区 遺構配置図 (S=1/600)
- 第48図 3-1区 北側調査区土層断面図 (S=1/80)
- 第49図 3-2区 東及び西側調査区土層断面図 (S=1/80)
- 第50図 3-2区 南及び北側調査区土層断面図 (S=1/100)
- 第51図 3-3区 西及び北側調査区土層断面図 (S=1/80)
- 第52図 3-1区 4・5層 石器分布図 (S=1/600)
- 第53図 3-1区 4・5層 石器実測図-1-
- 第54図 3-1区 4・5層 石器実測図-2-
- 第55図 3-1区 4・5層 石器実測図-3-
- 第56図 3-2・3-3区 4・5層 石器分布図 (S=1/500)
- 第57図 3-2・3-3区 4・5層 石器実測図-1-
- 第58図 3-2・3-3区 4・5層 石器実測図-2-
- 第59図 飛田遺跡群3区 遺構配置図 (S=1/600)
- 縄文 -
- 第60図 3-1区 SI32・37・44 実測図
- 第61図 3-1区 SI32・37・44 遺物実測図
- 第62図 3-1区 SI33・51 実測図

- 第 63 図 3-1 区 SI33 遺物実測図
- 第 64 図 3-1 区 SI51 遺物実測図
- 第 65 図 3-1 区 SI34 遺構・遺物実測図
- 第 66 図 3-1 区 SI36・41・49・83 実測図
- 第 67 図 3-1 区 SI36・41・49 遺物実測図
- 第 68 図 3-1 区 SI42 実測図
- 第 69 図 3-1 区 SI42 遺物実測図
- 第 70 図 3-1 区 SI43・88 遺構・遺物実測図
- 第 71 図 3-1 区 SI88 遺物実測図
- 第 72 図 3-1 区 SI50・82・90 実測図
- 第 73 図 3-1 区 SI50 遺物実測図
- 第 74 図 3-1 区 SI82・90 遺物実測図
- 第 75 図 3-1 区 SI52 遺構・遺物実測図
- 第 76 図 3-1 区 SI60 遺構・遺物実測図
- 第 77 図 3-1 区 SI62 遺構・遺物実測図
- 第 78 図 3-1 区 SI63 遺構・遺物実測図
- 第 79 図 3-1 区 SI74 遺構・遺物実測図
- 第 80 図 3-1 区 SI75 遺構・遺物実測図
- 第 81 図 3-2 区 SI99 遺構・遺物実測図
- 第 82 図 3-2 区 SI102 遺構・遺物実測図
- 第 83 図 3-2 区 SI104 遺構・遺物実測図
- 第 84 図 3-3 区 SI109 遺構・遺物実測図
- 第 85 図 3-3 区 SI109 遺物実測図
- 第 86 図 3-1 区 SK46 遺構・遺物実測図
- 第 87 図 3-1 区 SK73 実測図
- 第 88 図 3-1 区 SK73 遺物実測図
- 第 89 図 3-2 区 SK321 遺構・遺物実測図
- 第 90 図 3-2 区 SK336 遺構・遺物実測図
- 第 91 図 3-2 区 SK354 遺構・遺物実測図
- 第 92 図 3-3 区 SK409 遺構・遺物実測図
- 第 93 図 3-3 区 SK416 遺構・遺物実測図
- 第 94 図 飛田遺跡群 3 区 遺構配置図 (S=1/600)
- 古代 -
- 第 95 図 3-2 区 SD56 実測図 (S=1/150)
- 第 96 図 3 区 出土土偶実測図 (S=1/2)
- 第 97 図 3 区 土偶・装身具出土分布図
- 第 98 図 飛田遺跡群 縄文時代 (1:2500)
- 第 99 図 飛田遺跡群 古墳時代 (1:2500)
- 第 100 図 飛田遺跡群 古代 (1:2500)
- 第 101 図 飛田遺跡群 近世～近代 (1:2500)

自然科学分析

第 1 図 遺跡の位置 (1/25,000)

第 2 図 人骨の残存図 (アミかけ部分)

第 3 図 SZ03 人骨の出土遺物状況埋葬姿勢

表 1 資料数 (Table 1. Number of materials)

表 2 人骨一覧 (Table 2. List of skeletons)

表 3 年齢区分 (Table 3. Division of age)

表 4 上腕骨計測値 (男性、右、mm)

表 5 上腕骨計測値 (女性、右、mm)

表 6 大腿骨計測値 (男性、右、mm)

表 7 大腿骨 (女性、右、mm)

表 8 脛骨 (男性、右、mm)

表 9 推定身長値 (男性、右、cm)

表 10 推定身長値 (女性、右、cm)

表 11 脳頭蓋 (mm) (Calvaria)

表 12 下顎骨 (mm、度) (Mandibula)

表 13 上腕骨 (mm) (Humerus)

表 14 橈骨 (mm) (Radius)

表 15 尺骨 (mm) (Ulna)

表 16 大腿骨 (mm) (Femur)

表 17 脛骨 (mm) (Tibia)

表 18 腓骨 (mm) (Fibula)

表 19 推定身長値 (cm) (Stature)

表 20 中央周の比

表 21 形態小変異 (Non-metric crania variants)

写真図版

飛田 3 号人骨 (女性・成年)

飛田 1 号人骨 (男性・壮年)

飛田 2 号人骨 (男性・壮年)

火山灰自然科学分析

第1図	2-2区東壁の土層層序及び分析試料の層位	表1	火山ガラス比分析結果
第2図	2-2区東壁のテフラ組成ダイアグラム(1)	表2	重鉱物組成分析結果
第3図	2-2区東壁のテフラ組成ダイアグラム(2)	表3	火山ガラス比分析結果
第4図	2-2区東壁のテフラ組成ダイアグラム(3)	表4	火山ガラス比分析結果
		表5	屈折率測定結果

付 論

第1図	SF004の第1路面と第2路面の幅員	第3図	高原駅周辺の古代道路の推定ルート
第2図	熊本大学黒髪キャンパス内「黒髪遺跡群」 9603・9704・0204・調査地点の駅路と推定 瓦養駅の遺構		

表 目 次

第1表	一般国道3号本北バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財試掘・確認調査結果トレンチ一覧表-①-	第7表	土器観察表
第2表	一般国道3号本北バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財試掘・確認調査結果トレンチ一覧表-②-	第8表	石器観察表
第3表	周辺遺跡地名表	第9表	土器観察表
第4表	土器観察表	第10表	土器観察表
第5表	土器観察表	第11表	土器観察表
第6表	土器観察表	第12表	土偶観察表
		第13表	土製品観察表
		第14表	石器観察表
		第15表	石器観察表

写 真 目 次

一 巻頭カラー

飛田遺跡群	調査区全景	西より
2区SZ02	遺物出土状況	南東より
2区SZ05	遺物出土状況	南西より
2区SZ02	出土土器	
2区SZ05	出土土器	
2区SZ03	主体部石棺内人骨出土状況	東より
2区SZ03	主体部石棺さしこみ根固め石	南東より
2区SZ03	高坏	
3-1・2・3区4・5層	出土石器	

2区

図版1	SZ01	遺物出土状況	西より
	SZ01	土層断面	東より
	SZ01	土層断面	南より
	SZ01	土層断面	南より
	SZ01	完掘状況	東より
	SZ02	遺物出土状況	南東より
	SZ02	土層断面	西より
	SZ02	土層断面	南より
図版2	SZ02	土層断面	西より

SZ02 遺物出土状況 南東より
 SZ02 主体部 1・2 検出状況 東より
 SZ02 主体部 1 土層断面 南東より
 SZ02 主体部 1 土層断面 南西より
 SZ02 主体部 2 土層断面 南より
 SZ02 主体部 2 土層断面 東より
 SZ02 完掘状況 北東より

図版 3 SZ03 土層断面 北西より
 SZ03 土層断面 南より
 SZ03 土層断面 西より
 SZ03 主体部 土層断面 南より
 SZ03 主体部 土層断面 東より
 SZ03 主体部 石棺蓋 東より
 SZ03 遺物出土状況 南より

図版 4 SZ03 遺物出土状況 南より
 SZ03 主体部 石棺内人骨出土状況 東より
 SZ03 主体部 敷石検出状況 東より
 SZ03 主体部 石棺さしこみ状況 南より
 SZ03 主体部 石棺さしこみ根固め石出土状況 南東より

図版 5 SZ03 完掘状況 南東より
 SZ04 遺物出土状況 東より
 SZ04 土層断面 東より
 SZ04 完掘状況 東より
 SZ05 主体部 完掘状況 北西より
 SZ05 主体部 さしこみ完掘状況 北西より

図版 6 SZ05 遺物出土状況 南西より
 SZ05 遺物出土状況 南より
 SZ05 遺物出土状況 東より
 SZ05 土層断面 南東より
 SZ05 土層断面 南東より
 SZ05 完掘状況 南西より
 SZ06 遺物出土状況 東より
 SZ06 土層断面 南より

図版 7 SZ06 土層断面 東より
 SZ06 土層断面 東より
 SZ06 土層断面 南より
 SK10 完掘状況 南西より
 ST01 遺物出土状況 西より
 ST01 完掘状況 西より

SX123 検出状況 西より
 SX123 完掘状況 西より

3区

図版 8 3-1区 5層遺物出土状況 南東より
 3-2区 5層遺物出土状況 北西より

図版 9 3-1区 拡張区完掘状況 南西より
 3-1区 完掘状況 北より
 3-1区 北壁土層断面 南西より
 3-2区 完掘全景 北東より

図版 10 3-3区 北壁土層断面 東より
 3-1区 SI32 遺物出土状況 西より
 3-1区 SI51 遺物出土状況 北西より
 3-1区 SI42 遺物出土状況 東より
 3-1区 SI42 完掘状況 西より

図版 11 3-1区 SI63 完掘状況 東より
 3-2区 SI99 遺物出土状況 東より
 3-2区 SI102 遺物出土状況 南東より
 3-3区 SI109 遺物出土状況 南東より
 3-1区 SK46 遺物出土状況 北西より
 3-2区 SK321 土層断面 南より
 3-2区 SK336 遺物出土状況 北東より
 3-2区 SK336 土層断面 北より

図版 12 3-2区 SK354 遺物出土状況 北より
 3-2区 SK354 土層断面 東より
 3-3区 SK409 遺物出土状況 北より
 3-3区 SK416 土層断面 南西より
 3-2区 SF10 D-1 完掘状況 東より
 3-2区 SD56 ベルト完掘状況 東より
 3-2・3区 完掘状況 西より

2区

図版 13 SZ01 出土土器
 図版 14 SZ02 出土土器
 図版 15 SZ02 出土土器
 図版 16 SZ03 高坏
 SZ04 高坏

図版 17 SZ05 出土土器
 図版 18 SZ05 壺
 SZ06 出土土器
 SZ06 壺
 SK10 甕

- 図版 19 SZ03・05 副葬品
 ST01 藏骨器
 調査区出土土器 - 古墳 -
- 図版 20 調査区出土土器 - 古代 -
- 図版 21 2区 墨書
 2-1区 甕
- 図版 22 調査区出土土器
- 図版 23 2区 石鏃・尖頭器
 2区 石匙
 2-3区 紡錘車
 2-5区 円盤型石器
 2-3区 有孔石製品
- 図版 24 3-1区 SI32 出土土器
 3-1区 SI37・44 出土土器
 3-1区 SI51 出土土器
 3-1区 SI34・51 土偶
- 図版 25 3-1区 SI33 出土土器
 3-1区 SI51 出土土器
- 図版 26 3-1区 SI34 出土土器
 3-1区 SI88 出土土器
 3-1区 SI36・41・49 出土土器
 3-1区 SI43 出土土器
- 図版 27 3-1区 SI42 出土土器
 3-1区 SI88 出土土器
- 図版 28 3-1区 SI82 出土土器
 3-1区 SI50 出土土器
 3-1区 SI90 出土土器
- 図版 29 3-1区 SI50 出土土器
 3-1区 SI52 出土土器
 3-1区 SI60 出土土器
 3-1区 SI62 出土土器
 3-1区 SI74 出土土器
 3-1区 SI75 出土土器
- 図版 30 3-2区 SI99 出土土器
 3-2区 SI102 垂飾品
 3-2区 SI104 出土土器
 3-3区 SI109 出土土器
 3-1区 SK73 出土土器
- 図版 31 3-3区 SI109 出土土器
 3-1区 SK73 出土土器
- 3-2区 SK354 出土土器
 3-3区 SK416 出土土器
- 図版 32 3-2区 SK321 出土土器
 3-2区 SK336 出土土器
 3-3区 SK409 出土土器
- 図版 33 3-1区 5層 出土土器
 3-1区 4層 出土土器
 3-1・2・3区 4層 出土土器
- 図版 34 3-1・2・3区 4層・5層 出土土器
 3-1区 SI32・50・63・88 出土土器
 3-1区 SI33・42・44・82 出土土器
- 図版 35 3-1区 SI33・51 出土土器
 3-1区 SI36・50・60・74 出土土器
 3-1区 SI34・36・42 出土土器
 3-2区 SI99 出土土器
 3-2区 SI102 出土土器
- 図版 36 3-2区 SI104 出土土器
 3-3区 SI109 出土土器
 3-1区 SK46 出土土器
 3-1区 SK73 出土土器

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯及び調査の組織

1 調査に至る経緯

熊本県教育委員会は、平成20年1月10日付け国九整熊二調第89号で国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長から一般国道3号熊本北バイパス改築事業に伴う「埋蔵文化財の予備調査について（依頼）」の提出を受け、平成20年3月5日～14日に現地での埋蔵文化財の確認調査を実施し、結果について平成20年3月31日付け教文第3045号にて、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長あて通知した。

また、その後用地がまとまった箇所について平成21年4月28日付け国九整熊二調第12号にて国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長から「一般国道3号熊本北バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財の予備調査について（依頼）」が提出され、平成21年8月20日～21日並びに平成21年10月14日に確認調査を実施した。結果については、平成21年10月2日付け教文第1767号、平成21年10月29日付け教文第2014号にて、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長あて通知した。

これら3回に亘る確認調査の結果、埋蔵文化財の存在が確認された飛田遺跡群1～3区について、計画どおり工事が実施される場合は、事前に発掘調査による記録保存が必要となることから、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所調査二課と熊本県教育庁文化課でその後の対応について協議を行い、工事工程との調整を経て、飛田遺跡群2区について平成22年5月6日付け国九整熊三工第13号で、同1区については平成23年4月27日付け国九整熊二調第12号、同3区については平成24年5月24日付け国九整熊二調第24-2号で、文化財保護法第94条第1項の規定に基づく指示事項に対し、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長から熊本県教育長あてに「埋蔵文化財の発掘調査について（依頼）」が提出された。このことを受け、平成22年5月20日付け教文第454号で文化

財保護法第99条第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」を提出し発掘調査を実施した。発掘調査は、平成22年5月24日から平成23年3月31日の期間である。

その後、同1区について平成23年5月6日付け教文第321号で文化財保護法第99条第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」を提出し発掘調査を実施した。発掘調査は、平成23年5月6日から平成24年3月31日の期間で実施した。

同3区については、平成24年7月11日付け教文第858号で文化財保護法第99条第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」を提出し、平成25年3月31日までの期間で発掘調査を実施した。

その後、同3区において用地取得が遅れていた箇所について平成26年3月10日付け国九整熊二調第112号で、文化財保護法第94条第1項の規定に基づく指示事項に対し、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長から熊本県教育長あてに「埋蔵文化財の発掘調査について（依頼）」が提出された。このことを受けて、平成26年4月24日付け教文第140号で文化財保護法第99条第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」を提出し発掘調査を実施した。発掘調査は、平成26年5月27日から平成26年8月31日の期間である。

2 調査の組織

【平成19年度・予備調査】

発掘調査主体 熊本県教育委員会

調査責任者

梶野英二（文化課長）、江本直（課長補佐）

調査総括

高木正文（課長補佐兼文化財調査第1係長）

調査事務

高宮優美（主幹兼総務係長）、塚原健一（参事）、

高松克行（主任主事）

調査担当

長谷部善一、吉田徹也（参事）、檀佳克（学芸員）

【平成21年度・予備調査】

発掘調査主体 熊本県教育委員会
調査責任者 米岡正治（文化課長）、木崎康弘（課長補佐）
調査総括 村崎孝宏（文化財調査第1係長）
調査事務 辛川雅弘（主幹兼総務係長）、山田京子（参事）
調査担当 長谷部善一（参事）、坂井田端志郎（主任学芸員）、水上公誠（文化財保護主事）、吉留 広、島浦健生、木下 勇（嘱託）

【平成22年度・発掘調査（2区）】

発掘調査主体 熊本県教育委員会
調査責任者 小田信也（文化課長）、木崎康弘（課長補佐）
調査総括 村崎孝宏（文化財調査第1係長）
調査事務 元嶋茂（課長補佐兼総務係担当）、山田京子（参事）、松島英治（主任主事）
調査担当 稲葉一文、稲津年秋（文化財保護主事）、西山真美、福田拓也（嘱託）

調査作業員 伊形久佐子、永井健一、岡野 学、吉岡龍子、熊谷邦彦、後藤章一、広瀬多津美、荒木征子、坂井由葉、山崎知津子、松本鐵郎、城戸博長、眞村俊昭、清田由美子、西嶋喜久代、川上政巳、川上壽賀子、村上美枝子、大久保正春、大久保靖子、大隅清成、大阪幸子、池田秀盛、中村良一、仲山サチ子、仲山睦郎、田口一美、田添幸子、渡邊由佳利、嶋田タツ子、東とし子、徳永良弘、木本勝雄（順不同）

【平成23年度・発掘調査（1区）】

発掘調査主体 熊本県教育委員会
調査責任者 小田信也（文化課長）、木崎康弘（課長補佐）
調査総括

村崎孝宏（文化財調査第1係長）
調査事務 元嶋 茂（課長補佐兼総務係担当）、山田京子（参事）、松島英治（主任主事）
調査担当 稲津年秋（文化財保護主事）、西山真美、福田拓也、木下 勇、吉留 広（嘱託）
調査作業員 荒木征子、伊形久佐子、池田秀盛、石川幹郎、稲村光剛、井上咲雄、大坂幸子、大隅清成、緒方久美子、緒方正明、岡野 学、甲斐福義、金子美代子、川上壽賀子、川上政巳、清田由美子、草野賢一郎、熊谷邦彦、古閑誠也、後藤光子、嶋田たづ子、杉内勝利、大力 權、田添幸子、永井健一、中石隆一、中村和彦、井上洋子、大塚信幸、中村義博、中村良一、西村清美、畑中儀介、東とし子、広瀬多津美、藤本軍八、堀口和子、本郷憲司、松本鐵郎、眞村俊昭、村上美枝子、森直人、森山茂男、森山美代子、藪田都紀子、山崎知津子、渡邊由佳利、城戸博長、木村利男、木本勝雄、柴田道子、関 律子、関部ロサヘレナ、関根 登、関根龍子、土島功裕、松本和徳、森本清子、吉村悦子（順不動）

【平成24年度・発掘調査（1区）】

発掘調査主体 熊本県教育委員会
調査責任者 小田信也（文化課長）、木崎康弘（課長補佐）
調査総括 村崎孝宏（文化財調査第1係長）
調査事務 元嶋茂（課長補佐兼総務係担当）、山田京子（参事）、松島英治（主任主事）
調査担当 稲津年秋（文化財保護主事）、吉留 広、福田拓也（嘱託）
調査作業員 麻生昭子、伊形久佐子、池田秀盛、井上咲雄、今村明美、大塚 昇、緒方久美子、緒方正明、長船信一、甲斐福義、川上 修、清田由美子、草野賢一郎、上妻誠也、古閑誠也、後藤章一、大力 權、田中尚廣、

永井健一、中石隆一、中嶋 守、中村和彦、中村義博、中村良一、畑中儀介、早田善道、藤本軍八、熊谷邦彦、大隅清成、井上洋子、松本謙郎、眞村俊昭、石川幹郎、川上正己、上村久子、濱野恵子、園田輝雄、川上壽賀子、広瀬紘二、杉内勝利、溝口健造、麻生昇、牛島一政、後藤まや、吉村悦子、荒牧蘇一、青木立子、田上次敏、森川 護、森本勝行（順不動）

【平成25年度・発掘調査（3区）、整理作業】

発掘調査主体 熊本県教育委員会

調査責任者

小田信也（文化課長）、西住欣一郎（課長補佐）

調査総括

村崎孝宏（主幹兼文化財調査第1係長）

調査事務

廣石啓哉（主幹兼総務・文化係長）、有馬綾子（参事）、天草英子（主任主事）

調査担当

稲津年秋（文化財保護主事）、末武希代子、吉留広（嘱託）

調査作業員

甲斐福義、上村久子、大力 楨、渡邊由佳利、後藤章一、熊谷邦彦、清田由美子、中村良一、池田秀盛、中石隆一、伊形久佐子、中村和彦、大隅清成、緒方久美子、大塚昇、山崎知津子、永井健一、土島安臣、後藤光子、森直人、長船信一、古閑誠也、中嶋 守、草野賢一郎、奥村龍剛、川上 修、中村義博、本郷憲司、富永俊房、三宅幸生、荒牧蘇一、緒方正明、早田善道、藤本軍八、青木立子、辰島正徳、井上咲雄、緒方洋子、川上壽賀子、川上政巳、河添郷美、木村利男、島田健一郎、関部ロサヘレナ、土島功裕、徳永政廣、永江真由美、西岡正治、西岡チズ子、藤原健次、古川純紀、峯元幸、守口孝憲、和田洋一、石洞 忠、上田はつ子、太田黒達夫、木村 寧、寺本忠亀、早田 均、早田律子、牧野利津子、宮崎タエ子、柴池孝子、井上咲雄、岡野 学、奥村信博、長船信一、田中寿奈、玉那覇正幸、中村洋三、春野宗敏、福田秀喜、藤原英敏、永本泰之、山口久美子（順不動）

整理担当

村崎孝宏（主幹兼文化財調査第1係長）、稲津年

秋（文化財保護主事）、戸田紀美子、築出直美（嘱託）、岩下恵美子、藤本香織（臨時）

整理作業員

山内洋子、福野久男、二田美紀子、村上千恵子、橋本恭代、徳永文香（臨時）

【平成26年度・発掘調査（3-3区）、整理作業・報告書作成（1区）】

発掘調査主体 熊本県教育委員会

調査責任者

手島伸介（文化課長）、西住欣一郎（課長補佐）

調査総括

村崎孝宏（主幹兼文化財調査第1係長）

調査事務

廣石啓哉（主幹兼総務・文化係長）、有馬綾子（参事）、天草英子（主任主事）

調査担当

須藤美代、上村龍馬（文化財保護主事）、吉留 広、田尻 滝（嘱託）

調査作業員

山崎知津子、土島安臣、大力 楨、清田由美子、谷田 修、青木立子、石川幸彦、本郷憲司、麻生昭子、森 直人、本田辰也、田尻季大、中嶋 守、荒牧蘇一、有働義則、牧野利津子、井上咲雄、麻生昇、田添幸子、関部ロサヘレナ、池田秀盛、大隅清成（順不動）

整理担当

村崎孝宏（主幹兼文化財調査第1係長）、須藤美代（文化財保護主事）、戸田紀美子、築出直美（嘱託）、岩下恵美子、徳永文香、中村公光子、藤本香織（臨時）

整理作業員
山内洋子、福野久男、二田美紀子、村上千恵子、一野幸枝、久野成實、村崎美智子（臨時）

【平成27年度・整理作業・報告書作成（2区・3区）】

発掘調査主体 熊本県教育委員会

調査責任者

手島伸介（文化課長）、村崎孝宏（課長補佐）

調査総括

長谷部善一（主幹兼文化財調査第1係長）

調査事務

廣石啓成（主幹兼総務・文化係長）、有馬綾子（参事）、天草英子（参事）

整理担当

村崎孝宏（課長補佐）、須藤美代（文化財保護主事）、戸田紀美子、築出直美、徳永文香、岩下恵美子、藤本香織、立石美代子、結城あけみ（臨時）

整理作業員

山内洋子、二田美記子、木村ゆりこ、一野幸枝、久野成實、村崎美智子、鍋田浩子、樋脇逸子（臨時）

第2節 調査の方法と経過

1 予備調査 [平成21年度]

(1) 飛田遺跡群周辺の埋蔵文化財の試掘・確認調査

一般国道3号熊本北バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財の試掘・確認調査は、平成21年8月20日～8月21日に飛田遺跡群とその周辺で埋蔵文化財の試掘・確認調査を実施し、飛田遺跡群1～3区において埋蔵文化財の存在を確認したので、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長あて調査結果と発掘調査の必要性について通知を行った。

(2) 調査結果

トレンチ1～14において遺構または遺物等の埋蔵文化財の残存を確認した。その他のトレンチでは、遺構または遺物等の埋蔵文化財の残存を確認できなかった。

これらの結果、埋蔵文化財の所在が確認された範囲については文化財保護法の趣旨を尊重のうえ、計画変更によっても現状での保護ができない場合は、熊本県教育庁文化課との協議が必要になる。止むを得ず計画どおりに工事を行う場合は、工事に先立ち文化財保護法第94条第1項に基づく通知並びに発掘調査の実施が必要である。

(3) 基本土層と埋蔵文化財の確認状況

調査地の基本土層は第1図に示したとおりである。埋蔵文化財の確認状況は、表1・表2のとおりである。

1層 表土（耕作土）

2層 客土

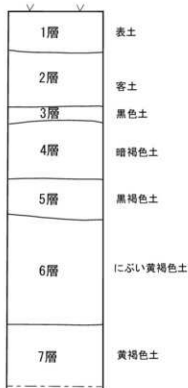
3層 黒色土（黒ボク）古代の遺物を多く含む。

4層 暗褐色土層（アカホヤ火山灰二次堆積層）

5層 黒褐色土

6層 にぶい黄褐色土（白ニガ）

7層 黄褐色土（ローム）

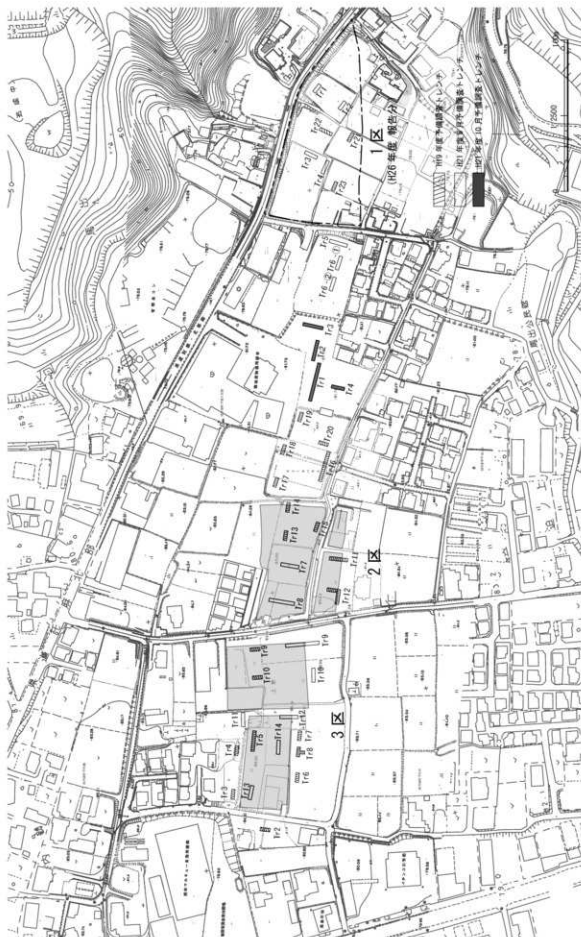


第1図 基本土層柱状図

2 本調査 [平成24年度～26年度]

(1) 調査の方法

重機による表土除去を行い、その清掃後、引き続いて記録保存のための実測図作成に必要な基準作りとして、光波測距機を使用してメッシュ杭設置及び4級基準点測量を行った。平面直角座標第Ⅱ系における座標値を用い、一辺5mの区画を設定した。調査は、遺構の検出と遺物の検出を中心に実施した。遺構は、平面形の確認を行った後に、土層観察のためベルトを残し掘り下げた。その観察後、ベルトを取り除いて全体像を確認する。その間に作成される資料には、1/10・1/20に縮尺して作る平面図、土層断面図、断面図などがある。遺物の検出は、上記した遺構調査の完了後に実施した。検出した遺物の取り上げは、光波測距機によりx、y、zの座標を測定・記録を行った。



第2図 一般国道3号熊本北バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財試掘・確認調査位置図 (S=1/2500)

第1表 一般国道3号熊本北バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財
試掘・確認調査結果トレンチ一覧表-①-

調査日 H19 年度 3 月

Tr (トレンチ) 番号	トレンチ規格 長さ×幅×深度 (cm)	遺物・遺構 の有無		遺物・遺構の内容		備考・特記事項
		遺物	遺構	遺物	遺構	
1	315 × 90 × 50	×	×	—	—	著しく削平されている。
2	310 × 90 × 150	○	×	陶器 (3層-複乱)	—	著しい複乱を受けている。
3	560 × 90 × 80	×	×	—	—	削平を受けている。
4	560 × 200 × 180	○	×	陶器 (播鉢等-表土出土)	—	著しい複乱を受けている。
5	1220 × 80 × 80	○	×	縄文土器片・安山岩剥片	—	縄文時代の遺物包含層を確認。
6	260 × 80 × 60	×	×	—	—	複乱が著しく遺跡はほとんど残存 していない。
7	250 × 90 × 135	○	×	縄文土器・陶器	—	複乱が著しく遺跡はほとんど残存 していない。
8	920 × 90 × 90	○	×	縄文土器 (複乱層中)	—	複乱が著しく遺跡はほとんど残存 していない。
9	820 × 90 × 114	○	×	縄文土器	—	遺物包含層は良好に残存。
10	800 × 90 × 100	○	○	縄文土器	ピット? 1	
11	820 × 90 × 97	○	○	縄文土器・土師器	ピット 1 土坑 1 土器集中箇所 1	土坑状の遺構あり。
12	1820 × 90 × 73	○	○	縄文土器	土坑 3	遺物包含層は削平されているが、 遺構面は残存。
13	650 × 90 × 46	○	×	土師器片	—	
14	700 × 90 × 112	○	○	須恵器・縄文土器	—	遺物包含層は良好に残存。
15	500 × 90 × 140	○	×	土師器	—	遺物包含層は良好に残存。
16	2550 × 90 × 119	○	×	縄文土器・磁・土師器	—	溝は時期が新しい。遺物は溝外出 土。
17	700 × 90 × 74	×	×	—	—	遺物包含層は存在。遺物は出土し ない。
18	740 × 90 × 150	×	×	—	—	トレンチ中の溝は時期が新しい。
19	860 × 90 ×	×	×	—	—	削平を受けている。
20	320 × 90 × 65	×	×	—	—	削平を受けている。
21	1300 × 90 × 81	○	○	縄文土器・土師器・須恵器	土坑	遺物包含層は良好に残存。
22	900 × 90 × 82	○	×	土師器片	—	遺物包含層は良好に残存。
23	650 × 90 × 80	×	○	—	土坑	遺物包含層は削平されているが、 遺構面は残存。

第2表 一般国道3号熊本北バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財
試掘・確認調査結果トレンチ一覧表-②-

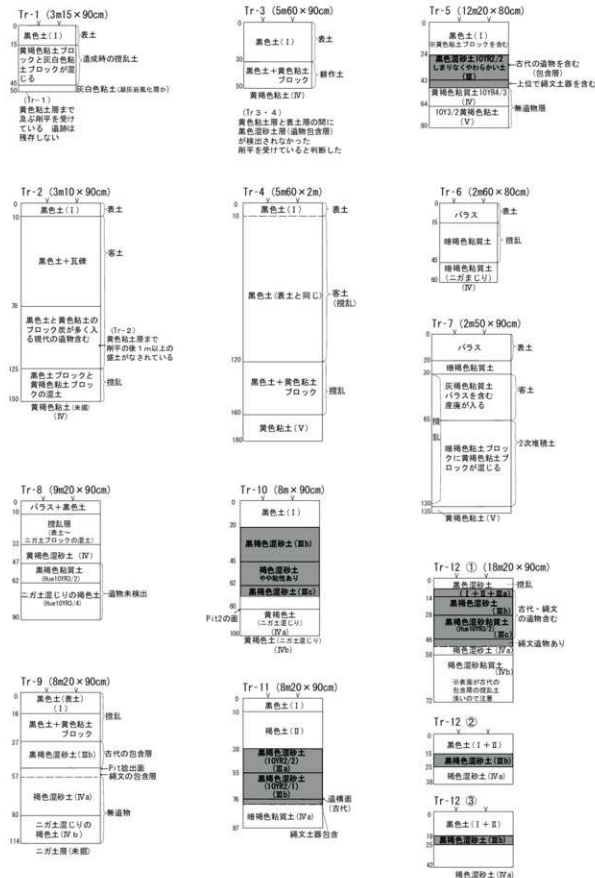
調査日 H21 年度 8 月

Tr (トレンチ) 番号	トレンチ規格 長さ×幅×深度 (cm)	遺物・遺構 の有無		遺物・遺構の内容		備考・特記事項
		遺物	遺構	遺物	遺構	
1	1000 × 90 × 50	○	○	土器片 (土師器)	ビット (10 基)	客土層から遺物は出土しているが、ビットを 10 基検出できたため要調査と判断
2	1230 × 160 × 50	○	○	土器片 (土師器)	ビット (3 基)	ビット、焼土とみられる箇所も確認できたため要調査と判断
3	850 × 100 × 150	○	×	土器片 (土師器)	—	遺構は確認できていないが、隣接トレンチで遺物・遺構を確認できているため要調査と判断
4	500 × 100 × 150	×	×	—	—	遺物・遺構は確認できていないが、隣接トレンチで遺物・遺構を確認できているため要調査と判断
5	1680 × 80 × 160	○	×	土器片 (土師器・須恵器)	—	
6	3050 × 80 × 100	×	×	—	—	
7	1150 × 90 × 150	○	○	土器片 (土師器)	溝 (1 基)	溝状の遺構あり
8	1300 × 90 × 115	×	○	—	ビット (6 基)	ビット状の遺構あり
9	1500 × 90 × 140	○	×	土器片 (縄文)	—	一部削平を受けている
10	900 × 90 × 53	○	×	土器片 (縄文)	—	
11	360 × 90 × 70	○	×	土器片	—	削平を受けている
12	1100 × 90 × 50	×	×	—	—	
13	1130 × 90 × 80	○	×	土器片 (縄文)	—	遺構は確認できていないが、隣接トレンチで遺物・遺構を確認できているため要調査と判断
14	2000 × 90 × 60	○	○	土器片 (縄文)	溝 (2 基) ビット (4 基)	新しいが溝状・ビット状の遺構あり

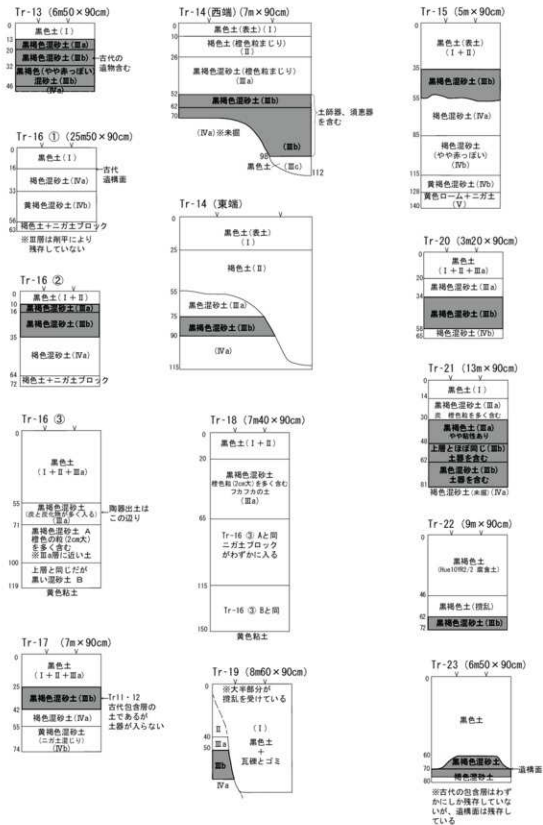
調査日 H21 年度 10 月

Tr (トレンチ) 番号	トレンチ規格 長さ×幅×深度 (cm)	遺物・遺構 の有無		遺物・遺構の内容		備考・特記事項
		遺物	遺構	遺物	遺構	
1	3230 × 90 × 105	○	×	土器片 (土師器・須恵器)	—	上位は削平を受けている。西側は段切りのために残りが悪い。隣接地 (調査必要なし) の状況から、調査の必要はないと判断
2	1780 × 90 × 116	○	×	土器片 (土師器・須恵器)	—	攪乱箇所も確認した。ビット状のものを検出したが、覆土の土に絡りがなく、遺物の年代の状況から遺構ではないと判断
3	1470 × 90 × 134	○	×	土器片 (土師器・須恵器)	—	遺物は出土したが、出土した層位は包含層ではないと判断した。ビット状・溝状のものを検出したが、形状が不定形であり、新しい掘り込みであることも確認できたことから遺構ではないと判断
4	1360 × 90 × 63	○	×	土器片 (土師器・須恵器)	—	表土は浅い。ビット状のものを検出したが、覆土に新しい土が入っていることから、遺構ではないと判断

第1章 調査の概要

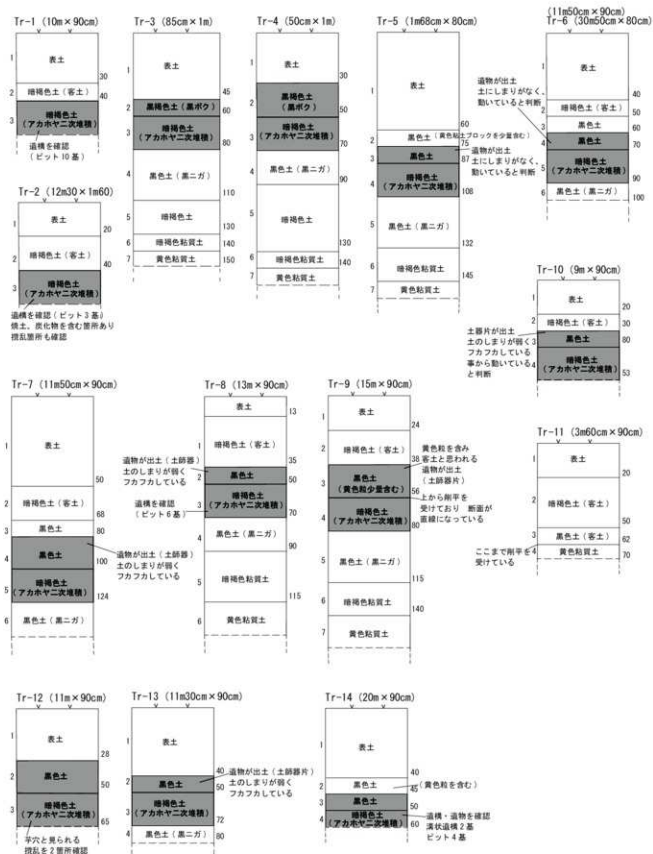


第3図 H19年度 試掘・確認調査トレンチ柱状図

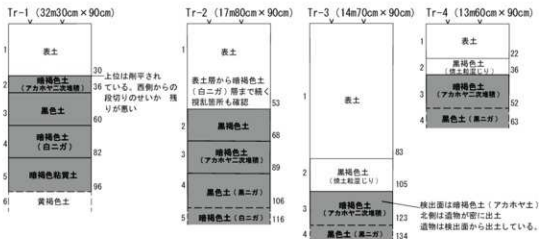


第4図 H19年度 試掘・確認調査トレンチ柱状図

第1章 調査の概要



第5図 H21年度8月 試掘・確認調査トレンチ柱状図



第6図 H21年度10月 試掘・確認調査トレンチ柱状図

(2) 調査の記録

調査の経過については、以下に示したとおりである。

(平成22年度)

4.15 国交省との発掘に関する協議。

4.22 事務作業。飛田遺跡群(上古閑地図)現地形の航空写真撮影の打ち合わせ。

4.28 国交省と協議。

5.6 発掘予定作業に関する説明会を行う。

5.19 表土剥ぎ1日目。

5.20 表土剥ぎ2日目。2-1区1層(表土)の掘削。

5.21 2-1区客土の掘削。

5.24 雨により作業休止。

5.25 表土剥ぎ4日目(最終日)。2-1区表土、客土の掘削。3層(黒色土)の上面まで掘削を行う。

5.26 4級基準点と5mグリッド設置。2-1区遺跡東側のトレンチ掘削。3層の掘削。

5.27 航空写真撮影。3層まで落として遺構検出。2-1区3層(黒色土)の掘削。

5.28 2-1区3層(黒色土)の掘削。遺物は土師器が多く、須恵器も出土する。

5.31 2-1区3層(黒色土)の掘削。No.1東壁断面図撮影。東側南北トレンチの断面写真撮影。

6.1 2-1区ピット掘削。溝状遺構(SD01)のトレンチ掘り4層掘削。ピット群検出状況と溝状遺構検出状況撮影。

6.2 2-1区ピットの半裁。溝状遺構(SD01)のトレンチ掘り。

6.3 2-1区グリッドごとに5cm下げ、東壁土層断面図、ピット平面配置図の実測。

6.4 2-1区2列トレンチより西側の4層掘削、遺構検出、ピット半裁。SD01南端トレンチ入れ、土層ライン入れ。SD01南側ベルト南壁土層断面、ピット断面図の実測、撮影。調査区西側の4層を掘削後、遺構検出を行う。g-②グリッドから黒曜石の石織が1点出土。

6.8 2-1区調査区南東検出、ピット数基と溝1条を見つけて半裁。調査区東壁土層断面実測。ピット断面の撮影。溝状遺構4層の南・北ベルトの南側土層断面を撮影。

6.9 2-1区SD01の完掘。掘削後、ピット数基SK02を検出、撮影。ピット平面の実測。

6.10 2-1区SD01の完掘状況の撮影。SD01・SK01完掘状況。SK03土層断面、SK04・05検出状況撮影。

6.11 2-1区4層掘削。ピット・溝状遺構SD01の平面図、SK05の埋土断面の実測。また調査区北東ピット群完掘状況の撮影。

6.14 2-1区東側4層掘削。硬化面範囲出し、西側6層上面遺構検出、ピット完掘。SD01平面図、ピット平面図、SD02土層断面図の実測。SP64～66・SD02土層断面、SK05完掘状況の撮影。調査

区西側は6層上面で遺構検出。

6.16 2-1区4層掘削。南北トレンチは、6層上面まで掘り下げ。調査区南側ピット群平面図実測。SK03土層断面と完掘の撮影。調査区南側ピット群撮影。SP06土層断面、SD02完掘状況の撮影。調査区南側ピット群の平面図実測と写真撮影。

6.17 2-1区 南北トレンチ西側全体の4層掘削。h-④グリッドで、須恵器の皿と石器が1点出土。SD02平面の実測。

6.18-25 雨により現場休止。

6.28-29 協議。

6.30 2-1区4層掘削。SF01は新しくトレンチを3つ入れた。

7.1 2-1区4層掘削。SF01の断面掘削。

7.2 2-1区5層掘削。遺構検出を行う。SF01トレンチ①②③土層断面の撮影。ピット平面の実測。

7.5 2-1区5層の掘削。検出されたピットを撮影。

7.6 2-1区 調査区西側掘削。トレンチ⑤の土層断面の実測。

7.7 2-1区 調査区東側掘削。f-⑤グリッドで石匙が出土。トレンチの位置、調査区の枠を平面図実測。

7.8 2-1区 SD03を検出し、状況を撮影。その後掘削。調査区東壁土層断面図追加実測、撮影。

7.9 2-1区 SF01硬化面取り外し。SD03の埋土掘削。

7.12 国交省との協議。

7.13-15 雨により現場休止。

7.16 2-1区 調査区西側5層掘削。SD03断面図実測。同時に遺構検出を行う。SF01初期硬化面、及び南側硬化面の検出状況、硬化面直下の遺物の撮影。SD04南側検出状況の撮影。

7.20 2-2区 表土剥ぎ1日目。2-1区 白ニガ上面までの掘削。SD03完掘状況、SF01初期硬化面検出状況及びSD04検出状況の撮影。

7.21 2-2区 表土剥ぎ2日目。2-1区西側 白ニガ漸移層ピット検出。2-1区 SF01硬化面平面図の実測。SD03平面図実測。

7.22 2-2区 表土剥ぎ3日目。2-1区 調査区東側5層掘削。SP94完掘。SF01硬化面範囲とSP94の実測。

7.23 2-2区 表土剥ぎ4日目(最終日)。2-1区 SD04付近を掘削し、SD04の検出状況を撮影。同時にSK07の検出状況兼土層断面を撮影。SK06検出状況及び土層断面、完掘状況の撮影。

7.26 2-2区2層(客土)掘削。

7.27 2-2区グリッド設定開始。2層掘削。

8.2 2-1区 SD04掘削。2-2区 客土、南北トレンチ、試掘トレンチの掘削。2-1区 SD04のトレンチ断面を撮影。土層断面トレンチ③④⑤⑥、土層断面トレンチ⑦南壁も撮影。

8.3 2-1区 SD04完掘し、撮影。2-2区2層の検出状況全景を撮影。その後、SX01～13は3層上面まで掘削。

8.4 2-1区 測量杭土柱の掘削。2-2区 SX01～15の掘削。SX14・15の撮影。

8.5 2-2区 調査区北側に東西トレンチ掘り。SD05掘削。2層掘削。遺構(SX)の完掘状況を撮影。

8.6 2-2区 SD05・06北側東西トレンチ掘削。

8.10 現場休止。

8.12 2-2区2層・SD07掘削、SK07完掘し、SD04と共に土層断面土色入れ。SD05～07とSXの平面実測を行う。

8.17 2-2区 南側表土剥ぎ1日目。SD06掘削。SX14・15とSD05・06平面図の実測及び土層断面の撮影。

8.18 2-2区 表土剥ぎ2日目。北側2層・SX16掘削。SD05・06完掘、土層断面の撮影。SX01～15とSD05～07の土層断面の実測、撮影。完掘状況全景及び、トレンチ跡を撮影。

8.19 2-2区 表土剥ぎ3日目(最終日)。SX18を完掘。他、SX17～22検出状況とSD06南半分を撮影。

8.20 2-2区 南側グリッド毎に2層の客土掘削。SD06はトレンチを入れ断面を確認、埋土は2層ある。他SX17も掘削。SX17・19～22の撮影を行う。

8.22 飛田遺跡群現場説明会。

8.23 SX16の完掘状況の撮影。

8.24 2-2区(南)完掘写真を撮影。SD06は、SX・細跡と切り合わない部分をほぼ完掘。

SX23～27検出、掘削。細跡(トレンチ跡)平面、

SX17～22 平面を実測。

8.26 2-2区(北) e-⑦・⑧、f-⑦・⑧、g-⑦・⑧
グリッドの3層を掘り下げた。SD05・SD06 完掘
平面の実測。

9.1 2-2区3層の掘削。検出と写真撮影を行う。
2-2区東壁トレンチ内遺物は、古墳時代～奈良時代の
高環である。ほぼ完形で出土。検出状況の写真撮影。
2-1区SK07の完掘、写真撮影を行う。

9.2 2-2区北側赤ホヤ二次面の上面を出すための
掘削。

9.3 2-2区北側 黒ボク掘り下げ。溝らしき跡が2
箇所に見られる。SD06 東端、掘り残り部分を掘削。
SX16 平面、硬化面2列平面、送水管平面(南半分)
の実測。

9.6 SD06 完掘。3層(黒ボク)掘削。2-2区北半分、
3層の掘削がほぼ終了。ピットを数個検出。

9.8 SZ01 からの遺物の出土が多い。周りの溝か
らは石が数個出土。

9.9 SZ01 の検出。SD06 の完掘、平面及び土層断
面の実測、完掘状況の写真撮影。SZ03 溝の遺物(高
環)取り上げ、実測、撮影。SZ01 の検出写真。

9.10 2-2区(北半分)SZ01 埋土掘削。大きめの
土器片が1点出土。

9.13 2-2区 南側 SZ が発見できそうである。

9.14 2-2区 南側 2cm 掘り下げ。針で SZ01・02・
03 の溝を書き、検出写真を撮影。

9.15 SZ01 埋土1層目を掘削。3ヶ所トレンチを
掘るが、内2ヶ所からは溝内の底よりピットの様
なものを検出。土器洗い中に、墨書土器が見つかる。

9.16 SZ01 溝部分を掘削。東側を主体に行う。
SZ02 の主体部トレンチ掘削を行う。

9.21 SZ01 埋土1・2層掘削。C区、1・2層の掘
削終了。2層より板石が2枚出土。B区は埋土1層
の掘削がほぼ終了。SZ02 主体部の検出撮影。

9.22 SZ02 の検出、ベルト設定、トレンチ掘削。
溝と主体部の検出撮影を行う。SZ02 の溝にベルト
を4か所設定して、両側にトレンチを入れ、埋土
ごとに掘り進める。SZ01 の溝、B区掘削。SD04
完掘、SK07 平面の実測を行う。

9.27-28 雨により現場休止。

9.29 2-2区北側 SZ01-b 区 埋土1・2層掘削。

9.30 2-2区南側 SZ02 ベルト横トレンチ掘削、埋
土ごとに掘り下げ。SZ01 遺物出土状況の実測。

10.1 SZ01 埋土1・2層の掘削。遺物に関しては
b・c 区のベルト付近に集中。SZ02 の溝トレンチ掘
削は4か所に分かれて行い、溝の壁出しはほぼ終了。

10.4 現場休止。

10.5 2-2区北側 SZ01 内の遺物出土状況の実測。
2-3区北側 表土剥ぎ(1層)1日目。

10.6 2-3区 表土剥ぎ2日目。SZ01 の遺物取り上
げ及び、出土状況の実測。

10.7 2-3区 表土剥ぎ3日目。2-2区ではSZ01 の
土層断面のラインを引き撮影し、土層断面を実測。
SZ01 のベルト土層断面撮影。

10.12 2-3区 表土剥ぎ4日目。2層(客土)掘削。
SZ01 北側延長部にあたり硬くしまっているため築
き固められた方台部が見えている可能性がある。

10.13 2-3区 表土剥ぎ5日目。SZ01 の掘削では、
2層にあたる客土をほぼ除去し、溝の検出を試みた
ができなかった。

10.14 2-3区 表土剥ぎ6日目。k-⑩グリッドの3
層上面からは勾玉を検出。2-3区南半分ではSZ03
の続きにくわえ、もう1つ方形周溝壁の周溝と思わ
れる黒色土のラインが見られた。

10.15 2-3区 表土剥ぎ最終日。表土掘削、清掃。

10.18 2-3区 メッシュ杭、5m のグリッド杭(基
準杭)設置。

10.19-11.18 現場休止。

11.1-5 現場作業準備。SZ01 の土色入れ。

11.15-18 2-2区 SZ01 溝 a・b 区間ベルト土層断
面の実測と撮影。

11.19 現場調査スタート。2-2区 SZ02 の主体部
掘削。分厚く平らな石も出土してきたので石棺とも
思われるが、木棺の形跡もある。

11.24 2-3区北側2層(客土)を検出、西側より
状況撮影。溝などを検出。

11.25 2-2区 SZ02 の主体部を検証。2-3区の南
側でSXを検出。昨日検出したSXの掘削。2層上
面検出状況を西側より撮影。

11.26 2-3区 全体でSXが50基以上検出されたため、半裁→断面精査、土色入れ→完掘を行う。

11.27 現場説明会準備。

11.28 現場説明会。2-3区SZ01の検出できる面まで掘削、検出状況を撮影。他、2-3区北西も掘削。

11.30 2-2区SZ02トレンチ掘り。2-3区SX完掘。北側の2層(客土)上面検出状況、一部SX完掘の撮影。平面・土層断面の実測。

12.1 2-3区SD08は断面の撮影と実測を終了し、完掘。完掘写真は2-3区北側全体で行う。南側SX完掘状況を西側より撮影。SX平面、SD08平面及び断面の実測。

12.2 SX105完掘状況を撮影。

12.3 SD09・10トレンチ入れ、掘削。SD10のベルトを残し掘削を始める。他SX完掘、2-3区南東部2層掘削→SD11検出。

12.6 2-2区SZ01の埋土3層上面ビットとSZ01より新しい時代の掘り込みのSDを検出。その後SZ01の溝北側延長部の写真を掘り埋土1層目を掘削。2-3区SD09・10の掘削終了。

12.7 2-3区SD09・10を清掃。SZ01の溝を掘削、完掘写真の撮影。またSD09・10・12の土層断面の撮影、図面作成。

12.8 室内作業。遺物チェック。

12.9 2-3区SD11掘削。2-2区のSZ02の埋土1層目を掘削。2-3区はSD08を撮影し、SD11はほぼ完掘。

12.10 2-3区SD11・12、SZ02周溝内の掘削。SD09の平面実測の終了に伴い、それと切り合うSD12の掘削を始める。SD11は土層断面図を実測。

12.13-14 雨により現場休止。

12.15 2-2区SZ013層上面ビット半裁、SD03掘削。2-3区SD05・12・13を掘削。

12.16 2-2区・2-3区SZ01 b区2層壁出し。溝の外の基本土層(3層)を4層上面まで下げる。2-3区SD05・12完掘撮影。2-3区SD10・11の実測。

12.17 2-2区SZ01 d・e区埋土2層掘削。東側立ち上がり検出。SZ02の溝ほぼ全面と埋土1層の掘削終了。c区埋土1・2層掘削。a・b・d区埋土2層掘削。2-3区SD13は掘削終了し、土層断面を撮影。

SD05平面図とSD13平面図及び土層断面図を実測。

12.20 雨により現場休止。

12.22 2-2区SZ01方台部トレンチ入れ、基本土層(2・3層)掘削。SZ02 a・b・c・d区とも埋土2層を掘削。

12.24 2-2区SZ02の遺物表面を出す。陸橋部北側の遺物と周溝北側の遺物出土状況を描く。その他SD03平面図の実測を行う。

12.27 雨により現場休止。

1.6 2-2区周溝内埋土2層掘削。SZ02周溝北側遺物出土状況実測。SZ02陸橋部北側の遺物出土状況の撮影。周溝内SZ01周溝使用面の下端実測。2-3区付近アカホヤ二次上面、黒ボク(3層)をグリッドごとに掘削。

1.7 2-2区SZ02周溝掘削。周溝平面図実測及び周溝内(d区)埋土2層(下層)遺物出土状況を撮影。SZ03付近の黒ボクを掘削。

1.11 2-2区SZ01ベルト掘削、埋土2層残り掘削。SZ02遺物取り上げ状況及び平面図実測。SD03の清掃及び土層断面図撮影。2-3区SZ03付近グリッドの黒ボク掘削。

1.12 2-2区SZ01中端平面図実測。SZ02 b区壁出し。2-3区2層掘削。SZ03主体部検出、表面を少し掘削。西南部に新しいSZを検出(SZ04)。溝状遺構SD14・SX116の平面図実測。

1.13 2-2区SZ02 a・d区遺物検出状況の撮影及び2-3区SZ03・04検出状況の撮影。

1.14 現場休止。

1.17 2-2区SZ01・02のトレンチ掘削。2-3区2層掘削。SZ04のトレンチ掘削で高環が出土。

1.18 2-2区SZ01周溝掘り残り掘削。SZ01土層断面a-b区間、c-d区間の写真撮影と実測。SZ02土層断面c-d区間土層断面の撮影。2-3区SZ04のトレンチと2層の掘削。

1.19 2-2区SZ01溝、d区内側起き上がり掘削。SZ01・02のベルトを撮影し、土層断面の実測。2・2-2-3区SZ03周溝埋土1層目掘削(a・c・d区)。

1.20 2-2・2-3区SZ03埋土1層掘削。遺物が多く出土。完掘状況を撮影。周溝南側と陸橋部南側から土器、周溝北側から板石が3枚出土。2-3区客土

層掘削。SZ04 埋土1層掘削。出土状況図を作成。

1.21 2-2区 SZ02の主体部のおおよその範囲を確認。2-3区は客土掘削。SZ01・SZ02の土層断面の土色入れ作業を行う。

1.24 現場休止。

1.25 2-2区 SZ02 (a-d・b-c・a-b)の3ベルトの写真撮影。2-3区東側の客土掘削。

1.26 2-2区 SZ01・02の周溝の外径、内径の計測。SZ01 b-c区間の土層断面、板石の出土状況の図面作成。SZ02 b-c区間の土層断面実測。2-3区2層掘削。

1.27 2-2・2-3区 SZ01～04周辺の使用面上完掘状況の撮影。その後2-3区2層(客土)、掘削。

1.28 2-2区 SZ01 埋土3・4層一括して掘削。SZ02 埋土3層上面ピットを3ヶ所半裁。a区陸橋部南、埋土3・4層を掘削。2-3区2層掘削中に須恵器や土器、石が集中して出土。SZ02・04の遺物点上げ実測図を作成。SZ01 3層上面ピット完掘状況、SZ03 溝a-d区間ベルト土層断面、溝b-c区3層上面遺物出土状況、a区3層上面板石出土状況、SZ04 溝北側使用面上遺物出土状況の撮影。

1.31 2-2区 SZ01 埋土3・4層掘削。SZ03 溝b-c区間及び区c-d間ベルト土層断面を撮影。

2.1 2-2区 SZ01 完掘。SZ01内のピットと思われる遺構の平面図を作成。周溝内から出土した石の図面も作成。SZ02 埋土3・4層を掘削。

2.2 2-2区 SZ02 完掘。

2.3 2-2・2-3区 高所作業車で東からの撮影。2-3区2層(客土)の掘削。SZ01・02周溝が完掘。SD03の完掘状況を撮影し、客土層を掘削。

2.4 2-3区北側、グリッド毎に客土掘削。

2.7 2-2区 SZ01 主体部周辺の壁際に狭いトレンチを入れる。SZ03は、遺物点上げ。SZ04のベルト土層断面の撮影、実測。2-3区北側2層掘削。f-⑩周辺のグリッドトレンチ内で、粘土と石材を3ヶ所検出。

2.8 SZ01 主体部検出のため、4層を平坦に掘削。SZ04 埋土2・3層掘削。2-3区2層 墓の可能性のある周辺を掘削。周溝らしき部分を2ヶ所検出。

2.9 SZ03・04 完掘掘削。2-3区北東 客土を掘削

中。f-⑩グリッド付近で粘土と板石が出土しており、周溝のようなものも見えている。方形周溝墓の可能性はある。SZ01の間にも周溝の可能性はある。

2.10 2-3区全体の遺構検出。SZ03・04上端、SZ04 下端完掘の実測。

2.15 2-2区 平面及びSZ02 主体部のピット検出。2-3区北側の3層を掘削。SZ02の主体部は現時点で3つ確認しており、隣接する主体部①②と単体で③を撮影。3基全てを撮影。

2.16 2-2区のピットを検出し、半裁。2-3区は北東から3層を掘削中。

2.17 雨により現場休止。

2.18 SZ01の内側平面のピットを半裁。その後北側の層(黒ボク)掘削。SZ02 主体部①②③検出平面図、SZ03 周溝内ピット平面、断面図作成。

2.21 SZ02 主体部①②③ベルト設定、掘削。2-3区 グリッド毎の3層掘削。i-⑩グリッドで釘と思われる鉄が2点出土。炭化物の塊も検出。

2.22 2-3区全体の3層の残っている範囲を検出して掘削。SZ05の溝、主体部共に検出。SZ02 主体部②は、5cm 下げで検出。小石の出土状況を撮影、実測。SZ03 主体部は石蓋の直上5cm 残して少しずつ下げる。SX117～121の平面実測。他 SZ03 周溝内ピット平面及び完掘平面の実測。

2.23 SZ03 主体部 埋土1層(上層)掘削中に出土した粘土(白色)の出土状況を撮影。SZ02 主体部②北西にのびる部分の粘土を掘削し、土柱を崩して平坦にする。主体部③ベルトの両側共に掘り残しの部分を掘削。SZ05の主体部のみの検出状況撮影。2-3区3層をグリッドごとに掘削。

2.24 表土剥ぎ1日目。SZ02 主体部①5cm 下げ、主体部②石棺の差し込みラインを検出し、撮影。主体部③ベルトに土層断面を入れ実測。SZ03 主体部、石蓋の上面(埋土1層下層)まで掘削。2-3区南東側、方形周溝墓の可能性あり。SZ05のベルト設定。SZ02 主体部③土層断面、主体部②石棺差し込みライン平面、1-⑩グリッド出土状況を撮影。

2.25 表土剥ぎ2日目。2-3区3層掘削。

2.28 主体部の土洗い(玉類探し)と土器洗い。

3.1 表土剥ぎ3日目。2-3区3層(黒ボク)掘削。

SZ05のベルトトレンチ入れ（周溝）、深さの確認中。
SZ02 主体部の土層断面を撮影。

3.2 表土剥ぎ4日目。2-3区3層（黒ボク）掘削。
SZ02・03の主体部、SZ05ベルトトレンチ掘削。
2-2区SZ03主体部、埋土1層内粘土出土状況の遠近景撮影。

3.3 表土剥ぎ5日目。2-3区3層掘削。SZ03の主体部、土層断面を撮影。2-3区調査区東側（k-⑧グリッド）の黒ボク上面に粘土と焼土、そして土師器や須恵器、石などが出土。

3.4 2-3区3層の掘り残しや遺構の検出。SZ02の主体部②木棺ライン掘削、平面実測。j-⑦グリッド3層中、須恵器の出土状況を撮影。

3.7 雨により現場休止。

3.8 2-2区SD14付近のラインの確定、検出状況を撮影。2-3区SZ03主体部石蓋の検出状況撮影後、出土状況、石蓋断面を実測。2-3区東側入り口付近の3層から焼土を新たに検出。

3.9 表土剥ぎ最終日。2-2区SZ02主体部①北東に木棺ライン掘削、撮影。主体部②北西木棺ライン延長部内、粘土出土状況の撮影。2-3区東南3層掘削。SD14埋土1層掘削。SZ05埋土1層の掘削。

3.10 2-2区SZ02主体部①木棺ライン掘削。溝、下端実測及び遺物出土状況図作成。2-3区SZ05b・c区埋土2層掘削。埋土1層の遺物出土状況平面図作成、撮影。SD14埋土2層以下を全て掘削。h・i-⑤・⑥グリッド4層上面、遺物出土状況の実測。

3.11 2-2区SZ02主体部①埋土下層掘削。溝b区上端、主体部②北西区出土粘土、主体部平面の実測。2-3区SZ05埋土2層掘削。SD14は完掘。SD14・15埋土1層出土遺物点上げ後レベル入れの実測。埋土1層の石、土器の出土状況を撮影。

3.14 2-3区SZ05遺物出土状況を撮影。SD14・15の掘削、SD14埋土3層内遺物出土状況を撮影。

3.15 2-2区SZ02主体部①掘削、南側トレンチ入れ。層位確認。主体部②土層断面の撮影。2-3区SD14遺物出土状況とSD15の土層断面を撮影。

3.16 2-2区SZ02主体部①土層確認、撮影。2-3区SZ05の周溝内遺物出土状況を実測、SD15土層断面図実測。

3.17 2-3区SZ02主体部②土層断面の実測。SZ05は溝内遺物取り上げ、遺物出土状況図の作成、撮影。

3.18 2-2区SZ02主体部①②掘削。主体部①土層断面の実測、主体部③の完掘状況の撮影。2-3区SZ01主体部木棺ライン検出状況の撮影。SZ05は土層断面の掘と溝の層断面の実測と撮影。その他SD14の土層断面、平面図実測。

3.22 2-2区SZ01主体部木棺ラインの平面、土層断面、溝の中間、下端、SD14の平面実測。南側、東側ラインの撮影。2-3区SZ01主体部木棺ライン掘削、SD14・15土色入れ、ベルト掘削。

3.23 2-3区SZ01主体部検証。木棺ライン完掘状況の撮影。SD14・15の平面実測。

3.24 2-2区SZ02主体部①②③の平面完掘。2-3区SZ05使用面平面実測図作成。

3.28-30 室内作業。

（23年度 飛田遺跡群1区調査「飛田遺跡群1」報告書掲載）

（平成24年度）

4.1-4 室内業務

4.12 2-3区SZ05主体部検出状況を撮影。

4.13 2-3区SZ05主体部 検出状況平面実測。

4.14 前日の続き。

4.18 2-3区SZ05主体部及び周辺遺物検出状況、平面実測。

4.19 2-3区SZ05主体部掘削。鉄滓出土。実測及び撮影。

4.20 2-3区SZ05主体部掘削。ベルト南西区は石や石材が多く出土。南東区も石が出土し始めている。

4.21 2-3区東壁土層断面ライン引き。

4.22 SZ05主体部南東区の埋土1層は3分層。埋土1-①②③と設定した。

4.25 2-3区SZ05主体部掘削。北西区から鉄滓、北東区からは骨のかけらが数点出土。

4.26 2-3区SZ05主体部掘削。鉄滓出土状況実測及び撮影。北西部埋土1層を撮影。

4.28 2-3区SZ05主体部掘削。

5.9 2-2区SZ03石蓋平面図実測と石蓋No1～5

おさえ石撤去状況の撮影。

5.13 2-2区 SZ03 主体部石棺内平面図作成。人骨は3体（男性2体、女性1体）、ある程度良い状態で残る。

5.17 2-2区 SZ03 主体部石棺内の人骨取り上げ後、敷石検出状況及び朱検出状況の撮影。途中東側の頭骨の出土付近で玉（青色、ガラス）を1つ検出し、その状況を撮影。

5.22 3-1区 現場開始。

5.24 2-3区 遺構検出、3層掘削。南側のビット検出。SD14より東側をグリッド毎に少し掘削。3-1区本格的な調査開始。

5.25 2-3区3層掘削。ビットを検出し、並びの確認。

5.26 雨により現場休止。

5.27 2-3区 南側3層掘削。少し大きめの土坑を検出。SK10・11 検出状況及びSK10は、遺物出土状況を撮影。

5.30 2-3区3層掘削。

5.31 2-3区 清掃後、遺構検出。ビットが多数検出。建物もしくはその他の遺構の可能性のある箇所も数か所検出。SB02と設定して検出状況及びSZ04の完掘状況を撮影。

6.1 SZ03 主体部再度撮影。石棺内敷石検出状況を実測。SZ05 主体部掘り返し層（埋土1層）内から出土した大量の石、板石の出土状況を撮影。2-3区全体のビット半蔵。

6.2 2-3区 ビット半蔵、完掘。SZ03 石棺内敷石検出状況、SZ05 埋土1層内石、板石出土状況、ビット平面図を実測。

6.3 2-3区 ビット掘削。撮影、断面図実測。SK12は土層断面図作成、ベルト掘削及び撮影終了。SP114・130・142 土層断面の撮影。

6.6 2-3区 SK12 完掘状況撮影。k-⑧グリッドにある焼土・粘土と硬化面の状況を撮影。土器も出土し、カマドと思われる。SP150の平面図実測、SZ03 敷石検出状況、SZ05 埋土1層内石出土状況の実測。他、SP150 平面図（土師器出土）、k-⑧グリッドより粘土が出土。硬化面検出状況と土層断面実測、撮影。

6.8 2-3区 SZ05 主体部南西区以外の土柱崩しを

終了。埋土1層の下端と予想していたレベルより、低い位置で板石が2枚出土。2-3区の東壁では土層断面にライン入れをして撮影。SB01は完掘、SB02の半蔵と撮影。土層断面図実測。k-⑧グリッドは粘土と焼土の固まりにトレンチを入れた。焼土内からは土器も出土したためカマドの可能性はあるが、建物のラインは確認できない。実測はSZ03 石棺内見通し断面、SZ05 主体部石取り上げ（レベル入れ）、k-⑧グリッド土層断面実測。

6.9 2-3区 SZ03 の敷石の見通し断面は終了。SZ05は出土状況を撮影、実測。SB02 土色入れ、完掘。その他ビット、SK14・15の調査。

6.13 2-3区 SB02 完掘の撮影。P9 埋土（上層）内、土器出土状況の撮影。SZ03 の敷石四半蔵が終わり、断面図の実測。k-⑧グリッド粘土・焼土の再検出、土層断面の実測と撮影、h-⑩グリッド3層内炭の出土状況を撮影。

6.14 2-2区 SZ03 主体部敷石の見通し断面終了。石棺内敷石土層断面の実測及び撮影。2-3区 SZ05 主体部の土層断面、埋土2層完掘状況（周溝使用面完掘状況）を撮影。k-⑧グリッド燃焼部完掘状況、SK14 完掘状況、l-⑯グリッド石器出土状況の撮影。

6.17 2-2区 SZ03 主体部石棺内敷石除去。石棺内出土土器の平面図作成と撮影。2-3区 SZ05 主体部に埋土1層分の土層断面、k-⑧グリッドカマド掘り込み完掘平面図を実測。SK18は焼土の広がる土坑である。

6.20 SZ03 主体部側石見通し断面図作成。SZ05 主体部は、ベルトを掘削中。

6.21 SZ03 主体部側板の検出写真撮影後、石棺（側板）見通し、墓壇平面、断面、石棺断面追記の実測。SZ05 主体部、層内石出土状況を実測。

6.22 2-2区 SZ03 の墓壇の深度調査。石棺周辺の粘土の検出状況を撮影。2-3区 SZ05 主体部南北ベルトの追記。

6.23 2-2区 SZ03 主体部からは、石棺の周辺ローム土を貼ったのを検出。主体部関連の実測、ビットの完掘。2-3区 SZ05 の主体部は、出土した石を平面図に追記。m-⑯グリッド高坪出土状況を実測、撮影。SK10 完掘状況、SZ03・05の撮影。

6.24 2-2・2-3区 ビット完掘。2-3区 SZ03 主体部 埋土 2-②層掘削後実測、撮影。SZ05 周溝埋土 3層掘削、主体部ベルト掘削（埋土1層）。主体部土層断面追加実測。埋土1層内、石出土状況実測。周溝完掘。C区周溝及び、陸橋部南側遺物出土状況の撮影。

6.27 2-2区 SZ03 主体部 埋土 2-②層完掘。平面、点上げ実測。石棺外埋土（墓域）完掘及び石棺掘り込みライン検出状況撮影。2-3区 SZ05 埋土1層内石出土状況、土層断面一部追記と東壁土層断面実測。SK19はSZ01の周溝内側で検出。SP201～206完掘、SP208半裁、東壁トレンチ掘削。

6.28 2-1・2-2区 空掘のため清掃。石棺外の墓壇埋土は掘削、実測。2-3区SP208掘削、土層断面実測。完掘状況、土層断面の撮影。SZ05完掘。平面、板石出土状況の実測。

6.29 2-2区 SZ03 主体部石棺差し込み口掘削。主体部側板見直し図追記。石棺を剥がした状況と、石棺差し込み口内根固め石出土状況を撮影。2-3区 SZ05 周溝遺物点上げ、SP208 平面、SP209 平面、土層断面、ビット群平面の実測。

6.30 2-2区 SZ02 完掘撮影。SZ03 完掘。主体部実測、撮影。2-3区 SZ05 完掘、主体部実測。SD14 完掘状況の撮影。

7.25 2-2・2-3区 現場公開の準備。

9.29 2-4区 メッシュ杭打ち。

10.3 2-4区 作業開始。遺構検出。

10.4 2-4区 北東隅の3層（黒ボク）掘削。

10.6 2-4区 SZ06 検出撮影ためのブランを確認。

10.7 2-4区 SZ06・SX123 トレンチ入れ。

10.11 2-4区 SX123 南北の立ち上がりを確認。SZ04 埋土掘削。SZ06 トレンチ掘削、土層ライン入れ。

10.12 2-4区 SZ06 埋土1層、SX123 北東区、南西区埋土（上層）掘削。

10.13 2-4区 SZ06・SX123 の調査。SX123 の検出状況を撮影。

10.17 2-4区 SZ04 土層断面、完掘平面実測。SZ06 周溝を掘削。遺物出土状況の実測。

10.18 2-4区 SZ06 周溝、土層断面の実測。SZ04

土層断面及び完掘状況とSZ06 周溝 c区遺物出土状況の撮影。

10.19 2-4区 SZ06 周溝完掘。周溝の4つのベルト a・b・c・d 土層断面の実測、撮影、土色入れ。

10.20 2-4区 SZ06 ベルト部分だけ掘り返した時点での上端・下端・最下点、完掘平面を実測。

10.24 2-4区 SZ06 ベルト掘削終了。ベルト d 掘削中、埋土3層内から小型丸底甕と思われる土器片がまとまって出土。ベルト d から出土した土器の点上げ。(No.10～13)

10.25 SZ06 完掘状況を撮影。

10.26 2-4区 調査区東側遺構検出及び状況撮影。SD24 掘削。

10.27 2-4区 SD24 埋土1層、溝内ビット半裁。n-①グリッドのビットからは高台付きの須恵器片が多数出土。

10.28 2-4区 SX123・SK293 層掘削。調査区南東隅の縄文土器が多数出土した箇所、土坑を検出(SK29)。

11.1 2-4区 南東側ビット半裁。SX123 完掘、SD24 内ビット完掘、SP280・281 土層、調査区南東の実測。2-4区調査区南東側検出状況及びSX123 完掘状況を撮影。

11.2 2-4区 SD24・SK29 完掘。SK30 ビット半裁。SZ06の南側で土坑(SK30)を検出。四半裁、北西側の区画から完形の甕が出土。

11.4 2-4区 SD24 完掘、平面実測及び完掘状況撮影。SK30 掘削。SK29 完掘状況を撮影。

11.7-8 2-4区 SK30 遺物出土状況撮影。

11.14 2-4区 3層掘削終了。3-1区 表土掘削後検出作業。w-②グリッドの芋穴埋土中から、縄文中期と思われる土器片が出土。2-2区で、中期の土器片2点が出土。

11.15 2-4区 3層完掘、全景撮影。後、4層掘削。3-1区 調査区南東側の芋穴及び3層から、多数の縄文土器、南東端のからは石鐘が1点出土。

11.16 2-4区 4層掘削。出土遺物が極めて少ない。石斧片1点、作りかけと思われる石器を1点、点上げ。3-1区 調査区南東側を中心に縄文土器が多数出土。北東試掘トレンチ及びトレンチ壁の地山4

- 層中に、黒曜石の剥片が5点出土。中央を南北に走る溝2本検出。
- 11.17 2-4区4層掘削、検出。
- 11.20 3-1区北西、傾斜している場所に骨(人骨か獣骨かは不明)を検出。区東側一帯に、石器及び剥片が散在してみつかった。場所によって土器片も伴って散らばっている。石鏃も5点出土。
- 11.21 2-4区4層掘削、遺構検出。5層上面検出状況撮影。3-1区調査区北西側を中心に2層を掘削。所々で石の剥片が出土。また、南東側の3層では、石の剥片・土器片が多数出土。
- 11.22 3-1区調査区のほぼ全体の客土掘りが終了。中央南側から鉄2点(きり状か棒状)及び土師碗が1点出土。赤彩している。西側からは、硬化面を2ヶ所検出。
- 11.24 2-4区SK50～56掘削、土層断面実測及び撮影。
- 11.25 2-4区調査終了。
- 11.27 3-1区出土骨は人骨。検出状況の写真撮影。
- 11.28 3-1区2層掘削。
- 11.29 2-4区4層完掘、撮影。
- 12.1 3-1区秋の遺構発掘体験・見学会。
- 12.3 3-1区トレンチの続きを行った。南側のトレンチからは、黒ボク・赤ホヤ二次から大量の遺物が出土。
- 12.4 3-1区東側トレンチの掘削。
- 12.5.6 3-1区調査区東側検出のための掘削。
- 12.7 3-1区調査区西側から穴のあいた石器を検出。
- 12.10 3-1区3層(上層)掘削。
- 12.11 3-1区3層(東側)掘削。
- 12.12 3-1区3層(上層)掘削。
- 12.13 3-1区調査区東側・西側3層掘削。硬化面道路状遺構の実測。東側調査区からは、石斧が4枚出土。一部組織痕土器かと思われるものも1点出土。
- 12.14 3-1区西側の3層下げを行う。住居と思われる規模のもの数ヶ所、土坑・ピット等を検出。硬化面はベルトを入れて確認。
- 12.17 3-1区3層(西側)掘削。
- 12.18 3-1区トレンチ内の土層断面の撮影。SF07・08の硬化面をはずし、その下を調査。
- 12.19 3-1区調査区中央部の漸移層上面掘削。道路状遺構硬化面検出を行った。
- 12.20 3-1区3a層掘削。
- 12.25 3-1区東側遺構検出。縄文後・晩期の建物が、かなり多く切り合って検出。大部分が、5mを超す楕円(正円に近い)のプランである。東側3b層上面、検出状況の撮影。
- 12.26 3-1区SF07・08の平面実測。
- 1.7 3-1区SI32～35・SP921・922の掘削。SP921・922は、切り合う黒褐色のピット。SP921からは、外側が赤色、内側が黒色の磨きのかかった土器片が出土。SI32から、縄文の遺物多数出土。石斧も2点ほどある。中心付近からは、注口土器片が出土。
- 1.8 3-1区SI32～36の掘削。北側立ち上り部で、器形が不明の土製品が出土。
- 1.9 3-1区SI32は、ベルト掘削して遺物出土状況を撮影。三万田・烏井原式と思われる遺物が散在。注口土器片も数点ある。また、蛇紋岩製の小さめの石斧2点、安山岩製の石斧が1点、どれも建物際で出土。SI33は、埋土を掘り下げ、土層撮影、図面、註記を行う。SI36は、遺物出土状況を撮影。土器片も多く出土し、砥石も1点出土した。
- 1.10 3-1区住居の北東側に遺物が集中し、近くの土器片で一個体に接合できそうなものもある。壺や注口土器がありそうである。建物全体の遺物出土状況を撮影。
- 1.11 3-1区SI32・33の遺物出土状況の実測後、点上げを行う。
- 1.15 3-1区b-⑨グリッドに1点だけ出土していた須恵器の高台付坏を撮影し、図面実測。3-1区中央付近の遺構検出。円形建物数基、ピット数基、溝状遺構1基検出。SI35・36は完掘。
- 1.16 3-1区芋穴・攪乱を中心に掘削。場所によっては、縄文土器が多数出土した。北東試掘トレンチ及びトレンチ壁の地山4層中に黒曜石の剥片が5点出土。中央を南北に走る溝を2条検出。
- 1.22 3-1区SI34ピット・炉検出、断面撮影。SI44の土層断面の撮影及び実測。

1.23 3-1区 SI34の完掘。SI42からは、十字形の石器が出土。これらの完掘状況、遺物出土状況を撮影。2-5区表土剥ぎ1日目。

1.24 3-1区 SI40は建物内で土坑が見つかり、これに関係があるものとしてK1として調査。SI42・43・44の遺物出土状況の実測、SI41の完掘状況、SI40内のK1の土層断面の撮影。2-5区表土剥ぎ2日目。

1.25 3-1区 SI42・43・44の遺物取り上げを完了。

1.28 3-1区 SI42・43・44のピット検出、完掘状況撮影。SP926・927・929～934・941・942・SK161～163・165～168の土層断面の撮影。SI37から土偶の足のようなものが出土。

1.29 2-5区 調査区西側の基礎の周りのカクランを掘削。3-1区 SI37・45・47・ピット・SKの掘削及び土層断面、遺物出土状況の実測、撮影。

1.30 3-1区 調査区東側では、縄文住居と思われる楕円形プランが多く切り合って検出。切り合いの新しいものから掘削。完掘撮影。

1.31 3-1区 SD49は、断面の実測をし完掘した。

2.4 雨により現場休止。

2.5 3-1区 3b層上面においての縄文遺構検出。

2.6 2-5区 3層（黒ボク）掘削。建物基礎内の3層掘削。3-1区 SI48・49の土層の記録を取り、ベルト掘削中。SI52は、埋土掘削中。

2.7 2-5区 3層掘削、平面図実測、3層内から円盤型石器・石匙が出土。3-1区 後期の始めから晩期の始めのくらいまでの遺物が出土。

2.8 2-5区 3層掘削。3-1区 SI52は、柱穴のピット1～4までを検出、掘削。

2.13 2-5区 遺構検出作業に取りかかる。建物状遺構が数個。ピット、土坑らしき遺構が数個見つかり、切り合いのあるものもあるため、トレンチを設定して確認する。

2.14 2-5区 遺構検出。ピット、土坑を検出。3-1区 SD46から東方は、SI37の平面図を残して、切り合い2面目までの調査を終了。新しく検出したSI・SKについては、深さを確認。

2.15 2-5区 検出、ピット半裁。検出した2-3区 SD14からの続きの溝（SD51）を検出。3-1区

SI60・SK188・196の完掘、SK200の遺物出土状況の掘削及び土層断面の実測、撮影。

2.19 2-5区 3b層掘削。SK・SP半裁、SD51掘削。調査区西側3b層の包含層掘削。3-1区 SI62・63・64のピット検出と半裁。また、SI63内ピットの土層の撮影。

2.20 3-1区 SI61～67完掘。土坑の掘削。また、SI60・61・63の実測及びSI61～64・67の完掘、SI62～64・66・67のピット、土坑の土層断面、完掘の撮影。

2.21 2-5区 SP類完掘、SK302半裁、土層断面実測及び撮影。SK300・301完掘、土層断面実測及び撮影。調査区南側トレンチ（西側）掘削。割付図、調査区南壁土層断面図も作成。

2.22 2-5区 SK300～303の掘削、完掘写真撮影と調査区南壁（西側）トレンチ掘削、割付図。SK303土層断面図、調査区南壁（東側）土層断面図実測。SK303土層断面、SD51完掘の撮影。3-1区 遺構の半裁やトレンチを掘削。ピット・SI69の土層、SI64の平面の実測。また、SI66の完掘、SI69土坑の土層断面の撮影。

2.25 2-5区 調査区西側完掘撮影。3b層の掘り下げを行う。SK半裁。割付図、南壁土層断面図実測。3-1区 SI68のピット検出、SI69のピット完掘、SI70ピット1～3の土層の掘削。

2.26 3-1区 調査区西側の調査。図面整理。

2.27 2-5区 調査区南壁撮影。半裁。SK306・307とP1030～1033の完掘、調査区西側の3b層掘削。割付図、SK306・307土層断面の実測、土層断面と完掘の撮影。3-1区 東側縄文遺構完掘全景撮影及び遺構検出、埋土掘削、土坑の実測及びSK235・244・248、SI69・70の完掘状況撮影。

2.28 2-5区 SK308半裁し、土層断面の実測、撮影。SK309は掘削し、土層断面図実測と撮影。3b層掘削。その他調査区南壁土層断面の撮影。3-1区 東側検出した遺構の掘削。SIはトレンチを入れ、土層が確認できたものから埋土を掘削。SKは半裁。

3.4 2-5区 SK309ベルトをはずし完掘撮影。SK308の掘削と完掘撮影。SK310半裁ピット完掘、土層断面の撮影。3-1区 SK73の平面、SK73の遺物出

土状況の実測及び完掘。

3.5 2-5区 SK310 掘削、割付図と土層断面の実測、完掘撮影。SP 掘削、4層掘り下げ。3-1区 SI68のピットを検出。

3.6 2-5区 調査区東側完掘状況撮影。3-1区 SI51は、遺物が多量に出土。

3.7 2-5区 4層上面の検出、遺構掘削及び記録終了。5層上面まで全体を下げ縄文時代早期以前の確認を行う。3-1区 西側を部分的に検出し、新しくピット・土坑を調査開始。

3.8 2-5区 調査区東側4層の包含層掘削。3-1区 SK281から、三万田式浅鉢が出土。SK282は、炭化物・焼土を多く含む。

3.9 2-5区 調査区東側4層の掘削。

3.11 2-5区 調査区東側4層の掘削。3-1区 SK281の遺物の出土状況実測、取り上げ。

3.12 2-5区 調査区東側4層の掘削、全面終了。3-1区 SI75土層断面実測。

3.14 3-1区 SI75点上げ・遺物出土状況、SK272・273の完掘状況の撮影。

3.15 3-1区、アカホヤ漸移層直上で検出した縄文時代の遺構の調査をほぼ終了。SI75の完掘を行い、実測やピット・土坑を含めて写真撮影。

3.19 2-3区 SZ03・05の記録まとめ。撮影。3-1区空撮準備。土層断面（調査区）の実測。

3.21 3-1区 東側調査壁土層断面（4層上面まで）の実測。

3.22 3-1区空撮。

3.26 2-3区 SZ03・05記録まとめ。3-1区 飛田遺跡群今年度の調査終了。

（平成25年度）

5.7 北・東の壁出しをし、アカホヤ・黒ニガ・白ニガ等の土層のライン引き。東壁トレンチを掘り下げ。

5.8 北側両方ともトレンチ入れ。

5.9 3-1区 南東側に位置する未調査の部分にトレンチを7本入れて確認調査及び南北・東西のトレンチ入れ。

5.10 雨により現場休止。

5.13 確認調査の際のトレンチ遺構検出。東西にも溝を検出。

5.14 確認調査部分の追記。南北ベルトのトレンチ掘り。3-1区に残っていたアカホヤ漸位層を剥いでいる際、石鏃が3点出土。

5.15 漸位層剥ぎを行う。

5.16 東側調査壁土層断面実測。

5.17 アカホヤ二次層掘削。東側調査壁の実測の続き。大溝から東側検出を行う。

5.20 東側拡張部で2層・2b層を落とした。黒ボク上面で中世の溝やピット等を検出。

5.21 北西側のアカホヤ二次層（4層）を5層より10cm上まで残しての掘削。東側拡張部の遺構検出を行い、中世の溝と思われるものを掘削。

5.22 3-1区 西側のアカホヤ二次（4層）掘削。東側拡張部のSD53を完掘。

5.23 3-1区 西側の4層掘削の続きと、SD53のベルトをはずして撮影。

5.24 西側4層掘削。

5.27 3a層の掘削。東側拡張部、SD53の平面図の実測。

5.28 雨により現場休止。

5.29 東側拡張部の3a層の掘削。古代の遺物は須恵器が1つ、他に縄文土器、磨製石斧、土偶の右足と思われるものが出土。古代のピットと思われるものも3ヶ所確認。

5.30～31 現場休止。

6.3 3-2区 表土剥ぎ1日目。3-1区からは、5月29日にa-⑨グリッドより土偶の右足と考えられるものが出土したが、同じグリッド内から土偶の手と考えられるものも出土。

6.4 3-2区 表土剥ぎ2日目。拡張区、検出完了。

6.5 3-2区 表土剥ぎ3日目。

6.6 3-2区 表土剥ぎ4日目。西側・東側トレンチの掘削。3-1区の溝に垂直にぶつかる溝が見られた。SI34・36の遺物出土状況の実測。

6.7 3-2区 表土剥ぎ5日目。石器が数点出土。

6.10 3-2区 大まかな溝や攪乱、ピットの検出。表土除去状況を多方向から撮影。

6.11 現場休止。

6.12 3-1区SI88の遺物出土。SI34P1～P4、SI36P1～P4、SI82の土層断面実測及び撮影。SI34・36の完掘状況。SI82の遺物出土状況の撮影も行う。3-2区では、南側トレンチ掘削の続きと時代の新しい擾乱を掘削。

6.13 3-1区SK73のピット掘削、検出状況、SI43・SK73 P1・P2の土層断面の撮影。SI34のP2から土偶の足が出土。

6.14 3-1区の遺構の遺物出土状況、土層断面等実測及び遺構の完掘状況を撮影。3-2区では、擾乱・イモ穴等の掘削。

6.17 3-2区の擾乱、溝の掘削。溝SD56を検出。

6.18 現場休止。

6.19 台風接近に伴う現場の養生。

6.20 雨により現場休止。

6.21 台風接近のため現場休止。

6.24 雨により現場休止。

6.25 3-1区 遺構内の遺物の取り上げ、ピットの検出。3-2区 杭打ち。溝の広がりを見るため北壁トレンチ②を入れた。

6.26 雨により現場休止。

6.27 3-1区 SI43・82・88ピットの土層断面の実測及び完掘状況を撮影。

6.28 雨により現場休止。

7.1 3-1区 アカホヤ二次を15cm程落とした所で土偶の顔と思われるものが出土。3-2区 SD56の掘削。

7.2 3-1区 4層を掘削し、SI90の遺物出土状況の実測及び撮影。3-2区 SD56の掘削。SD56の上層からは、剥片尖頭器、スクレイパー等が出土。

7.3 雨により現場休止。

7.4 雨により現場休止。

7.5 3-1区 4層掘削。SI90の遺物出土状況の実測及び撮影。

7.8 3-1区 4層掘削。注口土器2点出土。SI90のピット土層断面の実測及び撮影。

7.9 3-1区 4層掘削。縄文土器片数点と石畿1点が出土。

7.11 3-1区 4層掘削。少量の土器片が出土。SI50の遺物出土状況の実測。拡張部においては、遺物が

大量に出土。

7.12 3-1区 4層掘削。少量の土器片、石器が出土。SI50の下から大量の遺物が出土。下部からも見られ、遺構内遺構の可能性があり。

7.16 3-1区 4層の掘削。大き目の土器片、石錘1点が出土。SI50のP1・P2・K1の土層断面の実測及び撮影。

7.17 3-1区 4層の掘削。SI50・K1の遺物出土状況。z-②グリッドからは、剥片尖頭器と思われるものが6層上面で出土。

7.18 4層掘削。SI50完掘状況の撮影。

7.19 3-1区 4層掘削。南東から石匙・石畿・円盤形石器等、多くの土器片が出土。SI150・90の平面の実測。

7.22 3-1区 西壁の表土剥ぎ。

7.23 西側拡張部から溝と壘を検出。溝からは陶磁器が少量出土し、近世のものと考えられる。また、中央溝の東側を5層面で遺構検出を行った。w-②グリッドから土偶の手が出土。

7.24 3-1区 中央溝より西側、5層（黒色土）面で遺構検出。

7.25 3-1区 トレンチを入れ、半截を行う。

7.26-30 現場休止。

7.31 3-1区 5層面まで掘削。遺構と思われるSK299の土層断面の実測及び検出状況の撮影。

8.1 現場休止。

8.2 検出遺構の掘削。SK299の遺物出土状況の撮影。

8.5 雨により現場休止。

8.6 3-1区 遺構の掘削。SK304検出及び土層の確認。

8.7 3-1区 SK301の遺物出土状況及び完掘状況、SK305の土層断面の検出状況の撮影。

8.8 3-1区 遺構検出。遺物は縄文後期のものが多い。

8.9 3-1区 遺物出土状況の実測及び完掘状況の撮影。

8.10 夏の現場説明会。

8.12 3-1区 b-②グリッド、黒色土上面で検出した遺構は、細い土器片を多く含む埋土である。南西

側では、黒色土を落としているが、チップや土器が大量に出土。

8.13 3-1区 南西側の5層掘削。黒色土との層界より遺物が出土。SK305からは、黒曜石、細かな土器片（赤い）が出土。SK305の完掘状況の撮影。

8.14 現場休止。

8.19 3-1区 5層掘削。SK304の土偶出土状況と平面の実測及び土偶出土・完掘状況の撮影。

8.20 3-1区 5層掘削。

8.21 雨により現場休止。

8.22 3-1区 5層掘削。北側の遺構やピットを検出し半蔵を行う。

8.23 3-1区 5層を掘削。

8.26 雨により現場休止。

8.27 3-1区 南東部のグリッドから、チップがまばらに出土。調査区西側の道路際などに、トレンチを4本入れて確認調査を行う。

8.28 3-1区 旧石器の遺物を探す。調査区北西側拡張部分における壁の土層断面写真、東側拡張部分の図面チェックを行う。

8.29 旧石器の遺物を探す。大溝東側入口付近を大きく半蔵し、確認を行う。

8.30 ~ 9.4 雨により現場休止。

9.5 3-1区 旧石器の遺物を探す。東側拡張区の4層掘削。S182の土層断面の実測、撮影。

9.6 3-1区 拡張部分以外は、旧石器の掘削作業を終了。

9.9 3-1区 北側調査壁土層断面の実測と各グリッドから出土した旧石器の遺物出土状況の撮影。

9.10 3-1区 拡張部からナイフ型土器が出土。北側調査区断面・旧石器東西ライン見通し断面の実測。

9.11 3-1区 拡張部からナイフ型土器・剥片に調整してあるものなど製品が出土。黒曜石のチップも狭い範囲からいくつも出土。w-⑧グリッドから土偶の手が出土、他に土器片数点出土。

9.12 ナイフ型土器2点・剥片等多数出土。

9.13 3-1区 拡張部の旧石器の遺物探しとベルト崩しを行う。

9.17 3-1区 拡張部から出土した旧石器の出土状況の撮影。

9.18 3-1区 全体のベルト崩しを行う。

9.19 現場休止。

9.20 完掘全景写真のための準備。旧石器点上げ完了。3-2区に移り、3a層掘削。

9.24 3-1区 旧石器出土状況の撮影。

9.25 3-1区 完掘全景のための清掃。調査区に残っていた石器類の取り上げ。

9.26 3-1区 完掘全景のための撮影。黒ボクを掘削し、検出するための準備を行う。

9.27 3-1区 ローム層にて、旧石器の遺物が出土するかどうか、1グリッドだけ掘削を行う。黒曜石が多数出土。3-2区では、3a層（黒ボク）を掘削。この調査区から出土している縄文土器は、三万田式等後期の土器。他に須恵器・土師器等も混ざって出土。

9.30 3-1区 ローム層で旧石器があるか確認作業のため掘削。黒曜石が出土。3-2区 3a層の高さで土偶の頭が出土。周辺から石器・黒曜石の剥片等が出土。穀物の炭化物1点出土。

10.1 3-2区 北側より3a層の掘削。3-1区では、あまり見られなかった古代の土師器や須恵器が数点見られる。古代の遺構と思われるものも幾つか確認。

10.2 3-2区 3a層掘削。x-④のグリッドからは、土師器の坏や甕の破片が出土。南側グリッドの3a層掘削を行った。

10.3 3-2区 SD57・58の再検出を行い、SD57の掘削。黒曜石（ナイフ状に加工したもの）の石器や石匙等が出土。

10.4 3-2区 SD57・58は、側溝を伴った道であることがわかったため、SF10に変更とする。掘削して、硬化面を出す作業を行う。道は、東西に走っている。

10.7 3-2区 SF10の使用状況（硬化面範囲）の撮影。側溝の中から古代の遺物、路面直上からも古代の遺物が出土。南側の3a層の掘削。石鏝・チップ等が出土。

10.8-9 台風のため現場休止。

10.10 3-2区 3a層の掘削。古代の遺構と思われるピットが多く出土。

10.11 雨により現場休止。

- 10.12 3-2区 SF10から、土師器・縄文土器片が出土。
- 10.16 3-2区 側溝の掘削と個別平面の実測。
- 10.17 3-1区 旧石器の遺物出土状況と東側土層断面の撮影。3-2区 3a層の掘削。
- 10.21 3-1区 東側調査壁土層断面の実測。3-2区 3a層の掘削。
- 10.22 3-2区 3a層の掘削。
- 10.23-25 台風のため現場休止。
- 10.28 3-2区 調査区北側において、古代の遺構の検出作業。ピットや溝が検出。3b層(古代)検出状況の撮影。
- 10.29 3-2区 3b層の撮影。
- 10.30 3-2区 南西部の遺構検出。時代は、弥生～古代と考えられる。
- 11.5-6 現場休止。
- 11.7 3-2区 3a層の掘削。
- 11.8 3-2区 古代面検出作業。発掘現場公開のための準備。
- 11.11 3-2区 SP1076・1077・1079～1096・1098・1101～1105・SK308・310・311の掘削、SK308・310・311・SP1092・1094・1107の断面の実測。
- 11.12 3-2区 SD56は、ロームが上がってきている。
- 11.13 3-2区 SD56の掘削。
- 11.14 3-2区 SD56の掘削及び土層と平面の実測。
- 11.15 現場休止。
- 11.19 雨により現場休止。
- 11.20 3-2区 SD56からピットや支柱石のようなものを検出。
- 11.21 3-2区 3a層の掘削。
- 11.22 3-2区 3a層の掘削。古代完掘全景・SD56の完掘状況の撮影。
- 11.25 雨により現場休止。
- 11.26 3-2区 3a層の掘削。
- 11.27-28 雨により現場休止。
- 11.29 3-2区 調査区の南側半分、建物、土坑、ピット、焼土等の広がりを検出。
- 12.2 3-2区 西側、検出状況の撮影。
- 12.3 3-2区 SK313の土層断面等の実測。遺構からは、縄文土器・石器等が出土。SK313・314の土層断面の撮影。
- 12.4 3-2区 建物とするには根拠に乏しいが、遺構を検出。焼土・炭化物を多く含む場所が多い。
- 12.5 3-2区 SI99の平面、SK316・317の土層断面の実測。SI99の遺物出土状況の撮影。ここからは、磨石・敲石・台石など出土。SI99からは、遺物が多量に出土。
- 12.6 3-2区 SI99の遺物出土状況、SK321～323の土層断面、SK316・317の遺物出土状況の実測及び遺物出土状況・完掘状況の撮影。
- 12.9 雨により現場休止。
- 12.10 3-2区 SK321から、大量の遺物が出土。SI99・SK322・323の遺物出土状況の実測、SI102の完掘状況の撮影。
- 12.11 雨により現場休止
- 12.12 3-2区 SK321の見通し断面・SI198遺物出土見通し・ピット土層断面の実測。x-⑧グリッドから、注口土器が出土。
- 12.16 3-2区 SI99から局部磨製を施した石斧のような石器が出土。SK325の土層断面、SI99・SK321完掘状況、SI99石器出土状況の撮影。
- 12.17-18 雨により現場休止。
- 12.20 3-2区 検出を行った遺構の土層断面、遺物出土状況、完掘状況等の実測。
- 12.24 3-2区 遺構の撮影。SK336から出土した土器は多く、主に北側の遺構面から出土。
- 12.26 雨により現場休止
- 1.6 3-2区 SK343・344の土層断面、SI104・SK343の遺物出土状況の実測。SK344からは、大きな石、石錘等が出土。
- 1.7 3-2区 遺構検出。各土坑の土層断面、遺物出土状況、完掘状況の撮影。
- 1.9 3-2区 SK344の完掘状況、SK342の遺物出土状況、SI103の遺物出土状況、SI104の完掘状況、SK105の土層断面の撮影。
- 1.10 3-2区 検出した遺構の土層断面の確認、掘削、撮影。
- 1.14 3-2区 確認した遺構の掘削。実測及び完掘

状況の撮影。

1.15 3-2区包含層で点上げ (No935 まで)。SK348・350・354・357・SI103 の実測。

1.17 3-2区 3b 層の完掘全景の撮影。その後 4 層掘削。

1.20 3-2区 4 層掘削。x-③グリッドから大きい黒曜石が出土。

1.21 3-2区 北側 4 層掘削。x-⑦・⑧、y-⑦・⑧グリッドから縄文後期の土器が多量に出土。

1.22 3-2区 北側 4 層の掘削。w-⑧グリッドから、遺物が多量に出土。高坏の脚も出土。y-⑧グリッドから早期の楕円文(押型文土器)が 3 点出土。z-⑨グリッドからは、チップ類が多数出土。

1.23 3-2区 A(半分以上北側)・B(半分以下右側)・C(半分以下左側)と分けた。本日は、A を 5 層上面で検出。B の 4 層(アカホヤ)掘削。

1.24 3-2区 SK358 ~ 365 の遺構にトレンチを入れて掘削。SK358 ~ 365 の土層断面、358 の遺物出土状況、359 の完掘撮影。

1.27 3-2区 土坑・建物跡の土層断面・遺物出土状況の実測及び完掘状況も含めて撮影。

1.28 3-2区 SK361・368 の遺物出土状況の実測及び完掘状況も含めて撮影。

1.29 3-2区 SK367 の実測。SK367 の遺物出土状況の実測。

1.31 3-2区 SK369 からは、一組の二枚貝が出土。

2.3 3-2区 SK369 の遺物出土状況、見通し断面の実測。貝殻を取り上げ、土器の下から炭が出土。断面が竹のように思われる。SD56 は、土層断面撮影。SK に関しては、割付平面の実測。B 区は、4 層掘削を行っているが、石製品の裝飾品が 2 点出土。

2.4 3-2区 SD56 の土層断面、SK364・367 の割付け平面の実測。南側攪乱から、泥面子(人の姿)が出土。江戸時代から明治時代に製作されたものとする。

2.5 3-2A区 完掘全景の撮影。遺構配置図の実測。B 区では、5 層上面検出状況の撮影。C 区では、4 層掘削。

2.6-7 雨により現場休止。

2.12 3-2A区 北側の東側において、旧石器時代の

掘削のためのトレンチ入れ。

2.13 3-2A区 旧石器トレンチ掘りの続き、B・C 区では、遺構掘り。

2.14 3-2A区 旧石器の掘削。北東側から尖頭器と思われるものが出土。他に破片等も出土した。B・C 区では、遺構検出。f-⑦グリッドからは、土偶の体部と思われるものが出土。

2.17 3-2A区 B・C 区で検出した土坑の土層断面、遺物出土状況、完掘状況の撮影。

2.18 3-2A区 旧石器の掘削。北側の北西側から黒曜石の石核(10cm 大)が出土。B・C 区では、土坑の土層断面、遺物出土状況、完掘状況の撮影。

2.20 3-2A区 旧石器の掘削。18 日に黒曜石の石核が出土したものに接合できる片割れの黒曜石が、同グリッドから出土。また、チャートも出土。B・C 区では、土坑の遺物出土状況、完掘状況、炭化物状況等の実測。

2.21 3-2A区 北側から出土した黒曜石の石核付近からチップが出土。B 区では、SK376・378・379、SP1111 の実測、SK379 の使用状態の完掘状況の撮影。

2.24 3-2A区 旧石器の掘削。B・C 区では、4 層掘削後に出土した分の遺構、完掘状況の撮影。

2.25 3-2区 全体の断面の実測と、A 区の旧石器出土状況、調査区全体の断面の撮影。B・C 区では、トレンチ掘削。SD56 付近のトレンチ内で、白い黒曜石の剥片が出土。

2.27 3-2A区 旧石器掘削。北側 v-⑥・w-⑥グリッドから石製品に加工途中のものが出土。

2.28 3-2A区 旧石器掘削。打製石斧等が出土しているが、上の層からの流れ込みと考えられる。

3.3 3-2A区 北側土層ベルト掘削。チップ類が出土。B・C 区では、トレンチ部分の掘削。2 期の変遷が考えられる。

3.4 3-2A区 旧石器出土状況の撮影。B 区の旧石器掘削トレンチ、主に南東側からチップが出土。また、C 区からは白い黒曜石が出土。

3.6 3-2A区 旧石器の土柱崩しと遺物配置図の実測と点上げ。B・C 区では、旧石器掘削で、e-⑦グリッドからは、裝飾品と皮剥ぎ用ナイフと思われる

石器、チップ類が出土。

3.7 3-2B・C区 旧石器掘削。a-⑨グリッドから白い黒曜石の石鏃が出土。調査区の主に南側から剥片類が出土。

3.10 3-2B・C区 旧石器掘削。三稜尖頭器が出土。遺物出土状況の撮影。調査区断面土色ポイント平面の実測。

3.12 3-2B・C区 ベルト掘削。SD56の個別遺構図平面の実測及び遺物出土状況の撮影。

3.14 3-2B・C区 旧石器の点上げ、土柱くずしの掘削。また、旧石器出土状況と見通し断面の実測及び中央部2グリッド分出土状況の撮影。

3.17 3-2区 SD56の完掘状況及び調査区全体の完掘全景の撮影を行い、全て終了。

3.18 本年度調査区の後片付け。

3.19 3-2区 SD56の個別平面の実測。本日で飛田遺跡群平成25年度の調査終了。

(平成26年度)

5.22 3-3区 表土剥ぎ1日目。

5.23 3-3区 表土剥ぎ2日目。

5.27 3-3区 本格的に調査開始。調査区の壁出し。

5.28 3-3区 調査区のトレンチ掘削。

5.29 3-3区 トレンチ掘削が終了し、全体の清掃を行い、攪乱の検出作業、掘削。

5.30 3-3区 検出した攪乱の掘削。その後3a層掘削。調査区中央部からは、3-2区SF10の続きが出土。

6.2 3-3区SF10の硬化面と溝(側溝)を検出するために3a層を掘削。

6.4 3-3区調査区南側の壁を落として、SF10の上端が出ていない部分の掘削。

6.6 3-3区SD56の掘削。SD59は、西側土層断面。SF10-D1は、完掘状況を実測し、撮影。

6.9 3-3区 東側調査壁、3a層上面掘削。溝痕(SD60)を検出。土層断面の実測及び、撮影。また、トレンチ部分の土層断面(SD58)の実測、撮影。SF10は、硬化面が一部見られたため、全体的に出す作業を行う。

6.10 3-3区SF10の硬化面を出すために、埋土掘削。東から西にかけて斜めに出現。SD60は、完掘。

土層断面・平面の実測、及び同時期使用と思われるSD58～60までの全体配置の完掘状況撮影。

6.11 3-3区 全体を北から撮影。また、SD60の完掘状況撮影。SD56・58・59においては、南西より全体写真の撮影。SD56は個別に、SD58は割り付け平面の実測。SF10-D1は、道路に伴う側溝ではなく、溝痕であったため、SD61とする。

6.12 3-3区SF10-D2の東側部分に、硬化面が見られたため撮影、図化した。

6.13 3-3区SF10の使用状況を東西より撮影。調査区東側壁面の掘削。

6.16 3-3区SF10硬化面の実測終了。硬化面の除去。完掘状況撮影後に北側の3a層の掘削。SD56は、ローム層まで掘削。調査区北側より3a層の掘削。縄文土器片が多数出土。

6.19 3-3区 調査区北側より3a層の掘削。出土した遺物の約9割が縄文土器である。遺構らしきものも見られる。SD59・61の平面、SF10の路面エレベーションの実測。

6.20 3-3区3a層の掘削。石鏃・砥石・石斧の破片・黒曜石、また三万田式浅鉢と思われるもの等、縄文土器が多数出土。SF10-D3の土層断面の実測及び撮影。

6.23 3-3区3a層を掘削。調査区南側より、ピットや土坑等8つの遺構を検出。SD56の完掘及びSKの土層断面の実測及び撮影。SD56の底部に土師器片が出土。

6.24 3-3区 古代面完掘全景を西・南・東の3方向からの撮影。SF10のベルト上端の実測。

6.25 3-3区SF10の枠残り部分掘削。SP1112～1117、SK381の実測。

6.26 3-3区SF10の残存部分(3a層)を掘削。SD10-D4の検出状況の撮影。

6.27 雨により現場休止。

6.30 雨により現場休止。

7.1 3-3区SF10東西通路部分・SF10-D3の掘削。SF10-D3・D4の硬化面平面実測、土層断面実測。その後古代の使用状況として撮影。

7.2 3-3区3a層残部の掘り下げの掘削。SF10の東西通路硬化面除去作業、実測、撮影。

- 7.4 3-3区 縄文遺構検出のための精査。SF10の北側検出。
- 7.7 雨により現場休止。
- 7.8 3-3区 調査区南側の掘り残り3a層、縄文遺構トレンチの掘削。また、3a層出土の遺物の点上げ。
- 7.9-10 雨により現場休止。
- 7.11 3-3区 縄文遺構のトレンチ掘削。土層断面撮影。SK382は2層、他は単層である。比較的浅い、SKの番号をつけていない土坑に縄文土器が割れた状態で出土。また、調査区東側のSIとしている遺構で、石が囲むように出土。土坑の土層断面、古代の遺構配置図の実測及び撮影。
- 7.14 3-3区 SKやSIのトレンチ掘り。また、SK391・392・400～403・405までの土層断面、SK382～384・391の割付平面、遺構配置図のための実測、各土坑の撮影。
- 7.15 雨により現場休止。調査員だけで、SK382・386・393～399の平面上端、SK404・406～408の土層断面の実測。
- 7.16 3-3区 SK409から土器が多数出土。
- 7.17 3-3区 SK410・411・SD62のトレンチ、SK409からは、遺物が多量に出土。
- 7.20 夏休み現場公開。
- 7.22 3-3区 SD62の検出状況の撮影後、深さ15～20cmを掘削。南北に走るが、途中二段に分かれ、石や縄文土器が出土。SK409の土層断面、SK402・410・411の割付平面の実測、撮影。
- 7.23 3-3区 SK410 遺物出土状況の実測及びSK409も含めて撮影。調査区南側右部分より土坑2つを検出。
- 7.24 3-3区 SK410の遺物12点、SK413の遺物7点の点上げ。各土坑の土層断面及び遺物出土状況の撮影。
- 7.25 3-3区 SD63の土層断面、SK415の割付平面の実測。また、SK403・414の完掘状況、SK416・SD63の土層断面、SD62-①・②の遺物出土状況、SK415の石器出土状況の撮影。調査区出入口のスロープ部分を掘削したところ、遺物が大量に出土。建物のプランが引けるようである。
- 7.28 3-3区 調査区西側、建物プランをSI109とし、トレンチ掘りを行う。縄文土器や石器類が多数出土。中には、注口土器も含まれている。SD62の平面の実測、及びSK412・415・416の完掘状況の撮影。
- 7.29 3-3区 SD62 (NO1～33)の点上げの実測、SI109の土層断面の撮影。この遺構からは、もう1点注口土器が出土。
- 7.30 3-3区 SI109の遺物取り出し、ベルト崩しの掘削。このベルトの下からも石器や土器が出土。床面の所に硬化したブロックが少し見られる石器(打製石斧・スクレイパー等)の石材が安山岩と共通しているため、同一の場所からとってきた可能性が大きい。土層断面の実測及び遺物出土状況の撮影。
- 8.1 雨により現場休止。
- 8.4 雨により現場休止。調査員で、SI109・SK409の遺物出土状況の実測。
- 8.5 3-3区 SK409・SI109の遺物出土状況の図面作成。
- 8.6 3-3区 SK409・SI109の遺物出土状況の実測。SK409に関しては、下からも出土。
- 8.7 3-3区 SK409・SI109 遺物出土状況及び見通し断面の実測。SK409は、遺物の重なりがあり、点上げ後も追加しながらの作業。SD62の完掘状況撮影。
- 8.8 3-3区 SI109 出土遺物状況及び見通し断面、点上げのための実測及び縄文遺構完掘状況(南西・南)、SD62の①・②の完掘状況の撮影。
- 8.11 3-3区 3b層の掘削。土器片が多数出土。SI109では、見通し断面、点上げ、割付平面の実測。
- 8.12 3-3区 4層の掘削。調査区北側より、黒い土器片の塊が出土。SI109 見通し断面、点上げ、割付平面、個別の実測及びSK409の完掘状況、SI109の遺物No.92の横の炭化物出土状況、No.131下面の撮影。
- 8.13 3-3区 北側4層掘削。磨製石斧が2点出土。SI109の北側からも土器が数点出土。SD56・SI109・SD64の割付平面、遺構配置図及びSI109・SD64の完掘状況、SI109のP1～P3の土層断面の撮影。
- 8.14 3-3区 調査区の土層断面SK405・SI109の個別実測及びw・w付近の掘り残り検出状況の撮影。

8.15 3-3区4層掘削をほぼ完了。南側SD付近の攪乱から、5cm大の石礫を検出。調査区西側・北側の土層断面、遺物点上げの実測。

8.18 3-3区4層掘削完了。検出を行う。

8.19 3-3区調査区北東に建物と思われる遺構を検出。遺物が多く出土。埋め糞と思われるものも出土。検出された遺構の半截、点上げの実測及び4層下面検出遺構の撮影。

8.20 3-3区4層から検出した土坑が5基、4層から検出した建物が1基、SK419・420のトレンチ内から石礫が1点ずつ出土。SK418～421の土層断面及び完掘状況も含めて撮影。

8.21 3-3区SK421を完掘。埋土からは、縄文土器が数点出土。北側トレンチ端にある土器は、完形に近い形であるが、浅鉢の一種である。SK420・421の完掘状況、北側・西側調査区断面、4層検出遺構完掘状況の撮影。

8.23 午前11時より、航空写真撮影。

8.25 3-3区v-①・w-②・x-③・y-④グリッドをベルト残して5層掘削。旧石器確認のため、1つのグリッドを4分割して掘り下げを実施。4層検出遺構平面割付の実測、調査区断面註記、撮影。

8.26 3-3区5層のグリッド掘削。v-①・w-②からは、アソ4と思われる黒曜石、安山岩（チップ）が出土。y-④からは、姫島産と思われるチップが2点出土。

8.27 3-3区5層を掘削。安山岩のチップ、姫島産の黒曜石チップ等数点出土。w-②グリッドからは、黒曜石のナイフ型石器1点が出土。割付平面に調査区断面のポイント入れの実測。

8.28 3-3区本日が、調査（発掘作業）最終日となった。5層遺物点上げ。製品（ナイフ型石器2点含む）も出土。今回グリッドを絞り込んだの調査で終了した。5層遺物点上げ、遺物配置図及び見通し断面の実測及び5層遺物出土状況、グリッドの完掘状況の撮影。

8.29 3-3区調査区片づけ。飛田遺跡群の調査全てを終了した。

3 整理作業 [平成26年・27年度]

平成26年度は、現地で作成した遺構実測図等について報告書掲載の図版作成のためデジタルトレースを行い、出土品の水洗いを行った後、遺跡名・出土位置（グリッド、層位）・取り上げ番号等について註記を行った。土器類については、接合作業を実施し必要に応じて石膏で補完している。併せて、「飛田遺跡群1」の報告書執筆及び刊行を実施。

平成27年度は、「飛田遺跡群2」報告書刊行に向け、遺物の選別を行い、実測図作成及びデジタルトレース作業・写真撮影を実施し、原稿執筆及びレイアウト作業を行い刊行を実施。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の環境

1 地理的環境

飛田遺跡群が所在する熊本市北区四方寄町は、熊本市北部に広がる洪積台地上に位置し、肥後台地あるいは熊本台地と呼称される。さらに、当該台地は植木町一帯を植木台地、京町一帯を京町台地に細分される。飛田遺跡群周辺の台地は、東西を南流する坪井川と井岸川に挟まれ両台地の中間に位置している。この坪井川は、小糸山の西の谷に源を発し、いくつかの小河川を合わせながら南流し、飛田付近で堀川とともに熊本城下に至る。当該遺跡周辺の台地のほぼ中央を南北に国道3号線が走る。同路線上に設置された水準点から、当該台地は北区植木町一つ木を最高所として、それぞれ北と南へしだいに低くなる。この周辺の地質は、阿蘇熔結凝灰岩を基盤とする火山灰台地である。当該地域にみられる阿蘇熔結凝灰岩は、20cm以下の浮石礫と2cm前後の黒曜石の小礫を多数含む灰白色の火山性堆積物で、上層部は著しく風化している。四方寄町周辺では、厚さ1.5m程度の赤褐色粘質土の下に阿蘇熔結凝灰岩の風化層が厚く堆積していることが知られる。この風化層は、淡褐色の火山灰砂のつまった黄色の浮石礫層で脆くて崩れやすい。同様の堆積は、台地一帯で広く認められる。

2 歴史的環境

(1) 旧石器時代

[A T 下位の石器群]

熊本県における始良 Tn 火山灰 (AT) 下位の遺跡として最古段階に位置づけられる遺跡としては、暗色帯下位の黄褐色粘質土層上位から検出されたナイフ状石器、削器を主体とする沈目遺跡 (木崎 2002) や台形様石器、スクレイパー、ピック、石錐、刃部磨製石斧を主体とした石器群が出土した石の本遺跡 8 区 VI b 層石器群 (池田 1999)、台形様石器を主体とする曲野遺跡 (江本 1984)、瀬田池ノ原遺跡第 1 文化 (稲葉 2010) がある。

次に、暗色帯下部から検出された石器群では、台形様石器を主体とする耳切遺跡 A 地点第 I 石器文

化、同 C 地点第 I 石器文化、同 D 地点第 I 石器文化 (村崎編 1999)、河原第 14 遺跡第 I 文化 (芝 2007)、ベン先形ナイフ形石器、スクレイパー、刃部磨製石斧を出土した石の本遺跡 54 区 VI a 層石器群、同 55 区第 I 石器群 (廣田 2001) がある。さらに上層の草千里バミス上位から検出された瀬田池ノ原遺跡第 2 文化では柳葉形二側縁加工ナイフ形石器が出土しており、同様の石器組成がみられる石器群としては、下城遺跡 2 文化や耳切遺跡 A 地点第 II 石器文化、クノ原遺跡などがある。A T 直下の暗色帯から検出された瀬田池ノ原遺跡第 3 文化では小型の二側縁加工ナイフ形石器や切出型ナイフ形石器が検出されている。同様の石器群としては、狸谷遺跡 I 石器文化、久保遺跡 I 石器文化があげられる。ここまでが A T 下位の石器群である。

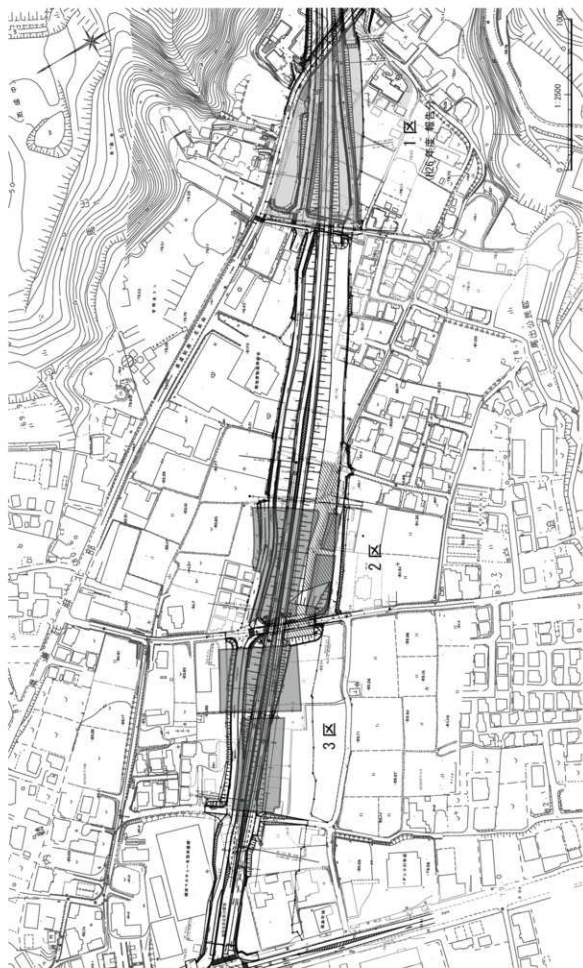
[A T 上位の石器群]

A T 火山灰を包含する土層から上位の暗色帯にかけて検出された瀬田池ノ原遺跡第 4 文化では、二側縁加工ナイフ形石器が認められる。A T 上位の石器群については、瀬田池ノ原遺跡や耳切遺跡、石の本遺跡 54 区、同 55 区、河原第 14 遺跡などのように土層堆積が厚く複数の文化層に区分できる事例が増えているが、大半はナイフ形石器の形態的特徴や剥片尖頭器、角錐状石器など特徴的の石器の組成といった石器群の様相から時期変遷を類推する状況である。

次に、A T 直上の暗色帯の上層から横長剥片素材の二側縁加工ナイフ形石器や原ノ辻型ナイフ形石器、三稜尖頭器が出土している (瀬田池ノ原遺跡第 5 文化)。また、瀬田池ノ原遺跡では、さらに上層のハードローム層から多様な形態のナイフ形石器が検出され (瀬田池ノ原遺跡第 6 文化)、ソフトローム層から細石刃、細石刃核が出土している (瀬田池ノ原遺跡第 7 文化)。

近年、瀬田池ノ原遺跡や耳切遺跡、石の本遺跡 54 区、同 55 区、河原第 14 遺跡のように土層堆積に恵まれ、複数の石器群が重層的に確認される事例が増えており、当該地域の旧石器時代石器群の変遷過程を理解するうえで貴重な資料を提供している。

また、九州横断自動車道延岡線建設事業に伴って



第7図 周辺地形図(S-1/2500)

発掘調査が実施された山都町北中島西原遺跡でも旧石器時代の石器群が、礫群や炭化物集中部を伴って重層的に検出されており、今後の整理報告に期待がもたれる。

(2) 縄文時代

草創期 当該期に属する遺跡は、爪形文土器群と石鏃・細石刃が検出された白鳥平B遺跡(宮坂1993)、集石遺構1基と爪形文土器、石鏃、細石刃が検出された河陽F遺跡(岡本2003)や爪形文土器に細石刃核と細石刃、石鏃の共伴が確認された高畑乙ノ原遺跡(西2007)、早期の遺物群と混在する形で爪形文土器1点が確認された無田原遺跡(木崎1995)、柳又型の有舌尖頭器が出土した古閑北遺跡(野田・濱田1999)があげられる。

早期 当該期の遺跡では、大型の長方形配石遺構や石組炉(139基)、集石遺構、焼土坑(炉穴)、竪穴建物、隔し穴などの遺構とともに、押型文を施文した注口部を持つ壺形土器をはじめ多くの土器群とトトロ石器や岩偶などを含む多くの石器群が検出された瀬田裏遺跡(緒方1993)、集石遺構、炉穴などの遺跡とともに、押型文土器・燃糸文・条痕文土器・塞ノ神式土器などの土器群に伴い多くの石器類が出土した中後迫遺跡(松村1978)、ワクド石遺跡(古森1994)、無田原遺跡(木崎1995)、瀬田孤塚遺跡(村崎・水上2014)など多くの遺跡が確認されている。瀬田孤塚遺跡や林野遺跡(稲津2000)では、円筒形条痕文土器と伴って炉穴が検出されている。

前・中期 この時期の遺跡数は早期に比べ減少し、出土する遺物量も少ない。前期の曾畑式土器、中期の阿高式土器が出土したワクド石遺跡や瀬田裏遺跡、前期の轟式土器、曾畑式土器が出土した七野尾遺跡、中期の船元式土器がまとめて出土した岡田遺跡(江本1990)などがある。

後・晩期 太郎迫遺跡(竹田1999)では、竪穴建物とそれに伴う西平式土器、太郎迫式土器、三万田式土器、鳥井原式土器、御簞式土器、天城式土器が出土し、後期中葉から晩期前半にかけての土器型式が多量に認められる。また、これらの土器型式に伴って多くの土偶が出土している。

三万田東原遺跡では、竪穴建物跡とそれに伴う辛川Ⅰ式土器、辛川Ⅱ式土器、太郎迫式土器、三万田式土器、鳥井原式土器、御簞式土器、黒川式土器、山ノ寺式土器が出土し、後期前半から晩期後半に至るまでの土器型式が継続している。また、これらとともに70個以上に及ぶ土偶が検出されている。大鶴遺跡では竪穴建物15軒、土坑26基とともに後期後半から晩期前半の土器が大量に出土し、また、十字形石器、Y字形石器、打製石斧、磨製石斧、石鏃などの石器が出土している。ワクド石遺跡では、後期から晩期の土器群とともに多量の石器類や15体の土偶が出土している。

(3) 弥生時代

前期の遺跡は、坪井川流域に位置する黒髪町遺跡群で認められ中期では万葉寺出口遺跡において竪穴住居、五丁中原遺跡、白土遺跡、梶尾遺跡群などでも羨棺墓群が確認されている。後期になると、大規模な環濠集落が営まれる。

(4) 古墳時代

飛田遺跡群に位置する羽山塚古墳は、昭和54年に宅地造成工事に伴い発掘調査が行われ、結果、5世紀中葉の円墳で直径約39～41m、周溝の外側では直径52mに及ぶ方形周溝が検出された。また、崖面には梶尾横穴群、竹の下横穴群、六反畑横穴群などが分布する外、鶴羽田かぶと塚古墳、田端窯跡や山川窯跡群などの須器窯跡も見られる。

(5) 古代

先述したとおり、当該地周辺には田端窯跡や山川窯跡群などの須器窯跡も見られる外、西海道駅路のルートが比定されており、交通の要衝に位置している。西海道駅路のルートに関しては、大きくは飛田遺跡群1区から北方に約4kmに位置する立石(熊本市北区改寄町)を高原駅と想定し、県道四方寄熊本線を飽田郡衙へ向かうルートをも想定する案(木下1996)と、飛田遺跡群の北側を南東から北西に向けて駅路が推定され、当該遺跡から北北東に約5kmに地点に位置する植木(熊本市北区植木町植木)を高原駅に比定する案(鶴嶋1997)の2つがある。熊本市が行った大江遺跡群や熊本大学構内遺跡で当該期の道路遺構が検出されている。



第8図 飛田遺跡群周辺遺跡地図 (S=1/25000)

第3表 周辺遺跡地名表

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	旧遺跡名	備考
017	北道宿井横穴群	北道町宿井	古墳	古墳			
018	北道川底遺跡群	北道町北道	弥生～中世	包蔵地		北道川底遺跡・宿井前遺跡	
023	船平横穴群	和泉町船平	古墳	古墳			横穴2基以上。1号(床面台部)2号(床面階段部)
024	赤水横穴群	和泉町赤水	中世	城		船平古墳	古墳を利用した高台に城
028	五丁中道遺跡群	黄野町赤堀・五丁	旧石器～弥生	包蔵地		五丁中道遺跡、赤水A遺跡、赤水B遺跡	弥生後期住居集落遺構。縄文晩期住居跡調査、巴形銅器
030	福田横穴群	黄野町福田	古墳	古墳			横穴2基
031	茶屋古墳	茶屋町回石	古墳	古墳	国		築物築置古墳
032	樋口古墳	茶屋町樋口	古墳	古墳			
035	玄田部	玄宮町	縄文～中世	包蔵地			
036	北尾原横穴群	玄宮町	古墳	古墳			2基
037	井上横穴群	玄宮町城が下	古墳	古墳	市		7基
038	井上城跡	玄宮町井上	中世	城			
039	小糸山遺跡群	小糸山町伊賀屋	縄文～中世	包蔵地		小糸山遺跡、小糸山居館跡、小糸山山分石、常盤官軍基地	縄文後期土器、縄目瓦版土器など、西南戦争官軍基地
040	初徳官軍基地	初徳町上原原	明治	築地	国		西南戦争官軍基地
041	船野遺跡群	船野町	中世	包蔵地		船古園遺跡・船野城跡	船野城は船子木貞政の居城、船子木氏の居城
042	平井宮中世	船野町城ヶ下	中世	包蔵地	市		
043	宮ノ下横穴群	船野町	古墳	古墳			10基以上
044	宮ノ下横穴群	船野町宮ノ下	古墳	古墳			
045	一町古墳群	西尾尾町一宮御	古墳	古墳			
046	船塚木町古墳	船子木町花の木	中世	包蔵地			
047	川川遺跡	福川、下福川町	縄文～平安	包蔵地		北部中学校遺跡、田端遺跡、十三郎塚古碑	板碑(大永4年銘)、室積(平安撰?)2基以上
048	四方古墳	四方町	縄文	包蔵地		河上原古墳群	縄文晩期大塚墓、調査あり
049	六反原横穴群	下福川町	古墳	古墳			
050	城ヶ上城跡	四方町城ヶ上	中世	城			貝塚あり。城址は西平田宮跡
051	四方古墳高下	四方町御馬下	古墳	包蔵地			
052	船馬下の舟小皿	四方町	江戸	建造物	市		福川、島津の参勤交代供出所
053	川原六圃遺跡・庚申塚	四方町舟原塚	中世	石造物	市		神楽文明年間、九州でも希有の塔、庚申天竺元年銘
054	藤ノ木遺跡	船川町赤道	縄文・古墳	包蔵地		船ノ木箱式石棺群	縄文晩期土器、石棺数基
055	下田横穴群	船川町	古墳	古墳			
056	山川遺跡群	下福川町	古代	生産			初徳器
057	船塚古墳群	下福川町	古墳	古墳			
058	船塚横穴群	船川町東塚	古墳	古墳			初徳器
059	船塚横穴群	船川町船塚	古墳	古墳			
060	坂下遺跡群	船川町北井川谷	弥生・古墳	包蔵地		坂下A～C遺跡	坂下A・B横穴出土。坂下B築物あり
061	坂下A横穴群	下福川町	古墳	古墳			5基以上
062	坂下B横穴群	下福川町	古墳	古墳			土室アランが長方形
063	野衣横穴群	下福川町野衣	古墳	古墳			数基
064	白土遺跡	黄野町白土	弥生	塚			塚数基出土
065	土橋遺跡	四方町土止	古墳	古墳			
066	飛田遺跡群	飛田町の木など	縄文～古墳	包蔵地		飛田町の木遺跡、飛田ノ原遺跡、飛田東山塚古墳	飛田古墳調査報告書あり
067	清水町遺跡群	清水町山家など	縄文～古墳	包蔵地			
068	船子	清水町はら	縄文～平安	包蔵地			福山遺跡群、山家遺構、土師器、八景水谷遺跡、八景水谷豊船群、山原水鏡池古泉堂遺構
069	立石遺跡群	玄宮町	縄文～平安	包蔵地		立石寺跡	立石寺跡、船子寺跡板碑、船子の堀(市指定天然記念物)
070	笠石横穴群	初徳町笠石	古墳	古墳			調査後開、弥生内行瓦文蔵出土
071	八幡谷横穴群	初徳町八幡谷	古墳	古墳			9基以上
072	船の形原横穴群	大島町船の形原	古墳	古墳			10基以上、1基調査
073	大島原遺跡群	大島町	縄文～中世	包蔵地		大島原遺跡・井出原藤原寺考地	
074	船塚横穴群	船塚町船の本	古墳	古墳			
075	船塚遺跡群	船塚町中屋原	弥生	包蔵地		甲佐大明神遺跡	弥生中期～後期の土器、大明神遺跡
076	船塚古園跡・古船塚	船塚町古園原など	縄文～中世	包蔵地		船塚谷山お茶屋跡	
077	船塚古園跡	船塚町古園	縄文～中世	包蔵地			
078	船塚古園跡(船ノ原・船ノ外)	船塚町	縄文～古墳	包蔵地			縄文後新石器器、瓦甕を突った灰土層中に出土。和土T.27.銅網目正造
079	船塚古園跡(船ノ原)	船塚町船ノ原	古墳	古墳			
080	竹の下横穴群	船塚町竹の下	古墳	古墳			
081	山原跡	船塚町	縄文～中世	包蔵地			
086	船山山原	清水町免谷	縄文～中世	包蔵地			
087	尾高阿弥陀堂板碑	玄宮町阿弥	中世	石造物			天文16年
408	船野かぶと塚古墳	船野町宮下	古墳	古墳			円墳
409	古墳群	船野町宮下	古墳	古墳			古墳の下、水中中に小円墳状の封土あり
410	船野横穴群	北道町船野	中世	石造物			名民政官であった船子木益平の顕彰碑である
412	船子の木願寺堂板碑	船子木町船子木	中世	石造物			既文、永正13年銘
413	半田天神板碑・石仏	四方町宮の跡	中世	石造物			板碑大永6年銘
414	古代古墳	船塚町上原	古代	包蔵地			
416	船塚古園跡	清水町八景水谷	中世	石造物			
417	古代住居遺跡(分)石	下福川町横町	近世	石造物			
418	大塚五輪寺	清水町大塚	中世	石造物			
419	大塚高堂願寺堂板碑	清水町大塚	中世	石造物			
423	西浦阿弥陀堂板碑	黄野町	中世	石造物			天文16年銘
424	船下御茶屋跡	黄野町寺の跡	近代	包蔵地			
425	五丁中道阿弥陀堂板碑	黄野町五丁塚	中世	石造物			3基大永8年、享禄4年、天文6年
426	船中地蔵	下福川西原	近世	石造物			30体
427	船塚地蔵板碑	注利浦原	中世	石造物			大永6年銘
429	王堂板碑	大塚寺	中世	石造物			天文2年銘

第Ⅲ章 調査の成果

第1節 調査2区

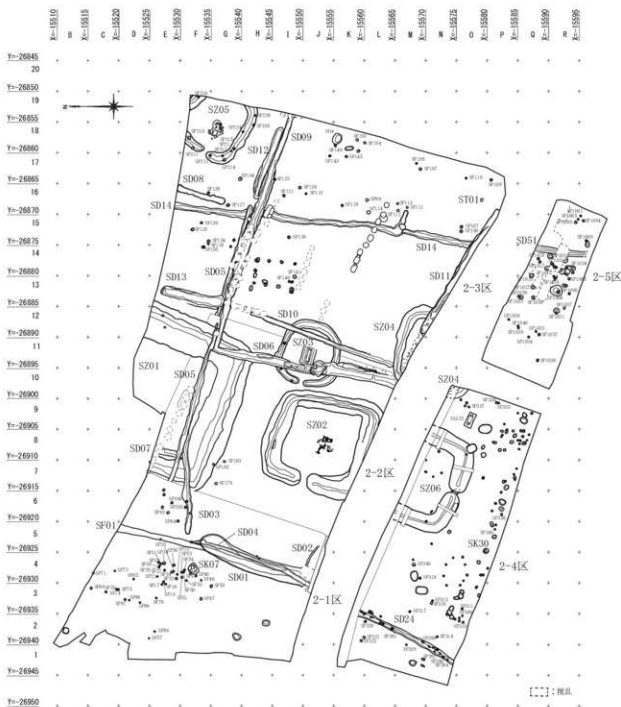
1 遺構とその分布

飛田遺跡群2区は、調査工程から便宜的に2-1～2-5区に区分し作業を実施した(第9図)。

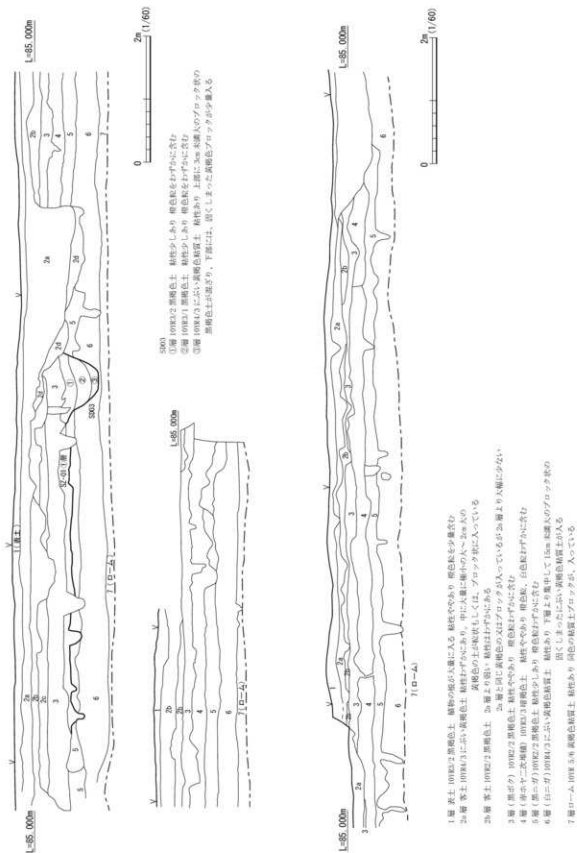
その結果、縄文時代後期から古代までの遺構・遺物が検出された。以下、遺構ごとに説明を加える。

方形周溝墓(SZ01-06)

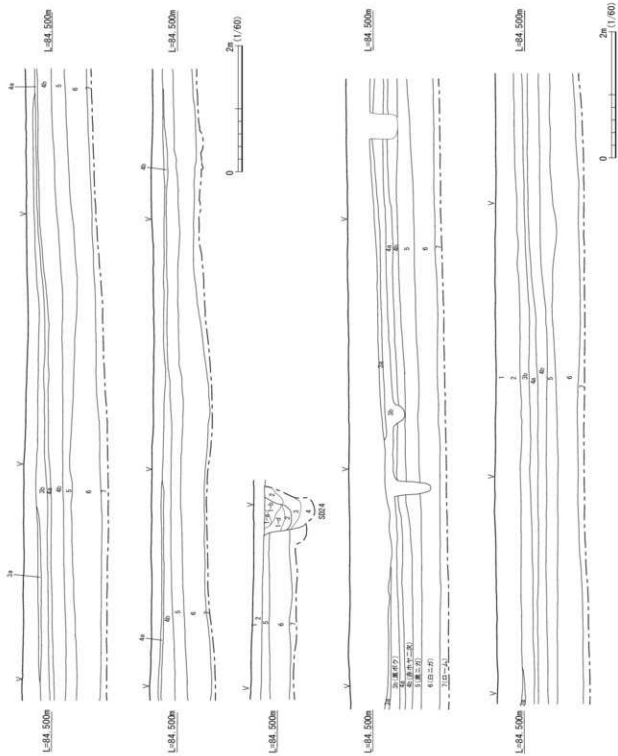
当該調査区からは、6基の方形周溝墓が検出された。中でもSZ01は、一辺が26mを測り、塚原古墳群6号方形周溝墓と同規模で県内最大級の規模を誇る。周溝部まで含めてほぼ全体像が確認できるSZ02・03以外は、調査区外に残される。主体部が確認されたのは、SZ02・03・05のみである



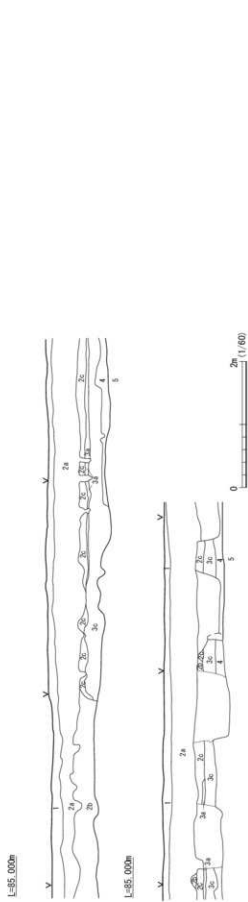
第9図 飛田遺跡群2区 遺構配置図(1/600)



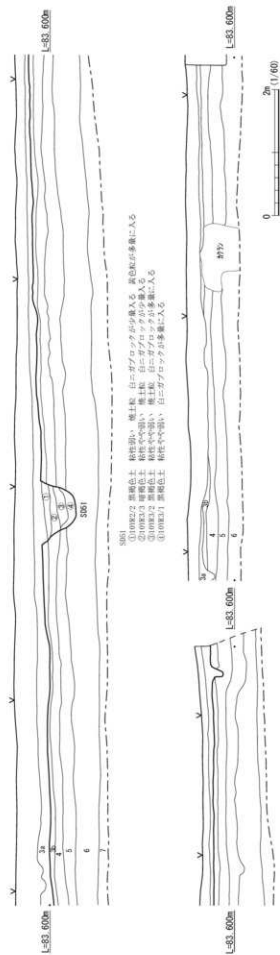
第 10 図 2-1 区・北・南側調査区壁土層断面図 (S=1/60)



第11図 2-4区 北側調査区土層断面図 (S=1/60)



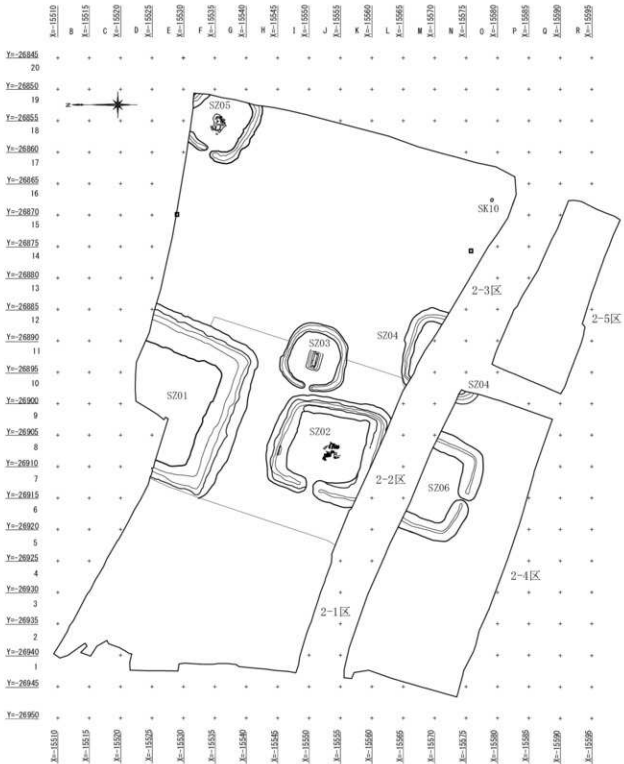
第12図 2-2区 南側調査区土層断面図 (S=1/60)



第13図 2-5区 北側調査区土層断面図 (S=1/60)

このうちSZ02では、2基の主体部が検出された。これらの方形周溝墓は、相互に切り合わないことから、当該エリアが明確に墓域として意識されていた

が窺える。以下、それぞれの形態と規模、主体部、遺物の出土状況等について説明を加える。



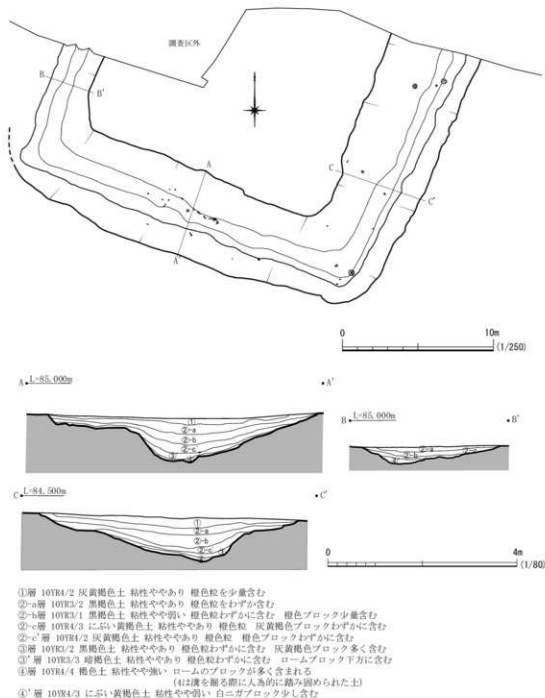
第14図 飛田遺跡群2区 遺構配置図(1/600) -古墳時代-

SZ01 (第15図)

形態と規模

墳墓の形態は、北側の1/2程が調査区外に伸び、全体形を確認することはできない。しかし、南部分の内径にコーナーが残存し、隅丸に区画されていることから方形周溝墓であると判断される。規模は、

東西に外径約25m、内径約17m、南北に外径約11mで、周溝の幅は約6m、深さ約0.95mを測る。周溝の断面形は三角形を呈し、最深部は中心よりやや外側に位置する。北西側を確認することができないが、東側の周溝幅等を考慮し西側に反転させた場合、東西外径は約28mになると予想される。確認



第15図 SZ01(1/250)・土層断面(1/80)実測図

された6基の周溝墓の中では、最大規模の径を有する。陸橋部は確認されていない。SZ01は、北側の1/2程が調査区外に伸びており、陸橋部が未調査区に所在する可能性が高い。

主体部

2・3区北西部調査区外にかかる周溝東隅から約9mの位置に主体部の可能性のある痕跡が認められたが、明確に判断することはできなかった。

遺物出土状況

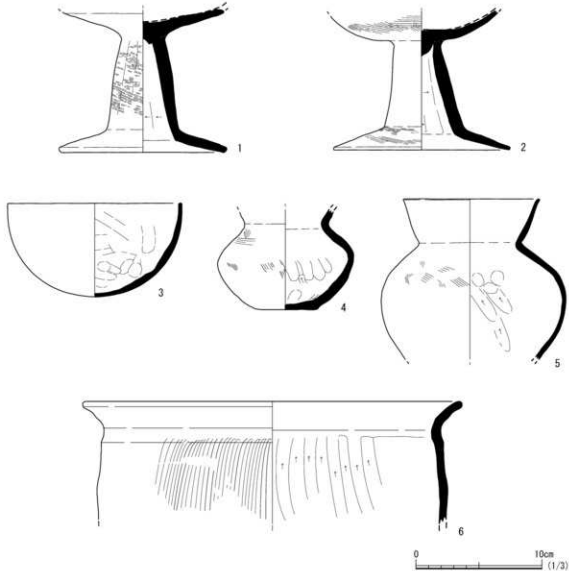
周溝南側中央付近に集中して出土した。A-A'西側で出土した遺物は、溝底部からやや上方で破片

の状態で検出されている。その大半が、主体部側斜面から溝底部の下場屈曲点周辺に集中する傾向がみられる。

出土遺物の観察

出土した遺物は、すべて土師器で、器種は高環、鉢、小型壺、甕である。

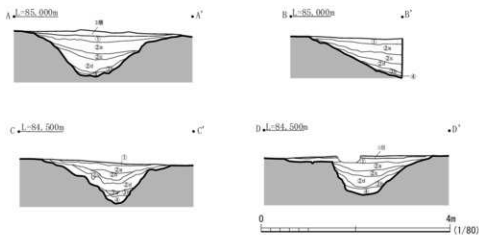
高環は2点出土した。1・2は、脚部と裾部の境は明瞭で裾部が低く内湾ぎみに屈曲する器形的特徴を有する。両者とも環部の上半部を大きく欠失しており、環部の形状及び口径は不明である。外器面には、ヨコナデの後、工具によるミガキが施される。



第16図 SZ01 遺物実測図



第17図 SZ02 実測図 (1/200)



- ①層 10YR2/2黒褐色土 粘性わずかにあり にぶい黄褐色粒 黄褐色粒がごくわずかに入る
 ②a層 10YR2/1黒色土 粘性わずかにあり 明黄褐色粒 にぶい黄褐色粒がわずかに入る
 ②b層 10YR2/2黒褐色土 粘性わずかにあり 黄褐色粒 明黄褐色粒がわずかに入る
 ②c層 10YR3/2黒褐色土 粘性わずかにあり
 ②d層 10YR4/2灰黄褐色土 粘性わずかにあり 明黄褐色粒 にぶい黄褐色粒がわずかに入る
 ③a層 10YR3/2黒褐色土 粘性わずかにあり 明黄褐色粒 にぶい黄褐色粒がわずかに入る
 ※この層の上面が使用面②にぶい黄褐色ブロック(白ニガブロック)が少量入る
 ③b層 10YR4/2灰黄褐色土 粘性わずかにあり 混入物も3a層と同じだが、ブロックがより多く入る
 ④層 10YR4/2灰黄褐色土 粘性わずかにあり 中に明黄褐色の土(10YR6/6 ロームの土)
 ※この層の上面が使用面①及びにぶい黄褐色(白ニガブロック)が多く入る
 この層は、壊掘時に、掘り下げたロームの土及び白ニガの土を人為的に、踏み固めている層と判断

第18図 SZ02 土層断面実測図 (1/80)

3は鉢で、口径に比して器高が深く容量が大きい。底部は丸く、正面形は半円形を呈する。内外器面ともナデ調整が施され、内器面に指頭圧痕が認められる。4は小型壺である。胴部は丸く膨らみ中央やや上部に最大径をもつ。内外器面ともヨコナデ、刷毛目による調整がみられる。外面に粘土貼り付け痕が認められる。5は壺で、胴部中央やや上位に最大径を有し、頸部で屈曲し口縁部直線的に外傾する。底部形態は不明である。6は甕で、胴部下半を大きく欠失する。頸部から口縁部への屈曲は明瞭ではなく、短く緩やかに外反きみに立ちあがる。外器面はナデ、刷毛目、内器面はナデ、ヘラケズリによる調整がみ

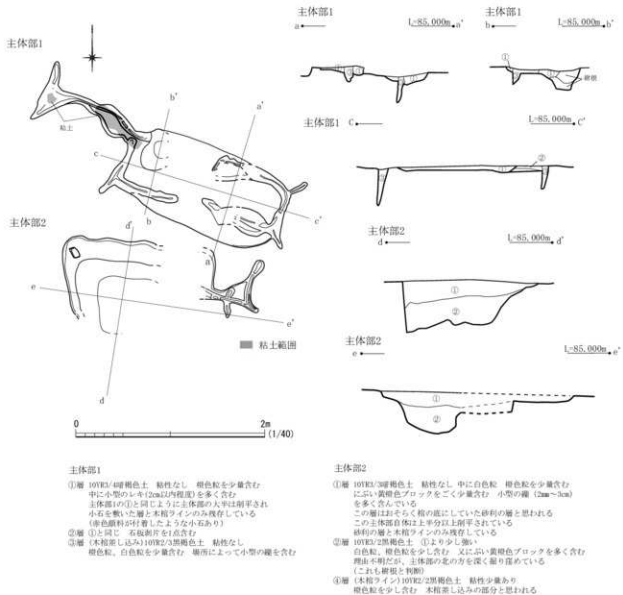
られる。

SZ02 (第17-19図)

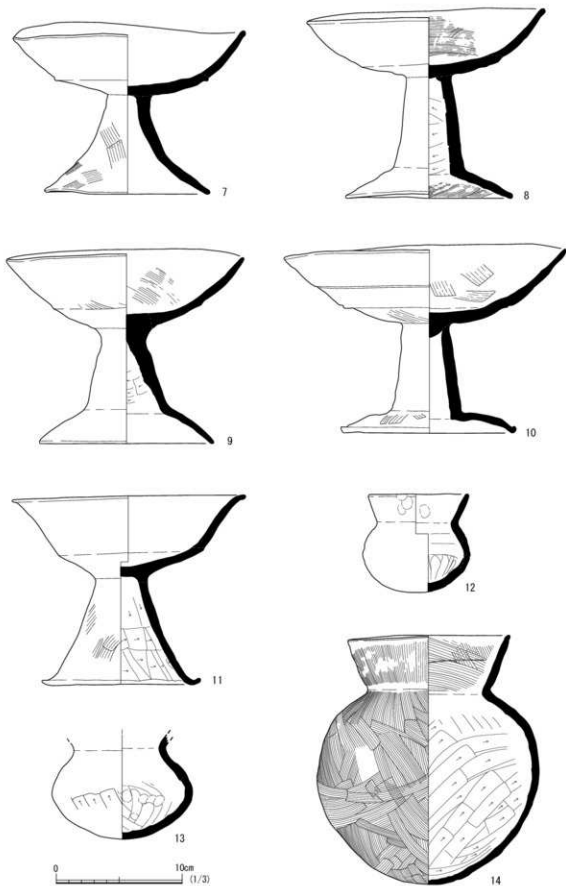
形態と規模

墳墓の南側が調査区外にかかり、全体形は窺えない。残存している部分から、東西に外径約16m、内径約10.5m 南北に外径16m、内径約11mと隅丸の正方形を呈しているものと推定される。周溝幅は約2.5～3.5mを測り、東西での幅は比較的一定であるが、北側の周溝外径がやや外側に張り出す。周溝断面形は、三角形を呈する。

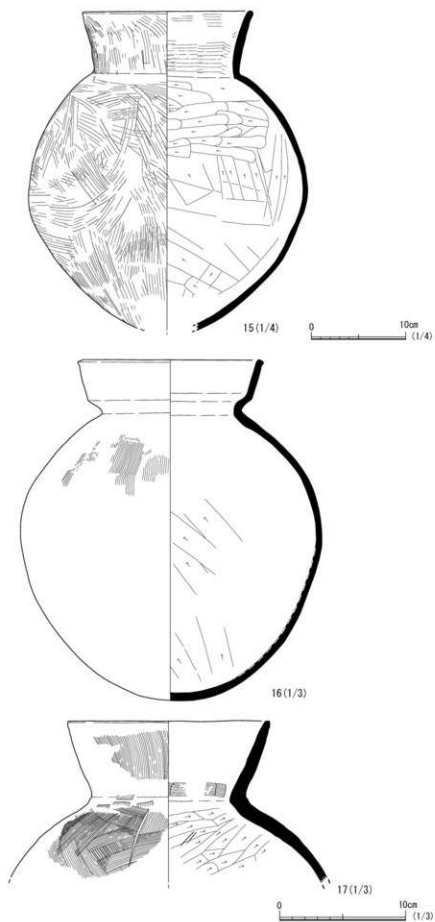
また、東側に約1m幅の陸橋部が在り、墳墓の



第19図 SZ02 主体部実測図 (1/40)



第20図 SZ02 遺物実測図 -1-



第21図 SZ02 遺物実測図-2-

中央には、南北軸に沿うように2ヶ所の主体部を有している。

主体部

墳墓の中央に、南北軸に沿うように2ヶ所の主体部が確認された。以下にそれぞれについての説明を加える。

主体部① 北側から削平を受け、南側もトレンチで消失している。規模は、推定で東西に2.4m、南北に1.0mを測る。

主体部② 規模は、推定で東西に2.4m、南北に0.9mを測る。木棺の差し込みラインと想定される掘り込みが確認できるが、詳細については不明である。

遺物出土状況

周溝北側中央部付近に集中して出土した。検出された遺物は、主体部側斜面から溝底部にかけて、溝底部からやや上方で比較的まとまった状態で検出された。その大半が、主体部側斜面から溝底部の下場屈曲点周辺に集中する傾向がみられる。

出土遺物の観察

出土した遺物はすべて土師器で、器種は高環、小型壺、甕である。高環は5点出土した。8～10は脚部と裾部の境が明瞭で、裾部はやや膨らみをもつ器形的特徴を有する。裾部の高さは10→8→9の順に高くなる。坏部は、膨らみを持って立ち上がり屈曲は明瞭ではない。器面の調整は、内面には、ナデの後、刷毛による調整が施される。7は、脚部と裾部の境が不明瞭で、緩やかに内湾しながら裾部に至る器形的特徴を有する。坏部は、膨らみを持って立ち上がり屈曲は明瞭ではない。脚部には、ナデの後、刷毛による調整が施される。11は、脚部と裾部の境が不明瞭で、直線的に開きながら裾部に至り、末端で小さくしゃくられる器形的特徴を有する。坏部は、膨らみを持って立ち上がり屈曲は明瞭ではない。外器面には、ナデの後、刷毛による調整が施される。

12・13は、小型丸底壺である。12の胴部は、丸みを持って膨らみ底部へと移行する。底部は丸底で、口縁部は直線的に外傾する。13は口縁部を欠失するが12と大きさに差異はみられない。14は、胴部が丸みを持って膨らみ底部へと移行し、底部

は丸底である。口縁部は直線的に外傾する。15は、14と類似した形状を呈するが底部はやや尖りぎみである。口縁部はやや外反ぎみに立ち上がる。16は、胴部が丸みを持って膨らみ底部へと移行し、底部は丸底である。口縁部は、頸部でくびれ屈曲を持って直線的に外傾する。17は、胴部下半を大きく欠失する。口縁部は、やや内湾気味に立ち上がる。

SZ03 (第22-24区)

形態と規模

やや隅丸の方形で、西方向に陸橋部を有する。規模は一辺約11.0m、周溝幅は約1.5mで深さは0.4mを測る。周溝の断面形は、三角形・逆台形など一定しない。

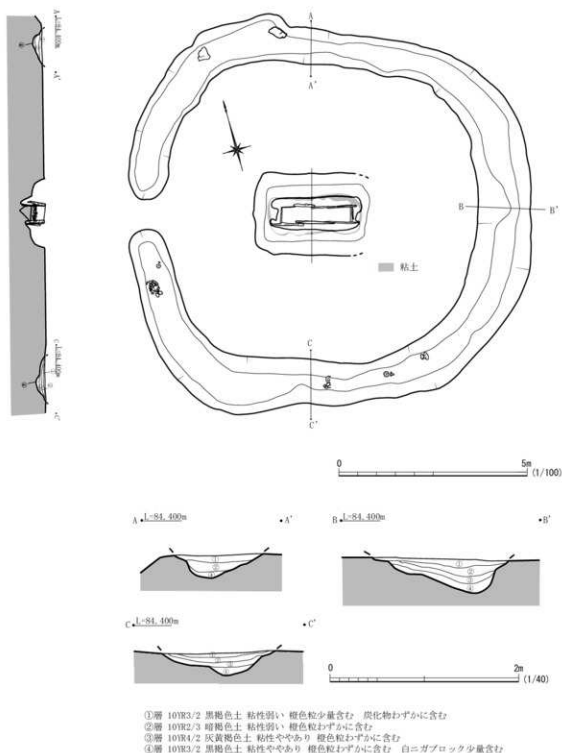
主体部

周溝内中央部分に、基本層4層より掘り込んだ方形の土壌が検出され、内部に石棺が確認された。

東西方向に約3.0m、南北方向に約2.2mを測り、内部の石棺は東西に約2.0m南北に0.5mの規模を測る。石棺材は9枚の板石で構成される。石棺内部は、貼り土を施し整備後、その上に敷石が一面に広げられており、これらの敷石からは、所々に朱が付着している箇所が確認された。

主体部からは、3体の人骨が確認された。これらの人骨について、形質人類学に係る調査を特定非営利活動法人 人類学研究機構に委託した。詳細については、第3章第3節「飛田遺跡群(2区)出土の古墳人骨」を参照されたい。検出された人骨の頭部の位置は、陸橋部から見て奥側(南東)に1・3号人骨、逆側(北西)に2号人骨が埋葬されている。埋葬された順序は、検出状況から1号(男性壮年)→2号(男性壮年)→3号(女性成年)である。南東側で2点の玉が出土しており1・3号人骨のどちらかに伴う可能性が高い。

身長は、推定で2号人骨が158cm(Pearson式)と低く、西北九州地域の弥生人の平均的な体格である。3号人骨は、大腿骨遠位端が分離し、大腿骨骨頭の骨端線が明瞭なことから16才前後と推定される。身長は、145.2cm(Pearson式)と低い。



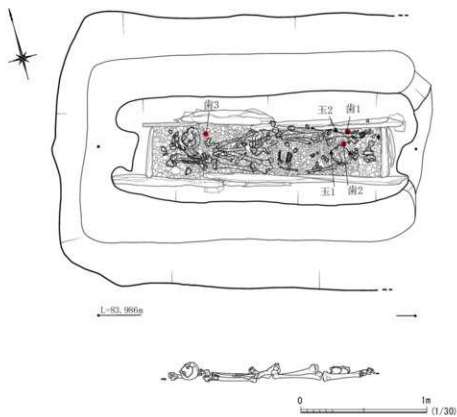
第22図 SZ03(1/100)・土層断面図(1/40)実測図

遺物出土状況

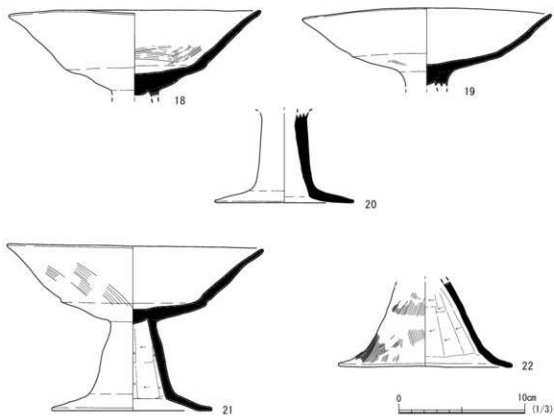
周溝内部に土器片が散在する。西側に設定された陸橋部南側の溝底部に遺物の集中が認められる。石棺内部から玉2点と歯を3本確認した。また、これらの出土状況が石棺東部分に偏っていることから頭部を東向きに埋葬した可能性が高い。

出土遺物の観察

出土した遺物はすべて土師器で、器種は高環である。高環は5点出土した。全体形がわかるものは21のみで、18・19は環部のみ、20・22は脚部の資料である。21は脚部が太くやや開きながら裾部に移行する。裾部の境は明瞭で、低く、直線的



第24図 SZ03 主体部人骨出土実測図 (1/30)



第25図 SZ03 遺物実測図

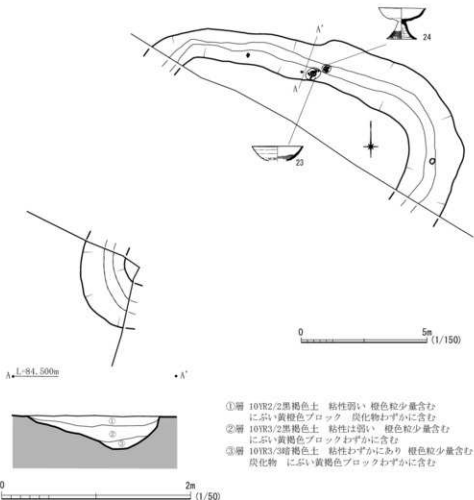
な器形的特徴を有する。坏部は、膨らみを持って立ち上がり、口縁部は外反ぎみに外傾する。途中、屈曲し小さく段をもつ。外面には、ナデの後、刷毛による調整が施される。18は、21と類似した特徴を示す。19の屈曲はやや不明瞭である。20は直線的な円筒状の脚部で、裾部との境は明瞭で、低く、直線的な器形的特徴を有する。22は、脚部と裾部

の境が不明瞭で、開きながら裾部に至り、末端で湾曲しながら開く器形的特徴を有する。

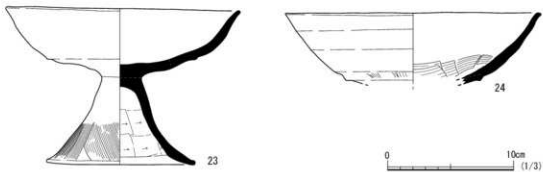
SZ04 (第 26 図)

形態と規模

墳墓の全体形は確認することができないが、南西に一部コーナーを検出し、北東にかけて約 1.6m 幅



第 26 図 SZ04(1/150)・土層断面(1/50)実測図



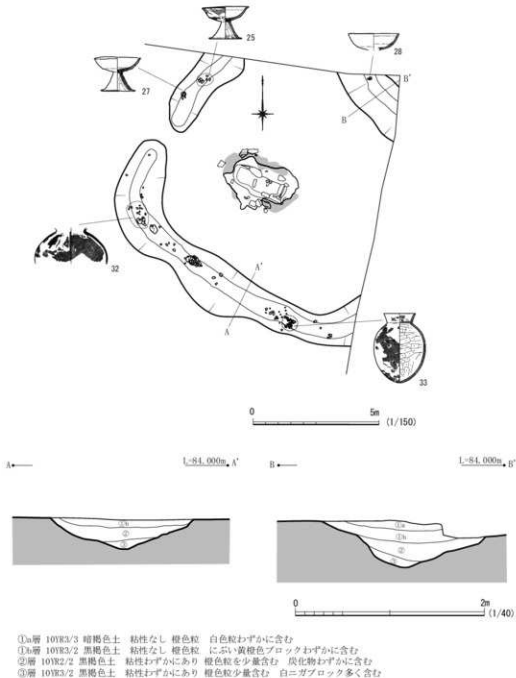
第 27 図 SZ04 遺物実測図

の周溝が10m程続き、北東端にもコーナーを検出している。周溝の掘り込みは、基本層4層からで、一定幅を保つ。南西に検出されている隅と北東に検出されている隅の角度を比較すると、南西隅の方が北東向きにつき湾曲する一方、北東隅から検出されたものは、南西より若干緩く湾曲しているため、南西隅と北東隅のコーナーを同一遺構のものともみると、東西方向にのびる隅丸長方形の周溝がめぐると

推測される。周溝の幅・深さは一定ではなく、幅約100～185cm、深さ約45cmを測る。周溝断面形は、三角形・逆台形など一定しない。除橋部は確認されていない。

主体部

主体部は、既にSZ04の中央部を大きく北西～南東に市道により破壊されており確認されていない。



第28図 SZ05(1/150)・土層断面図(1/40)

遺物出土状況

SZ04は、遺構の大半が南側調査区外に残る。検出された遺物は、周溝北側中央の主体部側斜面部から溝底部にかけて認められる。

出土遺物の観察

出土した遺物はすべて土師器で、器種は高坏である。高坏は2点出土した。全体形がわかるものは23のみで、24は坏部だけの資料である。

23は脚部が太くやや開きながら裾部に移行する。裾部との境は不明瞭である。坏部は、膨らみを持ち、口縁部は小さく外反ぎみに立ち上がる。24は、23と類似する。

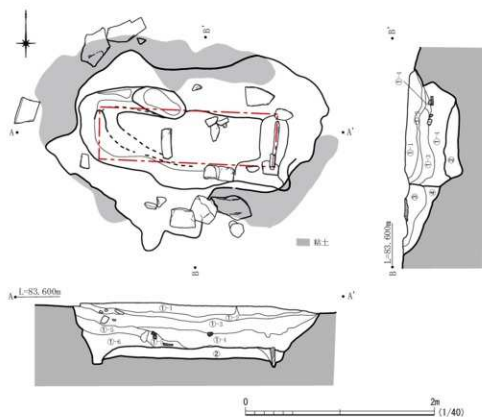
SZ05 (第28-29図)

形態と規模

墳墓の大半が削平を受けているため、周溝の残存状況は良くないが、東向きの陸橋部と、そこから伸びる周溝部分が3.0m程残存している。残存している部分の周溝は幅が約1.5m、陸橋部の幅が約0.7mを測る。

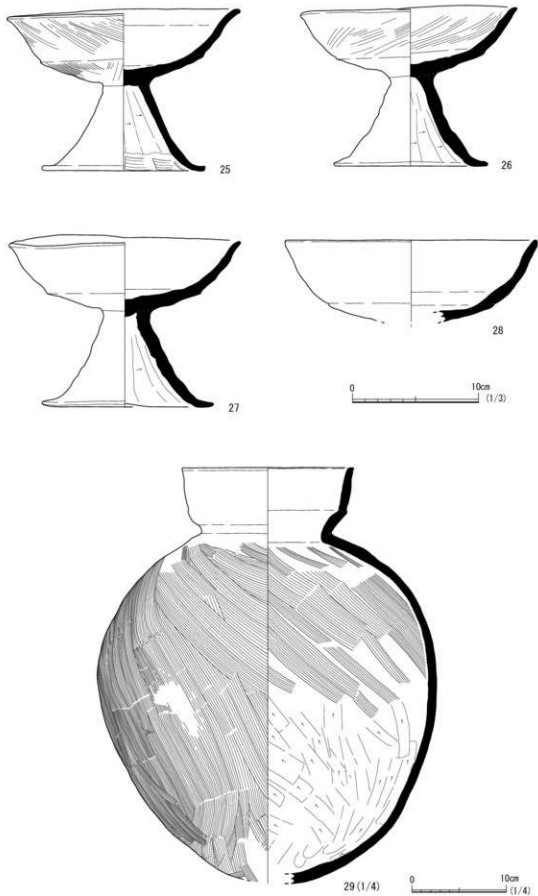
主体部

主体部は基本層4層より掘り込まれ、SZ03程ではないものの、敷石状の礫の分布を確認した。また、石棺などを確認することはできないが、主体部東



- ①-1層 101R2/2 黒褐色シルト 粘性わずかにあり 中に細小-1cm大の明黄褐色の礫 ブロックを少量含む(15程度)
白色粘土をごくわずかに含む 礫を所々に少量含む
- ①-2層 101R2/2 黒褐色シルト 粘性わずかにあり 中に細小-2cm大の明黄褐色礫 ブロックを少量含む
(20程度)石を含む
- ①-3層 101R2/2 黒褐色シルト 粘性ややあり 中に細小-5cm大の明黄褐色礫 ブロックを少量含む (15程度)石を含む
- ①-4層 101R2/2 黒褐色シルト 粘性わずかにあり 中に細小-5cm大の明黄褐色礫又はブロックを多く含む
また埋土内に石を多く含む 礫面によってしまりに部が認められる
- ①-5層 101R2/2 褐色シルト 粘性ややあり 中に細小-1cm大の明黄褐色礫 ブロックを少量含む (15)石を少量含む
- ①-6層 101R3/2 黒褐色シルト 粘性わずかにあり 中に細小大の明黄褐色礫を少量含む (15)石を少量含む
- ②層 101R2/3 黒褐色シルト 粘性わずかにあり 中に褐色礫 白色粘土をわずかに含む 所々に赤色顔料の礫をごくわずかに含む

第29図 SZ05主体部実測図(1/40)

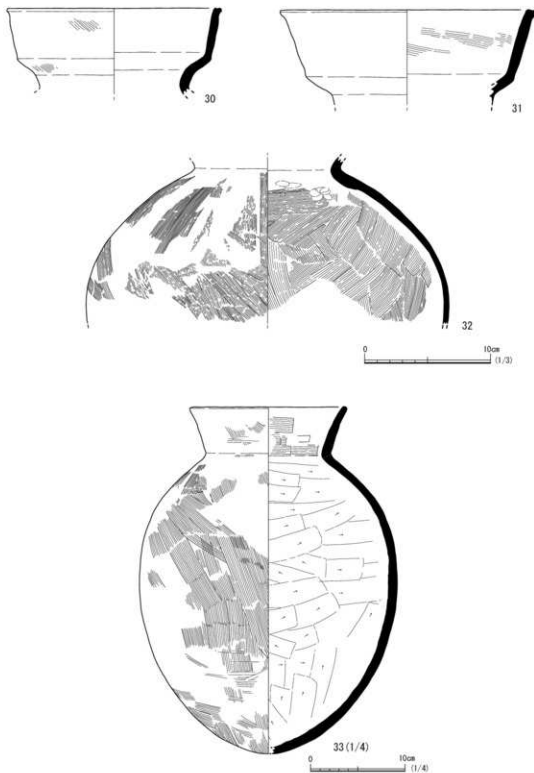


第30図 SZ05遺物実測図-1-

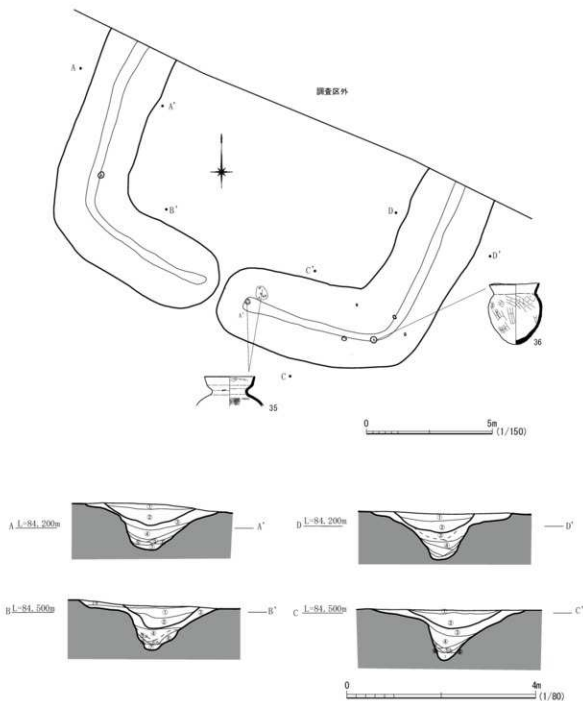
端の、土壌の掘り込み面直上に堆積する土層（黒褐色シルト層）に刺さるように出土した石材を確認し、西側では、石材は確認できないもの、東側同様に15cm程の掘り込みを確認している。また、土壌の掘り込み面の直上に堆積している土からは赤色顔料

粒が所々に確認されている。周溝の幅・深さは一定ではなく、幅1.2～2.1m、深さ0.3～0.5mを測る。

周溝断面形は、三角形・逆台形など一定しない。北西側に陸橋部を有する。



第31図 SZ05 遺物実測図-2-



- ①層 10YR2/2 黒褐色土 粘性ごくわずかにあり 黄褐色粒少量入る
 ②層 10YR2/1 黒褐色土 ①より弱い 粘性少しあり 黄褐色粒少量入る
 ③層 10YR2/3 黒褐色土 粘性わずかにあり 黄褐色粒が墳丘側により多く入る
 ④層 10YR2/3 黒褐色土 ③よりやや弱い 粘性少量あり 湿人物③と同じ
 ⑤a層 10YR2-2 黒褐色土 ④よりやや弱い 黄褐色粒少量入る (1%程度)
 黄褐色 ブロック (ローム) 1 ~ 3cm 大が少量入る
 ⑤b層 10YR2-3 黒褐色土 ④よりやや弱い 黄褐色粒少量入る
 (7%程度) 黄褐色 ブロック 1 ~ 2cm 大が少量入る
 ⑥層 10YR3/3 暗褐色土 粘性少量あり 黄褐色粒が全体的に少量入る
 1 ~ 3cm 大の黄褐色ブロック 黒褐色ブロックが多く入る
 ⑦層 10YR5/6 黄褐色粘質土 1 ~ 4cm 大の黒褐色 暗褐色ブロックが多く入る

第32図 SZ06(1/150)・土層断面図(1/80)実測図

遺物出土状況

主体部周辺に、土器片・板石が散在する。板石は、人頭大の破片の状態認められ、埋土②層より上層に含まれることから、石棺自体は掘り返される等の行為により破壊されたものと考えられる。周溝内の遺物の分布は、いくつかのまとまりに区分され、主体部側斜面部から溝底部にかけて出土する傾向が認められる。

出土遺物の観察

出土した遺物はすべて土器で、器種は高坏、壺である。

高坏は4点出土した。全体形がわかるものは25～27で、28は坏部だけの資料である。

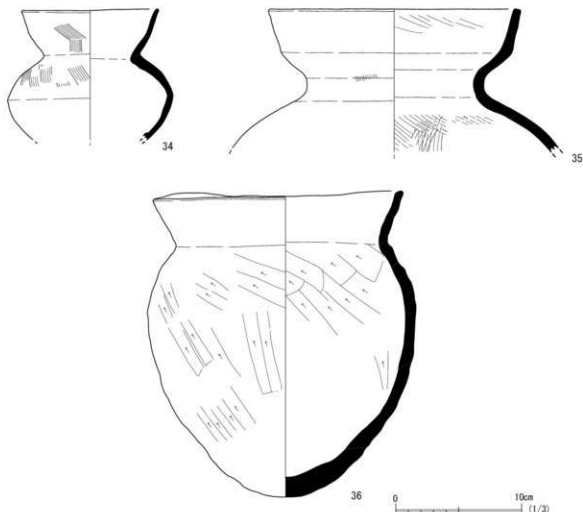
25～27は、脚部が太くやや開きながら裾部に移行する。裾部との境は不明瞭である。坏部は、膨らみを持ち、口縁部は小さく外反ぎみに立ち上がる。

途中、屈曲し小さく段をもつ。25・26の外表面には、ナデの後、刷毛による調整が施される。29～33は壺である。全体形がわかるものは29・33の2点で、30・31は口縁部のみ、32は胴部上半のみの資料である。29は複合口縁を有する壺形土器である。頸部は強くくびれ、口縁部の屈曲は不明瞭ながら稜を有する。口縁上半部は直行する。30・31の口縁部の形態の特徴も同様である。33は単純口縁を有する壺形土器である。胴部中央やや上位に最大径を有し、口縁部は頸部で屈曲し直線的に外傾する。底部は尖りぎみの丸底を呈する。

SZ06 (第32図)

形態と規模

墳墓の北側は調査区外で全体形を確認することはできないが、南側に陸橋部を有し南西と南東の2ヶ



第33図 SZ06 遺物実測図

所に屈曲が認められることから、方形周溝整であろう。残存計で、東西に外径約16.5m内径約11.0m、南北に外径約7.0m以上、内径約6.0m以上を測る。周溝の幅は約2.9m、深さ0.95～1.05mを測る。

周溝断面形は、三角形・逆台形など一定しない。

主体部

主体部は、確認されていない。

遺物出土状況

周溝内からの遺物出土はまばらである。陸橋部東側周溝内に主体部側斜面部から溝底部にかけて壺が、周溝屈曲部に甕が認められる。

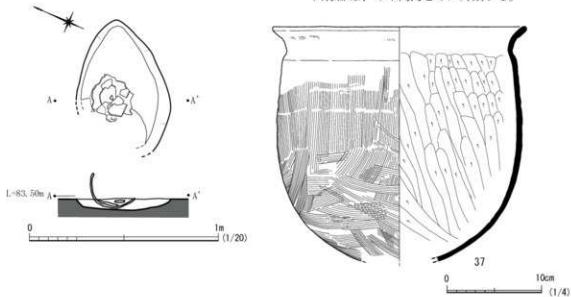
出土遺物の観察

出土した遺物はすべて土師器で、器種は小型壺、壺、甕である。34は小型壺である。胴部は丸く膨らみ中央部に最大径をもち、底部を欠失する。内外器面ともヨコナデ、刷毛目による調整が見られる。

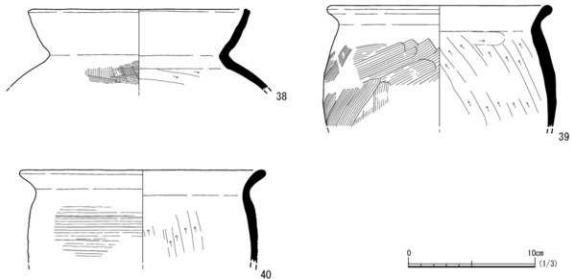
頸部は大きくくびれ、口縁部はやや膨らみ屈曲ぎみに外傾する。

35は複合口縁を有する壺で、胴部上半部以下を大きく欠失する。頸部で強くくびれ、口縁部の屈曲は不明瞭ながら稜を有する。底部形態は不明である。

36は、甕である。胴部は丸く膨らみ、上半部に最大径をもつ。底部はやや尖りぎみの丸底である。口縁部は、やや内湾ぎみに外傾する。



第34図 SK10(1/20)・遺物(1/4)実測図



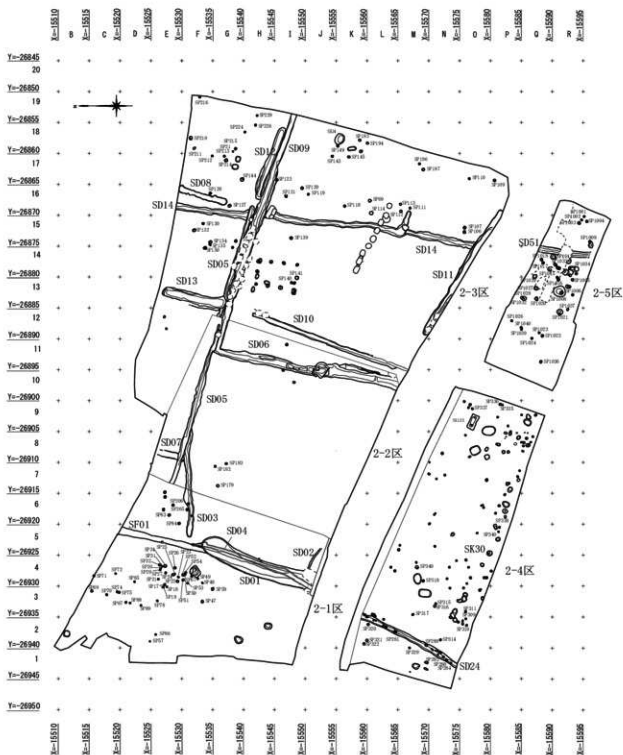
第35図 調査区遺物実測図 - 古墳 -

古代の遺構について

2-4区 SZ06の南側で蔵骨器を埋納したST01を
検出した。当該期の遺構は外に認められない。方形
周溝墓との切り合い関係が認められないことから、
方形周溝墓群が当該期まで視覚的に認識でき、意識

されていた可能性が指摘できる。

2区で出土した当該期の遺物については、第38
～40図に掲載した。8～9世紀代の土師器、須恵
器で器種は坏、碗、皿である。これらの遺物には、
底部外面に文字が墨書されているものも認められる



第36図 飛田遺跡群2区 遺構配置図 (1/600) - 古代以降 -

が、判読できるものは少ない。

2-4区南側で検出された土壌墓から41の蔵骨器が確認された。土壌の規模については、前述に記載したとおり南北87cm、東西78cm、検出面からの深さ27cmを測る。

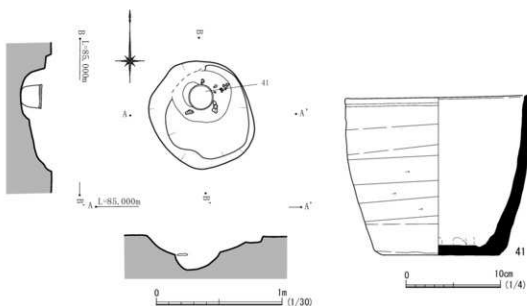
蔵骨器は土壌の北側に偏り、直径48cmの小穴を掘り埋納される。完形で小穴の中央に正立の状態で見出され保存状態は良好である。蓋は確認されてい

ないが、木質であった可能性が指摘できよう。

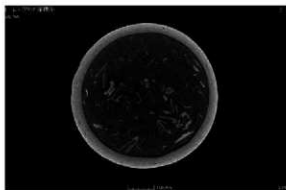
蔵骨器を埋納した小穴では、炭化物が検出されたが焼けた痕跡は確認できなかった。

出土遺物の観察

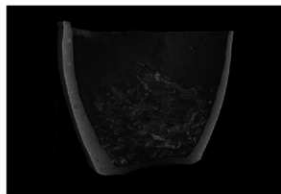
検出された蔵骨器は土師器で、口径19.7cm、底径12.3cm、器高16.9cmを測り、胴部はやや膨らみ直立ぎみに立ち上がり、口縁部は小さく外反し口唇部直下に浅い段が周回する。外器面の色調は浅黄橙



第37図 ST01(1/30)・遺物(1/4)実測図



蔵骨器 上面



蔵骨器 側面

色、内器面がにぶい黄褐色を呈する。内外面とも回転ナデにより調整を施し、その後外器面ではヘラケズリを施す。平底で外底面はヘラ切りの後、ナデによる調整を施す。内底面にはナデによる調整の際の指頭圧痕が確認される。

内蔵されていた火葬骨については、特定非営利活動法人 人類学研究機構松下孝幸氏、同松下真実氏のご厚意により実見のうえご指導・ご助言をいただいた、感謝申し上げます。

以下、その内容についてまとめておきたい。

内蔵されていた火葬骨は、重複する部分が認められないので1体分の一部であると考えられる。内訳は、頭蓋片約 36 g、四肢骨等の骨片約 298 g（形状がわかる四肢骨小片約 105 g、四肢骨等の細片約 193 g）の合計 334 g である。

大部分が破片であることから蔵骨器に入れる際に砕かれ、細片にされたものと考えられる。人骨の色調は、白もしくは灰色で黒変しているものも認められる。骨表面には火葬骨特有の細かい亀裂が走る。

頭蓋骨の残存量は四肢骨片に比べてかなり少ない点が指摘できる。

人骨を観察した所見では、頭蓋骨片のサイズが小さく骨種の同定は困難であるが、後頭骨と側頭骨岩様部を認めることができた。頭蓋骨の骨壁は薄い。

四肢骨片もサイズが小さく骨種の同定は困難であるが、大腿骨片、上腕骨片、桡骨片が確認された。

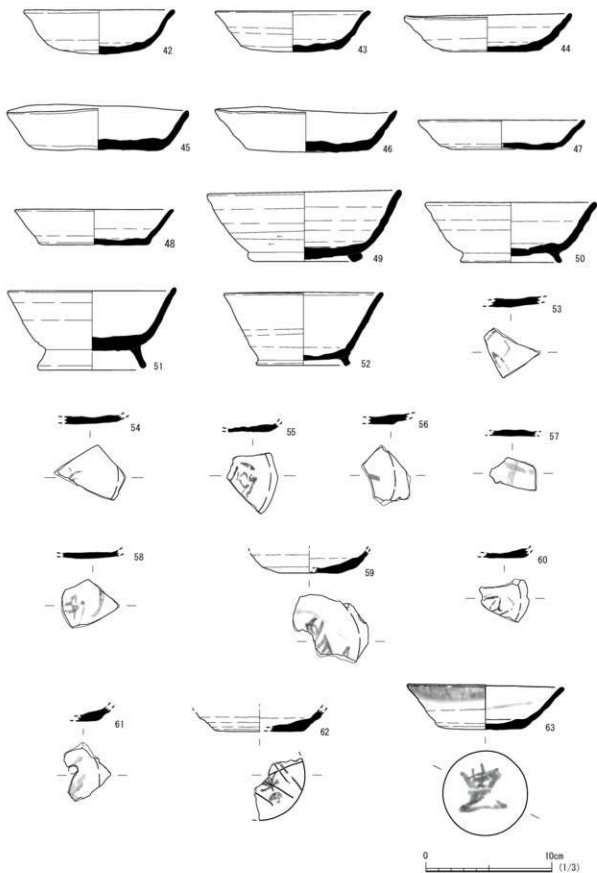
上腕骨片、桡骨片の径は著しく小さい。また、指骨と肋骨も認められるが、その量は少ない。年齢の推測はできないが、性別については上腕骨片、桡骨片、指骨、肋骨が著しく小さいことから女性である可能性が高い。県内での古代の火葬骨の報告例は少なく、飛田遺跡群 2 区の事例を含めて 5 例である。

大江（学苑）遺跡群（*1）からは約 790 g、江津湖遺跡群からは約 22 g、桑鶴 06-16 区から約 390 g、大江遺跡群 63 次から約 637 g、飛田遺跡群 2 区から約 334 g である。これらの人骨についてはいずれも特定非営利活動法人 人類学研究機構松下孝幸氏と松下真実氏による分析がなされている。

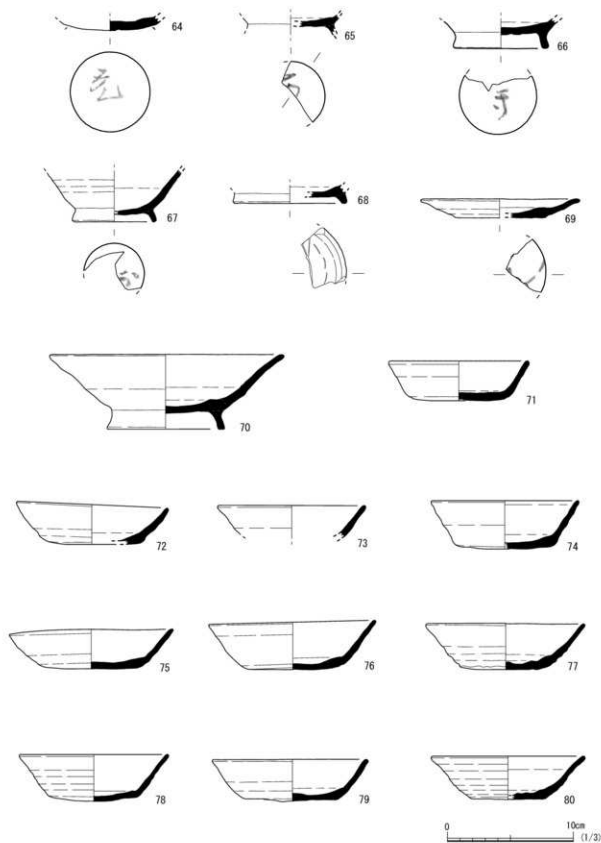
蔵骨器に内蔵されている火葬骨の量には、遺跡によりバラつきが認められる。被葬者の性別が特定さ

れた事例は、桑鶴 06-16 区と大江遺跡群 63 次、飛田遺跡群 2 区である。中でも桑鶴 06-16 区と大江遺跡群 63 次の事例は若い女性骨であると報告されている。

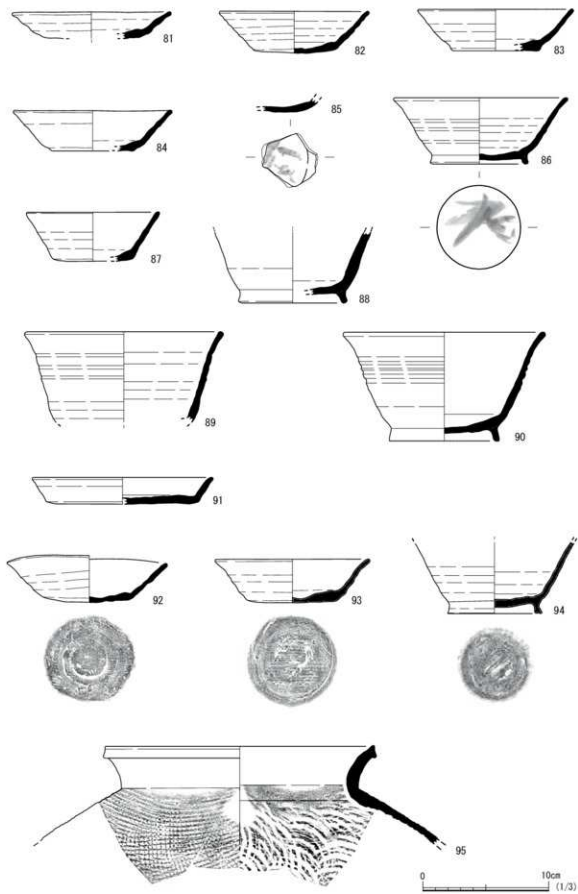
*1. 熊本県教育委員会 2006『大江遺跡群 II』熊本県文化財調査報告第 231 集 所収 pp80-84



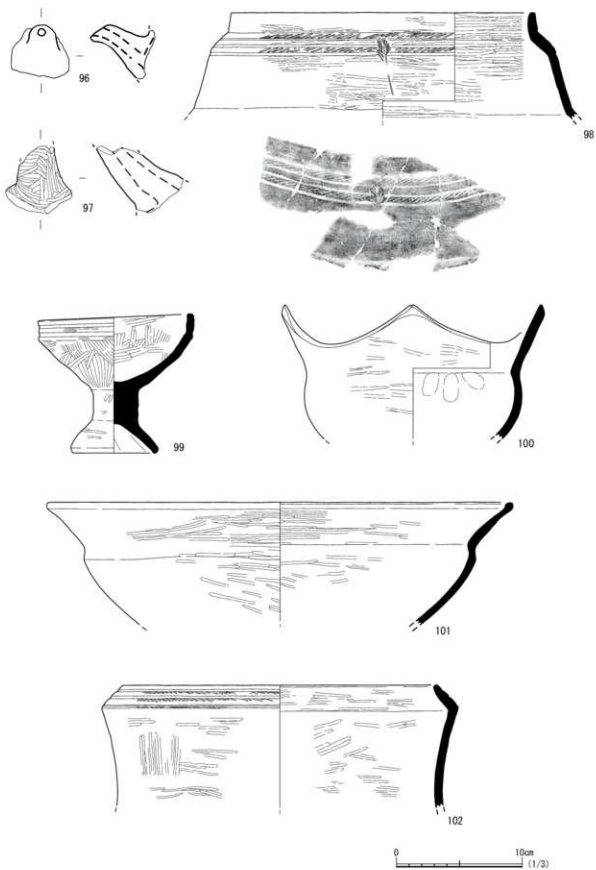
第 38 图 遺構外出土遺物実測図-1- 古代



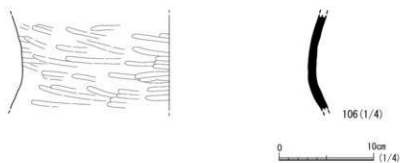
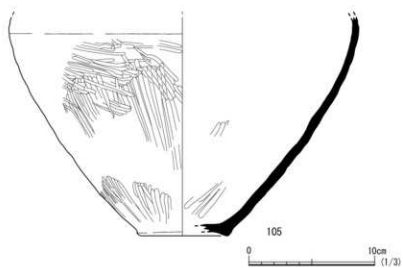
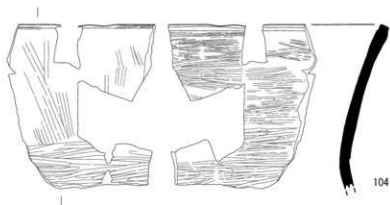
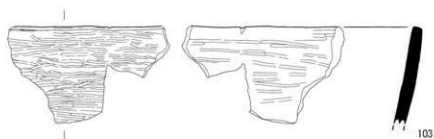
第39図 遺構外出土遺物実測図-2- 古代



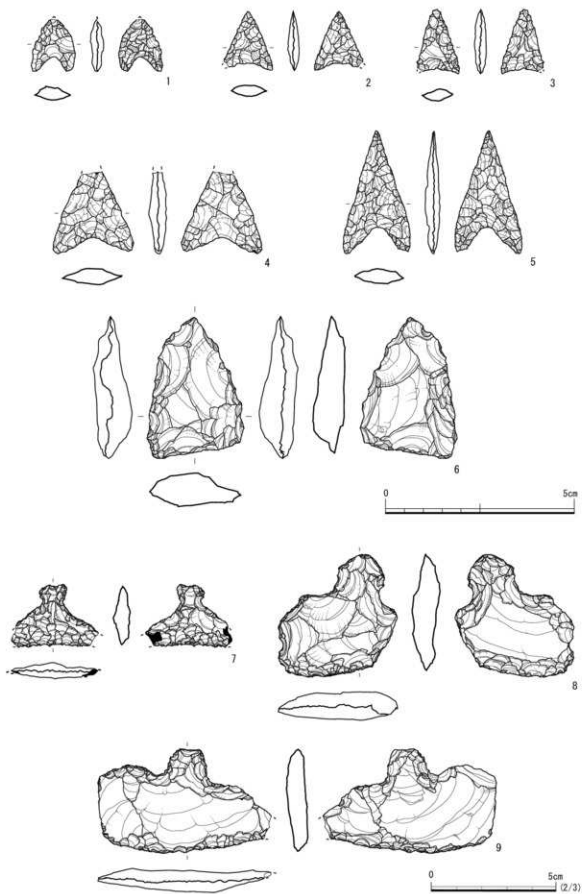
第40図 遺構外出土遺物実測図-3- 古代



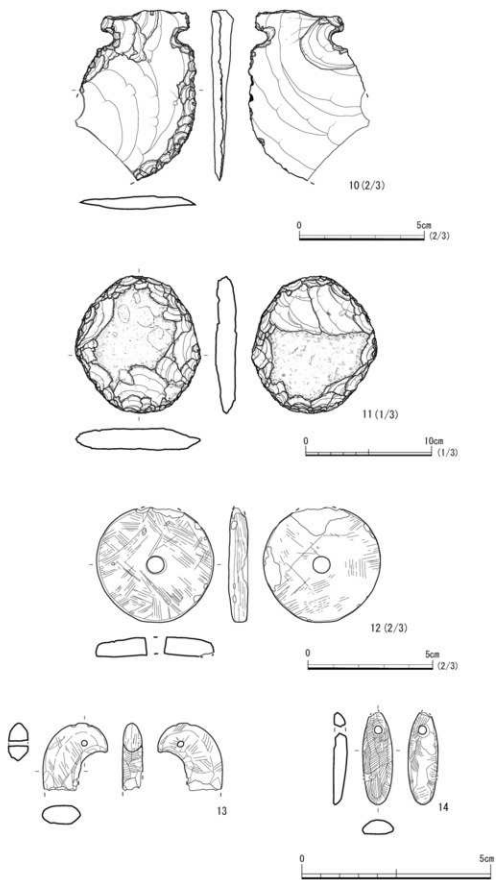
第41図 遺構外出土遺物実測図 -1-



第42図 遺構外出土遺物実測図-2-



第 43 図 遺構外石器実測図-1-



第44図 遺構外石器実測図-2-

第4表 土器観察表

遺物番号	挿入番号	図版番号	調査区	遺構	グリッド	層位 取上げNo.	種別	器種	法量 (cm)			色調		
									口径	底径	胎高	外面	内面	
1	16	13	2-2	SZ01	-	No.20	土師器	高坏	-	(13.3)	(11.3)	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	
2			2-2	SZ01	-	No.18,21	土師器	高坏	-	(14.0)	(11.0)	橙 5YR6/6	にぶい橙 7.5YR7/4	
3			2-2	SZ01	-	No.1	土師器	鉢	(13.6)	-	7.4	橙 5YR7/6	にぶい橙 7.5YR7/4	
4			2-2	SZ01	-	溝埋 2層 No.13,14,19	土師器	小型壺	-	5.0	(8.0)	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/3	
5			2-2	SZ01	-	No.2	土師器	甗	(10.8)	-	(12.7)	明赤褐色 2.5YR5/6 橙 7.5YR7/6	橙 5YR6/8 橙黄灰 2.5Y5/2	
6			2-2	SZ01	-	溝埋 1,2層	土師器	甗	(30.0)	-	(9.7)	橙 5YR6/6	橙 7.5YR7/6	
7	20	14	2-2	SZ02	-	溝埋 2層 No.22,24 25,26,28	土師器	高坏	18.4	13.1	13.6	明赤褐色 5YR5/6 にぶい赤褐色 5YR6/8	にぶい橙 7.5YR6/4 橙 5YR6/8	
8			2-2	SZ02	-	溝埋 2,4層 No.31 溝下No.21	土師器	高坏	18.9	13.2	15.1	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	
9			2-2	SZ02	-	溝埋 2下 No.29	土師器	高坏	18.8	13.8	15.4	橙 5YR6/6	明褐色 2.5YR5/6	
10			2-2	SZ02	-	溝埋 2下 No.15	土師器	高坏	22.3	13.9	15.0	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	
11			2-2	SZ02 SZ03	-	埋 1 No.11,12	土師器	高坏	18.5	12.6	15.1	浅黄褐色 10YR8/3 橙 2.5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/3 橙 2.5YR7/6	
12			2-3	SZ02	-	溝 2層下	土師器	小型壺	8.0	1.3	7.8	にぶい橙 7.5YR6/4 黒褐色 2.5Y3/1	にぶい橙 7.5YR6/4	
13			2-2	SZ02	-	溝埋 2 No.22	土師器	小型壺	-	-	(8.3)	橙 5YR7/6, 7.5YR7/6	橙 5YR7/6	
14			2-2	SZ02	-	溝埋 2下 No.19	土師器	小型壺	12.9	-	19.7	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 2.5YR6/6	
15			2-2	SZ02	-	埋 2層下 No.35	土師器	甗	18.0	-	33.7	にぶい赤褐色 10YR6/4 にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 7.5YR7/4	
16			21	2-2	SZ02	-	溝 2層下 No.18	土師器	甗	14.7	-	27.0	橙 5YR7/6 浅黄褐色 7.5YR8/3	橙 5YR7/6
17			2-2	SZ02	-	溝 No.12	土師器	甗	(16.0)	-	(12.7)	橙 5YR6/6	明赤褐色 2.5YR5/6	
18			2-2	SZ03	-	No.6,7	土師器	高坏 (坏部)	20.0	-	(6.8)	橙 5YR7/8	橙 5YR7/8	
19			2-3	SZ03	-	No.2,5,7	土師器	高坏 (坏部)	(19.8)	-	(6.2)	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6 にぶい橙 7.5YR6/4	
20			2-3	SZ03	-	No.1	土師器	高坏 (坏部)	-	(11.0)	(7.1)	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	
21			2-3	SZ03	-	埋 1層 No.8	土師器	高坏	(20.3)	12.7	13.2	橙 5YR6/8	橙 5YR6/8	
22	2-2	SZ03	-	埋 2層 No.10	土師器	高坏 (坏部)	-	13.8	(6.8)	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6			
23	27	2-3	SZ04	-	埋 2層 No.1	土師器	高坏	18.6	11.8	12.5	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6		
24	2-3	SZ04	-	埋 2層 No.2	土師器	高坏 (坏部)	20.3	-	(5.6)	にぶい橙 7.5YR6/4 黒 7.5Y3/1	にぶい橙 7.5YR6/4 黒 7.5Y3/1			
25	30	17	2-3	SZ05	-	溝埋 2層 No.20	土師器	高坏	18.5	12.9	12.8	にぶい橙 7.5YR7/4 橙 2.5YR6/6	にぶい橙 7.5YR7/4 橙 2.5YR6/6	

新土	調整				備考	造物番号
	外底面	内底面	外底面	内底面		
長石、石英、角閃石	ナブ(坏部) ナブ、工具によるミガキ(脚部)	工具によるミガキ(坏部) ヘラケズリ ハケメ後ナブ(脚部)	-	-		1
長石、石英、角閃石	ハケメ、ナブ(坏部) ハケメ、ナブ、ミガキ(脚部)	ナブ、ヘラケズリ(脚部)	-	-	歪み有り 内底面焼熱による剥離	2
長石、石英、角閃石 赤色酸化粒	ナブ	ナブ、指頭江底	-	-	外面に黒斑	3
長石、石英、雲母 赤色酸化粒	ナブ、ハケメ	ナブ、ハケメ ヘラケズリ	-	指ナブ	粘土貼り付け痕	4
長石、石英、角閃石 赤色酸化粒	ナブ、ハケメ後ナブ	指頭江底、指ナブ	-	-		5
長石、角閃石、雲母	ナブ、ハケメ	ナブ、ヘラケズリ	-	-	外面に煤付着	6
長石、砂粒	ナブ(坏部) ナブ後ハケメ(脚部)	摩耗の高調整不明(坏部) ナブ、手持ちヘラケズリ(脚部)	-	-	内外面に赤彩 焼き歪み有り	7
長石、石英、角閃石 雲母	ナブ(坏部)、ナブ ナブ後ナブ(脚部)	ナブ後ハケメ(坏部) 手持ちヘラケズリ ナブ後ハケメ(脚部)	-	-	外面に黒斑	8
長石、石英、角閃石 雲母	ナブ、ハケメ後ナブ(坏部) ナブ(脚部)	ナブ(坏部) ナブ、ヘラケズリ(脚部)	-	-	内面一部に赤彩	9
長石、砂粒	ナブ(坏部) ナブ(脚部)	ナブ後ナブ(坏部) ナブ、手持ちヘラケズリ ナブ後ハケメ(脚部)	-	-	歪み有り、外面口縁の一部に煤付着	10
石英、角閃石、赤色酸化粒、砂粒	ナブ(坏部・脚部)	ナブ(摩耗)(坏部) ナブ、手持ちヘラケズリ(脚部)	-	-	歪み有り	11
長石、石英、角閃石	ナブ、指頭江底 手持ちヘラケズリ後ナブ	ナブ、指頭江底、粘土煎	手持ちヘラケズリ後ナブ	指ナブ	外面の一部黒斑 内面に粘土貼り付け痕	12
長石、角閃石、砂粒 赤色酸化粒	ナブ、手持ちヘラケズリ	ナブ、指ナブ、指頭江底	ナブ	指ナブ、指頭江底	外面の一部赤彩	13
長石、石英、角閃石 雲母、砂粒	ナブ、ハケメ後ナブ ナブ後ハケメ	ナブ後ハケメ ナブ後ヘラケズリ	ナブ後ハケメ	ナブ後ヘラケズリ	外面に黒斑、内面に赤彩	14
長石、角閃石、雲母	ハケメ	ハケメ、ナブ、ヘラケズリ	-	-	胴部外面に黒斑	15
長石、石英、角閃石 雲母	ナブ、ハケメ 磨耗のため不明	磨耗のため不明、ヘラケズリ	-	-		16
長石、石英、角閃石 雲母	ナブ後ハケメ	ナブ後ナブ ヘラケズリ、ハケメ	-	-	内面一部に赤彩	17
長石、石英、角閃石 雲母、赤色酸化粒	ナブ後ナブ	ナブ後ナブ、 ナブ後ハケメ	-	-		18
長石、石英	摩耗の高調整不明 わずかにハケメ、ナブ	摩耗の高調整不明	-	-	歪み有り	19
長石、石英	摩耗の高調整不明	摩耗の高調整不明 手持ちヘラケズリ	-	-		20
長石、角閃石、雲母	ナブ、ナブ後ハケメ(坏部) ナブ後ナブ(脚部)	ナブ後ナブ(坏部) ナブ、手持ちヘラケズリ(脚部)	-	-		21
長石、石英、角閃石 雲母	ナブ後ハケメ	ナブ後ナブ 手持ちヘラケズリ	-	-		22
長石、雲母	ナブ後ナブ(坏部) ナブ、ハケメ後ナブ(脚部)	ナブ(坏部) ナブ、ナブ後ナブ 手持ちヘラケズリ(脚部)	-	-		23
長石、石英	ナブ、ハケメ	ナブ、ハケメ	-	-	外面一部に黒斑	24
角閃石、赤色酸化粒	ナブ、ナブ後ハケメ(坏部) ナブ(脚部)	ナブ、ハケメ(坏部) ナブ、ハケメ 手持ちヘラケズリ(脚部)	-	-	坏部内面と外器面に赤彩	25

第5表 土器観察表

遺物番号	種別番号	図版番号	調査区	遺構	グリッド	層位 取上げ%	種別	器種	法量 (cm)			色調	
									口径	底径	器高	外面	内面
26	30	17	2-3	SZ05	-	-	土師器	高坏	17.1	12.2	12.7	浅黄橙 10YR5/3	浅黄橙 10YR5/4
27			2-3	SZ05	-	遺埋 2層 No.19	土師器	高坏	18.4	13.5	13.6	浅黄橙 10YR5/3	浅黄橙 10YR5/4
28			2-3	SZ05	-	遺埋 2層 No.21	土師器	高坏 (坏部)	20.0	-	(6.4)	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6
29			2-3	SZ05	-	2層	土師器	壺	(18.1)	-	(43.9)	にぶい・橙 7.5YR6/4	にぶい・橙 7.5YR6/3
30			2-3	SZ05	-	-	土師器	壺	(17.0)	-	(6.8)	にぶい・橙 7.5YR6/4 褐色 7.5YR4/1	にぶい・橙 7.5YR6/4 褐色 7.5YR4/1
31	31	17	2-3	SZ05	-	遺埋 2層	土師器	壺	20.2	-	7.5	橙 2.5YR6/6	にぶい・黄褐色 2.5YR5/4
32			2-3	SZ05	-	溝埋土	土師器	壺	-	-	-	にぶい・橙 5YR7/4	橙 7.5YR7/4 灰黄 2.5YR6/2
33			2-3	SZ05	-	No.7	土師器	壺	16.6	-	(36.6)	橙 2.5YR6/8, 7.5YR7/6	橙 7.5YR6/6
34			2-4	SZ06	-	遺 3層 No.13	土師器	小型壺	10.9	-	(13.4)	浅黄橙 10YR6/4	にぶい・橙 7.5YR6/4
35	33	18	2-4	SZ06	-	No.1,3,4,5,6	土師器	壺	20.0	-	(11.3)	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6, 褐色 5YR5/1 灰黄褐色 10YR6/2
36			2-4	SZ06	-	4層 No.8	土師器	壺	19.7	2.4	24.3	浅黄橙 10YR5/4	浅黄橙 10YR5/3
37	34		2-3	SK10	-	No.1	土師器	壺	(26.8)	-	(24.7)	にぶい・橙 7.5YR6/3 7.5YR5/2, 黒褐色 7.5YR3/1	にぶい・黄褐色 10YR7/3 灰黄褐色 10YR6/2
38	35	19	2-1	-	D5	3層	土師器	壺	(17.4)	-	(6.4)	にぶい・黄褐色 10YR7/3	にぶい・橙 7.5YR7/4
39			2-3	-	E13	3層	土師器	壺	(17.7)	-	(9.5)	にぶい・橙 7.5YR6/4	にぶい・橙 7.5YR5/4
40			2-3	-	J16	3層	土師器	壺	(19.4)	-	(7.3)	にぶい・黄褐色 10YR7/3 橙 5YR7/6	にぶい・黄褐色 10YR7/3
41	37		2-4	ST01	-	3層 No.6	土師器	甕形器	19.7	12.3	16.9	浅黄橙 10YR5/4	にぶい・黄褐色 10YR6/4
42	38	20	2-2	-	I11	-	土師器	坏	(11.8)	(7.3)	3.5	明赤褐色 2.5YR5/6 にぶい・黄褐色 10YR6/4	明赤褐色 2.5YR5/6
43			2-2	-	F14	2層	土師器	坏	12.3	7.9	3.2	橙 5YR6/6	明赤褐色 5YR5/6
44			2-3	-	F15	3層	土師器	坏	13.3	8.6	3.0	明赤褐色 5YR5/6 にぶい・橙 7.5YR6/4	明褐色 7.5YR5/6 にぶい・黄褐色 10YR6/4
45			2-3	-	-	No.3	土師器	坏	14.4	10.2	3.6	橙 2.5YR6/8	橙 2.5YR6/8
46			2-3	-	-	境 1	土師器	坏	14.4	9.7	3.6	浅黄橙 7.5YR5/6	浅黄橙 7.5YR5/6
47			2-3	-	-	2層 F16	土師器	皿	(13.2)	(8.6)	2.3	にぶい・橙 7.5YR6/4	にぶい・橙 7.5YR6/4
48			2-2	-	-	-	土師器	坏	(12.6)	(8.6)	2.7	明赤褐色 5YR5/8	橙 5YR6/6
49			2-3	-	L16 L17	2,3,4層	土師器	坏	15.4	9.1	5.6	にぶい・橙 7.5YR7/4 明赤褐色 2.5YR5/6	にぶい・橙 7.5YR7/4 明赤褐色 2.5YR5/6
50			2-3	-	L15	3層	土師器	坏	(13.6)	(8.6)	4.7	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6, 橙 7.5YR6/6
51			2-1	-	-	-	土師器	坏	(13.4)	8.1	6.3	にぶい・橙 7.5YR6/4	にぶい・橙 7.5YR6/4
52			2-3	-	-	-	土師器	椀	12.6	7.4	5.8	にぶい・橙 7.5YR7/4 明赤褐色 2.5YR5/6	にぶい・橙 7.5YR7/4 明赤褐色 2.5YR5/6
53	31	21	2-2	-	F14	2層	土師器	坏	-	-	-	にぶい・橙 7.5YR6/4	にぶい・橙 7.5YR6/4
54			2-3	-	H14	3層	土師器	坏	-	-	-	にぶい・黄褐色 10YR6/3	にぶい・黄褐色 10YR6/3
55			2-3	-	L17	3層	土師器	坏	-	-	-	にぶい・橙 7.5YR7/4	にぶい・橙 7.5YR7/4
56			2-3	-	-	2層一括	土師器	坏	-	-	-	にぶい・橙 7.5YR6/4	にぶい・橙 7.5YR6/4

新土	調整				備考	造物番号
	外面	内面	外面	内面		
長石、角閃石、雲母	ナズ後ナズ、ナズ後ハケメ (坏部)ナズ(脚部)	ナズ後ナズ、ナズ後ハケメ (坏部)ナズ 手持ちヘラケズリ(脚部)	-	-	口縁の一部に煤付着、釜み 有り、脚部の一部にヘラミ ガキの痕跡有り	26
長石、角閃石	ナズ、ナズ後ナズ(坏部)、 ナズ(脚部)	ナズ、ナズ後ナズ(坏部)、 手持ちヘラケズリナズ(脚 部)	-	-	釜み有り	27
長石、角閃石、砂粒	ナズ、ナズ	ナズ、ナズ	-	-		28
長石、角閃石、雲母 砂粒	ナズ、ハケメ	ヨコナズ、ハケメ ヘラケズリ	-	-	指頭圧痕	29
長石、石英、角閃石	ナズ、ハケメ	ヨコナズ、ハケメ	-	-		30
長石、石英、雲母	摩耗のため不明	ハケメ、ヨコナズ	-	-		31
長石、石英、雲母 砂粒	ヨコナズ、ハケメ	ヨコナズ、ハケメ 指頭圧痕	-	-		32
長石、石英、砂粒	ヨコナズ、ハケメ ハケメ後ナズ	ヨコナズ、ハケメ、ナズ ヘラケズリ	-	-		33
長石、石英、角閃石 赤色酸化鉄	ナズ、ハケメ後ナズ	ナズ、ヨコナズ ケズリ	-	-	頸部刷毛貼付、外面に赤彩	34
長石、石英、角閃石	ヨコナズ、磨耗のため不明 ハケメ	工具痕、ナズ、ハケメ	-	-		35
長石、角閃石、雲母 砂粒	ナズ、ナズ後ケズリ	ナズ、ナズ後ケズリ	ナズ	ナズ	外面と内面(底部)に煤有 り、内部に赤彩	36
長石、石英	ヨコナズ、ハケメ	ヨコナズ、ヘラケズリ	-	-	外面面に煤付着	37
長石、石英	ナズ、ナズ後ハケメ	ナズ後ナズ、ナズ後ケズリ	-	-		38
長石、雲母	ヨコナズ、ハケメ	ナズ、ケズリ後ナズ ヘラケズリ	-	-		39
長石、雲母、角閃石 赤色酸化鉄	ナズ、ヨコナズ、カキメ	ナズ、ヘラケズリ	-	-		40
長石、石英、角閃石	ナズ、回転ヘラケズリ	ナズ	ヘラ切り後ナズ	ナズ、指頭圧痕		41
角閃石、砂粒	ヨコナズ	ヨコナズ	ヘラ切り後ナズ	ナズ	外底面除き赤彩	42
角閃石、雲母	ナズ	ナズ	ヘラ切り後ナズ	ナズ後ナズ	内外面一部に赤彩	43
角閃石、雲母 赤色酸化鉄	ナズ	ナズ	ヘラ切り後ナズ	ナズ	内外面に赤彩	44
雲母、赤色酸化鉄	ナズ	ナズ	ヘラ切り後ナズ	ナズ、ナズ後ナズ	内外面に赤彩、釜み有り ミガキの痕跡	45
長石、赤色酸化鉄	ナズ	ナズ	ヘラ切り	ナズ、ナズ後ナズ	釜み有り	46
長石、雲母、赤色酸化鉄	ナズ	ナズ	ヘラ切り後ナズ	ナズ後ナズ		47
長石、角閃石、雲母	ナズ	ナズ	ヘラ切り後ナズ	ナズ	内外面に赤彩	48
長石、角閃石、雲母	ナズ、回転ヘラケズリ	ナズ	ヘラ切り後ナズ	ナズ	内外面に赤彩	49
石英、角閃石、雲母 赤色酸化鉄	ナズ	ナズ	ナズ、ナズ後ナズ	ナズ、ナズ	高台付、板状圧痕	50
長石、角閃石、雲母 赤色酸化鉄	ナズ	ナズ	ヘラ切り	ナズ	高台付	51
角閃石、雲母 赤色酸化鉄	ナズ	ナズ	ナズ、ヘラ切り後ナズ	ナズ、ナズ	高台付 内外面に赤彩	52
雲母、赤色酸化鉄	-	-	ヘラ切り後ナズ	ナズ後ナズ	外底面に墨書 内外底面に赤彩	53
赤色酸化鉄	-	-	ヘラ切り後ナズ	ナズ、ナズ後ナズ	外底面に墨書 外底面を除き赤彩	54
石英、雲母、赤色酸化鉄	ナズ	ナズ	ヘラ切り	ナズ、ナズ後ナズ	外底面に墨書(因ジュウ)	55
赤色酸化鉄	ナズ	-	ヘラ切り	ナズ後ナズ	外底面に墨書 内底面に赤彩	56

第6表 土器観察表

遺物番号	種別番号	図版番号	調査区	遺構	グリッド	層位 取上げNo.	種別	器種	法量 (cm)			色調		
									口径	底径	器高	外面	内面	
57	38	21	2-2	-	F10	3層	土師器	杯	-	-	-	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	
58			2-2	-	-	-	土師器	杯	-	-	-	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	
59			2-2	-	F14	2層	土師器	杯	-	(7.4)	-	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	
60			2-3	-	J11	3層	土師器	杯	-	-	-	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	
61			2-3	-	I14	3層	土師器	杯	-	-	-	灰褐 7.5YR5/2	灰褐 7.5YR5/2	
62			2-5	-	-	表土剥ぎ 一括	土師器	杯	-	(7.3)	(1.7)	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	
63			2-3	-	-	埋1	土師器	杯	12.4	7.0	3.5	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	
64			2-3	-	-	-	土師器	杯	-	-	-	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	
65			2-3	-	K15	2層	土師器	碗	-	(6.8)	-	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	
66			2-2	-	I9	3層	土師器	杯・碗?	-	(7.6)	(2.4)	橙 5YR6/6, 7.5YR7/6	橙 5YR6/6	
67			2-3	-	K17	3層	土師器	碗	-	(6.6)	(4.1)	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	
68			20	2-1	-	B3	3層	土師器	杯	-	(8.8)	-	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4
69			21	2-3	-	-	2層	土師器	皿	(12.6)	(7.2)	1.5	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 5YR6/4
70			39	20	2-3	-	J17	3層	土師器	皿	(18.6)	9.3	5.9	橙 5YR6/6
71	2-5	-			D5	3層	須恵器	杯	(11.1)	(7.2)	3.1	灰 5A/, 灰 5B/	灰 5A/, 灰 5B/	
72	2-3	-			I19	2層	須恵器	杯	(12.0)	8.4	3.4	灰 5S/, 灰 5Y6/1	灰 5S/, 灰 5Y6/1	
73	2-3	-			M16, N16	3層 4層上	須恵器	杯	11.8	-	(2.6)	灰 7.5Y6/1	灰 7.5Y6/1	
74	2-3	-			O16	3層	須恵器	杯	(11.7)	(7.8)	3.8	灰 7.5Y5/1	灰 7.5Y5/1	
75	2-3	-			-	-	須恵器	杯	13.0	7.9	3.1	灰黄 2.5YR7/2 黄灰 2.5YR6/1, 灰 5S/	灰黄 2.5YR6/2, 灰 5S/ 黄灰 2.5YR6/1	
76	2-3	-			O15	3層	須恵器	杯	(13.3)	(7.4)	3.9	灰 7.5Y6/1	灰 7.5Y6/1	
77	2-3	-			E13 G3	2,3層	須恵器	杯	12.6	7.2	3.6	灰黄 2.5Y6/2	灰 2.5Y6/2	
78	2-3	-			J17	3層	須恵器	杯	(11.8)	(7.2)	3.7	灰 7.5Y6/1, 灰 5B/	灰 7.5Y6/1, 灰 5B/	
79	2-1	-			H4	4層	須恵器	杯	12.4	7.5	3.3	黄灰 10YR6/1, にぶい黄橙 10YR7/4, 黄灰 5Z/	黄灰 10YR6/1 灰黄 2.5Y6/2	
80	2-2	-	L9	3層	須恵器	杯	(12.0)	(5.8)	3.4	灰 5B/, 5Y5/1	灰 5Y5/1			
81	40	21	2-2	-	-	-	須恵器	皿	(12.6)	(9.6)	2.2	灰黄 2.5Y6/2	灰黄 2.5Y6/2	
82			2-3	-	N15	3層上	須恵器	杯	(11.9)	6.7	3.3	灰 7.5Y5/1	灰 7.5Y5/1	
83			2-3	-	I13	3層下	須恵器	杯	(12.3)	(6.9)	3.3	灰 5B/	灰 5B/	
84			2-2	-	-	-	須恵器	杯	(12.6)	(6.6)	3.2	灰黄 2.5Y6/2	灰黄 2.5Y6/2	
85			2-2	-	-	-	須恵器	杯	-	-	-	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1	
86			2-3	-	黄壁 トレンチ	O17	3層	須恵器	碗	(13.7)	7.8	5.3	灰白 7.5Y7/1	灰白 7.5Y7/1
87			2-1	-	D5	3層	須恵器	杯	(10.4)	(6.3)	3.9	灰 5B/	灰 5B/	
88			2-3	-	O17, P16	2,3層	須恵器	碗	-	(8.6)	5.6	灰オリーブ 7.5Y6/2	灰オリーブ 7.5Y6/2	

新土	調整				備考	造物番号
	外面	内面	外面	内面		
砂粒	-	-	ヘラ切り後ナゲ	ナゲ後ナゲ	外底面に墨書 内底面に赤彩	57
雲母、赤色酸化粒	-	-	ヘラ切り後ナゲ	ナゲ	外底面に墨書 内外底面に赤彩	58
雲母、赤色酸化粒	ナゲ	ナゲ	ヘラ切り後ナゲ	ナゲ後ナゲ	外底面に墨書 内外面に赤彩	59
長石、輝石、雲母 赤色酸化粒	-	-	ヘラ切り	ナゲ、ナゲ後ナゲ	外底面に墨書 内底面に赤彩	60
雲母、赤色酸化粒	ナゲ	ナゲ後ナゲ	ヘラ切り後ナゲ	-	内底面に墨書、外底面に墨書、内外底面に赤彩、穿孔に漆埋付着	61
赤色酸化粒	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ後ナゲ	外底面に墨書、露削	62
角閃石、砂粒	ナゲ	ナゲ	ヘラ切り後ナゲ	ナゲ後ナゲ	外底面に墨書、外底中央部を除き赤彩、口縁の内外面に漆埋付着	63
長石、角閃石、雲母 赤色酸化粒	-	-	ヘラ切り後ナゲ	ナゲ後ナゲ	外底面に墨書 内底面に赤彩、高台剥離	64
赤色酸化粒	ナゲ	-	ナゲ、ヘラ切り	ナゲ、ナゲ後ナゲ	高台付、外底面に墨書、外底面を除き赤彩	65
赤色酸化粒	ナゲ	ナゲ	ナゲ、ヘラ切り	ナゲ、ナゲ後	高台付、外底面に墨書 外底面を除き赤彩	66
長石、雲母、赤色酸化粒	ナゲ	ナゲ	ヘラ切り	ナゲ後ナゲ	高台付 外底面に墨書 外底面を除き赤彩	67
雲母、赤色酸化粒	ナゲ	ナゲ	ヘラ切り後ナゲ	ナゲ後ナゲ	高台付 外底面に爪記号 内面に赤彩と墨痕	68
雲母、赤色酸化粒	ナゲ	ナゲ	ヘラ切り後ナゲ	ナゲ後ナゲ	外底面に墨書、外底面を除き赤彩、板状圧痕	69
赤色酸化粒、砂粒	ナゲ	ナゲ	ナゲ、ヘラ切り後ナゲ	ナゲ、ナゲ後ナゲ	高台付	70
砂粒	ナゲ	ナゲ	ヘラ切り後ナゲ	ナゲ、ナゲ		71
長石	ナゲ	ナゲ	ヘラ切り後ナゲ	ナゲ後ナゲ		72
長石、輝石、砂粒	ナゲ	ナゲ	-	-		73
長石、石英、雲母	ナゲ	ナゲ	ヘラ切り後ナゲ	ナゲ、ナゲ		74
礫、砂粒	ナゲ	ナゲ	ヘラ切り	ナゲ		75
砂粒	ナゲ	ナゲ	ヘラ切り後ナゲ	ナゲ	板状圧痕	76
長石、角閃石	ナゲ	ナゲ	ヘラ切り後ナゲ	ナゲ、ナゲ後ナゲ	ヘラ切り後の粘土痕	77
長石、砂粒	ナゲ	ナゲ	ヘラ切り後ナゲ	ナゲ後ナゲ	板状圧痕	78
長石、石英、雲母 砂粒	ナゲ	ナゲ	ヘラ切り後ナゲ	ナゲ後ナゲ	外底面に漆付着	79
砂粒	ナゲ	ナゲ	ヘラ切り後ナゲ	ナゲ、ナゲ	板状圧痕	80
角閃石	ナゲ	ナゲ	ヘラ切り後ナゲ	ナゲ		81
長石、輝石、砂粒	ナゲ	ナゲ	ヘラ切り後ナゲ	ナゲ、ナゲ	板状圧痕	82
長石	ナゲ	ナゲ	ヘラ切り後ナゲ	ナゲ		83
角閃石	ナゲ	ナゲ	ヘラ切り後ナゲ	ナゲ		84
砂粒	ナゲ	ナゲ	ヘラ切り後ナゲ	ナゲ後ナゲ	外底面に墨書	85
長石、輝石、砂粒	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	高台付 外底面に墨書	86
長石、石英	ナゲ	ナゲ	ヘラ切り	ナゲ		87
長石	原料の高調整不明	原料の高調整不明	ナゲ	原料の高調整不明	高台付	88

第7表 土器観察表

遺物番号	採戻番号	図版番号	調査区	遺構	グラッド	層位 取上げNo.	種別	器種	法量 (cm)			色調	
									口径	底径	器高	外面	内面
89			2-3	-	118	3層	須恵器	椀	(15.8)	-	(7.2)	灰36/	灰36/
90			2-2	-	F10	3層	須恵器	椀	(15.5)	(8.7)	8.6	灰白38/	灰白38/
91			2-3	-	M14, M15, M16, L15	2, 3層	須恵器	皿	(14.4)	(12.2)	2.1	灰34/	灰34/
92	40		2-3	SP160	-	埋1	須恵器	坏	12.7	8.8	3.7	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい褐色 7.5YR5/4
93			2-2	-	-	-	土師器	坏	(12.3)	7.1	3.4	褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6
94			2-3	-	F15	3層	土師器	椀	-	7.5	(5.7)	にぶい褐色 7.5YR7/4 褐色 5YR6/6	にぶい褐色 7.5YR7/4 褐色 5YR6/6
95		21	2-1	-	G5	4層	須恵器	甕	(21.6)	-	(7.8)	灰5YR/1, オリーブ黒 5Y3/1, 暗灰黄 2.5Y4/2	灰黄 2.5Y6/2 灰黄褐色 10YR5/2
96			2-3	-	017	3層	縄文土器	注口土器	-	-	-	灰黄褐色 10YR5/2 褐色 10YR4/1	灰黄褐色 10YR5/2 褐色 10YR4/1
97			2-2	-	110	3層	縄文土器	注口土器	-	-	-	にぶい黄褐色 10YR6/3 褐色 10YR4/1	にぶい黄褐色 10YR6/3 褐色 10YR4/1
98			2-3	-	118	3層	縄文土器	深鉢	(24.1)	-	(8.4)	褐色 10YR4/1	褐色 10YR4/1
99	41		2-3	-	M16	3層 No.6	縄文土器	台付鉢	12.4	6.9	11.0	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/4
100			2-3	-	016	3層	縄文土器	浅鉢	(20.8)	-	(10.6)	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい黄褐色 10YR7/3 褐色 10YR4/1
101			2-1	-	G5	4層	縄文土器	浅鉢	(27.0)	-	(9.7)	にぶい黄褐色 10YR7/3 褐色 10YR4/1	にぶい黄褐色 10YR7/3 黒褐色 10YR3/1
102			2-3	-	016	3層	縄文土器	深鉢	(24.9)	-	(9.7)	黒褐色 10YR3/2	にぶい黄褐色 10YR6/3
103			2-3	-	118	3層	縄文土器	深鉢	-	-	(7.7)	褐色 10YR4/1	灰黄褐色 10YR5/2
104			2-3	-	M15	3層	縄文土器	深鉢	-	-	(13.0)	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい黄褐色 10YR6/3 黒褐色 10YR3/1
105	42		2-3	-	K16	3層	縄文土器	深鉢	-	6.9	17.3	にぶい黄褐色 10YR7/4 黒褐色 10YR3/1	にぶい黄褐色 10YR7/4 黒褐色 10YR3/1
106			2-3	-	M13	3層	縄文土器	深鉢	-	-	-	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR7/3

第8表 石器観察表

採戻 NO	図版 NO	遺物 NO	器種	調査区	石材	計測値				層位 取上げNo.	備	考
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
		1	打製石鏃	2-3区	黒曜石	(1.35)	1.15	0.35	0.38	M-16 4層上面		先端部僅かに欠損。縁部を呈し、扱りは深く広い。
		2	打製石鏃	2-1区	黒曜石	(1.55)	(1.30)	(0.30)	0.35	G-2 4層		片側端部欠損。扱りは浅く、広い。
		3	打製石鏃	2-1区	黒曜石	(1.70)	(1.15)	0.30	0.44	E-2 4層		片側端部欠損。扱りはごく浅く、両面に素材面を残す。
		4	打製石鏃	2-4区	安山岩	(2.25)	2.15	0.50	1.49	S-5 4層		先端部欠損。大型で扱りは広く、浅い。
		5	打製石鏃	2-4区	安山岩	3.25	1.25	0.40	1.31	M-5 5層		大型で二等辺三角形を呈し、片側が短く、扱りは広い。
		6	尖頭器	2-3区	安山岩	3.75	2.55	1.00	7.81	O-17 2層		無茎。下半部は厚みがある。やや粗い平坦剥離が施され、表面は素材面が残る。
		7	石匙	2-1区	安山岩	(2.50)	(3.45)	0.65	3.50	I-4 4層上層		両端部欠損。小型で、ほぼ全面に二次加工が施される。刀部はやや内湾。
		8	石匙	2-3区	安山岩	4.85	4.75	1.15	23.33	G-13 3層		幅広剥片を素材とし、斜向きにつまみが作り出される。片側縁の稜線の上に潰れが見られる。
		9	石匙	2-1区	安山岩	4.15	(6.90)	0.95	22.42	F-5 4層		片側部欠損。横長剥片を素材とし、両縁部のみ二次加工を行う。つまみの作り出しは浅い。

新 土	調 整				備 考	遺物 番号
	外面	内面	外底面	内底面		
長石、砂粒	ナグ	ナグ	-	-	外面の一部に僅付着	89
砂粒	ナグ	ナグ	ヘラ切り後ナグ	ナグ、ナグ	高台付 口縁端部に僅付着	90
長石	ナグ	ナグ	ヘラ切り後ナグ	ナグ、ナグ		91
長石、雲母、赤色酸化鉄	ナグ	ナグ	ヘラ切り後ナグ	ナグ、ナグ後ナグ	歪み有り	92
長石、石英、雲母 赤色酸化鉄、砂粒	ナグ	ナグ	ヘラ切り後ナグ、	ナグ、ナグ	内外面に赤彩 板状圧痕	93
長石、雲母、赤色酸化鉄	ナグ	ナグ	ナグ、ヘラ切り後ナグ	ナグ、ナグ	内外面に赤彩 板状圧痕	94
砂粒	ナグ、格子タタキ	ナグ、青海波当て具	-	-		95
長石、角閃石	ミガキ	ミガキ	-	-	注口部	96
長石、角閃石、輝石 赤色酸化鉄	ミガキ	ミガキ	-	-	注口部	97
長石、角閃石、雲母 赤色酸化鉄	ミガキ	ミガキ	-	-	頸部に沈澱3条 斜直線文 木の葉文	98
長石、角閃石、雲母	ナグ後ヘラミガキ (杯部・脚部)	ナグ後ヘラミガキ(杯部) ナグ後ヘラミガキ 工具による調整(脚部)	-	-	口縁部に黒斑 2条の沈澱	99
長石、角閃石、雲母	ミガキ	ミガキ、ナグ、節調圧痕	-	-	外面面に僅付着 口縁端部に削み	100
長石、角閃石、雲母 赤色酸化鉄	ミガキ	ミガキ	-	-		101
長石、角閃石、雲母 赤色酸化鉄	ミガキ	ミガキ	-	-	口縁部外面に黒斑 口縁帯 3条の沈澱、斜直線文	102
長石、角閃石、雲母	ミガキ、網目痕	ミガキ	-	-		103
長石、角閃石、雲母 赤色酸化鉄	ミガキ	ミガキ	-	-		104
長石、角閃石	ミガキ	ミガキ	ナグ	ナグ	内外面僅付着	105
長石、角閃石、雲母 赤色酸化鉄、黒色粒子	目数状痕後ミガキ	磨耗のため不明	-	-		106

標記 NO	図版 NO	遺物 NO	器 種	調査区	石 材	計 測 値				層 位 取上げ%	備 考
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
44	23	10	石器	2-3区	安山岩	(6.75)	(4.85)	0.85	20.16	I-18 3層上層	先端及び片側縁欠損。薄手の横長片を素材とし、 打面側を側面に用いる。打面付辺は平頂削磨が施される。
		11	円盤型石器	2-5区	安山岩	10.90	9.95	1.95	237.90	Q-13	整状縁を素材とし、周縁より平頂削磨を施す。 両面とも素材面を残す。上部に潰れが見られる。
		12	刮鉢車	2-3区	粘板岩	(4.70)	(4.70)	0.80	29.25	I-17 3層	両面粗い研磨痕、断面はやや反っている。 石材は結晶片岩の可能性もある。
		13	勾玉	2-3区	粘板岩	(1.30)	(1.70)	0.50	2.05	K-14 3層上層	下半欠損。全面に粗い研磨痕あり、両面とも平頂面がある。 頭部の孔は細く、端部は尖っている。
14	—	—	—	—	—	—	—	P-16 2層	縦長の楕円形を呈し、表面は平坦である。先端部は僅かに 欠損し、全体を丁寧に研磨している。 両面より穿孔されている。		

2 まとめ

今回の調査で検出された方形周溝墓は6基である。周溝及び主体部周辺からは、5世紀前半～中頃の遺物が出土しており、比較的短期間に形成されたことが窺える。これらの方形周溝墓は近接する位置にまとまって築造され、切り合い関係を持たない。

このことは、当該エリアが墓域として強く意識されていたことを示すものと考えられる。調査区周辺は既に宅地化が進んでおり、当該遺構群の広がりについては不明である。今後、周辺地域での予備調査並びに発掘調査の成果をもとに、遺構群の広がりや遺跡全体の様相について明らかにしていく必要があるものと考えられる。

そこで、ここでは2区で検出された方形周溝墓などの遺構や遺物について、調査成果をもとに所見をまとめ、また、併せて、これまで熊本市が周辺で実施した発掘調査成果をもとに当該遺跡群の様相について、若干の考察をまとめておきたい。

(1) 方形周溝墓について

これらのうちSZ02・SZ03・SZ05の3基において主体部を確認した。SZ03の主体部石棺内には3体の人骨が埋葬され、玉2点が出土したほか、朱の付着した礫が検出されている。主体部が確認された3基のうち明確に棺の構造等を確認できたものは、SZ03、1基のみである。SZ03は、板石の組み合わせ式石棺である。主体部断面より、土壌を掘り込み、板石で棺を組み、遺体を安置する棺内の底面を整備後、敷石を敷き詰め、その上に遺体を安置していたと考えられる。SZ05の主体部でも板石片を含め礫が集中し、敷き詰められたように集中している状況から、同様の埋葬施設が存在した可能性があると考えられる。

今回、調査が行われた飛田遺跡群2区から南東に約600m余の位置に羽山塚古墳が所在する。同古墳は昭和54年に発掘調査が実施され、その結果、周溝外縁が直径約50m、内縁が約40mを測る円墳であることが明らかになった。当該古墳から出土した壺、小型甕は、塚原古墳群15号方形周溝墓と類似し、高環は同一型式であることが報告されている。塚原古墳群15号方形周溝墓には須恵器が共存しており、その型的特徴から5世紀中葉に比定さ

れる。そのため羽山塚古墳では須恵器の出土は見られないが、同様の時間的位置づけが妥当であると考えられる。また、羽山塚古墳に近接して確認された方形周溝墓の周溝埋土中からは、5世紀後半の遺物が出土されており、方形周溝墓が5世紀後半以前に築かれたものと推定される。

このように2区で検出された1～6号方形周溝墓は、当該遺跡群に所在する羽山塚古墳とほぼ同時期に存在した可能性が指摘でき、当該地域を考えると重要であろう。

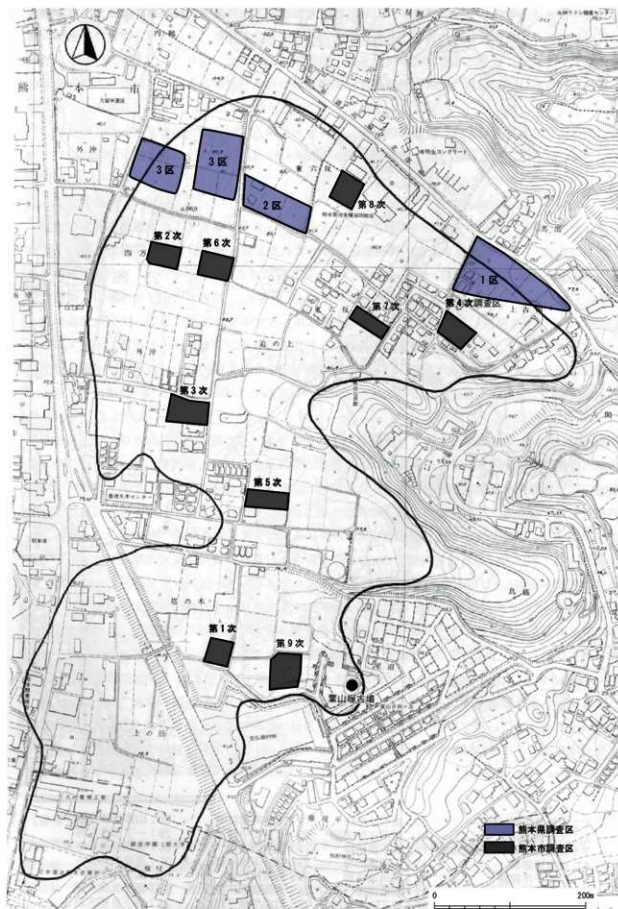
(2) 周辺での調査から見た遺跡群の様相

これまで当該遺跡群では、各種開発事業に伴って熊本市による予備調査や発掘調査が実施されている(第45図)。予備調査の結果については公表されていないため、9次に及ぶ発掘調査のうち公表されている3～9次の成果から当該遺跡群を俯瞰することとした。

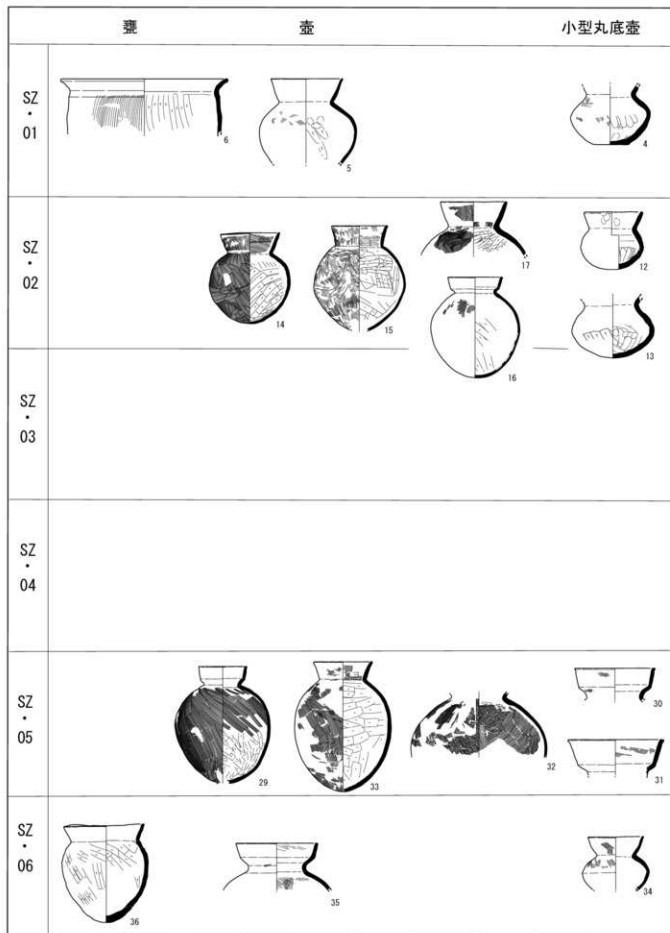
これまでの発掘調査では、古代を中心に縄文時代後・晩期や古墳時代の遺構、遺物を確認されている。調査区の位置関係は、第45図のとおりである。当該遺跡群は、熊本市北部に広がる洪積台地南端、東西を南流する坪井川と井芹川に挟まれた台地上に南北に細長く広がる。4次及び7次調査地点の南側で大きく谷部が湾入する地形的特徴を示す。1区に近い4次調査では、2間×2間の総柱掘立柱建物跡1棟が検出され、北西隅の柱穴から8世紀後半の荒尾産須恵器の高環が出土している。

その外、8世紀後半～9世紀初頭のカマドを持つ竪穴建物2軒も検出されている。6次調査では、90cm幅で南東-北西方向に延びる道路遺構が検出され、道路西側の一段高い位置に硬化面が形成され、硬化面中から8世紀中頃～9世紀代の土師器、須恵器が出土している。7次調査では道路状遺構、土坑が検出されており、8世紀末～9世紀初頭の土師器、須恵器が出土している。

8次調査については、遺構・遺物は図示されていないが、竪穴建物跡、掘立柱建物跡が検出されている。9次調査では古代の包含層は確認されているが、遺物は少なく詳細な時代の特定は困難である。



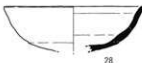
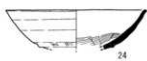
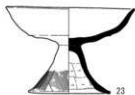
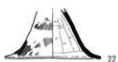
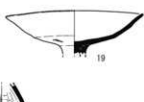
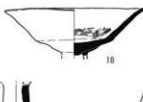
第45図 飛田遺跡群 調査区位置図 (S=1/5000)



第46図 飛田遺跡群 方形周溝墓・土器配置図

高杯

鉢



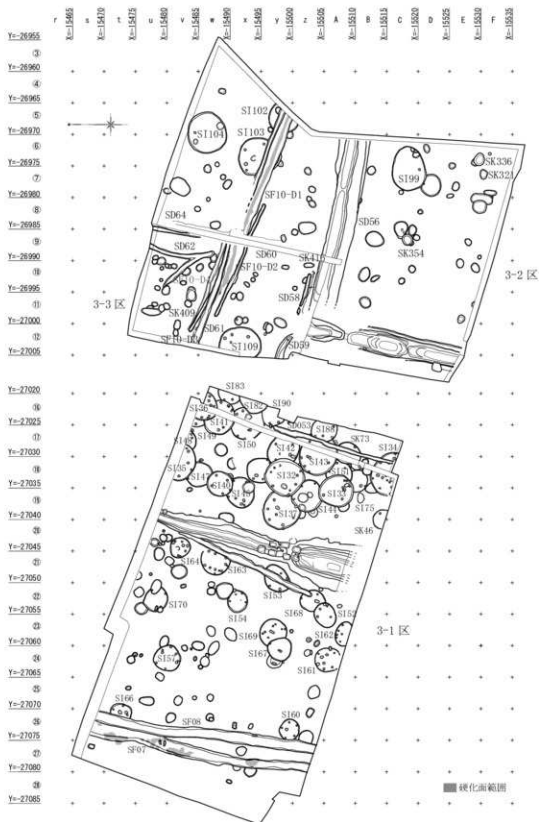
第2節 調査3区

1 遺構とその分布 (第47図)

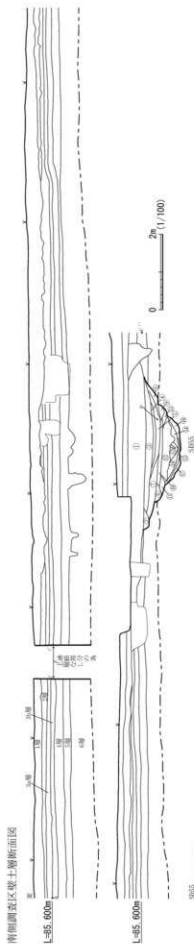
飛田遺跡群3区は、調査工程から便宜的に3-1～3-3区に区分し作業を実施した。この調査区の時期

は、3・4層より検出し、出土した遺物により、縄文時代後・晩期である。また、遺物だけではあるが、旧石器時代・古代以降の遺構も検出している。

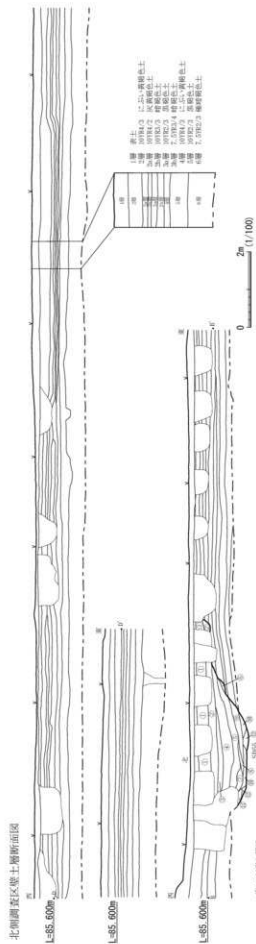
以下、各遺構を時代ごとに説明を加える。



第47図 飛田遺跡群3区 遺構配置図 (S=1/600)



- ① 10R21.1 砂礫土 粘性あり
 ② 10R21.2 砂礫土 粘性あり
 ③ 10R21.3 砂礫土 粘性あり
 ④ 10R21.4 砂礫土 粘性あり
 ⑤ 10R21.5 砂礫土 粘性あり
 ⑥ 10R21.6 砂礫土 粘性あり
 ⑦ 10R21.7 砂礫土 粘性あり
 ⑧ 10R21.8 砂礫土 粘性あり
 ⑨ 10R21.9 砂礫土 粘性あり
 ⑩ 10R21.10 砂礫土 粘性あり
 ⑪ 10R21.11 砂礫土 粘性あり
 ⑫ 10R21.12 砂礫土 粘性あり
 ⑬ 10R21.13 砂礫土 粘性あり
 ⑭ 10R21.14 砂礫土 粘性あり
 ⑮ 10R21.15 砂礫土 粘性あり
 ⑯ 10R21.16 砂礫土 粘性あり
 ⑰ 10R21.17 砂礫土 粘性あり
 ⑱ 10R21.18 砂礫土 粘性あり
 ⑲ 10R21.19 砂礫土 粘性あり
 ⑳ 10R21.20 砂礫土 粘性あり
 ㉑ 10R21.21 砂礫土 粘性あり
 ㉒ 10R21.22 砂礫土 粘性あり
 ㉓ 10R21.23 砂礫土 粘性あり
 ㉔ 10R21.24 砂礫土 粘性あり
 ㉕ 10R21.25 砂礫土 粘性あり
 ㉖ 10R21.26 砂礫土 粘性あり
 ㉗ 10R21.27 砂礫土 粘性あり
 ㉘ 10R21.28 砂礫土 粘性あり
 ㉙ 10R21.29 砂礫土 粘性あり
 ㉚ 10R21.30 砂礫土 粘性あり
 ㉛ 10R21.31 砂礫土 粘性あり
 ㉜ 10R21.32 砂礫土 粘性あり
 ㉝ 10R21.33 砂礫土 粘性あり
 ㉞ 10R21.34 砂礫土 粘性あり
 ㉟ 10R21.35 砂礫土 粘性あり
 ㊱ 10R21.36 砂礫土 粘性あり
 ㊲ 10R21.37 砂礫土 粘性あり
 ㊳ 10R21.38 砂礫土 粘性あり
 ㊴ 10R21.39 砂礫土 粘性あり
 ㊵ 10R21.40 砂礫土 粘性あり
 ㊶ 10R21.41 砂礫土 粘性あり
 ㊷ 10R21.42 砂礫土 粘性あり
 ㊸ 10R21.43 砂礫土 粘性あり
 ㊹ 10R21.44 砂礫土 粘性あり
 ㊺ 10R21.45 砂礫土 粘性あり
 ㊻ 10R21.46 砂礫土 粘性あり
 ㊼ 10R21.47 砂礫土 粘性あり
 ㊽ 10R21.48 砂礫土 粘性あり
 ㊾ 10R21.49 砂礫土 粘性あり
 ㊿ 10R21.50 砂礫土 粘性あり



- ① 10R22.1 砂礫土 粘性あり
 ② 10R22.2 砂礫土 粘性あり
 ③ 10R22.3 砂礫土 粘性あり
 ④ 10R22.4 砂礫土 粘性あり
 ⑤ 10R22.5 砂礫土 粘性あり
 ⑥ 10R22.6 砂礫土 粘性あり
 ⑦ 10R22.7 砂礫土 粘性あり
 ⑧ 10R22.8 砂礫土 粘性あり
 ⑨ 10R22.9 砂礫土 粘性あり
 ⑩ 10R22.10 砂礫土 粘性あり
 ⑪ 10R22.11 砂礫土 粘性あり
 ⑫ 10R22.12 砂礫土 粘性あり
 ⑬ 10R22.13 砂礫土 粘性あり
 ⑭ 10R22.14 砂礫土 粘性あり
 ⑮ 10R22.15 砂礫土 粘性あり
 ⑯ 10R22.16 砂礫土 粘性あり
 ⑰ 10R22.17 砂礫土 粘性あり
 ⑱ 10R22.18 砂礫土 粘性あり
 ⑲ 10R22.19 砂礫土 粘性あり
 ⑳ 10R22.20 砂礫土 粘性あり
 ㉑ 10R22.21 砂礫土 粘性あり
 ㉒ 10R22.22 砂礫土 粘性あり
 ㉓ 10R22.23 砂礫土 粘性あり
 ㉔ 10R22.24 砂礫土 粘性あり
 ㉕ 10R22.25 砂礫土 粘性あり
 ㉖ 10R22.26 砂礫土 粘性あり
 ㉗ 10R22.27 砂礫土 粘性あり
 ㉘ 10R22.28 砂礫土 粘性あり
 ㉙ 10R22.29 砂礫土 粘性あり
 ㉚ 10R22.30 砂礫土 粘性あり
 ㉛ 10R22.31 砂礫土 粘性あり
 ㉜ 10R22.32 砂礫土 粘性あり
 ㉝ 10R22.33 砂礫土 粘性あり
 ㉞ 10R22.34 砂礫土 粘性あり
 ㉟ 10R22.35 砂礫土 粘性あり
 ㊱ 10R22.36 砂礫土 粘性あり
 ㊲ 10R22.37 砂礫土 粘性あり
 ㊳ 10R22.38 砂礫土 粘性あり
 ㊴ 10R22.39 砂礫土 粘性あり
 ㊵ 10R22.40 砂礫土 粘性あり
 ㊶ 10R22.41 砂礫土 粘性あり
 ㊷ 10R22.42 砂礫土 粘性あり
 ㊸ 10R22.43 砂礫土 粘性あり
 ㊹ 10R22.44 砂礫土 粘性あり
 ㊺ 10R22.45 砂礫土 粘性あり
 ㊻ 10R22.46 砂礫土 粘性あり
 ㊼ 10R22.47 砂礫土 粘性あり
 ㊽ 10R22.48 砂礫土 粘性あり
 ㊾ 10R22.49 砂礫土 粘性あり
 ㊿ 10R22.50 砂礫土 粘性あり

第50図 3-2区 南及び北側調査区土層断面図 (S=1/100)

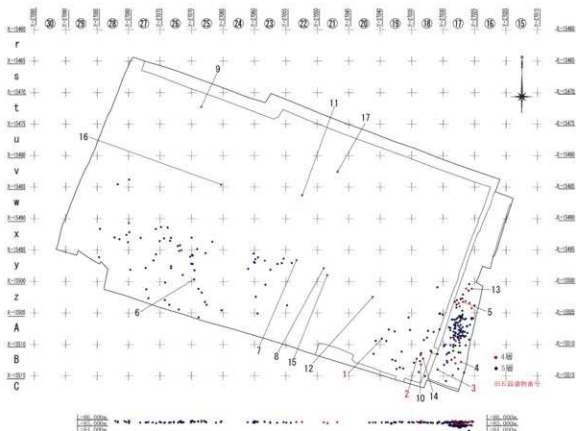
旧石器時代

3区においては、時間的な制約により、グリッドを絞っての発掘調査を行った。

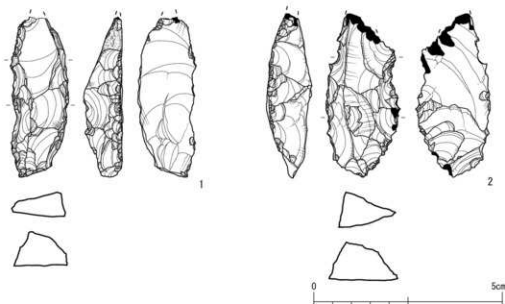
当該期の遺構は検出されていないが、旧石器時代の遺物は、5点である。

その内訳は、三稜尖頭器2点、剥片尖頭器1点

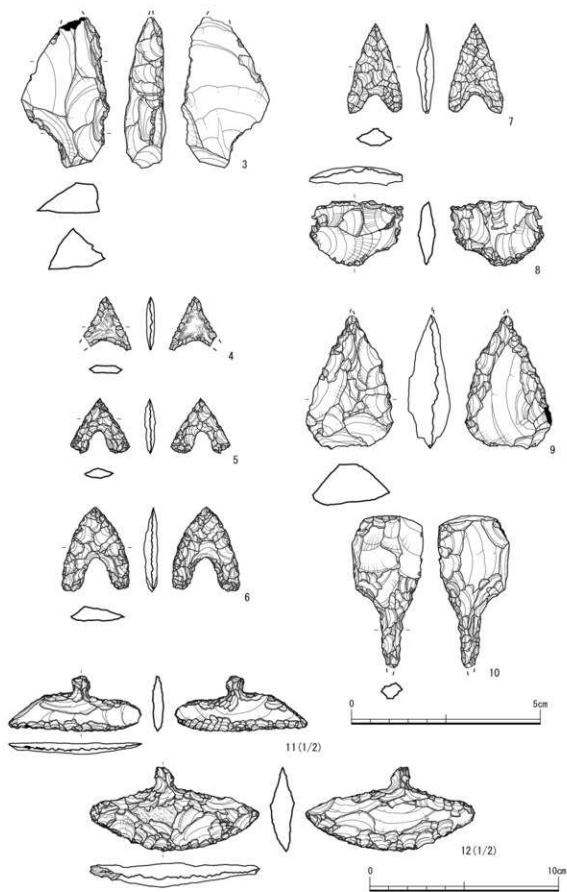
(3-1区出土)、ナイフ型石器2点(3-2区出土)である。剥片等、他に遺物が見られないため、製品として搬入された可能性が高い。これらの遺物は、当該期の活動の痕跡を知る上でも重要であるので、以下に観察所見をまとめておく。



第52図 3-1区 4・5層 石器分布図 (S=1/600)



第53図 3-1区 4・5層 石器実測図 -1-



第54图 3-1区 4·5层 石器实测图-2-

(1) 三稜尖頭器 (第52・53図1・2)

1は、A-㊸グリッド内5層下より、2は、B-㊸グリッド内4層より出土している。石材は共に黒曜石である。1は、先端部は欠損しているが、片側先端部に礫面が残る。基部側に稜上調整、裏面の先端部だけに二次加工が施される。2は、先端部と側縁部に一部欠損が見られる。周縁より調整、裏面の下半部にのみ、平坦剥離が施されている。

(2) 剥片尖頭器 (第52・54図3)

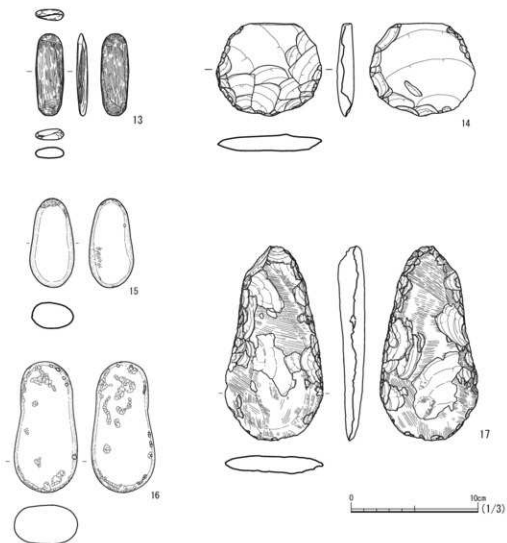
B-㊸グリッド5層下より出土。石材は安山岩で、石質は緻密で良質である。縦長剥片を素材とし、両側縁にプランティングを施している。基部左側に抉

入が見られる。

(3) ナイフ型石器 (第56・57図18・19)

18はD-㊸グリッド、19はV-㊸グリッドで共に5層より出土している。

石材は共に安山岩である。石質は、風化が見られるものの、剥片尖頭器同様緻密で、良質である。18は、縦4cm・幅1cm程の小ぶりの縦長剥片を素材とし、一部を除いてほぼ全周にプランティングが施されている。19は、縦6cm・幅3cm程度とやや大きい。先端部に欠損が見られるが、縦長剥片を素材とし、先端と基部にプランティングが施されている。また、刃部には使用痕が見られる。

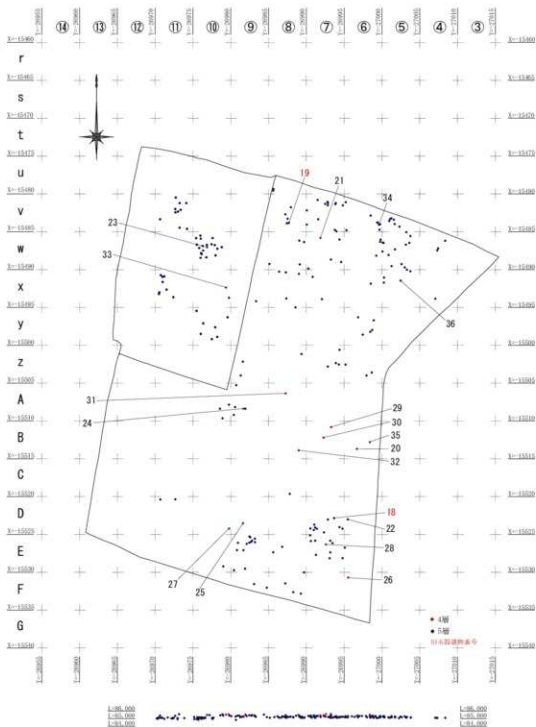


第55図 3-1区4・5層 石器実測図 -3-

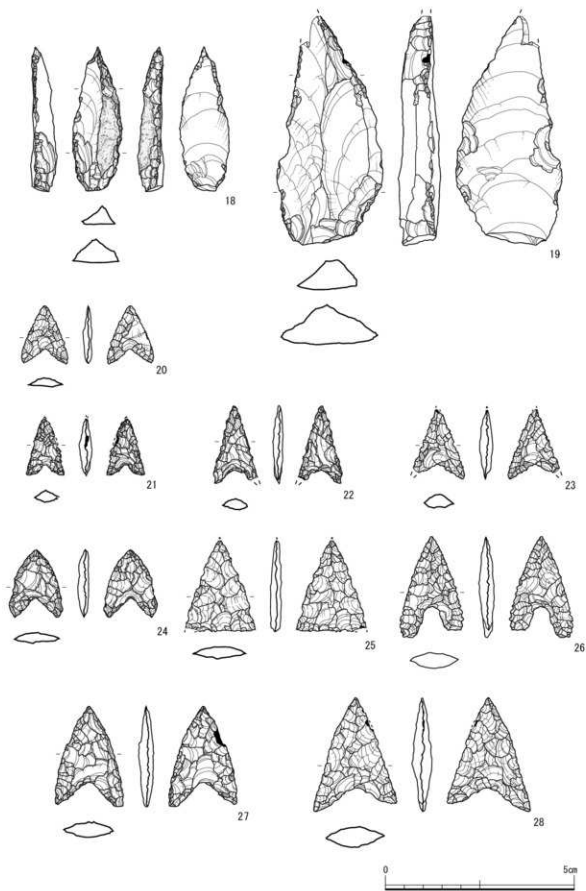
本調査区での、旧石器時代の遺物として出土したものは5点である。この出土により、この地において人々の生活の痕跡が旧石器時代にまでさかのぼることが確認された。

4・5層より出土した石器について補足を加える。

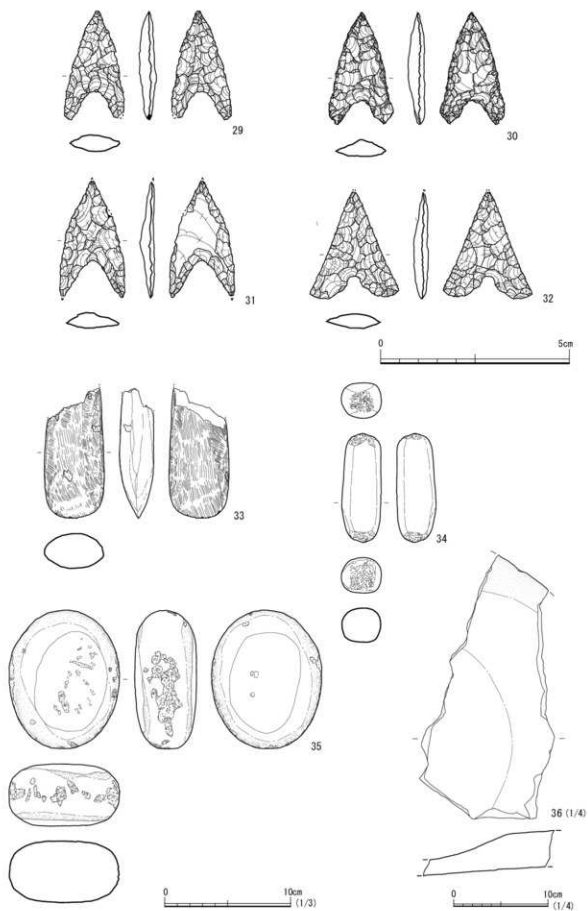
(第52・56図4・5層石器分布図)。この層の石器は、旧石器時代から縄文時代のものである。出土遺物の大部分は、黒曜石の剥片であり、次いで打製石鏃である。



第56図 3-2・3-3区 4・5層 石器分布図 (S-1/500)



第57図 3-2・3-3区4・5層 石器実測図-1-



第58图 3-2・3-3区 4・5層 石器実測図-2-

縄文時代 (第59図)

遺構として、竪穴建物・土坑・柱穴群を検出した。

(1) 竪穴建物

円形を呈する竪穴建物として確認したのは、総数42基である。3-1区で37基と最も多く、3-2区で4基、3-3区で1基を確認した。いずれにしても、検出した遺構は、一部しか残存しないものもある。

遺構・柱跡の深度も浅く、建物として検証することが非常に困難であった。しかし、調査時の所見を尊重し、竪穴建物としてS1を付記している。

遺構内からは、北久根山式、三万田式、御領式土器等の出土により、縄文時代後・晩期にかけての竪穴建物とした。

3-1区 S132 (第60・61図)

この遺構は、調査区東側に位置し、y-⑧グリッドを中心に一部y-⑨、z-⑧グリッドにかかる。SI37・SI44と切り合う遺構である。平面形態は正円に近く、長径約6.4m、短径6.0mである。検出面からの深さは、約10cmで、深いところで15cm程度と全体的に浅い。埋土は、4層ブロックをわずかに含む土で、黒褐色土で、やや粘性のある土である。

柱穴は8基確認できた。直径が24～32cm程度、深さが床面から8cm程度である。

灰跡は確認できなかったが、中心からやや左寄りに土坑を検出した。

主な遺物は、斜直線文、押点文が施された浅鉢(1)、内底面に煤が付着し、粘土の貼付痕が見られる深鉢(2)、口縁部分の残存であるが、口径が約45cmで、内器面に黒斑が見られる深鉢(3)。そして、打製石斧(37)が出土した。

3-1区 S137 (第60・61図)

SI32の左側に位置し、y-⑨グリッドを中心とする。平面形態は、正円に近く長径約6.2m、短径約5.2mである。深さは8cm程度と浅い。埋土は、炭化物・橙色粒を少量、4層ブロックを多く含んでいる。

柱穴は、7基確認ができ、径・深さ共にSI32と同様で、直径が24～32cm、深さ8cm程度である。

中央よりやや北側に土坑を検出したが、炭化物・

焼土粒を部分的に多く含む埋土であることから、灰跡の可能性はある。

この遺構より、底径約3cm、高さ5cm程度で、細線羽状文の施された台付鉢の脚部(4)のみが出土した。

3-1区 S144 (第60・61図)

この遺構は、z-⑨グリッドを中心に一部z-⑩にかかる。SI32・37と切り合い関係にある。

長径約5.0m、短径約4.8mである。深さは12cm程度であり、粘性があり、褐色ブロック・一部炭化物・橙色粒を含んだ埋土である。

柱穴は、4基確認でき、直径は約28～32cm、深さ8cmと浅い。

中央付近に直径約80cm、床面からの深さ約16cmの土坑を検出した。焼土物・炭化物を含む埋土が確認されたことから、灰跡の可能性が高い。

出土遺物は、口径約21cmの浅鉢で、口縁部に細線羽状文・押点を施した文様帯を構成している。その他、黒色磨研土器(5)円盤型土器(38)が出土した。

3-1区 S133 (第62・63図)

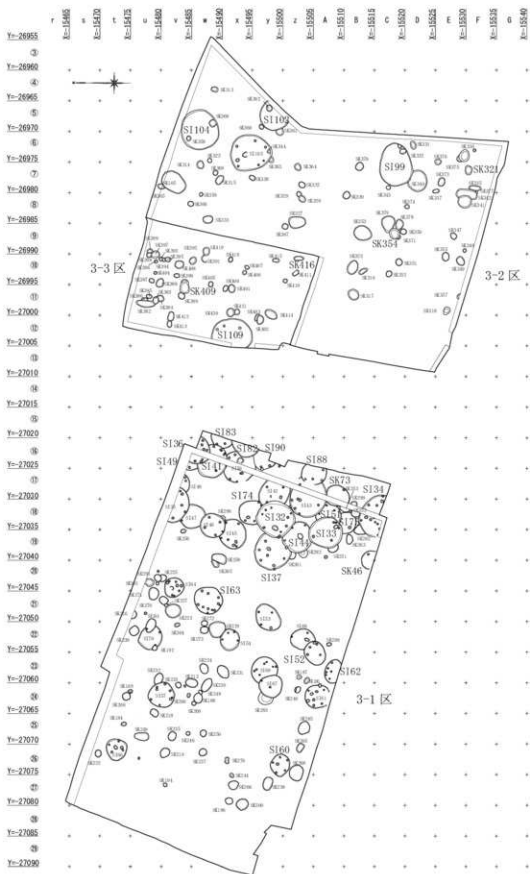
この遺構は、調査区の東南に位置し、A-⑩・⑪グリッドにかけて検出した。SI51と切り合い関係にある。

長径約6.1m、短径約5.0mのやや楕円形を呈す。遺構検出面から床面までの深さは6cmとごく浅い。埋土は黄褐色粒、及び4層ブロックを多く含み、粘質がある。

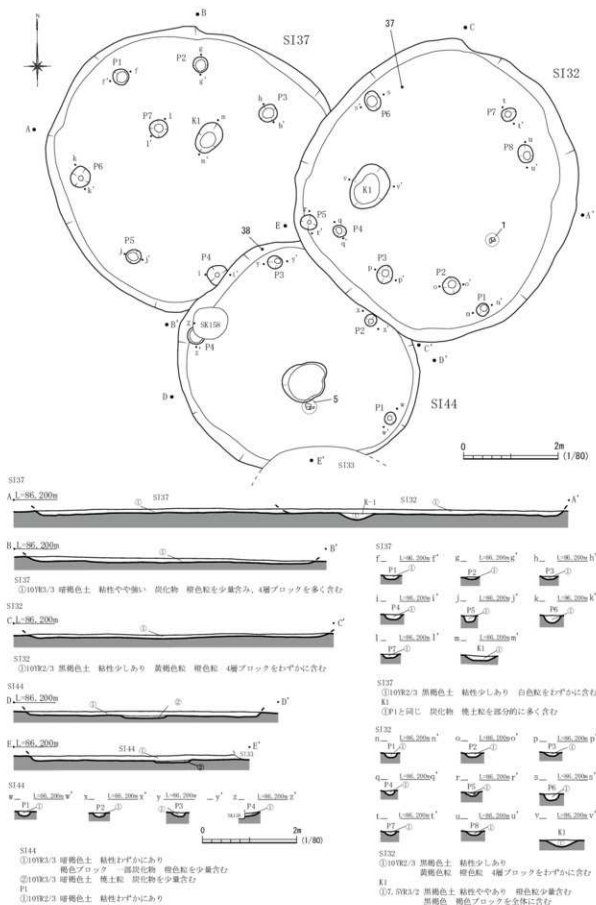
柱穴と思われるものを3基確認したが、いずれも直径が30cm程度で、深さが約6cmと浅いことから、柱穴として良いものか疑問である。

南東側に長径が約84cm、深さは約6cmの土坑を検出した。

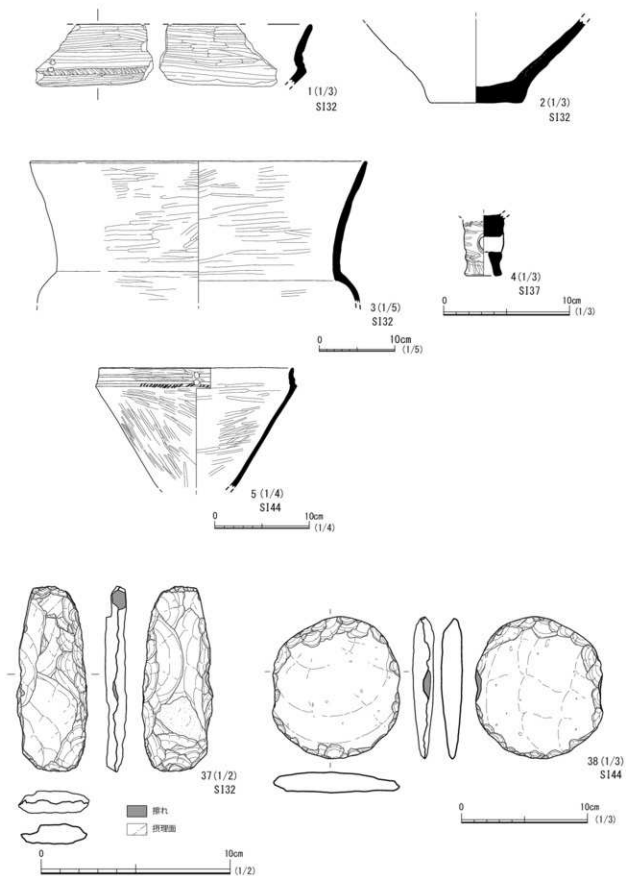
出土遺物は、断面が「く」の字形で、細線羽状文を施した浅鉢(6)、口径約31cmで広がりを持ち、頸部がしまり、細線羽状文、押点文を施した浅鉢(9)、底部がいくぶん上げ底で粘土貼付痕の見られる深鉢(7)、口径22cmで頸部が張り出しており、細線羽状文・中心に刺突文のある押点文を施した深鉢(8)、口径が約26cmで、胴部がややふくらみ



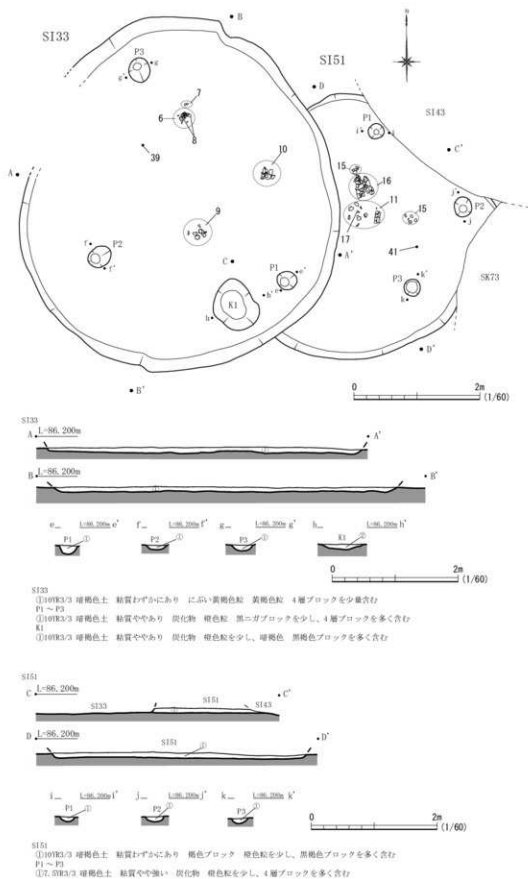
第59図 飛田遺跡群3区 遺構配置図(S=1/600) - 縄文 -



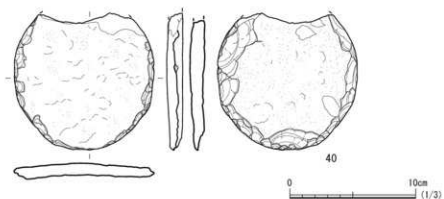
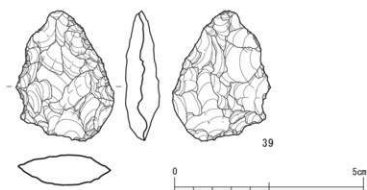
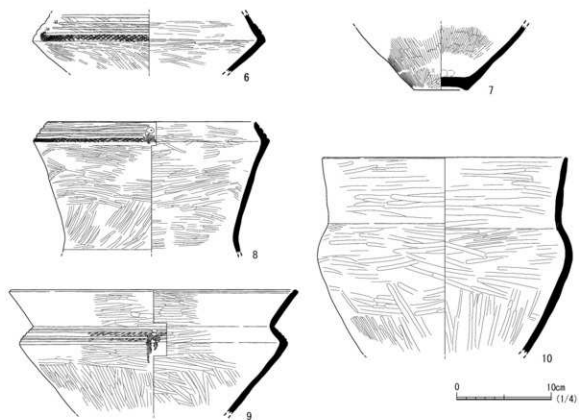
第60図 3-1区 SI32・37・44実測図



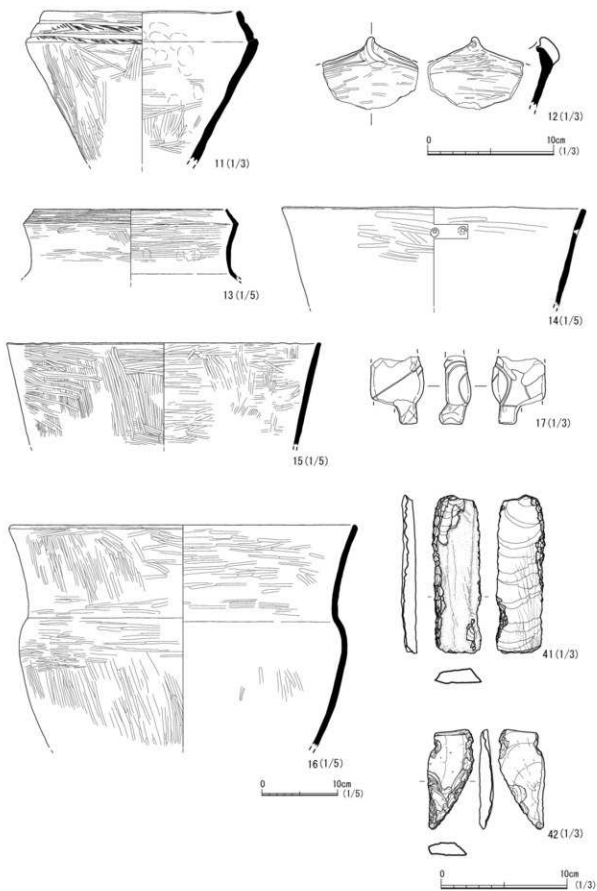
第61图 3-1区 S132・37・44 遺物実測図



第62図 3-1区 SI33・51実測図



第63図 3-1区 S133 遺物実測図



第64図 3-1区 SI51遺物実測図

を帯びている深鉢(10)、そして尖頭器(39)、円盤型石器(40)等遺物が集中して出土した。

3-1区 S I 5 1 (第62・64図)

この遺構は、A-⑧グリッドに位置し、西側半分をSI33によって切られる。また、北東・南東側を一部SI43・SK73によって切らる。長径約4.1m、短径約3.9mである。深さは6cmと浅く、粘質がわずかにあり、褐色ブロック、粒を少量と黒褐色ブロックを多く含んだ土である。

柱穴は3基で、径が25～30cmで、深さは10cm未満である。

遺物が、遺構中央付近に多く出土した。主なものとして、口縁に細線羽状文を施し、径が約16cm、頭部がやや内曲している浅鉢(11)、押線を施した鉢(12)、口縁の断面が「く」の字形で、外器面に黒斑が見られる深鉢(13)。口径が約40cmで、2個の補修孔がある深鉢(14)と同じく口径約42cmの大きめの深鉢(15)、径が約46cmで、頭部がやや締めまり胴部が曲線を描き、内器面に黒斑が見られる深鉢(16)や、全幅約4cmの土偶の一部で、胴体から足にかけての部分(17)が出土した。この足部分には、ヘラによる工具痕が見られる。他に削器(41)、石匙(42)が出土した。

3-1区 S I 3 4 (第65図)

この遺構は、B-⑧グリッドに中心をおき、一部B-⑨、C-⑨グリッドにかかる。調査区南側端であるため、北側半分の検出である。また、東側を南北に走る後世の溝によって削られている。長径約7.3m、短径約4.4mと平面は、楕円を呈している。深さは10cm程度で、橙色粒・黄褐色粒をわずかに含む土である。

柱穴と見られものは、12基確認ができたが、不規則な並びであると同時に、個数が多すぎるため、全てを柱穴とは考えにくい。直径は大部分が30～36cmであるが、P6とP11に関しては、48cmとやや大きい。深さは、6～12cmであるが、P1が一番深く18cmある。また、P10からは、土偶の足が出土した。さらには、北西側に長径が1.2mで、深さが12cm程の土坑を検出した。埋土は3層から成っている。

P12は、遺構の中央にあり、埋土に赤色粒や炭化物粒が少量含まれており、炉跡の可能性もある。ただし、調査区端であるため、全ては検出できていない。

出土遺物は、外面に凹線紋及び口唇部に刻目があり、口径が約32cmの深鉢(18)と口径が約22cmで、押点文及び外器面に煤の付着、粘土積み上げ痕が見られる浅鉢(19)、及びP10内から高さ約4cm土偶の足(20)と打製石鏃(43)が出土した。

3-1区 S I 3 6 (第66・67図)

この遺構は、w-⑧グリッドに位置し、南側半分の検出であり、SI41の北側・SI49の東側を切った状態で、長径約4.9m、短径4.8mである。深さは12cm程度で、暗褐色土で粘質が強く、炭化物・橙色粒・黒ニガブロックを少量含んだ土である。

柱穴と見られるものは6基で、約30cmの径で、深さは約12cmである。

出土遺物は、口径が約17cm、細線羽状文を施し、外記面に煤が付着している浅鉢、黒色磨研土器(21)と打製石鏃(44)、敲石(45)が出土した。

3-1区 S I 4 1 (第66・67図)

この遺構は、w-⑨に中心をおき、一部w-⑩、x-⑨グリッドにかかる。北側をSI36によって切られており、SI49の南側・SI83の東側を切っている。長径5.4m、短径5.1mでほぼ正円である。深さは、10cm程で、粘質はやや強く、白色粒・橙色粒・黒ニガブロック・4層ブロックを少量含んだ土。

柱穴と見られるものを6基確認したが、径が40cm内外で、深さが10cm弱と浅い。

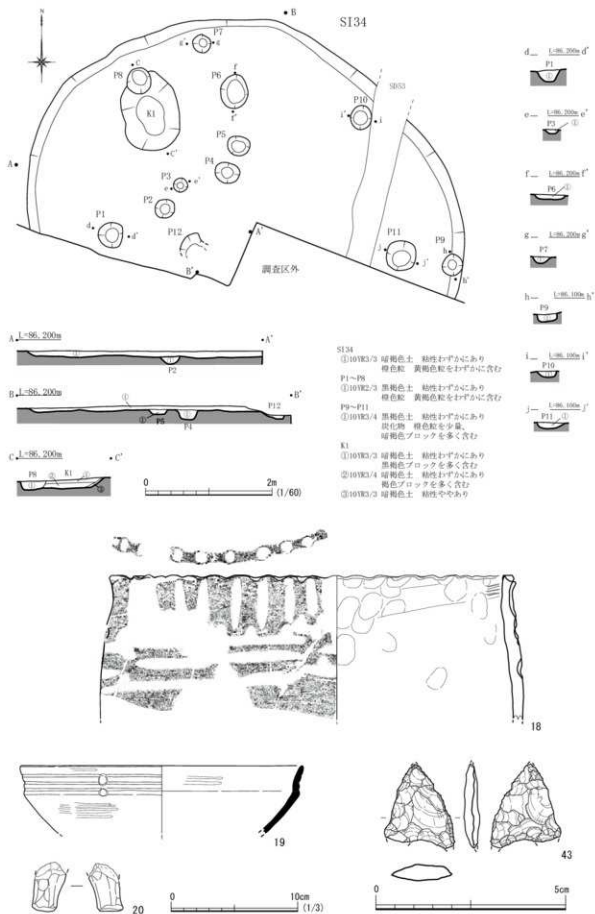
出土遺物は、台付鉢の脚部(22)で、脚部中央に穿孔があり台部に細線羽状文を施したものである。

3-1区 S I 4 9 (第66・67図)

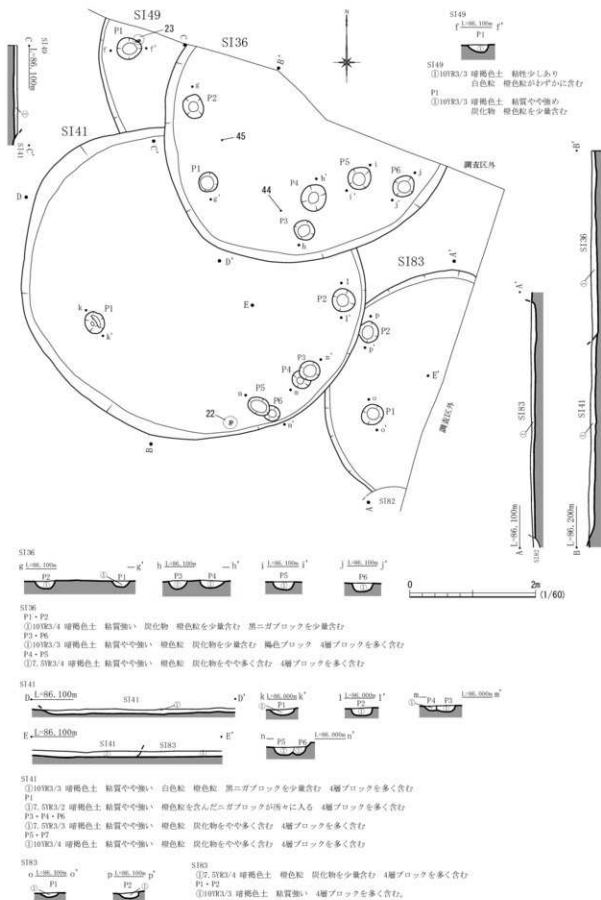
この遺構は、v・w-⑨グリッドに位置し、大部分をSI36・41によって切られている。深さは6cmとごく浅い。

1基の柱穴を検出したが、30cm、深さ12cm程である。

出土遺物は、鉢の口縁裝飾部分(23)が出土し、摺り糸文を施す。



第65図 3-1区 SI34遺構・遺物実測図



第66図 3-1区 SI36・41・49・83実測図

3-1区 S183 (第66図)

調査区東側 w・x-㊸グリッドにて、西側半分を
検出。直径 3.7m 程で、他に比べればやや小規模の
遺構である。深さは 6cm と浅い。

2 基の柱穴を検出したが、直径 30cm、深さ 6cm
とごく浅く、柱穴とするには難しい。

出土遺物も見当たらなかった。

3-1区 S142 (第68・69図)

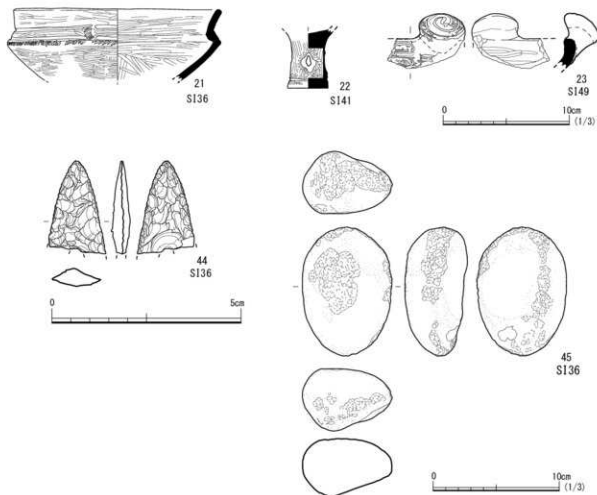
この遺構は、y-㊸に中心をおき、一部 y-㊸・z-
㊸にかかる。平面形は、長径が 5.1m、短径が 4.8m
である。遺構検出面からの床面までの深さは 10cm
前後である。埋土は、粘質があり橙色粒、黄褐色粒
を主体として白色粒がわずかに入り、黒褐ブロッ
クの上である。

柱穴は、5 基確認できた。直径が約 30cm で、
P1・4 は、深さが 16 ~ 18cm 程で、他 3 基につい
ては、6cm と浅く、柱穴とするには難しい。

出土遺物は、口径が 30cm で、内器面に黒斑が
見られる深鉢が 3 点 (26・27・28)、口径 20cm で、
口縁部が低い山形をなしている深鉢 (25)。他に外
底部に煤の付着が見られる鉢の底部 (24)、打製石
鏃 (46)、十字型石器 (47) 等、他の遺構に比べて
多く出土した。

3-1区 S143 (第70図)

Z・A-㊸・㊸グリッドに位置し、東側を S188 に
よって切られている。平面形は長径が 6.8m、短径が
6.0m 程と東西に伸びた楕円形を呈し、他の竪穴建
物に比べやや規模は大きい。検出面から床面までの



第67図 3-1区 S136・41・49 遺物実測図

深さは、8cm程であり、他の遺構と同じように橙色粒、白色粒をわずかに含み、黒褐ブロックを多く含む土である。

柱穴と見られる遺構を、7基検出したが、直径は、約30～40cmで、深さは約16cmである。うちP2・P7に関しては、約6～8cmと浅い。

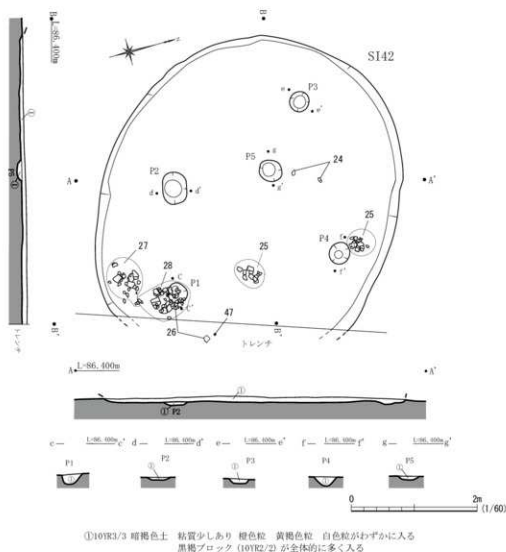
この遺構からは、口径が約31cm、口唇部及び、胴部にも刻み目突帯が施された深鉢(29)が出土している。

3-1区 S188 (第70・71図)

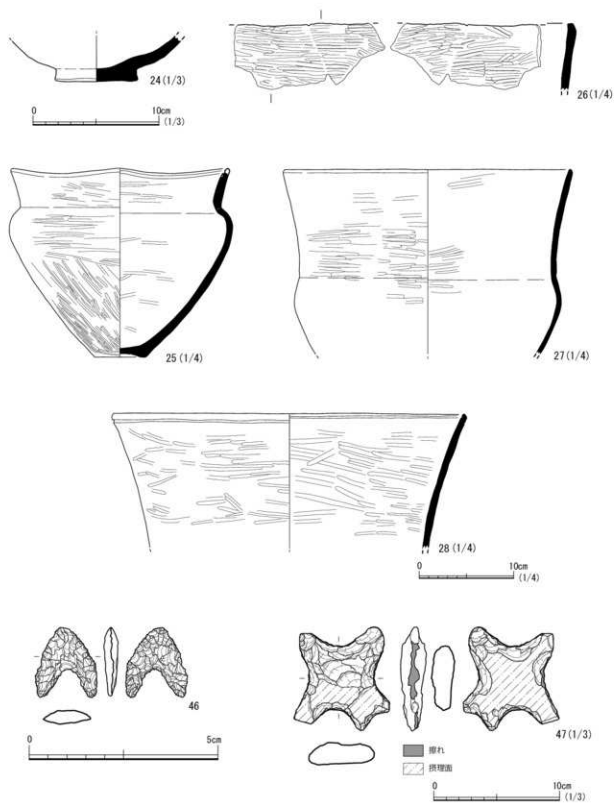
z・A・㊸グリッドに位置し、SI43の西側を切っていると同時に、古代の溝によって切られた状態である。長径が4.0m、短径が3.9mとほぼ正円を呈している。深さは、約8cmで、粘質が強く、炭化物、橙色粒を含み、暗褐色土をブロック状に多く含む。

柱穴と見られるものは、5基。規模は、32cm、深さが8cmと浅いが、削平を受けている部分を除けば、ほぼ規則的に同じ大きさ・深さで並ぶ。

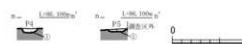
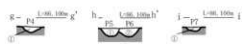
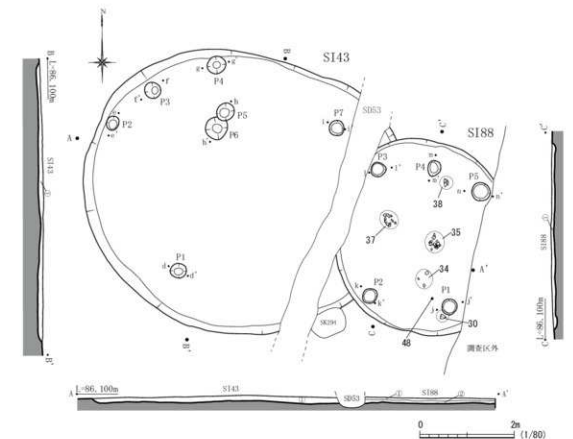
出土遺物は多く、口径が20cm前後のものが多い。



第68図 3-1区 SI42 実測図



第 69 図 3-1 区 SI42 遺物実測図



SI43
 ①10YR3/3 暗褐色土 粘性少しあり 褐色粒 黄褐色粒 白色粒をわずかに含む
 黒腐ブロックが全体的に多く入る

P1・P4 ①10YR3/3 暗褐色土 粘性ややあり 褐色粒を少量含む

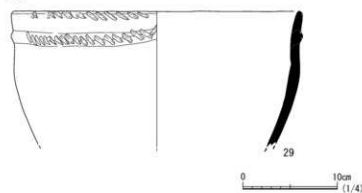
P2・P3・P5 ①10YR3/3 暗褐色土 粘性ややあり

P6 ②10YR3/4 暗褐色土 粘性ややあり

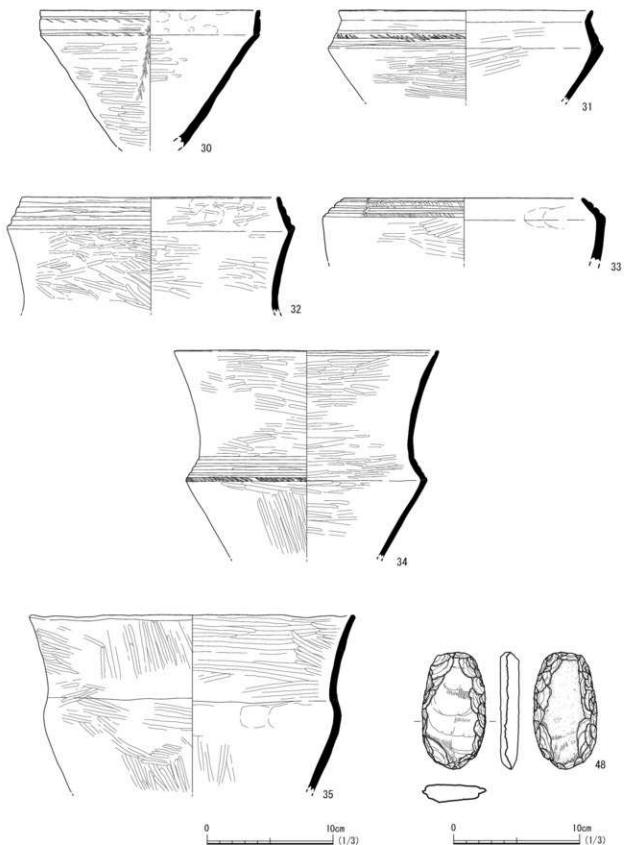
P7 ①7.5YR3/3 暗褐色土 粘性やや強い 焼土 黑色粒 4層ブロック含む

SI88
 ①10YR3/3 暗褐色土 粘質やや強い
 炭化物 褐色粒やや多めに、4層ブロック多く含む
 P1～P5 ①7.5YR3/3 暗褐色土 粘性やや強い 褐色粒を少々含む

SI43



第70図 3-1区 SI43・88遺構・遺物実測図



第71図 3-1区 SI88 遺物実測図

斜直線文・細線羽状文を施した浅鉢(30・33)、同じく細線羽状文を施した浅鉢(31)、胴部がやや内反している深鉢(32)、口縁から頸部までやや長さをもち、胴部に刻目が施された深鉢(34)、口唇部がやや外反しており、内外器面に黒斑が見られる深鉢(35)と併せて打製石斧(48)等が出土した。

3-1区 S150 (第72・73図)

x・㊸・㊹グリッドに位置し、東側をS182によって切られている。直径5.2mとほぼ正円を呈している。中央寄りに一部攪乱によって削られている。

長径60cm、深さ約12cmの土坑を検出した。炭化物、暗褐色土ブロックを多く含む土であるが、焼土を含まないため、好跡と考えるには難しい。

柱穴は6基検出したが、径は、24～32cm程で、深さはP1・P4が4cmとごく浅い。その他は約8～12cmで円周に沿ってほぼ、等間隔に並んでいる。

出土遺物は多く、鉢の口縁部分(36)と底部が上げ底の深鉢(37)、口径が40cmと大きめで、内器面に黒斑が見られる深鉢(38)、そして細線羽状文を施した注口土器の注口部(39)、その他、敲石(49)、打製石斧(50)、磨石(51)等の石器類も出土した。

3-1区 S182 (第72・74図)

調査区東側x・㊸グリッドに西側半分程度を検出。南北の直径が約4.2mで、検出面から床面まで約12cmの埋土は、粘質がやや強く、炭化物、橙色粒土、暗褐色土ブロックを多く含む土である。西側、北側の一部がそれぞれS150・S190を切っている。中央寄りに直径約52cm、約深さ8cmの土坑を検出。焼土、炭化物を多く含む土であることから、好跡の可能性はある。

柱穴は、円周に等間隔で4基確認できた。P1が直径が40cm、その他は、約32cmで、深さは4基とも約10cmである。

主な出土遺物は、鉢(40)や口径が22cmの浅鉢(41)、沈線が2条(42)、凹線文が施されている(43)、また、口径が約40cmで黒斑が見られる(44)、ナデ後貝殻痕のある(45)深鉢が計4個、そして円盤型石器(52)が出土した。

3-1区 S190 (第72・74図)

調査区東側端で、y・㊸グリッドに位置する。北東をS182によって切られ、径約3.7mとほぼ正円を呈している。深さは、6cm程とごく浅い。炭化物、橙色粒・黒褐色ブロック少量、暗褐色土ブロックを多く含む。

柱穴は2基で、直径が約32cm、約深さ10cmである。

この遺構からは、口径が約32cmある深鉢(46)が出土した。

3-1区 S152 (第75図)

z・A・㊸・㊹グリッドに位置し、長径3.8m、短径3.2mの楕円形を呈している。深さは4cmと浅い。暗褐色土で、粘性があり、黒褐色土ブロックを少量含む。

この遺構からは、直径が32～40cmで、深さが約8～12cmの柱穴を4基確認した。

出土遺物は、外器面の一部に赤彩をおび、凹線文のある鉢(47)が出土した。

3-1区 S160 (第76図)

この遺構は、y・z・㊸グリッドに位置し、長径約3.7m、短径約3.1mで東西に主軸をおく楕円形を呈する。深さは、9～12cmで浅い。土質は、粘性が強く、炭化物、橙色粒を少量、黒褐色ブロックを多く含む。中央付近に、直径約42cm、約さ9cmの土坑を検出したが、炭化物を少量含むのみで、好跡としては考えにくい。

柱穴は、直径24～30cm、深さは約6～9cmで円周に沿って等間隔に並ぶ5基を検出した。

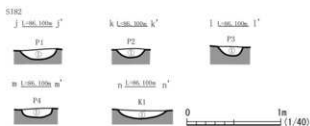
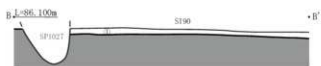
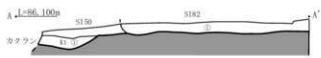
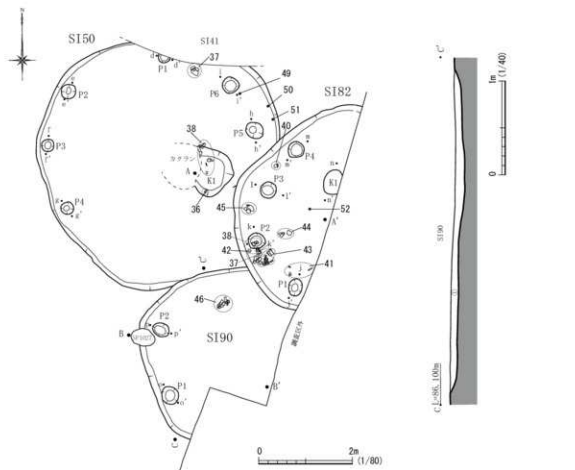
出土遺物は、口径約26cmで細線羽状文を施す浅鉢(48)、磨石(53)が出土した。

3-1区 S162 (第77図)

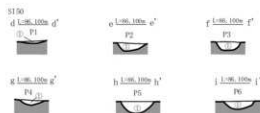
調査区南側端、A・㊸グリッドに位置する。東西の径は約4.0mで、楕円形を呈する。深さ約8cm、粘性がやや有り、黒褐色土ブロックを少量含む。

柱穴と見られるものは、6基で、P4・5の直径が20cmとやや小さく、他は約28cmである。深さは、約8cmで、P5のみが4cmと浅い。

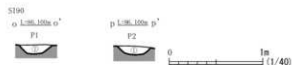
この遺構からは、上げ底の底部を有する浅鉢(49)が出土している。



- SI82
 ①10VR3/4 暗褐色土 粘質やや強い
 炭化物 褐色较少し、暗褐色ブロック 4層ブロックを多く含む
- KI
 ①7.5VR3/3 暗褐色土 粘質ややわらか
 炭土 炭化物 4層ブロックを多く含む
- P1 ~ P4
 ①10VR3/3 暗褐色土 粘性強い
 炭化物 褐色较少し、暗褐色・4層ブロックを多く含む

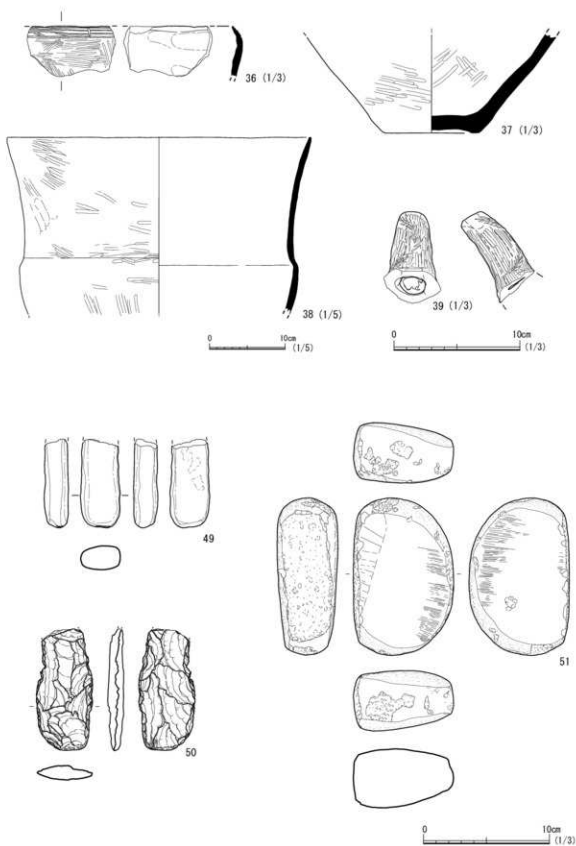


- SI90
 KI
 ①10VR3/4 暗褐色土 粘質やや強い
 炭化物 暗褐色ブロック 4層ブロックを多く含む
- P1 ~ P4
 ①10VR3/3 暗褐色土 粘性ややわらかあり
 黒褐色 褐色ブロックを少し含む
- P5 ~ P6
 ①10VR3/3 暗褐色土 粘質やややわらか
 炭化物 褐色紋 白色紋を少し、4層ブロックを多く含む

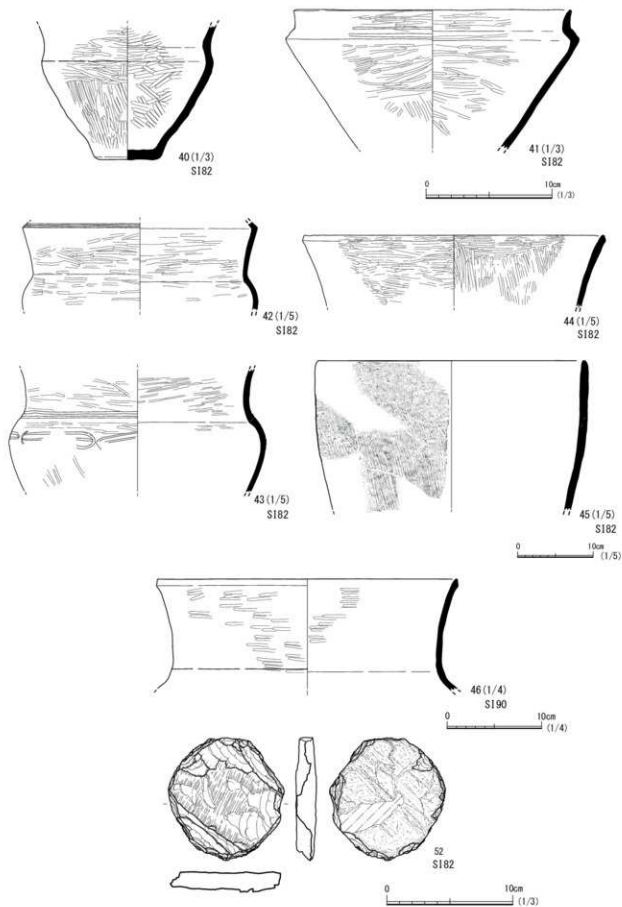


- SI90
 ①10VR3/3 暗褐色土 粘質やややわらか 炭化物 褐色紋 黒褐色ブロック少し、
 暗褐色 4層ブロックを多く含む
- P1
 ①10VR3/3 暗褐色土 粘性やややわらか
 褐色紋 白色紋を含む やわらかに含む

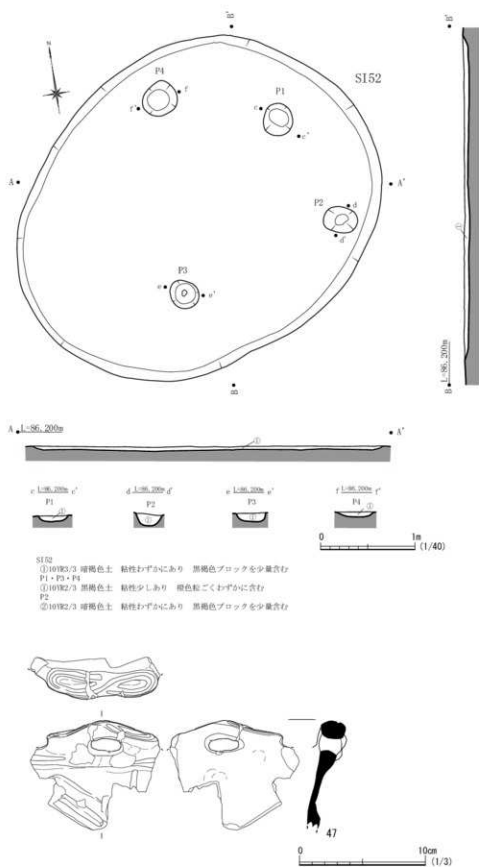
第72図 3-1区 SI50・82・90実測図



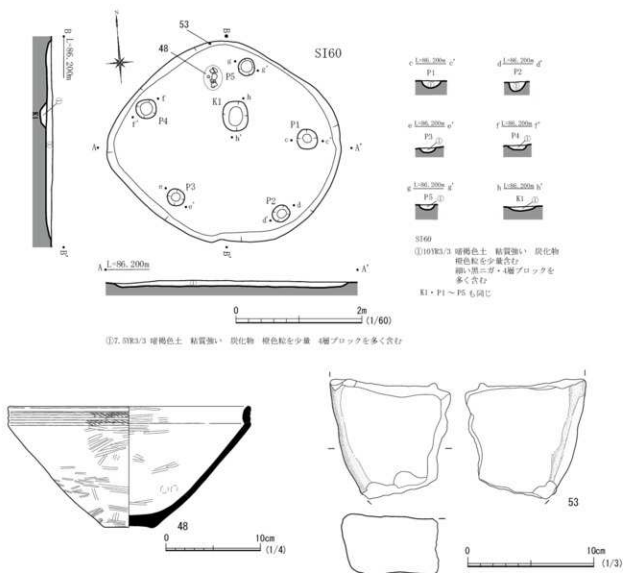
第73図 3-1区 S150 遺物実測図



第74図 3-1区 S182・90 遺物実測図



第75図 3-1区 S152 遺構・遺物実測図



第76図 3-1区 SI60 遺構・遺物実測図

3-1区 SI63 (第78図)

w-⑧グリッドに位置し、長径4.7m、短径4.6mとほぼ正円である。深さは、約6cmと浅い。埋土は、粘質が強く、黒褐色土・暗褐色土を多く、また炭化物、橙色粒もやや多めに含む。

柱穴と見られるものは、12基と他に比べ、かなり多く検出。直径は、大部分が約36cmと大きく、P5・8は約24cmである。深さは、約12cmで、浅いもので6cm、一番深いもので18cmである。

出土遺物は、打製石斧(54)である。

3-1区 SI74 (第79図)

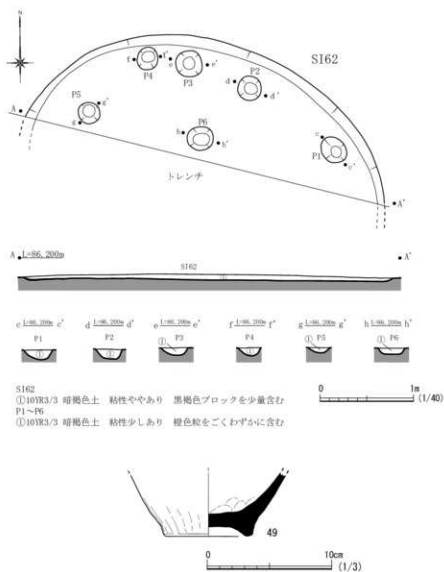
この遺構は、x-⑧グリッドに位置し、南側を

SI32によって切られている。

長径約4.2m、短径3.9mで、検出面から床面までは、5cm程と浅い。埋土は、暗褐色土で粘性がわずかにあり、黒褐色土・橙色土ブロックを少量含む。また、この遺構内の西側に長径60cm・短径42cmで、深さ12cmの土坑を検出したが、焼土、炭化物を含まないことから葬跡の可能性は低い。

柱穴と見られるものは、4基確認したが、径が約24～30cm、深さがP1は約18cm、他は約3～6cmである。特にP4に関しては、かなり浅いため柱穴にして良いものか疑問が残る。

出土遺物は、外器面に、底部が上げ底の浅鉢(50)



第77図 3-1区 SI62 遺構・遺物実測図

と口径が26cm、頸部がしまる深鉢(51)、磨石(55)が出土した。

3-1区 SI75 (第80図)

主にA・B・⑧グリッドに位置し、長径約3.5m、短径約3.3mでほぼ正円を呈している。北側をSI33・51によって切られる。深さは約8cm、埋土は、粘性がわずかにある。黒褐色土ブロックを多く含む、橙色土ブロックを少量含む。

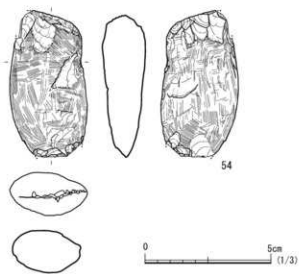
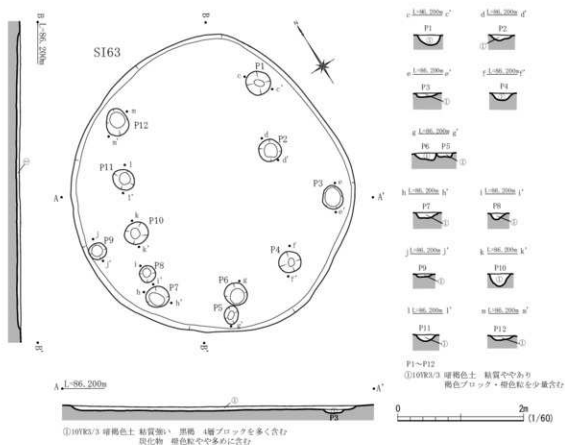
柱穴と見られるのは3基で、直径約が24~28cmで、深さは約8cmである。

この遺構からは、口径約が19cmの鉢(52)が出土した。

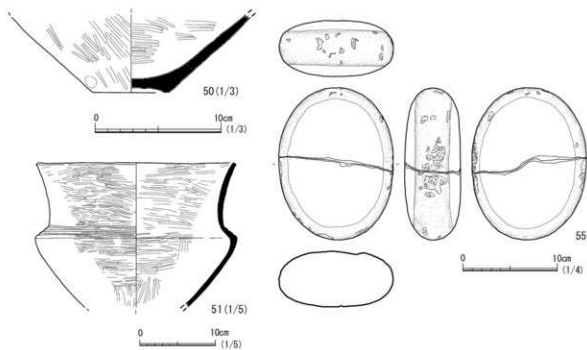
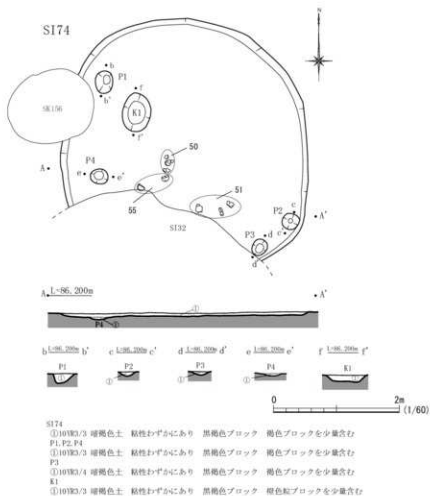
3-2区 SI99 (第81図)

C・⑥・⑦グリッドに位置し、長径約6.9m、短径約6.2mで東西に主軸をおき楕円形を呈する。深さは約8cmである。埋土は、暗褐色土で粘性がやや弱く、白色粒を多く、橙色粒をまばらに0.1~0.5cm大の砂ブロックを含む。

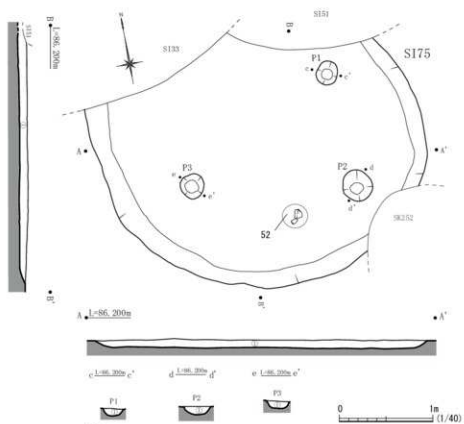
出土遺物は、口縁が約43cmの浅鉢(53)、打製石斧(56)が出土した。柱穴は確認できなかった。



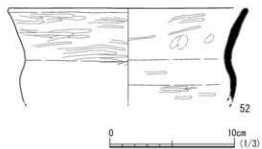
第78図 3-1区 SI63遺構・遺物実測図



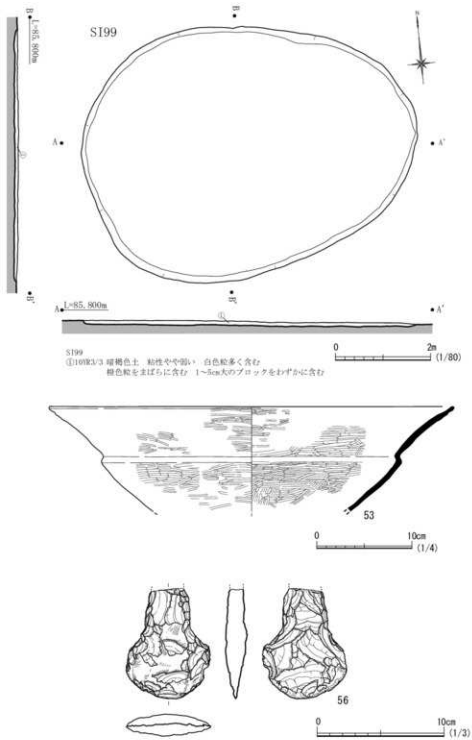
第79図 3-1区 SI74遺構・遺物実測図



- SI75
- ①10R3/3 暗褐色土 粘性わずかにあり 黒褐色ブロックを多く、褐色ブロックを少量含む
- P1, P2
- ①10R3/3 暗褐色土 粘性わずかにあり 棕色粒を少量含む
- P3
- ①10R3/3 暗褐色土 粘性わずかにあり 棕色粒、黒褐色ブロックを少量含む



第80図 3-1区 SI75 遺構・遺物実測図



第81図 3-2区 SI99 遺構・遺物実測図

3.2区 SI102 (第82図)

3.2区調査区東側で3分の2検出した。y-⑤グリッドに位置し、直径約4.8mの正円である。深さは、9～12cmである。暗褐色土で粘性を有り、橙色・白色粒をわずかに含み、さらには1～2cm大の暗褐土ブロックをわずかに含む。

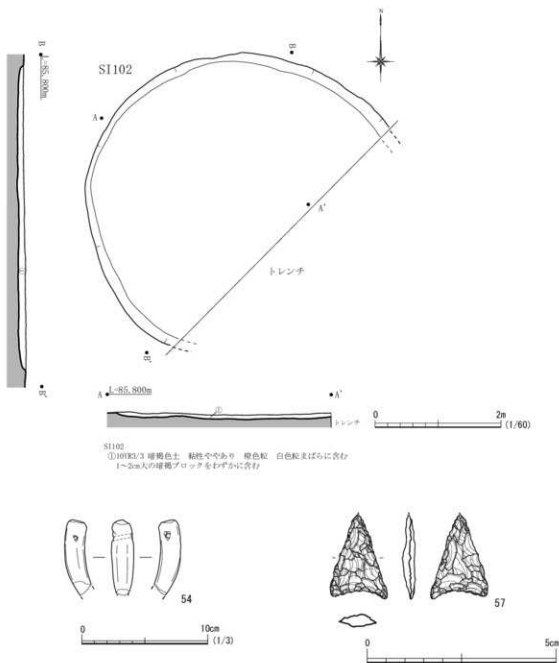
出土遺物は、打製石鏃(57)、土製の裝飾品(54)である。SI99と同様、柱穴は確認できなかった。

3.2区SI104 (第83図)

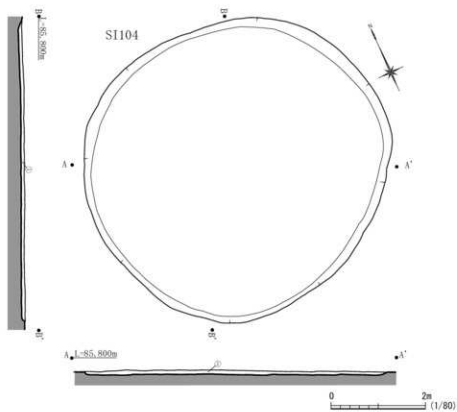
3.2区調査区北側v-w-⑤・⑥グリッドに位置する。直径が6.3mではぼ正円である。深さは8cm、暗褐色土で粘性がやや強く、橙色・白色粒・暗褐色土ブロックを多く含む土である。

この遺構からは、口径が約16cm、胴部がふくらみを持ち、細線羽状文を施す鉢(55)、磨石(58)が出土している。

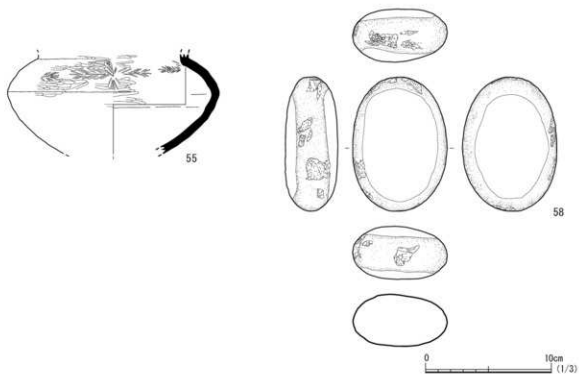
柱穴は確認できていない。



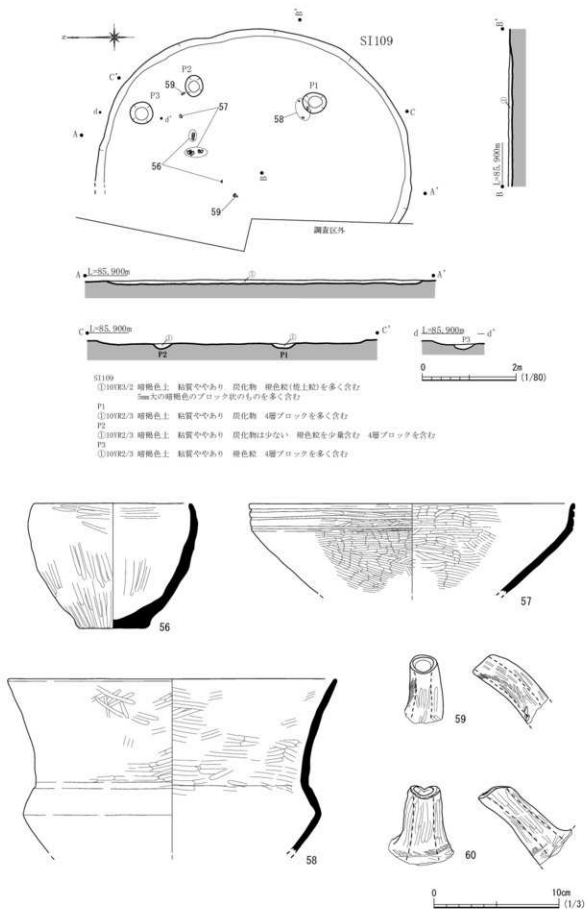
第82図 3-2区 SI102 遺構・遺物実測図



SI104
 ①7/ⅧK3/3 暗褐色土 粘性やや強い、橙色鉄 白色灰をまばらに含む 4割ブロックを多く含む



第83図 3-2区 SI104 遺構・遺物実測図



第84図 3-3区 SI109遺構・遺物実測図

3-3区 S1109 (第84・85図)

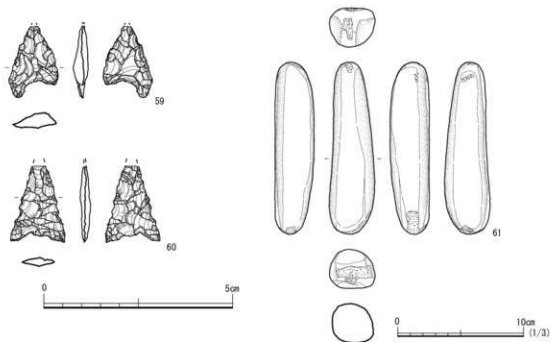
この遺構は、調査区3-3区西側x-⑫を中心に、一部w-⑫グリッドにかかる。南北の直径が6.6mでこれまでの竪穴建物に比べれば、規模が大きい。

深さは、約8cm、粘性がややあり、炭化物・橙色粒（焼土粒）・0.5cm大の暗褐色土のブロック状のものを多く含む。

柱穴と見られるものは、3基確認した。径が32cm (P1)、48cm (P2・P3) 程で、深さは、8cm

である。

この遺構からは、比較的多くの遺物が出土した。その中から主に、形を呈し、口径が6.6cm (56)と26cm (57)の浅鉢や、口径が同じく26cmで、煤が付着している深鉢(58)、細線羽状文が施され、注口土器の注口部分(59・60)が2点出土した。その他に打製石鏃2点(59・60)、磨礫石(61)が出土した。



第85図 3-3区 S1109 遺物実測図

(2) 土坑

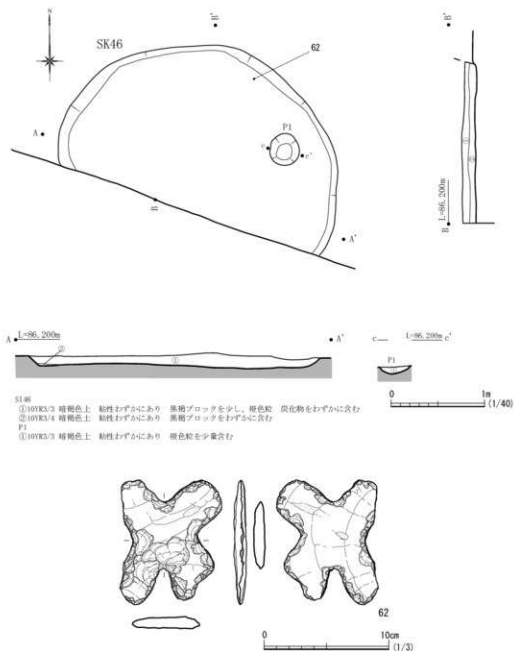
土坑として確認したのは、総数 162 基である。内訳は、3-1 区 65 基、3-2 区 58 基、3-3 区 39 基である。

3-1 区 SK46 (第 86 図)

調査区南側、B-①②・③に 3 分の 2 程度の検出である。長径 3.1m、短径 1.8m (検出部分) 程で、

深さは約 16cm である。2 層からなる埋土で、1 層は、粘性がわずかにあり、黒褐土ブロックを少量、橙色砂粒・炭化物をわずかに含む。2 層は、橙色砂粒・炭化物を含まないだけで 1 層と同じである。

また遺構内からは、径が約 32cm、深さが約 8cm の柱穴を検出。埋土 1 層より十字型石器 (62) が、遺構北側より出土した。



第 86 図 3-1 区 SK46 遺構・遺物実測図

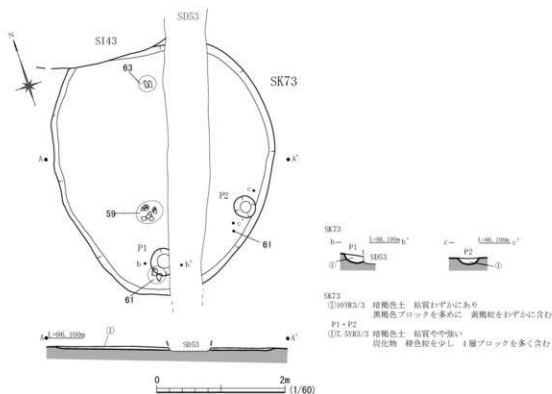
3-1区 SK73 (第87・88図)

この遺構は、調査区東側 A-⑩を中心に、A-⑧・B-⑩・⑬に位置する。長径3.9m、短径3.4mの南北に楕円形を呈する土坑である。

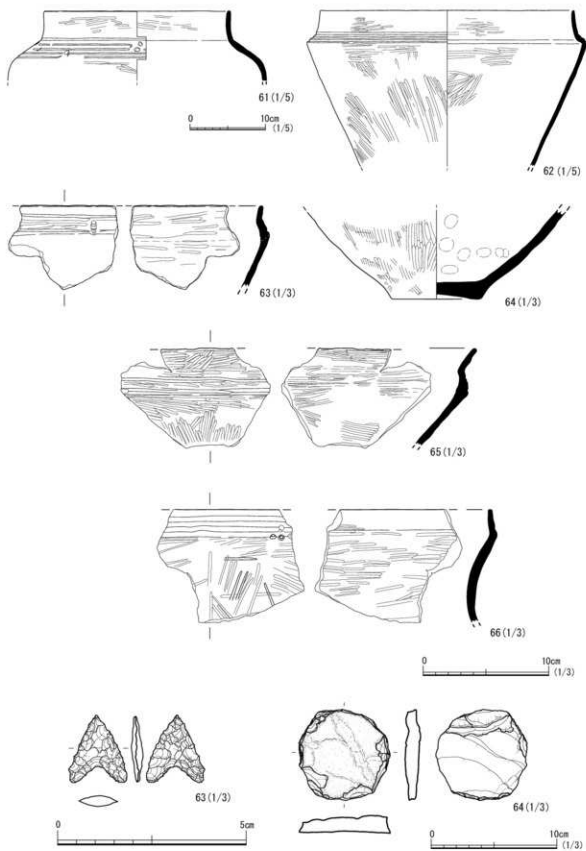
中央部を南北に古代の溝(SD53)によって切られる。深さは6cm弱と浅く、粘性が強く暗褐色土ブロックをまんべんなく含む土である。

この遺構からは、径が30～40cm、深さが約9

～12cmの柱穴が2基検出されている。また、出土遺物も多く、口径が約25cmで押点文が見られる鉢(61)、口径が約34cmで、口縁が内反しているもの(62)や、底部が上げ底であるもの(64)、口縁部分の破片で、刺突文があり、内器面に煤が付着する(63・66)、内外器面に煤が付着する浅鉢(65)、打製石鏃(63)、円盤型石器(64)が出土している。



第87図 3-1区 SK73実測図



第 88 図 3-1 区 SK73 遺物実測図

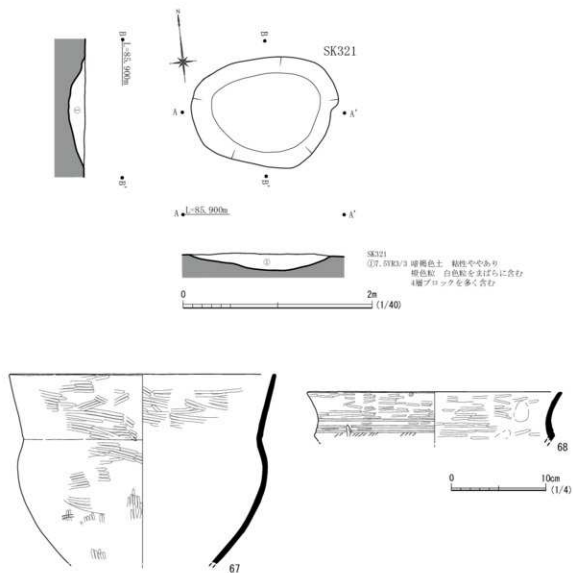
3-2区 SK321 (第89図)

この遺構は、E・F・⑦グリッドに位置する。長径は約1.5m、短径は約1.2mで、南北にやや楕円形を呈する。

深さは、約16cmを計り、暗褐色土で粘性がや

やあり、橙色粒、白色粒を多く含む土である。

出土遺物は、口径が約28cmで、全体的に摩耗が見られる深鉢(67)、口径が約27cmで、斜直文・押点文が施されている浅鉢(68)が出土した。



第89図 3-2区 SK321 遺構・遺物実測図

3-2区 SK336 (第90図)

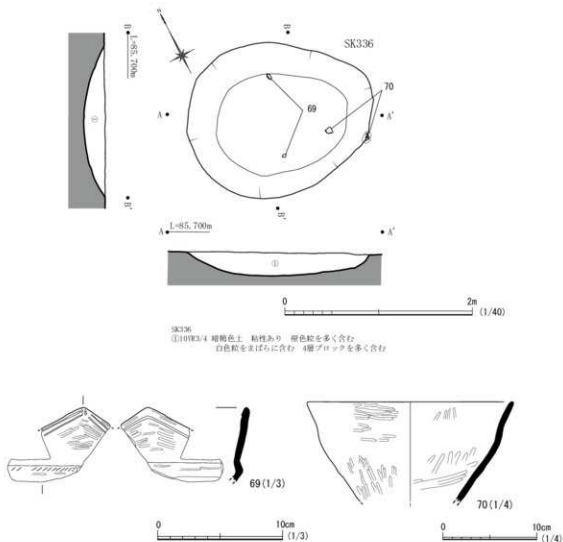
3-2区の調査区北側で、E-⑥グリッドに位置し、長径約2m、短径1.6mでやや楕円形を呈している。深さは24cm程である。埋土は、粘性があり、橙色粒・4層ブロックを多く、白色粒をまばらに含む単層である。

3-2区 SK354 (第91図)

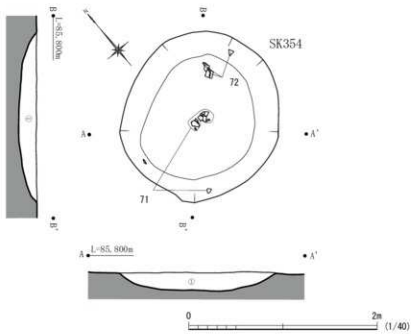
3-2区C-⑨グリッドに位置する。長軸が、約

1.8m、短軸が1.7mでほぼ正円である。深さは、18cm程で、黒褐色土で粘性がやや強く、橙色粒、暗褐色土ブロックを多く、白色粒を少量含む。炭化物を含む。

出土遺物は、平口縁で径が29cmあり、内器面に煤が付着している浅鉢(71)と山形口縁で、径が約30cmあり、羽状文・押点文が施され、頸部がややしまっている浅鉢(72)が出土した。

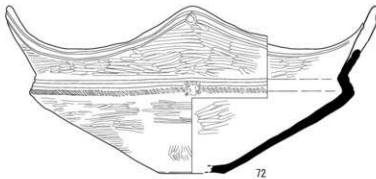
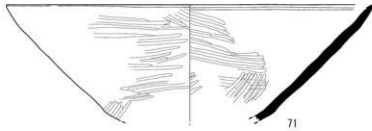


第90図 3-2区 SK336 遺構・遺物実測図



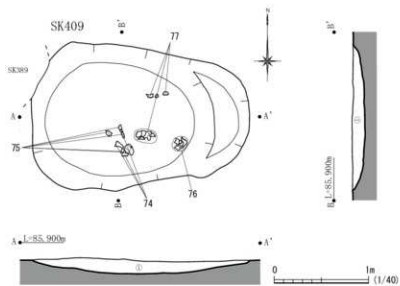
SK354

①71. 赤褐色土 粘性や中強い、褐色粒 4割ブロックを多く含む
 白色粒をわずかに含む 炭化物を含む



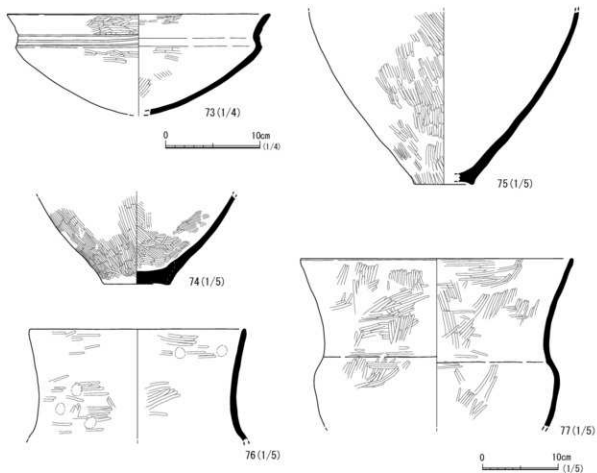
0 10cm (1/3)

第91図 3-2区 SK354 遺構・遺物実測図



SK409

①7.5YR4/3 褐色土 粘質やあり。炭化物・橙色粒を少量含む。
4層ブロック大層に、36層をブロック状に含む。



第92図 3-3区 SK409 遺構・遺物実測図

3-3区 SK409 (第92図)

3-3調査区、v・⑩・⑪グリッドに位置し、長径約2.3m、短径約1.5mの東西に楕円形を呈する。深さは約16cmを測る。埋土は、褐色土で粘性がややあり、炭化物、橙色粒を少量、暗褐色土ブロックは多く、そして黒色土をブロック状に含む土である。

この遺構からは、主なものとして、平口縁で、径が約28cm、頸部にしまりのある浅鉢(73)、その他深鉢が2個(74・75)、径が約29cmの口縁部分と約36cmの深鉢(76・77)が出土した。

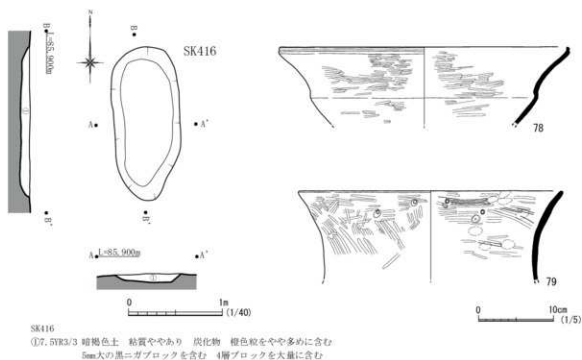
3-3区 SK416 (第93図)

この遺構は、長径が約1.6m、短径が約0.7mで南北に楕円形を呈している。深さは8cm程で、炭化物・橙色粒をやや多め、0.5cm大の黒ニガブロッ

クをまばら、4層ブロックを大量に含む土の単層である。

主な出土遺物は、口径が約39cmと広がりを持つ浅鉢(78)と、口縁部分のみになるが、径約35cmで、補修孔・未補修孔がそれぞれ2ヶ所見られ、一部煤が付着している深鉢(79)が出土した。

以上、竪穴建物、土坑について述べてきたが、これらの遺構に関しては、遺構の性格について不明瞭な点もある。調査時の遺構認定について疑問があるものを含み、調査時の経験意識により遺構検出の状況が変わった。しかし、遺物の状況から縄文時代後・晩期において、この地で集落が形成されていた可能性が高い。



第93図 3-3区 SK416 遺構・遺物実測図

古代以降 (第 94 図)

3区全体で、竪穴建物は検出できなかった。

土坑が3-1区24基、3-2区3基、3-3区1基、そして、道路・溝状遺構を検出した。各グリッドも含めて古代の遺物は、ほとんど出土しておらず、3-2・3-3区で土師器数点が出土している。

以下、道路・溝状遺構について記す。

(1) 道路状遺構 (第 95 図)

3-1区で2条、3-2・3区にかけて1条検出した。

3-1区の道路状遺構は、調査区西側(N-12°-E)方向に、2条並走(SF07・08)する。北側で合流し、約4mの幅を持つ。1条の幅は、約1.6-2.0mを測る。また、SF07は、ほぼ北側半分以上に硬化面を伴っているが、SF08は、硬化面をほとんど検出できなかった。

3-2・3区にかけての道路状遺構は、東西に1条(SF10)である。当初溝として検出していたが、精査した所、側溝を伴った道であることが判明。側溝を含めたところで、幅約2.4mを計る。带状に硬化面を確認した。更に、下層にもう一面、側溝を伴った道路状遺構を検出。また、断面の立ち上がりを見ると上面にも削平されているが、道路状遺構が存在していた事が確認された。このことから、道路状遺構は、補修を繰り返し使用されていたことが確認された。更にこの遺構は、3-3区にも伸びている。しかし、調査区西側に近づくにつれ、硬化面の残存状況が悪く、幅も広がりを持つ。更には埋土が明褐色土であり、硬化面も見られないことから、道路として使用していたものを、後に区画のために転用した可能性がある。

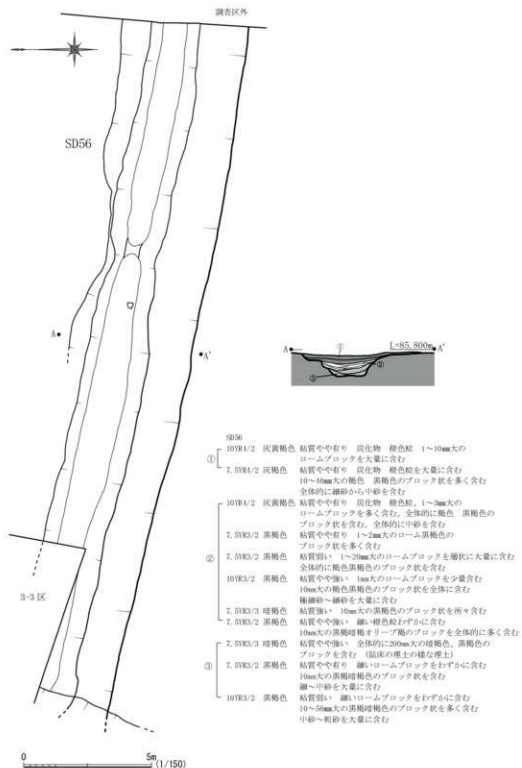
(2) 溝状遺構

3-1区で1条、3-2区で1条、3-3区で7条検出した。いずれも後世の攪乱により、おり、明確な検出ができていない。その中からSD56(第95図)は、3-2区のほぼ中央、一部3-3区の北側に位置し(N-77°-W)方向で伸びている。結果的に3段掘り込みとなっている為、最初の溝を利用して、時代を追うごとに拡張したと考えられる。この溝状遺構から硬化面など、道路として利用されていた跡は検出されていない。





第94図 飛田遺跡群3区 遺構配置図 (S=1/600) - 古代 -



第95図 3-2区 SD56 実測図 (S=1/150)

包蔵層出土遺物

(1) 土偶

今回の調査で、16点の土偶が出土した。不明1点を除いて全て具象形の土偶である。

出土層は、3～5層と3つの層にまたがっており、後世の擾乱等による巻き上げによるものと考えられる。位置は、3-1区調査区の中央やや左寄りで3点、東側竪穴建物を検出した位置で9点（遺構内2点含む）、3-2調査区南東側で3点と、同グリッド中央よりで1点出土している。集中しての出土ではないが、方々からではなく、ある距離感をもって、塊で出土しているように考えられる。（第97図）

出土した土偶には、例外ではなく、全て破片の状態で出土している。部位としては、頭部2点、体部2点、腕部4点、脚部7点、不明1点である。それぞれの部位において、接合するものはないものの、胎土や焼成など、類似するものもある。

以下、特徴のある部位を紹介する。

頭部の内（84）は、顔の表面は平らで、両側に耳を形成している。目、鼻は、はっきりせず、下部に押点で口を表現し、頭頂に弧線を付している。（83）は、頭部の両側、頭頂、後頭部に指で押さえることにより、耳、髪のみとまりを表現している。



土偶

また、目、鼻を押点、後頭部上部は押線を施し、束ねた髪を表現している。

脚部は、足底を平らに整えている。（94）は、足先に縦の沈線を施し、指を表現している。（93）は、やや膨らみをつくることによって膝や指を整形してくびれを表現し、朱色の顔料が残る。

(2) 装身具

本遺跡では、3～4層で、装身具が5点出土した。

位置的には、3-1・2区共に土偶が出土した場所と重なる。

以下、記述する。

（3-1区出土：2点）

（97）は、裏面から下部にかけて欠損が見られるが、勾玉と見られる。長さ約1.6cm、厚さ約0.6cmで、重さは、約1.4g、石材は滑石、色は淡棕茶である。両側から穿孔がなされている。（98）は、小玉である。両面に平坦面が見られる。長さ約0.6cm、幅約0.6cm、厚さ約0.4cmで、重さは、0.3gを計る。石材は、珉質岩と思われる。色は、萌黄である。

穿孔は一方向からなされており、穴の径が0.5cmと0.2cmを計る。孔内に擦痕が見られる。

（3-2区出土：3点）

重飾品が2点と管玉が1点である。石材は全て滑石である。（99）の重飾品は、やや扁平な紡錘形を呈し、色は鉄緑である。両側面に傾斜を持たせて研磨されている。上部の欠損は、穿孔を施そうとし



装身具

た時のものと思われる。この穿孔の下に擦り切り痕らしきものが見られる。(100)は、大理石色で、形は三角錐に近く、動物の牙を思わせるかのようである。上部が欠損しているが、全体的に研磨され光沢がある。

(101)の管玉は、稜が残っておらず、全体的に研磨痕が認められる。長さ約1.6cm、幅約1.1cm、厚さ約0.6cmである。両方から穿孔が施されており、擦痕が明瞭である。孔付近は平坦面をなしている。色は、鉄緑である。

(3) 台付鉢の脚部

遺構内出土2点を含む6点の台付鉢の脚部が、出土している。

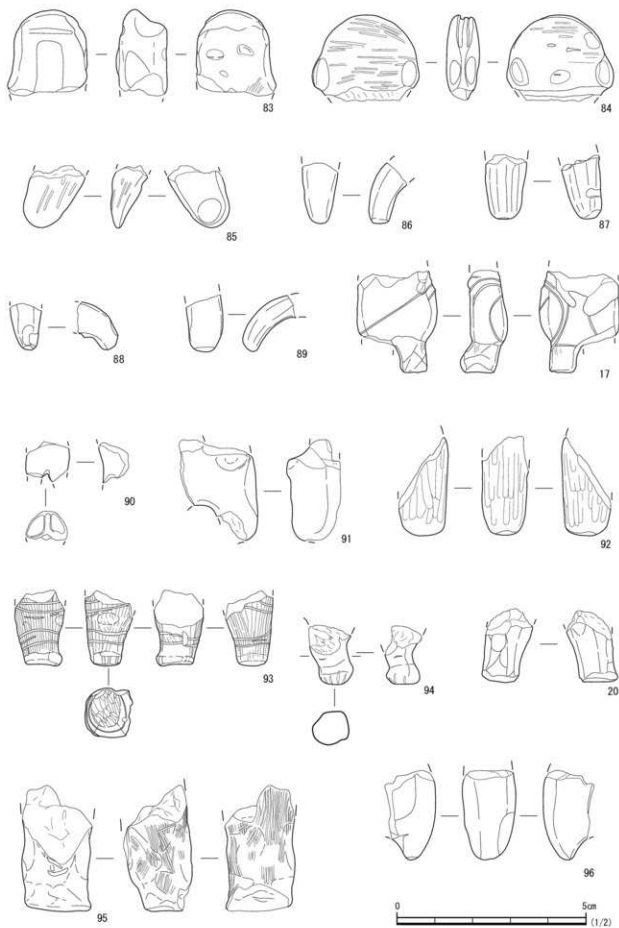
(102・105)は、やや八の字状に開いている脚部である。高さは約5cmと6cmである。一部鉢の底部の残部があるが、厚みがあり、ナデ痕はみられるものの磨きはあまり見られない。中央に両方向から穿孔がなされているが形もいびつである。

(22・103)は、円筒形の脚部である。高さが約4cmで、鉢底部の厚さも薄い。よく磨きがかかっている。両方向から穿孔がなされている。(22)は、下部に細線羽状文、穿孔の周辺に斜直線文が施されている。(103)は、下部と上部に沈線を施し、2本の沈線の間に斜直線文を施す。

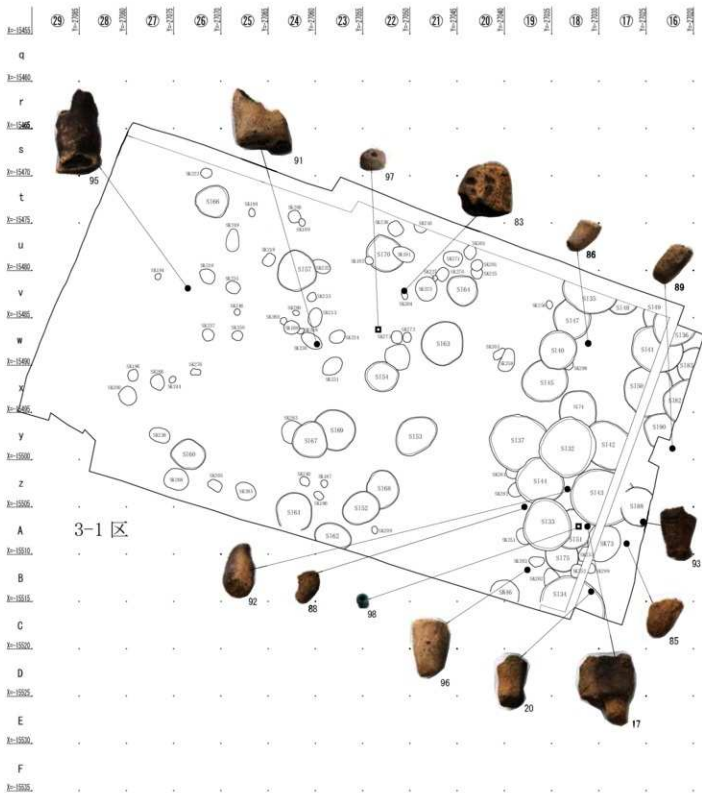
(4・104)は、円筒形の脚部であり、高さは約4.5cmである。(104)は、横の磨きが見られ、下部に押線を施す。中央に径が2cmある穿孔が両側からなされている。(4)は、縦に楕円形の穿孔が両側からなされ、その上下に押線とともに細線羽縄文を施し、脚部全体に凹凸をつけている。そしてこの(4・104)に共通することは、中央の穿孔だけでなく、底部の中央からも筒状に穿孔がなされている事である。



台付鉢



第96图 3区 出土土偶实测图(S=1/2)



第97図 3区 土偶・装身具出土分布図

第9表 土器観察表

遺物番号	検出番号	図版番号	調査区	遺構	層位 取上り%	種別	器種	法量 (cm)			色調	
								口径	底径	器高	外面	内面
1	61	24	3-1区	S132	No.88	縄文土器	浅鉢	-	-	(4.8)	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR6/3
2			3-1区	S132	No.8.159	縄文土器	深鉢	-	7.3	(6.7)	明黄褐色 10YR7/6	灰黄褐色 10YR6/2
3			3-1区	S132	No.148	縄文土器	深鉢	(44.7)	-	(18.8)	黄灰 2.5Y4/1	にぶい黄橙 10YR6/4
4			3-1区	S137	No.115	縄文土器	台付鉢	-	2.9	(5.0)	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4
5			3-1区	S144	埋1	縄文土器	浅鉢	(20.5)	-	(12.7)	浅黄 2.5Y7/3 黒 5Y2/1	にぶい黄橙 10YR7/3
6	63	25	3-1区	S133	No.37	縄文土器	浅鉢	-	-	-	オリーブ褐色 2.5Y4/3	オリーブ褐色 2.5Y4/3
7			3-1区	S133	No.36.37	縄文土器	深鉢	-	5.6	(6.9)	にぶい橙 7.5YR5/4	灰黄褐色 10YR5/2
8			3-1区	S133	No.37.107 109	縄文土器	深鉢	(22.0)	-	(13.9)	灰黄褐色 10YR5/2 にぶい黄褐色 10YR5/3	灰黄褐色 10YR5/2 にぶい黄褐色 10YR5/3
9			3-1区	S133	No.28.30 No.37	縄文土器	浅鉢	(30.6)	-	(13.1)	黄褐色 2.5Y5/3	明黄 7.5YR5/6
10			3-1区	S133	No.32	縄文土器	深鉢	(26.0)	-	(20.8)	にぶい黄橙 10YR7/3 焼灰 10YR4/1	にぶい黄橙 10YR7/3 焼灰 10YR4/1
11	64	24	3-1区	S151	No.87	縄文土器	浅鉢	(15.6)	-	(12.1)	焼灰 10YR4/1 にぶい橙 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR6/2 黒褐色 2.5Y3/1
12			3-1区	S151	No.13	縄文土器	深鉢	-	-	-	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4
13			3-1区	S151	No.83.87	縄文土器	深鉢	(25.6)	-	(9.4)	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3 灰黄褐色 10YR6/2
14			3-1区	S151	埋1	縄文土器	深鉢	40.3	-	(13.2)	にぶい黄橙 10YR6/3 黄灰 2.5Y4/1	にぶい黄橙 10YR6/3 黄灰 2.5Y4/1
15			3-1区	S151	No.22.25 61.113.118 36層	縄文土器	深鉢	(41.6)	-	(13.6)	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3
16	65	25	3-1区	S151	No.25 36層	縄文土器	深鉢	(46.2)	-	(29.4)	焼灰 10YR4/1 灰黄褐色 10YR4/2	にぶい黄橙 10YR7/4
18			3-1区	S134	No.77	縄文土器	深鉢	(32.0)	-	(11.4)	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4
19			3-1区	S134	埋1 No.24 P4-1	縄文土器	浅鉢	(22.4)	-	(5.4)	にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい黄褐色 10YR5/3
21			3-1区	S134	No.18.19 No.1	縄文土器	浅鉢	16.5	-	(5.7)	オリーブ黒 5Y3/1	にぶい黄橙 10YR7/3 黄灰 2.5Y4/1
22			3-1区	S141	No.38	縄文土器	台付鉢	-	3.2	(4.3)	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4
23	67	26	3-1区	S149	No.1	縄文土器	鉢	-	-	-	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2
24			3-1区	S142	埋1 No.109 111	縄文土器	鉢	-	(6.4)	(3.6)	にぶい黄 2.5Y6/3	にぶい黄 2.5Y6/3
25			3-1区	S142	埋1 No.61.126	縄文土器	深鉢	(23.2)	-	19.9	にぶい黄橙 10YR6/3 黒褐色 10YR3/1	にぶい黄橙 10YR6/3 黒褐色 10YR3/1
26			3-1区	S142	No.82.142	縄文土器	深鉢	34.6	-	(7.0)	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4
27			3-1区	S142	埋1 No.49	縄文土器	深鉢	(30.6)	-	(19.5)	にぶい黄橙 10YR6/3 灰黄褐色 10YR5/2	にぶい黄橙 10YR6/3 灰黄褐色 10YR5/2
28	69	27	3-1区	S142	No.14.70 71.129	縄文土器	深鉢	37.7	-	(14.3)	にぶい黄橙 10YR7/4 にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい黄橙 10YR7/4 にぶい黄褐色 10YR5/3
29			3-1区	S143	No.62	縄文土器	深鉢	(30.8)	-	(14.3)	にぶい黄橙 10YR6/4 灰黄褐色 10YR4/2	灰黄褐色 10YR4/2
30			3-1区	S188	No.24	縄文土器	浅鉢	(17.4)	-	(10.8)	にぶい黄 2.5Y6/3	暗黄 2.5Y5/3
31			3-1区	S188	No.74.76	縄文土器	浅鉢	(30.2)	-	(7.2)	にぶい黄 2.5Y6/3 黄灰 2.5Y4/1	にぶい黄 2.5Y6/3 黄灰 2.5Y4/1
32			3-1区	S188	No.150	縄文土器	深鉢	(20.4)	-	(9.1)	黄灰 2.5Y4/1 暗黄 2.5Y5/2	黄灰 2.5Y4/1 暗黄 2.5Y5/2
33	71	26	3-1区	S188	No.31.194	縄文土器	浅鉢	(19.0)	-	(5.0)	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3
34			3-1区	S188	No.36.37 204.205	縄文土器	深鉢	(21.0)	-	(16.4)	灰黄褐色 10YR4/2 にぶい黄褐色 10YR5/3	灰黄褐色 10YR4/2 にぶい黄褐色 10YR5/3
35			3-1区	S188	No.171.174 210.236 226.247	縄文土器	深鉢	(25.9)	-	(14.1)	にぶい黄橙 10YR7/4 灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄橙 10YR7/4 灰黄褐色 10YR6/2

粘土	調整				備考	遺物番号
	外面	内外面	外面	内外面		
角閃石、雲母	ナゾ後ミガキ	ナゾ後ミガキ	-	-	胴部沈澱3条 斜直線文 押点文 焼成時に外面一部分に炭着付着	1
角閃石、長石	ナゾ後ミガキ、ケズリ	ナゾ	ナゾ	ナゾ、ケズリ跡	内外面煤付着 粘土貼り付け痕	2
角閃石、砂粒 赤色酸化粒	ミガキ	ミガキ	-	-	内面に黒斑	3
雲母	ナゾ後ミガキ	ナゾ後ミガキ	-	-	台部 細線羽状文	4
長石、角閃石、砂粒	ミガキ	ミガキ	-	-	口縁帯に沈澱2条 押点文 細線羽状文 黒色磨研土器	5
長石、角閃石、砂粒	ミガキ	ミガキ	-	-	口縁帯沈澱4条 細線羽状文	6
長石、石英、角閃石	ナゾ後ミガキ	ナゾ後ミガキ	ナゾ後ミガキ	ナゾ後ミガキ 指頭圧痕	粘土貼り付け痕	7
長石、角閃石、雲母 砂粒	ミガキ	ミガキ	-	-	口縁帯に沈澱3条 細線羽状文 斜直文 押点文	8
角閃石、雲母、砂粒	ミガキ	ミガキ	-	-	胴部沈澱5条 内面1条 細線羽状文 押点文	9
角閃石、砂粒 赤色酸化粒	ミガキ	ミガキ	-	-		10
長石、石英、角閃石 雲母、砂粒	ミガキ、指頭圧痕	ナゾ、指頭圧痕	-	-	口縁帯沈澱2条 細線羽状文	11
角閃石	ナゾ後ミガキ	ナゾ後ミガキ	-	-	貼り付け 外面面に沈澱2条耳たぶ状の突起	12
長石、角閃石、砂粒 赤色酸化粒	ミガキ	ミガキ、指頭圧痕	-	-	口縁帯沈澱3条 口縁部外面に黒斑	13
角閃石、砂粒	ナゾ後ミガキ	ナゾ後ミガキ	-	-	補修孔2ヶ	14
長石、石英、角閃石 雲母、砂粒、赤色酸化粒	ミガキ	ミガキ	-	-		15
長石、石英、角閃石 砂粒	ミガキ	ミガキ	-	-	内面に黒斑	16
角閃石、雲母、砂粒	ナゾ	工具によるナゾ後 ナゾ、指頭圧痕	-	-	図義文 押点文	18
角閃石	ナゾ後ミガキ	ナゾ後ミガキ	-	-	口縁帯沈澱3条 押点文 煤付着 粘土痕跡付	19
角閃石、砂粒	ミガキ	ミガキ	-	-	胴部沈澱2条 細線羽状文 煤付着 黒色磨研土器	21
角閃石、雲母	ナゾ後ミガキ	ナゾ	-	-	台部 細線羽状文	22
長石、石英	ナゾ後ミガキ	ナゾ後ミガキ	-	-	裝飾部 沈澱文 横り糸文	23
長石、角閃石	ナゾ後ミガキ	ナゾ	ナゾ後ミガキ	ナゾ	外底部に煤付着	24
角閃石、砂粒	ミガキ	ミガキ	ナゾ	ミガキ	口縁帯内面沈澱1条	25
長石、角閃石	ナゾ後ミガキ	ナゾ後ミガキ	-	-		26
長石、角閃石、砂粒	ミガキ	ミガキ	-	-	内面に黒斑	27
長石、角閃石、砂粒	ミガキ	ミガキ	-	-	口縁内外面沈澱1条 内面に黒斑	28
角閃石、砂粒	摩耗の為調整不明	摩耗の為調整不明	-	-	口唇部に刻み目 胴部に刻み目 突帯を施す	29
角閃石、雲母	ナゾ後ミガキ ナゾ後ミガキ 指頭圧痕	ナゾ後ミガキ 指頭圧痕	-	-	口縁帯沈澱2条 細線羽状文斜直線文	30
長石、石英、角閃石 砂粒	ミガキ	ミガキ	-	-	胴部沈澱2条 細線羽状文	31
角閃石、雲母、砂粒	ミガキ	ミガキ、指頭圧痕	-	-	口縁帯沈澱3条	32
角閃石、長石	ナゾ後ミガキ	ナゾ、指頭圧痕	-	-	口縁帯沈澱3条 細線羽状文 斜直線文	33
長石、角閃石、砂粒	ミガキ	ミガキ	-	-	口縁帯内面沈澱1条 胴部沈澱4条 黒斑 刻目 細線羽状文	34
長石、石英 角閃石、砂粒	ミガキ	ミガキ、ナゾ	-	-	内外面に黒斑	35

第 10 表 土器観察表

遺物番号	採回番号	区画番号	調査区	遺構	層位 取上り%	種別	器種	法量 (cm)			色調		
								口径	底径	器高	外面	内面	
36	73	29	3-1 区	S150	No.62	縄文土器	鉢	-	-	(4.0)	にぶい・黄裡 10187/4	にぶい・黄裡 10186/4	
37		28	3-1 区	S150	No.73, 198 No.112, 213	縄文土器	深鉢	-	7.6	(7.8)	明黄褐色 10186/6	にぶい・黄褐色 10185/4	
38			3-1 区	S150	No.108, 91 187, 98, 95 71, 93, 216	縄文土器	深鉢	(40.3)	-	(23.4)	灰黄褐色 10185/2	にぶい・黄裡 10186/3	
39		29	3-1 区	S150	No.47	縄文土器	注口土器	-	-	-	にぶい・黄裡 10186/4		
40	74	28	3-1 区	S182	No.31	縄文土器	鉢	-	(5.2)	(10.6)	にぶい・黄裡 10186/3	にぶい・黄裡 10186/3	
41			3-1 区	S182	No.111, 114 116	縄文土器	浅鉢	(22.0)	-	(11.0)	暗灰黄 2.5/5/2	暗褐色 7.5/8/4/2	
42			3-1 区	S182	No.35, 82 83	縄文土器	深鉢	-	-	-	にぶい・黄裡 10187/3 灰黄褐色 10186/2	にぶい・黄裡 10187/3 灰黄褐色 10186/2	
43			3-1 区	S182	No.88, 94 122, 130, 145	縄文土器	深鉢	-	-	-	褐色 7.5/86/6 暗灰黄 2.5/5/2	浅黄 2.5/7/4 黄灰 2.5/5/1	
44			3-1 区	S182	No.66, 68	縄文土器	深鉢	(40.1)	-	(9.4)	灰黄褐色 10185/2	にぶい・黄裡 10186/3	
45			3-1 区	S182	No.73	縄文土器	深鉢	-	-	(19.7)	灰黄褐色 10185/2	にぶい・黄裡 10186/3	
46			3-1 区	S190	No.53, 54, 80 87	縄文土器	深鉢	(31.8)	-	(11.5)	にぶい・黄裡 10187/4	にぶい・黄裡 10187/4	
47			75	29	3-1 区	S152	埋 1	縄文土器	鉢	-	-	-	褐色 7.5/86/6
48	76	3-1 区	S160		No.4	縄文土器	浅鉢	(25.6)	5.2	12.8	褐色 7.5/87/6 にぶい・黄裡 10187/3	にぶい・黄裡 10186/3 褐色 10184/1	
49	77	3-1 区	S162		No.2	縄文土器	浅鉢	-	(7.2)	(5.1)	にぶい・黄裡 10186/3	灰黄褐色 10186/2	
50	79	3-1 区	S174		No.13, 14	縄文土器	浅鉢	-	6.2	(6.2)	褐色 5/86/6	明黄褐色 10187/6	
51		3-1 区	S174		No.1, 3, 7 埋 1	縄文土器	深鉢	(26.4)	-	(19.1)	灰黄褐色 10185/2	にぶい・黄裡 10186/3	
52	90	3-1 区	S175		埋 1, No.46	縄文土器	鉢	(19.4)	-	(7.5)	灰黄褐色 10185/2	にぶい・黄裡 10187/4	
53	81	30	3-2 区		S199	No.99	縄文土器	浅鉢	(42.6)	-	(11.0)	褐色 7.5/86/6	褐色 7.5/86/6
55	83		3-2 区		S1104	No.30, 40 52	縄文土器	浅鉢	-	-	(8.0)	浅黄褐色 10188/3	にぶい・黄裡 10187/3
56	84		3-3 区	S1109	No.15, 42 55, 56, 57	縄文土器	浅鉢	(6.6)	(5.4)	10.0	浅黄 2.5/7/3	灰黄 2.5/8/2	
57			3-3 区	S1109	No.22, 40 145	縄文土器	浅鉢	(26.0)	-	(7.2)	灰黄褐色 10184/2	灰黄褐色 10184/2	
58	31		3-3 区	S1109	No.120, 125 131	縄文土器	深鉢	26.4	-	(13.9)	にぶい・褐色 7.5/86/4	にぶい・褐色 7.5/86/4	
59			3-3 区	S1109	No.48	縄文土器	注口土器	-	-	-	にぶい・黄褐色 10185/4		
60			3-3 区	S1109	No.23	縄文土器	注口土器	-	-	-	浅黄 2.5/7/3		
61	88		30	3-1 区	S873	No.126 No.130 No.3	縄文土器	鉢	(24.7)	-	(9.2)	にぶい・黄褐色 10185/4	にぶい・黄裡 10186/4
62		3-1 区		S873	No.50, 51, 44 55, 57, 130	縄文土器	深鉢	(33.7)	-	(20.7)	灰黄褐色 10185/2 褐色 10184/1	にぶい・黄裡 10187/3 褐色 10185/1	
63		31	3-1 区	S873	No.113	縄文土器	浅鉢	-	-	(6.7)	にぶい・黄裡 10187/3	にぶい・黄裡 10187/3	
64		30	3-1 区	S873	No.31, 33, 34	縄文土器	深鉢	-	7.2	(7.0)	褐色 7.5/86/6	にぶい・黄裡 10186/4	
65		31	3-1 区	S873	埋 1, No.10	縄文土器	浅鉢	-	-	(7.7)	にぶい・黄裡 10186/4	にぶい・黄裡 10186/3	
66			3-1 区	S873	No.76	縄文土器	深鉢	-	-	(9.0)	にぶい・黄裡 10187/4	にぶい・黄裡 10187/4	
67	89	32	3-2 区	S8321	No.1	縄文土器	深鉢	(28.2)	-	(20.0)	にぶい・褐色 7.5/87/3 にぶい・黄裡 10186/3	にぶい・黄裡 10186/3	
68			3-2 区	S8321	No.1	縄文土器	浅鉢	(26.8)	-	(5.4)	灰黄褐色 10184/2	灰黄褐色 10184/2	

断 土	調 整				備 考	遺物 番号
	外露面	内露面	外底面	内底面		
長石、角閃石	ナヅ、ナヅ後ミガキ	ナヅ、指頭正痕	-	-	沈線 4 条	35
角閃石、砂粒	ナヅ後ミガキ	ナヅ後ミガキ	ナヅ、ミガキ	ナヅ		37
長石、石英、角閃石 砂粒	ナヅ後ミガキ 脂ナヅ	摩耗の為調整不明	-	-	内面に黒斑	38
長石、角閃石	ヘラミガキ	-	-	-	注ぎ口 細線羽状文	39
長石、角閃石	ナヅ後ミガキ	ナヅ後ミガキ	ナヅ	ナヅ	外面煤付着	40
角閃石、砂粒 赤色酸化鉄	ミガキ	ミガキ	-	-	沈線 2 条	41
長石、角閃石、砂粒	ミガキ	ミガキ	-	-	沈線 2 条	42
長石、角閃石、砂粒	ミガキ	ミガキ	-	-	胴部沈線 2 条 凹線文	43
長石、石英、角閃石 雲母、砂粒、赤色酸化鉄	ミガキ	ミガキ	-	-	外面黒斑	44
長石、角閃石、砂粒 赤色酸化鉄	ナヅ ナヅ後目撃痕	調整不明	-	-		45
角閃石、砂粒	ナヅ後ミガキ	ナヅ後ミガキ	-	-	外面煤付着	46
長石、石英、角閃石 雲母、砂粒	ナヅ	ナヅ、指頭正痕	-	-	外面の一部赤影 凹線文	47
長石、石英、角閃石 雲母、砂粒、赤色酸化鉄	ミガキ	ナヅ、ミガキ 指頭正痕	ミガキ	ナヅ、ミガキ	口縁帯に沈線 3 条 細線羽状文 他成形に外面一部炭素付着	48
長石、石英	ナヅ、ナヅ後ケズリ	ナヅ	ナヅ	ナヅ後指頭正痕	滑石混入	49
長石、角閃石	ナヅ後ミガキ	ナヅ後ミガキ	ナヅ、ミガキ 指頭正痕	ナヅ後ミガキ	外面一部煤付着	50
長石、角閃石 砂粒、赤色酸化鉄	ミガキ	ミガキ	-	-	胴部沈線 3 条 外面煤付着 内面黒斑	51
角閃石	ナヅ、ナヅ後ミガキ	ナヅ、ナヅ後ミガキ	-	-	内外面に煤付着	52
長石、石英、角閃石 雲母	ナヅ後ミガキ	ナヅ後ミガキ	-	-	内外面に煤付着 口縁帯沈線 1 条	53
長石、雲母	ナヅ後ミガキ	ナヅ後ミガキ 工具痕	-	-	細線羽状文 外面に煤付着	55
角閃石	ナヅ後ミガキ	ナヅ後ミガキ	ナヅ	ナヅ後ミガキ	外面に一部煤付着	56
長石、石英、角閃石 雲母	ナヅ後ミガキ	ナヅ後ミガキ	-	-	口縁帯沈線 3 条 外面の一部に煤付着	57
長石、石英、角閃石	ナヅ後ミガキ	ナヅ後ミガキ	-	-	外面煤付着	58
角閃石、砂粒	ミガキ	-	ミガキ	-	注ぎ口 細線羽状文 一部煤付着	59
角閃石	ミガキ	-	-	-	注ぎ口 細線羽状文	60
長石、石英、角閃石 雲母、砂粒	ミガキ	ミガキ	-	-	胴部沈線 押点文 外面に煤付着	61
長石、角閃石、砂粒	ミガキ	ミガキ	-	-	沈線 3 条	62
角閃石	ナヅ後ミガキ	ナヅ後ミガキ	-	-	外面に煤付着 口縁帯沈線 2 条 刺突文 内露面に粘土痕	63
長石、石英、角閃石	ナヅ後ミガキ	ナヅ、指頭正痕	ナヅ	ナヅ	内外面に煤付着	64
角閃石	ナヅ後ミガキ	ナヅ、ナヅ後ミガキ	-	-	沈線 3 条 内外面に煤付着	65
角閃石	ナヅ、ナヅ後ミガキ	ナヅ後ミガキ	-	-	口縁帯沈線 2 条 刺突文	66
長石、角閃石、砂粒	ナヅ後ミガキ	ナヅ、ナヅ後ミガキ	-	-	内外面に煤付着 全体的に摩耗	67
角閃石	ナヅ後丁寧ミガキ	ナヅ後丁寧ミガキ 指頭正痕	-	-	沈線 3 条 刺突文 押点文 一部煤付着	68

第 11 表 土器観察表

遺物番号	神田番号	図版番号	調査区	遺構	層位 取上げNo.	種別	器種	法量 (cm)			色調	
								口径	底径	器高	外面	内面
69	90	32	3-2区	SK336	No.5, 19 埋1	縄文土器	浅鉢	-	-	(7.8)	にぶい・黄褐色 10YR6/3	黒褐色 10YR3/1
70			3-2区	SK336	No.11, 13 埋1	縄文土器	浅鉢	(22.0)	-	(10.5)	黄灰 2.5Y4/1	暗灰黄 2.5Y4/2
71	91	31	3-2区	SK354	埋1 No.20, 21, 25	縄文土器	浅鉢	(29.2)	-	(9.2)	にぶい・黄褐色 10YR6/4	灰黄褐色 10YR6/2
72			3-2区	SK354	埋2 No.2	縄文土器	浅鉢	(29.6)	(6.4)	(13.3)	にぶい・黄褐色 10YR6/4	にぶい・黄褐色 10YR5/4
73	92	32	3-3区	SK409	No.72	縄文土器	浅鉢	(27.8)	-	(10.6)	にぶい・黄褐色 5YR5/4	にぶい・褐色 7.5YR5/3
74			3-3区	SK409	No.14, 15, 16	縄文土器	深鉢	-	9.0	(11.8)	にぶい・褐色 7.5YR5/4	にぶい・黄褐色 10YR5/3
75			3-3区	SK409	No.13, 17, 18 46, 67, 69, 70	縄文土器	深鉢	-	(7.8)	(22.8)	にぶい・黄褐色 10YR6/4	にぶい・黄褐色 10YR5/3
76			3-3区	SK409	No.3, 4	縄文土器	深鉢	(28.8)	-	(14.5)	暗灰黄 2.5Y4/2 黒褐色 2.5Y3/1	灰黄 2.5Y6/2
77			3-3区	SK409	No.9, 40 42, 71	縄文土器	深鉢	(36.0)	-	(22.1)	灰黄 2.5Y7/2	黄灰 2.5Y6/1
78	93	31	3-3区	SK416	-	縄文土器	浅鉢	(38.6)	-	(10.3)	にぶい・黄褐色 10YR6/3 暗灰 10YR5/1	暗灰 10YR4/1
79			3-3区	SK416	-	縄文土器	深鉢	(35.4)	-	(11.8)	にぶい・黄 2.5Y6/4	にぶい・黄 2.5Y6/4

第 12 表 土偶観察表

遺物番号	神田番号	図版番号	調査区	遺構	グリッド	層位 取上げNo.	種別	器種	法量 (cm)			色調		
									全幅	厚み	残存高	外面	内面	
17	64・96	24	3-1区	SI51	-	No.86	縄文土器	土偶	4.2	2.0	5.4	黄灰 2.5Y7/4	黄灰 2.5Y7/4	
20	65・96		3-1区	SI34 (P-10)	-	-	縄文土器	土偶	2.5	2.2	3.7	にぶい・黄 2.5Y6/4		
83	96 97	31	3-1区	-	v22	5層	縄文土器	土偶	4.1	2.7	4.8	黄灰 2.5Y7/4		
84			3-2区	-	F8	3a層 No.657	縄文土器	土偶	5.9	1.8	4.5	にぶい・黄褐色 10YR7/3		
85			3-1区	-	B17	-	-	縄文土器	土偶	2.5	1.7	3.4	明黄褐色 10YR7/6	
86			3-1区	-	w18	4層	縄文土器	土偶	1.6	2.0	3.1	黄灰 2.5Y7/3		
87			3-2区	-	E7	3b層 No.813	縄文土器	土偶	2.3	2.0	3.4	黄灰 2.5Y7/3		
88			3-1区	-	A19	3b層	縄文土器	土偶	1.7	2.0	2.5	黄灰 2.5Y7/3		
89			3-1区	-	東壁	147	-	縄文土器	土偶	2.8	1.9	3.0	黄灰 2.5Y7/3	
90			3-2区	-	B10	No.4	縄文土器	土偶	2.4	1.5	2.2	黄灰 2.5Y7/3		
91			3-1区	-	w24	3a層	縄文土器	土偶	4.1	2.8	4.9	黄灰 2.5Y7/3		
92			3-1区	-	w18	4層	縄文土器	土偶	2.7	2.3	3.2	黄灰 2.5Y7/4		
93			3-1区	-	A17	No.59	縄文土器	土偶	2.6	2.4	4.0	にぶい・黄褐色 10YR5/4		
94			3-2区	-	D8	3a層 No.547	縄文土器	土偶	2.0	1.7	3.1	にぶい・黄褐色 10YR5/2		
95			3-1区	-	v26	3b層 No.91	縄文土器	土偶	3.6	3.6	6.7	黄灰 2.5Y4/1		
96			3-1区	-	B19	-	-	縄文土器	土偶	2.9	2.8	4.7	黄灰 2.5YR/3	

第 13 表 土製品観察表

遺物番号	神田番号	図版番号	調査区	遺構	層位 取上げNo.	種別	器種	法量 (cm・g)					
								長さ	幅	孔径	厚み	重量	
54	82	30	3-2区	SI102	No.14	土製品	産物品	6.0	-	-	-	18.3	角閃石

胎土	調整				備考	遺物番号
	外器面	内器面	外底面	内底面		
角閃石	ナズ後丁寧なミガキ	ナズ後丁寧なミガキ	-	-	斜線文 口縁帯内面沈線1条斜直線文	69
角閃石	ナズ後ミガキ	ナズ後ミガキ	-	-	外面一部煤付着	70
角閃石、砂粒	ナズ後ミガキ	ナズ後ミガキ	-	-	内面に一部煤付着 内面沈線1条	71
長石、角閃石	ナズ後ミガキ	ナズ、ナズ後ミガキ	ナズ	ナズ	口縁帯内面沈線1条 割部沈線 羽状文 押点文 内外面に煤付着	72
長石、石英、角閃石	ナズ後ミガキ	ナズ後ミガキ	-	-	煤付着 胴部沈線3条	73
長石、石英、角閃石 雲母、砂粒	ナズ後ミガキ	ナズ後ミガキ	-	-	外面煤付着	74
角閃石、砂粒	ナズ後丁寧なミガキ	ナズ	ナズ	ナズ	内面一部煤付着	75
角閃石	ナズ後ミガキ	ナズ後ミガキ 胴部沈線	-	-		76
角閃石、砂粒	ナズ後ミガキ	ナズ後ミガキ	-	-		77
角閃石	ナズ後ミガキ	ナズ後ミガキ	-	-	沈線1条	78
角閃石、砂粒	ナズ後ミガキ	ナズ後ミガキ 胴部沈線	-	-	一部煤付着 補修孔2ヶ 未補修孔2ヶ	79

胎土	調整				備考	遺物番号
	外器面	内器面	外底面	内底面		
角閃石	ナズ後ミガキ	-	-	-	足に工具痕	17
角閃石	ケズリ	-	-	-	足	20
角閃石、砂粒	ミガキ	-	-	-	黒斑 後胴部フインテール	83
長石、角閃石	ミガキ	-	-	-	後胴部に沈線 耳部は指で整形	84
角閃石、石英	ナズ後ミガキ	-	-	-	手	85
角閃石	ナズ	-	-	-	手	86
石英、角閃石	ミガキ	-	-	-	足 足首部分を指で整形	87
角閃石	ナズ	-	-	-	手	88
角閃石	ナズ	-	-	-	手	89
角閃石	ナズ	-	-	-	足	90
角閃石	ナズ	-	-	-	腹部	91
角閃石、砂粒	ナズ、ナズ後ミガキ	-	-	-	足	92
長石、角閃石	ミガキ	-	-	-	足 指の一部に顔料付着	93
角閃石、雲母	ナズ	-	-	-	足 底部に工具痕	94
長石、角閃石	ミガキ	-	-	-	足	95
角閃石、赤色酸化鉄	ナズ、ミガキ	-	-	-	足	96

色調		調整		備考	遺物番号
外面	内面	外器面	内器面		
明黄褐色 10YR7/6	-	ケズリ、ナズ	-	ひもを通したような穿孔	54

第14表 石器観察表

採回 No.	図版 No.	遺物 No.	調査区	器種	石材	計測値				層位 取上げ No.	備 考
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (g)	重さ (g)		
53		1	3-1区	三稜尖頭器	黒曜石	(4.25)	1.55	1.05	6.35	A-19 5層下	先端部欠損。片側先端部に稜面が残る。表面の基部側は稜上調整が、裏面は先端部のみ二次加工が施される。
		2	3-1区	三稜尖頭器	黒曜石	(4.35)	1.95	1.25	8.65	B-18 4層	先端部と側縁部欠損。表面は両縁より調整が行われ、下半部は稜上調整が僅かに行われる。裏面上半部は裏材面を大きく残し、下半部のみ平坦調整が施される。
		3	3-1区	剥片尖頭器	安山岩	(4.90)	2.35	1.10	8.06	B-15 5層下	幅広い縦長剥片を素材として、打面を折衝後に両側縁にプランティングを施す。基部は左側のみ大きく残入している。
		4	3-1区	局部磨製石鏢	黒曜石	(1.40)	(1.30)	0.20	0.26	B-17 4層	片側部欠損。小型で薄い。両縁を調整加工した後、更に一部研磨している。
		5	3-1区	打製石鏢	安山岩	1.45	1.55	0.30	0.38	F-17 4層中	小型でやや幅広く、片側がやや大きい。U字型の切りは深く、狭い。
		6	3-1区	打製石鏢	チャート	2.20	1.80	0.35	1.09	Y-25 4層下	平面形は左右対称の楕円で、U字型の切りは深く狭い。全体に丁寧な平坦調整が行われる。
		7	3-1区	打製石鏢	黒曜石	2.40	1.40	0.50	0.86	Y-22 4層	ほぼ左右対称の二等辺三角形を呈し中央部分が厚い。切りはU字型で広い。
		8	3-1区	楔形石器	黒曜石	1.75	2.50	0.50	1.82	Y-21 4層	幅広い剥片を素材とし、全面に使用痕と考えられる剥削面がある。
		9	3-1区	尖頭器	安山岩	(3.55)	2.30	1.10	6.84	T-25 4層	無茎で、先端を僅かに欠損す。厚手の縦長剥片を素材とし、両縁部より二次加工を施す。両面ともに素材面を残す。
		10	3-1区	石鏢	安山岩	(4.05)	1.90	0.85	5.50	B-18 4層	先端部僅かに欠損。縦長剥片を素材とし、左右両面からの調整により基部を作り出す。
11	3-1区	石鏢	安山岩	2.95	7.05	0.65	9.31	W-22 4層	刃部の一部欠損。縦長剥片を素材とし、刃部とつまみ部以外の調整は希薄であり、両面ともに素材面が残る。		
12	3-1区	石鏢	安山岩	4.45	8.95	1.30	31.90	Z-20 4層	稜面を僅す縦長剥片を素材として、小ぶりなつまみを作り出す。体部は側面を平坦調整により、厚みを残入している。		
13	3-1区	ノミ	安山岩	6.45	2.2	0.85	19.40	Z-17 4層	全面に研磨痕。上下先端部に使用痕と思われる小剥削面がある。		
14	3-1区	円盤型石器	凝灰岩	7.3	8.4	1.4	113.05	B-18 4層	大ぶりの剥片で使用して下半分平坦調整		
55	34	15	3-1区	磨石	安山岩	7.0	3.5	2.1	65.10	Y-21 4層	表裏面、右側面に磨き痕。全縁に縦打痕。
		16	3-1区	磨石	安山岩	10.4	5.0	3.5	281.10	Y-25 4層	表裏面、左右側面に磨き痕。表裏面、上下端に縦打痕。
		17	3-1区	磨製石斧	角閃石 安山岩	15.3	7.7	2.15	269.20	Y-21 4層	磨片を呈し基部に厚みがあり、側部は側面を多く残す。硬質石材のため破損は見られない。
		18	3-2区	ナイフ型石器	安山岩	3.80	1.30	0.70	3.01	D-7 5層中	縦長剥片を素材とし、左側縁の一部以外のほぼ全面にプランティングを施す。
57	33	19	3-2区	ナイフ型石器	安山岩	(6.05)	2.80	1.15	16.30	Y-8 5層	先端部欠損。縦長剥片を素材とし、先端と基部にプランティングを施す。刃部には使用痕が見られる。
		20	3-2区	打製石鏢	黒曜石	1.55	1.25	0.25	0.28	B-6 4層	小型で、片側が短い。V字型の切りは広い。裏面は片側部の一部は二次加工されていない。
		21	3-2区	打製石鏢	黒曜石	(1.50)	1.00	0.35	0.32	W-7 4層	先端部、片側縁部欠損。小型の二等辺三角形を呈し、切りは段状で、浅い。
		22	3-2区	打製石鏢	安山岩	(2.05)	(1.15)	0.30	0.44	D-6 4層下	片側縁部欠損。縦長の二等辺三角形を呈し、切りは広い。裏面に素材面を残す。
		23	3-3区	打製石鏢	チャート	(1.85)	(1.40)	0.35	0.53	W-10 4層	先端部と片側部欠損。切りは広く、不定形。
		24	3-2区	打製石鏢	黒曜石	1.80	1.45	0.30	0.59	A-9 5層中	小型で楕形を呈し、切りはV字型でやや深い。
		25	3-2区	打製石鏢	安山岩	(2.40)	(1.85)	0.30	1.11	D-9 4層	片側縁部、片側部欠損。大型で左右対称、切りは狭い。
		26	3-2区	打製石鏢	黒曜石	2.70	1.70	0.40	1.12	F-6 4層	大型で、片側が短く、U字型の切りは深い。全体に丁寧な調整が施されている。
		27	3-2区	打製石鏢	安山岩	3.65	1.80	0.40	1.31	D-10 4層	片側縁部欠損。大型で片側が短い。切りはやや深く、広い。
		28	3-2区	打製石鏢	安山岩	3.00	2.70	0.50	2.02	E-7 4層	片側縁部欠損。大型の二等辺三角形を呈し、片側が短く、切りは広い。
58		29	3-2区	打製石鏢	黒曜石	(2.90)	(1.60)	0.45	1.30	B-7 4層	片側縁部欠損。大型の二等辺三角形を呈し、U字型の切りは広い。
		30	3-2区	打製石鏢	黒曜石	2.95	1.70	0.45	1.44	B-7 4層	大型で非左右対称。切りは深い。裏面に素材面を残す。
		31	3-2区	打製石鏢	安山岩	(3.10)	(1.70)	0.40	1.32	A-8 4層	先端部、片側縁部僅かに欠損。大型の楕形を呈し、V字型の切りは深く、即先端部は残っている。片面は素材面を残す。
		32	3-2区	打製石鏢	安山岩	(1.80)	2.35	0.40	1.52	B-8 4層	先端部欠損。大型で片側が短く、脚部が大きい。切りは長く、段状になっている。全体に丁寧な調整が施されている。

第15表 石器観察表

採区 No.	区版 No.	遺物 No.	調査区	器種	石材	計測値				層位 取上げ No.	備	考
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)			
58	34	33	3-3区	磨製石斧	蛇紋岩	(10.3)	4.75	2.75	191.4	4層 No.1744	短冊形を呈し、基部を欠損する。全面に丁寧な研磨が行われ、刃部は略刃状を呈する。	
		34	3-2区	礫石	安山岩	8.75	3.2	2.80	121.65	5層下 No.279	両端部に敲打痕、側面に磨り痕あり。	
		35	3-2区	磨石	輝石 安山岩	11.9	8.75	4.90	745.0	B-6 4層	槽凹縁を素材とし、表面平坦面に磨痕と若干の敲打痕がある。周縁の中～下部に敲打痕が集中する。	
		36	3-2区	台石	安山岩	27.9	14.3	5.70	2250.10	X-5 5層	表面面に磨り痕。	
		37	3-1区	打製石斧	片石	9.8	3.75	1.05	55.85	S132 No.195	片脚端部欠損。扱りはごく浅く、両面に素材面を残す。	
61	34	38	3-1区	円盤型石器	安山岩	11.25	10.1	1.65	240.0	S144埋① No.111	全周縁に粗い調整が施される。左右両面に装着痕と思われる擦れがある。	
		39	3-1区	尖頭器	頁岩	3.45	2.65	0.80	7.66	S133 No.114	側縁に不連続に調整剥離が施されている。	
63	34	40	3-1区	円盤型石器	砂岩	(10.85)	11.1	1.25	195.20	S133 No.116	ほぼ全周縁に粗い調整が施されている。	
		41	3-1区	磨石	頁岩	12.60	4.90	1.25	68.60	S151	破面を残す大型の縦長剥片を素材として、両側縁に刃部調整を施す。	
64	34	42	3-1区	石匙	安山岩	7.9	3.65	0.95	30.80	S151 No.114	縦型の石匙。先端が失っている。左側面に自然面、裏面に剥離面を残す。側縁に粗い調整が施される。	
		43	3-1区	打製石鏃	安山岩	(2.20)	1.85	0.40	1.37	S134	先端部、両脚先端部欠失。基部にゆるやかな扱ひあり。やや粗い調整が施される。	
65	35	44	3-1区	打製石鏃	黒曜石	(2.45)	1.5	0.45	1.90	S136 No.57	両脚部欠損。ほぼ全面に細かな調整剥離が施される。裏面に素材剥離面を残す。	
		45	3-1区	礫石	安山岩	10.2	7.1	4.95	418.70	S136埋土 No.111	表面及び縁部に敲打痕。短冊状の一端の打痕が顕著である。	
69	34	46	3-1区	打製石鏃	黒曜石	1.85	1.55	0.35	0.72	S142	左右やや非対称。扱ひはV字状。	
		47	3-1区	十字型石器	砂岩	7.2	7.6	2.05	111.60	S142埋 No.81	縁部に装着痕と思われる擦れが確認される。	
71	34	48	3-1区	打製石斧	凝灰岩	9.3	5.1	1.50	100.15	S188 No.38	縦長剥片を素材とし、周縁に剥離を施している。	
		49	3-1区	礫石	砂岩	(8.10)	3.10	1.90	66.50	S150	片脚部欠損。先端部敲打痕。表・裏面に磨痕の可能性あり。	
73	34	50	3-1区	打製石斧	凝灰岩	9.7	4.6	1.20	71.95	S150 No.154	剥片を素材とし、周縁に調整を施している。	
		51	3-1区	磨石	角閃石 安山岩	12.45	8.05	4.80	720.70	S150 No.183	槽凹縁を素材とし、ほぼ全面に使用痕。両縁部に敲打痕あり。左側面は敲打による平坦面の形成が顕著で、両面共に磨痕・磨痕が確認される。	
74	34	32	3-1区	円盤型石器	安山岩	9.7	9.2	1.60	188.60	S182 No.58	破面のある剥片を素材とし、両面に調整を施してある。	
76	35	53	3-1区	磨石	砂岩	(9.5)	(9.6)	4.70	650.30	S160 No.2	表面面、左側面に磨り痕。	
78	34	54	3-1区	磨製石斧	砂岩	(11.60)	6.20	3.40	337.70	S163	敲打痕に全面研磨している。刃部は再調整後の使用痕あり。石斧として使用後、基部を使用面にした礫石として再利用。	
		55	3-1区	磨石	輝石 安山岩	16.1	12.1	5.90	1855.80	S174 No.11.12	槽凹縁を素材とし、両縁部に敲打痕がある。特に右側面に著しい。平坦面は両縁部よりやや滑らかである。	
81	35	56	3-2区	局部磨製石斧	凝灰岩	8.7	6.45	1.75	96.31	S199 No.115	分銅形あるいは短冊形を呈し、基部を欠損する。全面に平坦剥離を施した後、表面では広い範囲、裏面では刃部周辺に研磨を行う。	
		57	3-2区	打製石鏃	安山岩	(2.25)	1.90	0.35	0.83	S1102	先端部欠損。扱ひは浅い。脚形態が左右異なる。	
83	34	58	3-2区	磨石	安山岩	10.65	7.50	4.15	452.40	S1104 No.29	槽凹縁を素材とし、上面、下面及び左下面に敲打痕がある。表面は風化のため、研磨は不明瞭。	
		59	3-3区	打製石鏃	黒曜石	(1.90)	1.30	0.40	0.65	S1109	先端部欠損。片脚部に極端に粗い。裏面に剥離面を残す。	
85	36	60	3-3区	打製石鏃	黒曜石	(2.05)	1.45	0.25	0.65	S1109	先端部欠損。二等辺三角形を呈し、扱ひは浅く、不定形。	
		61	3-3区	磨製石斧	安山岩	13.7	3.60	3.10	225.50	S1109	自然面。両端部に敲打痕あり。	
86	34	62	3-1区	十字型石器	凝灰岩質 安山岩	9.9	8.15	0.95	84.95	S8-96埋① No.17	縁部に装着痕と思われる擦れが確認される。	
		63	3-1区	打製石鏃	安山岩	1.75	1.85	0.30	0.57	SK73 4層	扱ひはV字状。裏面に素材剥離面を残す。	
88	34	64	3-1区	円盤型石器	砂岩	7.25	7.25	1.45	93.10	SK73	破面を残す大ぶりの剥片を素材として、両縁部に急斜度の剥離が、上部に平坦剥離が施される。下部の縁部に擦れが見られる。	

第3節 飛田遺跡群(2区)出土の古墳人骨

● ●
松下真実・松下孝幸

【キーワード】：熊本県、古墳人骨、方形周溝墓、石棺墓、低身長

はじめに

熊本県熊本市北区四方寄町439の2に所在する飛田遺跡群の発掘調査が、国道3号北バイパス建設工事に伴って2010年(平成22年)度から実施されていたが、2011年に古墳時代中期に築造された方形周溝墓(SZ03)の内部主体である石棺から3体の人骨が出土した。本遺跡は方形周溝墓6基からなる埋葬遺跡であるが、人骨は「SZ03」のみから検出された。

熊本県内での古墳人骨については、益城町の福原横穴群(松下・他、1985a)と城の本2号墳(松下、2006b)、玉名市小路石棺(松下、1985b)、熊本市の古城横穴墓群(松下・他、1985c)、御幸木部遺跡群(松下、2006c)、五丁中原遺跡群(松下、1997)、飛尾横穴群(松下・他、2009)(旧城南町)および北岡横穴群、山鹿市の津袋大塚東側1号石棺(松下・他、1986a)(旧鹿本町)、湯の口横穴墓群(松下・他、1986b、1988)、舞野遺跡(松下・他、1989c)、広諏訪原遺跡(松下、2004a)(旧鹿央町)、宇土市の西潤野2号墳(松下・他、1992)、合志市の豊岡宮本横穴群(松下、2006a)(旧合志町)、美里町の四十八塚5号墳(松下・他、1989b)(旧中央町)があるが、横穴群は盗掘を受けているものが多く、人骨の保存状態はあまりよくなかった。そのうち保存状態が比較的良好であったのは津袋大塚1号石棺、四十八塚5号墳、西潤野2号墳、豊岡宮本横穴墓群から出土した人骨である。

本遺跡から出土した古墳人骨は、比較的保存状態が良好で、熊本県の古墳人の形質の特徴を知るうえで貴重な資料となるものである。人類学的観察や計測をおこない、周辺地域の例と比較をおこなったので、その結果を報告しておきたい。

資料

方形周溝墓(SZ03)の内部主体は組合式箱式石棺である。石棺に残存していた人骨を精査したところ、人骨は成人骨2体、未成人骨1体の合計3体分であった(表1)。成人骨のうち2体は男性骨、残り1体は女性骨で、未成人骨である(表2)。筆者らが現場で観察をおこない、埋葬状態と人骨の保存状態から最初に埋葬された被葬者を1号人骨、次に追葬されたものを2号人骨、最後の追葬者の遺骨を3号人骨とした。頭位は、1号人骨と3号人骨が南東、2号人骨は北西である。

表1 資料数 (Table 1. Number of materials)

成人		未成人	合計
男性	女性	女性	
2	0	1	3

本人骨は考古学的所見から古墳時代中期に属する人骨である。各骨の残存状態は図2に示すとおりで、保存状態は比較的良好であった。

計測方法は、Martin-Saller(1957)によったが、脛骨の横径はオリビエの方法で計測した。なお、年齢区分に関しては表3の基準のとおりである。



第1図 遺跡の位置 (1/25,000)

(Fig.1 Location of the Hida sites, Kumamoto City, Kumamoto Prefecture)

表2 人骨一覧 (Table 2. List of skeletons)

人骨番号	性別	年齢	頭位	備考
1号	男性	壮年	南東	赤色顔料
2号	男性	壮年	北西	赤色顔料
3号	女性	成年	南東	大腿骨遠位端分離

表3 年齢区分 (Table 3. Division of age)

年齢区分		年	齢
未成人	乳児	1歳未満	
	幼児	1歳～5歳 (第一大臼歯萌出直前まで)	
	小児	6歳～15歳 (第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで)	
	成年	16歳～20歳 (蝶後頭軟骨結合癒合まで)	
成人	壮年	21歳～39歳 (40歳未満)	
	熟年	40歳～59歳 (60歳未満)	
	老年	60歳以上	

注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(1996)を参照されたい。

所 見

I 人骨の出土状況と埋葬姿勢

1号人骨 (男性・壮年)

初葬された被葬者の人骨である。1号人骨はほとんど原位置を保っていた。頭位は南東。埋葬姿勢は仰臥と思われる。肘関節と膝関節は両側とも伸展。残存していたのは頭蓋、左右の上腕骨と肩甲骨、左側の橈骨と尺骨、両側の寛骨、左右の大腿骨と脛骨および足根骨である。頭蓋には赤色顔料が認められた。

2号人骨 (男性・壮年)

2号人骨の頭位は北西。埋葬姿勢は仰臥。肘関節と膝関節は両側とも伸展。残存していたのは頭蓋、右側の上腕骨と肩甲骨、橈骨、両側の尺骨、下部腰椎、仙骨、左右の寛骨、左右の大腿骨と脛骨および左側腓骨である。左側下肢は原位置を保っていたが、右側の大腿骨と脛骨は左側の下腿へ寄せられていた。動いていたのは右側下腿および左右の前腿のみで他の骨はほぼ原位置を保っていた。頭蓋には少量の赤色顔料が認められた。

3号人骨 (女性・成年)

3号人骨の頭位は南東。埋葬姿勢は仰臥。肘関節を両側とも約90度に曲げ、膝関節は両側とも伸展状態であった。残存していたのは、頭蓋片、両側の肩甲骨、右側鎖骨、左右の上腕骨、左側の橈骨と尺骨、頸椎の一部、左側の寛骨、左右の大腿骨と脛骨である。頭蓋の残存状態はきわめて悪い。大腿骨は遠位端がまだ癒合していない。性別は寛骨から女性と思われる。年齢は遠位端がまだ癒合していないので、16歳頃の成年である。

II 人骨の形質

各骨の計測値は文末に一括して掲げた。

1号人骨（男性・壮年）

1. 頭蓋

頭蓋の保存状態は悪く、右側の頭頂骨と側頭骨、後頭骨の右半分が残存しているにすぎない。計測はできなかった。外耳道は右側が観察できたが、骨腫は認められない。

縫合は、矢状縫合とラムダ縫合の一部が観察できた。矢状縫合とラムダ縫合の内外両板はともに開離している。

下顎骨の保存状態は悪く、オトガイから左側の下顎体にかけて残存しているにすぎない。オトガイおよび下顎体は高い。

2. 歯

下顎には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

8	7	6	5	4	3	/	1	/	2	3	4	5	6	7	8	[○：歯槽開存 /：不明]
8	7	6	5	4	3	/	1	/	2	3	4	5	6	7	8	

(1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小臼歯、5：第二小臼歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯)

咬耗度はBrocaの2度（咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ）である。また、歯の咬合形式は不明である。

3. 四肢骨

(1) 上肢骨

両側の肩甲骨と上腕骨、左側の橈骨と尺骨の一部が残存していた。

①上腕骨

両側の上腕骨体が残存していた。骨体は太く、三角筋粗面の発達は良好である。

計測値は、中央周が73mm（右）、68mm（左）で、骨体は太い。中央最大径は25mm（左右）、中央最小径が18mm（右）、16mm（左）で、骨体断面示数は72.00（右）、64.00（左）となり、両側とも骨体は扁平であるが、扁平性は左側の骨体の方が強い。

②橈骨

左側橈骨体の一部が残存していた。骨体は細い。保存状態は悪く、計測はできなかった。

③尺骨

左側尺骨体の一部が残存していた。骨体は細い。保存状態は悪く、計測はできなかった。

(2) 下肢骨

寛骨、大腿骨、脛骨、膝蓋骨が残存していた。

①寛骨

両側の腸骨体の一部が残存していた。大坐骨切痕の角度は小さい。

②大腿骨

両側の骨体が残存していた。乾燥によるひび割れと変形が認められる。骨体は大きく、粗線や骨体両側面の後方への発達は極めて良好である。骨体上部には扁平性は認められない。

計測値は、骨体中央周が88mm(右)、90mm(左)で、骨体は太い。骨体中央矢状径は30mm(右)、31mm(左)、中央横径は26mm(左右)で、骨体中央断面示数は115.38(右)、119.23(左)となり、粗線や骨体両側面の後方への発達は極めて良好である。また、上骨体断面示数は86.67(右)、83.87(左)となり、骨体上部には扁平性は認められない。

③脛骨

両側の骨体が残存していた。骨体は太く、ヒラメ筋線の発達は悪いが、骨間縁の発達は良好である。骨体の断面形は両側ともヘリチカのⅢ型を呈している。

計測値は、骨体周は95mm(左右)、89mm(左)で、骨体は太い。中央最大径は33mm(右)、31mm(左)、中央横径が26mm(右)、25mm(左)で、中央断面示数は78.79(右)、80.65(左)となり、両側とも骨体には扁平性は認められない。

4. 性別・年齢

性別は、寛骨の大坐骨切痕の角度が小さく、四肢骨の骨体大きいことから男性と推定した。年齢は、矢状縫合とラムダ縫合の内外両板が開離していることから、壮年と推測した。

2号人骨(男性・壮年)

1. 頭蓋

保存状態は比較的良好である。前頭結節の発達は弱く、外後頭隆起の発達は良好で、棘状に発達している。乳様突起は大きい。外耳道は両側とも観察できたが、左右ともに骨腫は認められない。縫合は、矢状縫合の外板でやや癒合が進んでいるが、その他の三主縫合の内外両板はともに開離している。また、頭蓋骨片に赤色顔料が付着している。

計測値は、頭蓋最大幅が143mmで、横弧長は308mmである。頭蓋長幅示数は算出できなかったが、観察したところ、頭型は中頭型に属しているようである。

下顎骨の保存状態は悪く、左側の下顎体が残存していたにすぎない。

2. 歯

下顎骨には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

／ 7 6 ／ 4 3 ／ ／ ／ 3 ／ ／ 7 8 [○:歯槽開存 ▽:先天性欠損 /:不明]
8 ▽ 6 5 4 3 2 1 | 1 2 / 4 / 6 7 /

(1:中切歯、2:側切歯、3:犬歯、4:第一小臼歯、5:第二小臼歯、6:第一大臼歯、7:第二大臼歯、8:第三大臼歯)

咬耗度はBrocaの3

度(咬耗が象牙質まで及ぶ)である。また、歯の咬合形式は不明である。

3. 四肢骨

(1) 上肢骨

右側の肩甲骨と上腕骨、橈骨および両側の尺骨が残存していた。

①上腕骨

右側の骨体遠位端が残存していた。骨体やや太い。保存状態が悪く、計測はできなかった。

②橈骨

右側の骨体が残存していた。骨体はやや太く、骨間縁の発達は良好である。

咬耗度は Broca の 1 度（咬耗がエナメル質のみ）である。また、歯の咬合形式は不明である。

3. 四肢骨

(1) 上肢骨

両側の肩甲骨と右側の鎖骨、両側の上腕骨、左側の橈骨と尺骨が残存していた。

①上腕骨

両側の骨体が残存していたが、保存状態は悪い。骨体は女性としてはやや太いが、三角筋粗面の発達は悪い。

計測値は、中央周が 62mm（右）、中央最大径が 22mm（右）、中央最小径は 16mm（右）で、骨体断面示数は 72.73（右）となり、骨体は扁平である。

②尺骨

左側の骨体が残存していた。骨体は細い。

(2) 下肢骨

寛骨と仙骨、大腿骨、脛骨、左側腓骨が残存していた。

①寛骨

左右の腸骨体が残存していた。大坐骨切痕の角度は広い。

②大腿骨

両側の骨体が残存していた。骨体は細く、粗線の発達は悪いが、骨体両側面の後方への発達は比較的良好である。骨体遠位端は分離しており、骨頭の骨端線は明瞭である。骨体上部には扁平性は認められない。

計測値は、最大長が 372mm（左）で、長さは短い。骨体中央周は 74mm（右）で、骨体は細い。骨体中央矢状径は 25mm（右）、中央横径が 20mm（右）で、骨体中央断面示数は 125.00（右）となり、粗線や骨体両側面の後方への発達は極めて良好である。また、上骨体断面示数は 89.29（右）、78.57（左）で、右側の骨体上部には扁平性は認められないが、左側は扁平である。

③脛骨

両側の骨体が残存していたが、保存状態は悪い。ヒラメ筋線の発達は悪い。骨体の断面形は不明である。保存状態が悪く、計測はできなかった。

④腓骨

左側の骨体が残存していたが、保存状態は悪い。

4. 推定身長値

大腿骨の最大長から算出した推定身長値は 145.20cm（左）（Pearson 式）、144.52cm（左）（藤井式）4.22cm となり、低身長値である。

5. 性別・年齢

性別は、寛骨の大坐骨切痕の角度が大きく、四肢骨が小さいことから女性と推定した。年齢は、大腿骨遠位端が分離し、大腿骨頭の骨端線が明瞭なことから 16 才前後の成年と推定した。

考 察

1. 四肢骨

①上腕骨

表4は男性上腕骨の比較表である。中央周は73mm(1例)で、福原Bと同値で、表4では最大値を示しており、骨体は太い。骨体断面示数は72.00(1例)で、この値も福原Bと同値で、北岡横穴群14-Y-01より大きい、その他の資料より小さく、骨体は扁平である。

表5は女性上腕骨の比較表である。中央周は62mm(1例)で、福原と同値で、四十八塚に次いで大きく、骨体は大きい。骨体断面示数は72.73(1例)で、表5では最小値となり、男性と同様に骨体は扁平である。

表4 上腕骨計測値(男性、右、mm)(Table 4. Comparison of measurements and indices of male right humeri)

	飛田		北岡横穴群		豊岡宮本		四十八塚		西鹿野2号		清水		津袋		福原		小路	
	古墳人	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県
	(松下・他)		(松下・他)		(松下)	(松下・他)	(松下・他)	(松下・他)	(内藤・他)	(松下・他)	(松下・他)	(松下・他)	(松下・他)	(松下・他)	(松下・他)	(松下)	(松下)	(松下)
	CZ3-1号	14-Y-01	14-Y-02	11(奥)	n	M	n	M	1号人骨	n	M	1号人骨	A	B				1号
5	中央最大径	25	24	23	21	3	21.67	22	1	23 (左)	22	22	22	25 (左)	25			25
6	中央最小径	18	16	18	17	3	17.00	16	1	17 (左)	17	17	19	18 (左)	19			19
7	骨体最小周	69	-	-	61	2	63.50	59	1	61 (左)	60	63	64 (左)	64				64
7(a)	中央周	73	69	71	64	3	64.33	64	1	67 (左)	63	69	73 (左)	72				72
6/5	骨体断面示数	72.00	66.67	78.26	80.95	3	78.29	72.73	1	73.91 (左)	77.27	83.36	72.00 (左)	76.00				76.00

表5 上腕骨計測値(女性、右、mm)(Table 5. Comparison of measurements and indices of female right humeri)

	飛田		四十八塚		津袋1号		福原		豊岡宮本		小路	
	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県
	(松下・他)		(松下・他)		(松下・他)	(松下・他)	(松下・他)	(松下・他)	(松下)	(松下)	(松下)	(松下)
	CZ3-3号	1号人骨	2号人骨	F	11(右)	2号						
5.	中央最大径	22	21	21	21	20 (左)	19					
6.	中央最小径	16	17	16	17	15 (左)	14					
7.	骨体最小周	-	60	55	58	55 (左)	51					
7(a).	中央周	62	63	59	62	60 (左)	56					
6/5	骨体断面示数	72.73	80.95	76.19	80.95	75.00 (左)	73.68					

②大腿骨

表6は男性大腿骨の比較表である。最大長は409mm(1例)で表6では最大値となるが、大腿骨はけっして長くはない。骨体中央周は84.50mm(2例)で、津袋、四十八塚より大きい、その他の資料より小さく、骨体は細い。骨体中央断面示数は111.69(2例)で、北岡横穴14-Y-02に次いで大きく、粗線や骨体両側面の後方への発達は良好である。また、上骨体断面示数は89.89(2例)で、北岡横穴14-Y-02、御幸木部に次いで大きく、骨体上部には扁平性は認められない。

表7は、女性大腿骨の比較表である。最大長は372mm(1例)で、四十八塚1号よりは大きい、津袋、豊岡宮本よりは小さく、長さは短い。骨体中央周は74mm(1例)で、四十八塚3号、清水と同値で、表7では小路に次いで小さく、骨体は細い。骨体中央断面示数は125.00(1例)で、表7では最大値となり、粗線や骨体両側面の後方への発達はきわめて良好である。また、上骨体断面示数は89.29(1例)で、表7では最大になり、男性と同様に骨体上部には扁平性は認められない。

表6 大腿骨計測値(男性,右,mm)(Table 6 Comparison of measurements and indices of male right femora)

項目	北岡様穴基群				豊岡宮本		四十八塚		西原野分		福源		清水		津袋1号		小路		御幸木筋		
	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	
	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	
	(松下・他)		(松下・他)		(松下)		(松下・他)		(松下・他)		(松下・他)		(内藤・他)		(松下・他)		(松下)		(松下)		
	n	M	14-Y-01	14-Y-02	14-FE-1	n	M	n	M	1号人骨	n	M	n	M	1号	1号	1号	1号	S-004		
1. 最大長	1	409 (左)	-	-	-	-	-	1	399(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2. 自然位全長	1	368 (左)	-	-	-	-	-	1	364(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6. 骨体中央伏径	2	28.50 (左)	32	28(左)	3	30.33 (左)	2	27.50 (左)	27 (左)	3	27.67 (左)	3	26.67 (左)	27	26 (左)	27	26 (左)	27	26 (左)	32	
7. 骨体中央横径	2	25.50 (左)	27(左)	27 (左)	3	28.00 (左)	2	25.00 (左)	33 (左)	3	28.67 (左)	3	26.33 (左)	25	28 (左)	25	28 (左)	25	28 (左)	31	
8. 骨体中央縦径	2	84.50 (左)	85(左)	95 (左)	3	91.00 (左)	2	82.50 (左)	193 (左)	3	85.00 (左)	3	88.33 (左)	81	86 (左)	81	86 (左)	81	86 (左)	96	
9. 骨体上横径	2	29.50 (左)	31(左)	30 (左)	3	33.6(左)	3	29.00 (左)	38 (左)	3	32.33 (左)	3	32.00 (左)	27	32 (左)	27	32 (左)	27	32 (左)	32	
10. 骨体上縦径	2	26.50 (左)	24(左)	28 (左)	3	25.00 (左)	2	23.50 (左)	23 (左)	3	24.00 (左)	3	25.00 (左)	24	24 (左)	24	24 (左)	24	24 (左)	29	
6/7 骨体中央断面示数	2	111.89 (左)	100.00 (左)	118.52 (左)	96.55 (左)	3	108.53 (左)	2	110.00 (左)	81.82 (左)	3	104.53 (左)	3	108.11 (左)	108.00 (左)	92.86 (左)	92.86 (左)	92.86 (左)	92.86 (左)	102.23 (左)	
10/9 上骨体断面示数	2	89.89 (左)	77.45 (左)	83.33 (左)	69.70 (左)	3	78.11 (左)	2	81.19 (左)	58.67 (左)	3	74.28 (左)	-	88.89 (左)	75.00 (左)	75.00 (左)	75.00 (左)	75.00 (左)	80.63 (左)	80.63 (左)	

表7 大腿骨(女性,右,mm)(Table 7 Comparison of measurements and indices female right femoral)

項目	豊岡宮本				四十八塚		古城		津袋1号		道の口		福源		清水		小路			
	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人		
	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県		
	(松下・他)		(松下・他)		(松下)		(松下)		(松下)		(松下)		(内藤・他)		(内藤・他)		(松下)			
	C23-3号	n	M	1号	2号	28-1-2号	2号	n	M	n	M	n	M	n	M	2号	2号	2号	2号	
1. 最大長	372(左)	1	380(左)	364	-	-	392	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2. 自然位全長	370(左)	1	374(左)	361	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6. 骨体中央伏径	25	2	25.50 (左)	26	23	25	26	-	1	24	1	24	1	24	1	24	21			
7. 骨体中央横径	20	2	25.00 (左)	25	23	24	24	-	1	26	1	24	1	24	1	24	25			
8. 骨体中央縦径	74	2	79.00 (左)	81	74	77	78	-	1	77	1	74	1	74	1	74	72			
9. 骨体上横径	28	3	28.33 (左)	29	-	26	28	1	28	1	30	1	29	1	29	27				
10. 骨体上縦径	25	3	22.33 (左)	23	-	22	22	1	22	1	22	1	23	1	23	19				
10/9 比率示数	-	1	21.93 (左)	22.44	-	22	22	1	22	1	22	1	23	1	23	19				
6/7 骨体中央断面示数	125.00	2	102.00 (左)	104.00 (左)	100.00 (左)	104.17 (左)	108.33 (左)	-	1	82.31 (左)	1	100.00 (左)	84.00 (左)							
10/9 上骨体断面示数	89.29	3	79.13 (左)	79.31	-	84.62 (左)	78.57 (左)	1	78.57 (左)	1	73.33 (左)	1	79.22 (左)	70.27 (左)						

③ 脛骨

表8は男性脛骨の比較表である。最大長は330mm(1例)で、表8では最大値になるが、長さはけっして長くはない。骨体周は88.00mm(2例)で、北岡14-Y-02に次いで大きく、骨体は太い。中央断面示数は82.92(2例)で、表8では最大値となり、骨体には扁平性はまったく認められない。

表8 脛骨(男性,右,mm)(Table 8 Comparison of measurements and indices of male right tibiae)

項目	芝岡様穴基群				豊岡宮本		四十八塚		福源		清水		津袋1号		小路	
	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人
	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県
	(松下・他)		(松下・他)		(松下)		(松下)		(松下)		(松下)		(内藤・他)		(松下・他)	
	n	M	14-Y-02	14-TB-1	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	1号	1号
1. 脛骨全長	1	318(左)	-	-	-	-	1	320(左)	-	-	-	-	-	-	-	-
1a. 脛骨最大長	1	330(左)	-	-	-	-	1	328(左)	-	-	-	-	-	-	-	-
8. 中央最大径	2	29.00 (左)	32	28 (左)	2	30.00 (左)	3	27.67 (左)	4	29.50 (左)	1	30 (左)	29	30 (左)		
9. 中央横径	2	24.00 (左)	23	19 (左)	2	21.50 (左)	3	20.00 (左)	4	21.75 (左)	1	20 (左)	19	20 (左)		
10. 骨体周	2	88.00 (左)	89	77 (左)	2	82.50 (左)	3	76.00 (左)	4	81.00 (左)	1	83.50 (左)	76 (左)	85 (左)		
10b. 最小周	1	82(左)	82	-	2	76.00 (左)	3	68.67 (左)	4	75.25 (左)	-	66(左)	80 (左)			
9/8 中央断面示数	2	82.92 (左)	71.88 (左)	67.86 (左)	71.67 (左)	3	72.72 (左)	4	74.04 (左)	1	66.67 (左)	65.52 (左)	66.67 (左)			

2. 推定身長値

表9は男性の推定身長値の比較表である。大腿骨からの推定身長値は158.20mm(1例)(左)(Pearson式)で、四十八塚より大きいが、豊岡宮本より小さく、身長は低く、西北九州弥生人(158.78cm, 16例)のみである。

表10は女性の推定身長値の比較表である。大腿骨からの推定身長値は145.20mm(1例)(左)(Pearson式)で、四十八塚に次いで小さく、低身長である。

表9 推定身長値(男性、右、cm)(Table 9. Comparison of estimated male statures)

	飛田		豊岡宮本		四十八塚		津袋1号	
	古墳人		古墳人		古墳人		古墳人	
	熊本県		熊本県		熊本県		熊本県	
	熊本市		合志町		中央町		鹿本町	
	(松下・他)		(松下)		(松下・他)		(松下・他)	
	CZ3-2号		11-FE-3		n	M	1号	
Pearsonの式	上腕骨	-	-	-	3	151.70	146.75	
	桡骨	-	-	-	3	158.54	-	
	大腿骨	158.20 (左)	(164.03)		1	154.44	-	
	脛骨	154.22 (左)	-		1	156.12	-	
藤井の式	上腕骨	-	-	-	3	151.93	147.34	
	桡骨	-	-	-	3	156.45	-	
	大腿骨	155.81 (左)	(163.58)		1	150.81	-	
	脛骨	155.42 (左)	-		1	154.48	-	

表10 推定身長値(女性、右、cm)(Table 10. Comparison of estimated female statures)

	飛田		豊岡宮本		四十八塚		小路		津袋1号	
	古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人	
	熊本県		熊本県		熊本県		熊本県		熊本県	
	熊本市		合志町		中央町		玉名市		鹿本町	
	(松下・他)		(松下)		(松下・他)		(松下)		(松下・他)	
	CZ3-3号		11(右)FE-2		1号	n	M	2号		
Pearsonの式	上腕骨	-	-	-	144.18	1	146.11	-		
	桡骨	-	-	-	151.09	-	-	148.08		
	大腿骨	145.20	146.75		143.64	1	149.87	149.09		
	脛骨	-	-		144.39	-	-	-		
藤井の式	上腕骨	-	-	-	144.13	1	145.8	-		
	桡骨	-	-	-	148.35	-	-	146.13		
	大腿骨	144.52	146.38		142.58	1	150.11	148.85		
	脛骨	-	-		143.02	-	-	-		

要 約

熊本県熊本市北区四方寄町にある飛田遺跡群から古墳人骨が出土した。人骨の保存状態は比較的良好で、人類学的観察と計測をおこない、以下の結果を得た。

1. 方形周溝墓(SZ03)の内部主体である組合式箱式石棺から3体の人骨が出土した。3体のうち2体は成人骨(男性)で、残りの1体は成年骨(女性)である。
2. 本人骨の所属時期は、考古学的所見から、古墳時代中期と推測されている。
3. 頭蓋の保存状態は悪く、計測はできなかったが、観察をおこなったところ男性の頭型は中頭型に属しているようである。また、顔面頭蓋の特徴は不明である。
4. 上腕骨は男女ともに太く、骨体は扁平で、男性は三角筋粗面の発達も良好である。
5. 男性の大腿骨は、骨体が太いもの(1号)と細いもの(2号)とが存在し、女性骨体は細いが、男女とも骨体両側面の後方への発達は良好である。また、男女とも骨体上部の扁平性はきわめて弱い。
6. 男性脛骨は短い。骨体は太いものと細いものとが存在するが、骨体の扁平性はまったく認められない。
7. 男性の大腿骨から算出した推定身長は158.20cm(左)(Pearson式)(2号人骨)となり、低身長で、西北九州弥生人なみである。また、女性は145.20cm(左)(Pearson式)(3号人骨)で、低身長である。

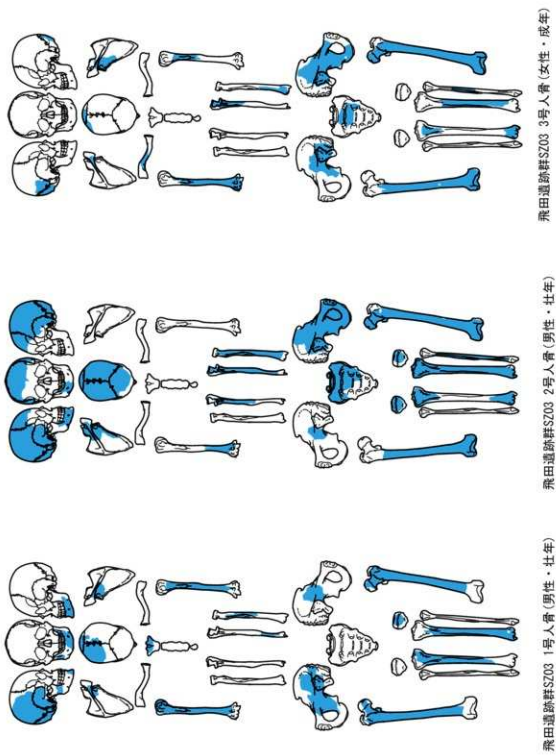
8. 本遺跡から出土した古墳人頭蓋の保存状態が悪かったので、頭型や顔面の形態は知ることができなかったが、初葬された男性の四肢骨は太く、屈強な人物であったことが推測された。熊本県では保存良好な古墳人骨の資料数が少なく、まだ本県の古墳人の全容を明らかにすることができない。例数の増加を期待したい。

《参考文献》

1. Martin-Saller, 1957: Lehrbuch der Anthropologie, Bd. I, Gustav Fischer Verlag, Stuttgart: 429-597.
2. 松下孝幸・他, 1985a: 熊本県益城町福原横穴墓群出土の古墳時代人骨。福原横穴墓群(熊本県文化財調査報告第77集): 29-42.
3. 松下孝幸・他, 1985b: 玉名市小路石棺出土の古墳時代人骨。滑石小路箱式石棺・本堂山遺跡(玉名市文化財調査報告第6集): 32-48, 57-61.
4. 松下孝幸・他, 1985c: 熊本市古城横穴墓群出土の古墳時代人骨。古城横穴墓群(熊本県文化財調査報告第74集): 129-146.
5. 松下孝幸・他, 1986a: 熊本県鹿本町津袋大塚東側1号石棺出土の古墳時代人骨。津袋大塚東側1号石棺出土人骨 研究報告書(鹿本町文化財調査研究報告第2集): 5-33.
6. 松下孝幸・他, 1986b: 熊本県山鹿市湯の口横穴群出土の古墳時代人骨。湯の口横穴群菊池川中流域古墳・横穴群総合調査報告書(1)(山鹿市立博物館調査報告書第5集): 111-122.
7. 松下孝幸・他, 1988: 熊本県山鹿市湯の口横穴群出土の古墳時代人骨。湯の口横穴群(II)菊池川中流域古墳・横穴群総合調査報告書(3)(山鹿市立博物館調査報告書第8集): 53-63.
8. 松下孝幸・他, 1989a: 熊本県七城町瀬戸口横穴墓出土の古墳時代人骨。北上原古墳・瀬戸口横穴墓群(熊本県文化財調査報告第104集): 97-107.
9. 松下孝幸・他, 1989b: 熊本県益城郡中央町四十八塚5号墳出土の古墳時代人骨。聖志他城跡・四十八塚古墳(熊本県下益城郡中央町文化財調査報告第1集): 77-114.
10. 松下孝幸・他, 1989c: 熊本県山鹿市舞野遺跡出土の古墳時代人骨。錢龜塚古墳ほか(菊池川中流域古墳・横穴群総合調査報告書(4)(山鹿市立博物館調査報告書第9集): 71-82.
11. 松下孝幸・他, 1992: 熊本県宇土市西潤野2号墳出土の古墳時代人骨。立岡古墳群(宇土市埋蔵文化財調査報告書第19集): 71-84.
12. 松下孝幸, 1997: 熊本市五丁中原遺跡群第1次調査区3号墳間溝内墓壇出土の古墳時代人骨。五丁中原遺跡(五丁中原遺跡第1次調査区発掘調査概要報告書): 25-26.
13. 松下孝幸, 2004a: 熊本県鹿央町広瀬訪原遺跡出土の古墳人骨。鹿央町文化財報告書広瀬訪原遺跡(町民テニスコート新設工事及び農村総合整備事業農道7号工事に伴う埋蔵文化財調査報告書): 27-34.
14. 松下孝幸, 2004b: 「自然人類学」『環境考古学ハンドブック』: 444-454. 朝倉書店
15. 松下孝幸, 2006a: 熊本県合志町豊岡宮本横穴群出土の古墳人骨。豊岡宮本横穴群(熊本県合志町文化財調査報告第2集): 57-84.
16. 松下孝幸, 2006b: 熊本県益城町「城の本2号墳」出土の古墳人骨。城の本2号墳(益城町文化財調査報告第20集): 37-42.
17. 松下孝幸, 2006c: 熊本市御幸木部外村屋敷遺跡出土の古墳人骨。御幸木部遺跡群(国土交通省熊本河川国道事務所加勢川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査)(熊本県文化財調査報告第233集): 81-90.
18. 松下孝幸・他, 2009: 熊本県城南町飛尾横穴群出土の古墳人骨。飛尾横穴群(熊本県埋蔵文化財調査報告第246集): 38-46.
19. 内藤芳篤, 1975: 塚原中世墳墓・丸尾5号墳出土の人骨について。塚原(熊本県文化財調査報告第16集): 317-322.
20. 内藤芳篤・他, 1980: 清水1号古墳出土の人骨。清水古墳・野寺遺跡・林源衛門墓(熊本県文化財調査報告書第41集): 22-28.
21. 分部哲秋・他, 1991: 熊本県菊池町灰塚古墳出土の人骨。灰塚古墳(県営畑地帯総合土地改良事業に伴う埋蔵文化財調査)(熊本県文化財調査報告第114集): 49-59.

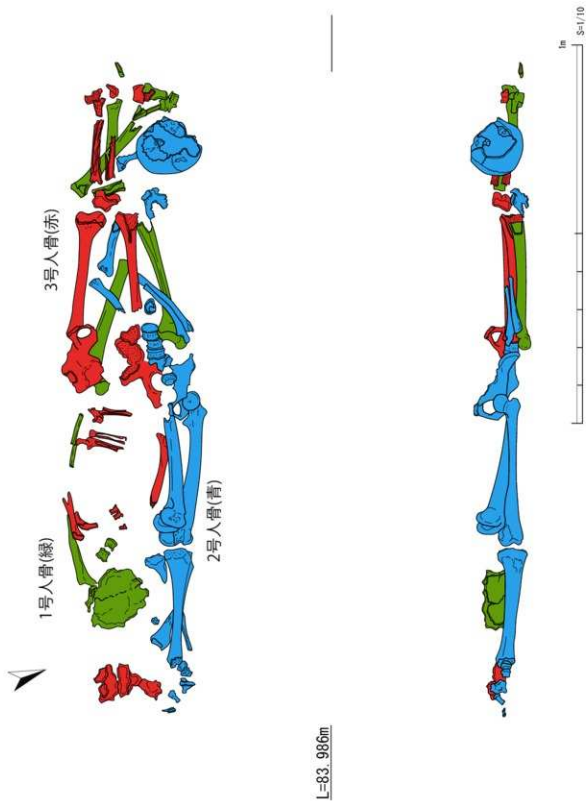
* Masami MATSUSHITA, ** Takayuki MATSUSHITA

特定非営利活動法人人類学研究機構(The Organization of Anthropological Research)



第2図 人骨の残存図(アミかけ部分)

(Fig. 2 Regions of preservation of the skeleton. Shaded areas are preserved.)



第3図 SZ03 人骨の出土遺物状況埋葬姿勢



四肢骨 (The limb bones)

飛田1号人骨 (男性・壮年)

(The skeleton No. 1 from the Hida sites, young adult male)



四肢骨 (The limb bones)

飛田3号人骨 (女性・壮年)

(The skeleton No. 3 from the Hida sites, young adult female)



頭蓋上面 (Superior view of the skull)



四肢骨 (The limb bones)

飛田2号人骨 (男性・壮年)

(The skeleton No. 2 from the Hida sites, young adult male)

表11 脳頭蓋(mm)(Calvaria)

	飛田	
	CZ3-2号	男性
1.	頭蓋最大長	-
8.	頭蓋最大幅	143
17.	バジオン・プレグマ高	-
8/1	頭蓋長幅示数	-
17/1	頭蓋長高示数	-
17/8	頭蓋幅高示数	-
1+8+17/3	頭蓋モズルス	-
5.	頭蓋底長	-
9.	最小前頭幅	-
10.	最大前頭幅	-
11.	両耳幅	132
12.	最大後頭幅	103
13.	乳突幅	-
7.	大後頭孔長	-
16.	大後頭孔幅	-
16/7	大後頭示数	-
23.	頭蓋水平周	-
24.	横弧長	308
25.	正中矢状弧長	-
26.	正中矢状前頭弧長	-
27.	正中矢状頭頂弧長	121
28.	正中矢状後頭弧長	117
29.	正中矢状前頭弦長	-
30.	正中矢状頭頂弦長	108
31.	正中矢状後頭弦長	94
29/26	矢状前頭示数	-
30/27	矢状頭頂示数	89.26
31/28	矢状後頭示数	80.34

表12 下顎骨(mm、度)(Mandibula)

	飛田		飛田		平均	
	CZ3-1号	CZ3-2号	男性	男性	n	M
65	下顎関節突起幅	-	-	-	-	-
65(1).	下顎筋突起幅	-	-	-	-	-
66	下顎角幅	-	-	-	-	-
67	前下顎幅	-	-	-	-	-
68	下顎長	-	-	-	-	-
68(1).	下顎長	-	-	-	-	-
69	オトガイ高	37	-	-	1	37
69(1).	下顎体高(右)	-	36	-	1	36
	(左)	39	-	-	1	39
69(2).	下顎体高(右)	-	-	-	-	-
	(左)	34	-	-	1	34
70	枝高(右)	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-
70(1).	前枝高(右)	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-
70(2).	最小枝高(右)	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-
70(3).	下顎切痕高(右)	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-
71(1).	下顎切痕幅(右)	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-
71	枝幅(右)	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-
71a.	最小枝幅(右)	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-
79	下顎枝角(右)	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-
66/65	下顎幅示数	-	-	-	-	-
68/65	幅長示数	-	-	-	-	-
68(1)/65	幅長示数(右)	-	-	-	-	-
69(2)/69	下顎高示数(右)	-	-	-	-	-
	(左)	91.89	-	-	1	91.89
71/70	下顎枝示数(右)	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-
71a/70(2)	下顎枝示数(右)	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-
70(3)/71(1)	下顎切痕示数(右)	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-

表13 上腕骨(mm)(Humerus)

	飛田	飛田
	CZ3-1号 男性	CZ3-3号 女性
1. 上腕骨最大長(右)	-	-
(左)	-	-
2. 上腕骨全長(右)	-	-
(左)	-	-
3. 上端幅(右)	-	-
(左)	-	-
3(1). 横上径(右)	-	-
(左)	-	-
4. 下端幅(右)	-	-
(左)	-	-
5. 中央最大径(右)	25	22
(左)	25	-
6. 中央最小径(右)	18	16
(左)	16	-
7. 骨体最小周(右)	69	-
(左)	-	-
7(a). 中央周(右)	73	62
(左)	68	-
8. 頭周(右)	-	-
(左)	-	-
9. 頭最大横径(右)	-	-
(左)	-	-
10. 頭最大矢状径(右)	44	-
(左)	-	-
11. 滑車幅(右)	-	-
(左)	-	-
12. 小頭幅(右)	-	-
(左)	-	-
12(a). 滑車幅および小頭幅(右)	-	-
(左)	-	-
13. 滑車深(右)	-	-
(左)	-	-
14. 肘頭窩幅(右)	-	-
(左)	-	-
15. 肘頭窩深(右)	-	-
(左)	-	-
6/5 骨体断面示数(右)	72.00	72.73
(左)	64.00	-
7/1 長厚示数(右)	-	-
(左)	-	-

表14 橈骨(mm)(Radius)

	飛田
	CZ3-2号 男性
1. 最大長(右)	-
(左)	-
1b. 平行長(右)	-
(左)	-
2. 機能長(右)	-
(左)	-
3. 最小周(右)	-
(左)	43
4. 骨体横径(右)	-
(左)	-
4a. 骨体中央横径(右)	-
(左)	-
4(1). 小頭横径(右)	-
(左)	-
4(2). 頸横径(右)	-
(左)	-
5. 骨体矢状径(右)	-
(左)	17
5a. 骨体中央矢状径(右)	-
(左)	16
5(1). 小頭矢状径(右)	-
(左)	12
5(2). 頸矢状径(右)	-
(左)	12
5(3). 小頭周(右)	-
(左)	-
5(4). 頸周(右)	-
(左)	-
5(5). 骨体中央周(右)	-
(左)	47
5(6). 骨下端幅(右)	-
(左)	-
3/2 長厚示数(右)	-
(左)	-
5/4 骨体断面示数(右)	-
(左)	-
5a/4a 中央断面示数(右)	-
(左)	-

表 15 尺骨 (mm) (Ulna)

	飛田	
	CZ3-2 号 男性	
1. 最大長 (右)	-	-
(左)	-	-
2. 機能長 (右)	-	-
(左)	-	-
2(i). 肘頭尺骨頭長 (右)	-	-
(左)	-	-
3. 最小周 (右)	-	-
(左)	-	-
6. 肘頭幅 (右)	-	-
(左)	-	-
6(i). 上幅 (右)	-	-
(左)	-	-
7. 肘頭高 (右)	-	-
(左)	-	-
8. 肘頭高 (右)	-	-
(左)	-	-
11. 尺骨矢状径 (右)	13	-
(左)	13	-
12. 尺骨横径 (右)	17	-
(左)	18	-
S 中央最小径 (右)	13	-
(左)	13	-
L 中央最大径 (右)	17	-
(左)	18	-
C 中央周 (右)	51	-
(左)	49	-
3/2 長厚示数 (右)	-	-
(左)	-	-
11/12 骨体断面示数 (右)	76.47	-
(左)	72.22	-
S/L 中央断面示数 (右)	76.47	-
(左)	72.22	-

表 16 大腿骨 (mm) (Femur)

	飛田		飛田		飛田
	CZ3-1 号 男性	CZ3-2 号 男性	平均		
			n	M	
1. 最大長 (右)	-	-	-	-	-
(左)	-	409	-	-	372
2. 自然位全長 (右)	-	-	-	-	-
(左)	-	398	-	-	370
3. 最大転子長 (右)	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-
(左)	(Pearson 式)	-	-	-	-
(2号人骨)	-	-	-	-	-
4. 自然位転子長 (右)	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-
6. 骨体中央矢状径 (右)	30	27	2	28.50	25
(左)	31	-	1	31	-
7. 骨体中央横径 (右)	26	25	2	25.50	20
(左)	26	-	1	26	-
8. 骨体中央周 (右)	88	81	2	84.50	74
(左)	90	-	1	90	-
9. 骨体上横径 (右)	30	29	2	29.50	28
(左)	31	-	1	31	28
10. 骨体上矢状径 (右)	26	27	2	26.50	25
(左)	26	-	1	26	22
15. 頸垂直径 (右)	-	-	-	-	-
(左)	-	31	1	31	-
16. 頸矢状径 (右)	-	-	-	-	-
(左)	-	24	1	24	-
17. 頸周 (右)	-	-	-	-	-
(左)	-	88	1	88	-
18. 頭垂直径 (右)	-	-	-	-	-
(左)	-	43	1	43	-
19. 頭横径 (右)	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-
20. 頭周 (右)	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-
21. 上顆幅 (右)	-	81	1	81	-
(左)	-	-	-	-	-
8/2 長厚示数 (右)	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-
6/7 骨体中央断面示数 (右)	115.38	108.00	2	111.69	125.00
(左)	119.23	-	1	119.23	-
10/9 上骨体断面示数 (右)	86.67	93.10	2	89.89	89.29
(左)	83.87	-	1	83.87	78.57

表17 脛骨(mm)(Tibia)

		飛田	飛田	平均	
		CZ3-1号	CZ3-2号	n M	
		男性	男性		
1.	脛骨全長(右)	-	318	1	318
	(左)	-	-	-	-
1a.	脛骨最大長(右)	-	-	-	-
	(左)	-	330	1	330
1b.	脛骨長(右)	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-
2.	顆距間距離(右)	-	-	-	-
	(左)	-	308	1	308
3.	最大上端幅(右)	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-
3a.	上内関節面幅(右)	-	-	-	-
	(左)	-	30	1	30
3b.	上外関節面幅(右)	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-
4a.	上内関節面深(右)	-	-	-	-
	(左)	-	46	1	46
4b.	上外関節面深(右)	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-
6.	最大下端幅(右)	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-
7.	下端矢状径(右)	-	36	1	36
	(左)	-	-	-	-
8.	中央最大径(右)	33	-	1	33
	(左)	31	27	2	29.00
8a.	栄養孔位最大径(右)	36	-	1	36
	(左)	34	35	2	34.50
9.	中央横径(右)	26	-	1	26
	(左)	25	23	2	24.00
9a.	栄養孔位横径(右)	26	-	1	26
	(左)	25	27	2	26.00
10.	骨体周(右)	95	-	1	95
	(左)	95	81	2	88.00
10a.	栄養孔位周(右)	100	-	1	100
	(左)	95	98	2	96.50
10b.	最小周(右)	-	-	-	-
	(左)	82	-	1	82
9/8.	中央断面示数(右)	78.79	-	1	78.79
	(左)	80.65	85.19	2	82.92
9a/8a	栄養孔位断面示数(右)	72.22	-	1	72.22
	(左)	73.53	77.14	2	75.34
10b/1	長厚示数(右)	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-

表18 腓骨(mm)(Fibula)

		飛田
		CZ3-2号 男性
1.	最大長(右)	-
	(左)	-
2.	中央最大径(右)	-
	(左)	15
3.	中央最小径(右)	-
	(左)	10
4.	中央周(右)	-
	(左)	42
4a.	最小周(右)	-
	(左)	-
4b.	頸横径(右)	-
	(左)	-
4c.	頸矢状径(右)	-
	(左)	-
4(1).	上端幅(右)	-
	(左)	-
4(1a).	上端矢状幅(右)	-
	(左)	-
4(2).	下端幅(右)	-
	(左)	-
4(2a).	下端矢状幅(右)	-
	(左)	-
3/2	中央断面示数(右)	-
	(左)	66.67
4a/1	長厚示数(右)	-
	(左)	-

表19 推定身長値(cm)(Stature)

	飛田	飛田
	CZ3-2号 男性	CZ3-3号 女性
Pearsonの式 上腕骨(右)	-	-
(左)	-	-
橈骨(右)	-	-
(左)	-	-
大腿骨(右)	-	-
(左)	158.20	145.20
脛骨(右)	-	-
(左)	154.22	-
藤井の式 上腕骨(右)	-	-
(左)	-	-
橈骨(右)	-	-
(左)	-	-
大腿骨(右)	-	-
(左)	155.81	144.52
脛骨(右)	-	-
(左)	155.42	-

表20 中央層の比

	飛田	飛田	平均		飛田
	CZ3-1号 男性	CZ3-2号 男性	n	M	CZ3-3号 女性
橈骨/尺骨(右)	-	-	-	-	-
(左)	-	95.92	1	95.92	-
橈骨/上腕骨(右)	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-
橈骨/上腕骨(右)	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-
上腕骨/大腿骨(右)	82.95	-	1	82.95	83.78
(左)	75.56	-	1	75.56	-
上腕骨/脛骨(右)	76.84	-	1	76.84	-
(左)	76.40	-	1	76.40	-
脛骨/大腿骨(右)	107.95	-	1	107.95	-
(左)	98.89	-	1	98.89	-
脛骨/脛骨(右)	-	-	-	-	-
(左)	-	51.85	1	51.85	-

表21 形態小変異(Non-metric crania variants)

	飛田		飛田		飛田	
	CZ3-1号 男性		CZ3-2号 男性		CZ3-3号 女性	
	右	左	右	左	右	左
1. Medial palatine canal(内側口蓋管)	/	/	/	/	/	/
2. Pterygospinous foramen(翼棘孔)	/	/	/	/	/	/
3. Hypoglossal canal bridging(舌下神経管二分)	/	/	/	/	/	/
4. Clinoid bridging(床状突起間骨橋)	/	/	/	/	/	/
5. Condylar canal absent(顎間欠如)	/	/	/	/	/	/
6. Tympanic dehiscence, Foramen of Huschke(>1mm) (フシケ孔、鼓室骨裂孔)	/	/	-	/	/	/
7. Jugular foramen bridging	/	/	/	/	/	/
8. Precondylar tubercle	/	/	/	/	/	/
9. Supra-orbital foramen(incl. frontal foramen)(眼窩上)	/	/	/	/	/	/
10. Accessory infraorbital foramen(副眼窩下孔)	/	/	/	/	/	/
11. Zygo-facial foramen absent	/	/	/	/	/	/
12. Aural exostosis(外耳道骨腫)	-	/	-	-	/	/
13. Metopism(前頭縫合)	/	-	-	-	/	/
14. Os incae(インカ骨)	-	-	-	-	/	/
15. Ossicle at the lambda(ラムダ小骨)	-	-	-	-	/	/
16. Parietal notch bone(頭頂切痕骨)	-	/	-	-	-	/
17. Transverse zygomatic suture(>5mm)	/	/	/	/	/	/
18. Asterionic ossicle	-	/	-	-	-	/
19. Occipitomastoid ossicle	-	/	/	-	/	/
20. Epipteric ossicle	/	/	/	/	/	/
21. Frontotemporal articulation	/	/	/	/	/	/
22. Biasterionic suture(>10mm)	/	/	-	/	/	/
23. Mylohyoid bridging(顎舌骨筋神経溝骨橋)	/	/	/	/	/	/
24. Accessory mental foramen(副オトガイ孔)	/	-	-	/	/	/
25. Mandibular torus(下顎隆起)	/	-	-	/	/	/
26. 滑車上孔(上腕骨)	-	/	-	/	-	/

[present : +, absent : -, unobservale : /]

第4節 地質分析の報告

1. はじめに

九州地方中部の熊本市区とその周辺には、阿蘇火山や雲仙火山のほか、始良や鬼界など南九州地方に分布する火山から噴出したテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く降灰している。これらのテフラの多くについてはすでに噴出年代が明らかにされており、過去の時空指標として利用することにより、遺物包含層などの土層や遺構の層位や年代を知ることができる。このようにテフラを利用して編年を行う火山灰編年学は、わが国における考古学や地形地質学の分野で盛んに利用されている。

熊本市四方寄町古閑地内の飛田遺跡群でも、層位や年代が不明な土層が認められたことから、土層の観察を行うとともに、基本土層断面（2-2区東壁）から採取された試料を対象に火山灰分析を実施して、土層の層位や年代に関する資料を得ることになった。分析方法は、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析を合わせたテフラ組成分析と、火山ガラスの屈折率測定である。

2. 土層の層序

基本的な土層層序を確認できた2-2区東壁では、黄褐色土（層厚13cm以上）の上位に、比較的良好に締まった暗灰褐色粘質土（層厚15cm）と黄色粗粒火山灰混じり灰褐色粘質土（層厚13cm）が認められる（図1）。その上方と側方には異なる色調をもつ土壌が隙間を充填するように認められ、それは下位より灰色がかかった褐色土（層厚19cm）、灰褐色土（層厚9cm）、若干色調が暗い灰褐色土（層厚21cm、6層）から構成されている。その上位には、さらに下位より暗灰褐色土（層厚12cm、5層）、若干色調が暗い灰褐色土（層厚20cm、4層）、黒灰褐色土（層厚11cm、3層）、暗灰褐色土（層厚8cm）、暗灰褐色土ブロック混じりで灰色がかかった褐色土（層厚58cm）、わずかに色調が暗い灰褐色表土（層厚15cm、1層）が認められる。

3. テフラ組成分析（火山ガラス比分析・重鉱物組成分析）

(1) 分析試料と分析方法

土層断面において、土層の層界をまたがないように基本的に5cmごとに設定採取された試料のうち、5cmおきの試料15点について、火山ガラスの色調形態別比率の推移を明らかにする火山ガラス比分析と、重鉱物組成分析を合わせたテフラ組成分析を実施した。また、一部の層序については同じ土層でもより色調が明る部分（試料23'および試料21'）についても分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料12gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置を用いながら、ていねいに泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 1/4～1/8mmおよび1/8～1/16mmの粒子を篩別。
- 5) 偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、火山ガラスの色調形態別比率さらに重鉱物の比率を求める（火山ガラス比分析）。
- 6) 偏光顕微鏡下で重鉱物250粒子を観察し、火山ガラスの色調形態別比率を求める（重鉱物組成分析）。

(2) 分析結果

火山ガラス比分析と重鉱物組成分析の結果を、テフラ組成ダイアグラムとして図2～4に、その内訳を表1～4に示す。ほぼ連続して形成されたと考えられる部分のテフラ組成の推移（図2・表1）をみると、黄色粗粒火山灰が混じり始める試料24で火山ガラスが急増することがわかる（59.6%）。ここでの火山ガラ

スは、比率が高い順に無色透明のバブル型 (43.6%)、繊維束状の軽石型 (5.6%)、分厚い中間型 (3.6%)、スポンジ状の軽石型 (0.8%)、褐色のバブル型 (0.4%) からなる。これらのほとんどの火山ガラスは、その上方の試料 12 で出現ピークを迎える (61.2%)。

比較的締まった暗色土壌の側方では、上方の試料 12 に向かって火山ガラスの比率が段階的に上昇し、暗色土壌における火山ガラスの出現傾向と異なる傾向が伺える。

なお、黄色粗粒火山灰を含む土層でも、黄味を帯びてより色調が明るい部分から採取された 2 試料では、同じ層準と比較して火山ガラスの比率がより高いことが明らかになった。とくに、試料 21' では火山ガラスの比率が高く、75.2%もの比率を占める。ここでの火山ガラスは、比率が高い順に無色透明のバブル型 (68.4%)、繊維束状の軽石型 (5.2%)、中間型 (1.6%) である。

より上方では、試料 4 (3 層) で、淡褐色や褐色などの有色の火山ガラスの出現ピークが認められる。ここには、比率が高い順に、無色透明のバブル型 (23.6%)、淡褐色のバブル型 (6.8%)、繊維束状の軽石型 (4.4%)、中間型 (2.8%)、褐色のバブル型 (1.6%) の火山ガラスが含まれている。ただし、有色の火山ガラスは試料 10 (5 層) から連続的に出現するようになり、試料 8 (4 層) で急増するような傾向が伺える。

重鉱物の比率は、下位の試料 30、試料 28、試料 26 でより高い傾向がある。また、軽鉱物や岩片さらに風化物についても同様である。その内訳をみると、試料 30 から試料 26 にかけて、斜方輝石と単斜輝石を合わせたいわゆる両輝石の比率が増大し、試料 24 でも引き続き比較的高率の傾向が続く。暗色土壌の側方でも同様な傾向が認められる。より上位では、両輝石の比率は減少するものの、試料 8 から上位では再び増大し、試料 4 で出現ピークを迎える。角閃石は、試料 12 においてもっとも高い比率 (34.0%) で認められる。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

指標テフラとの同定精度を向上させるため、15 試料に含まれる火山ガラス (1/8-1/16mm) を対象に屈折率測定を実施した。測定には、温度変化型屈折率測定装置 (京都フィッション・トラック社製 RIMS2000) を使用した。

(2) 測定結果

火山ガラスの屈折率 (n) の測定結果を表 5 に示す。比較的下方 (試料 30 ~ 18) と上方 (試料 12 ~ 2) で、bimodal または trimodal な屈折率特性が認められた。最下位の黄褐色土に近い試料 30 および試料 20 での火山ガラスの屈折率特性は trimodal で、前者では 1.496-1.497 (2 粒子)、1.499-1.500 (2 粒子)、1.503 (1 粒子) の値が得られた。後者では、同じような値のほかに 1.509-1.510 の値も認められた。

それより上位では 1.503 程度のものがなく、bimodal な傾向となるが、試料 16 や試料 14 では 1.498-1.499 の狭い値となる。試料 12 より上位では、1.497-1.500 と 1.506-1.511 の bimodal な屈折率特性が認められる。

5. 考察

(1) テフラ粒子の起源について

分析で得られた火山ガラスのうち、下位の試料 30 に含まれる屈折率 (n) が 1.496-1.497 の火山ガラスは、従来の研究成果を考えると、約 9.5 万年前に南九州の鬼界カルデラから噴出した鬼界葛原テフラ (K-Tz, 町田・新井, 1983, Nagaoka, 1988) に由来するのかも知れない。ただし、最近、給源である中国地方の三瓶火山より西方にも分布する可能性が考えられている、約 7 万年前に三瓶火山から噴出した三瓶雲南テフ

ラ (Sun, 林・三浦, 1986, 三浦・林, 1991, 町田・新井, 2003, 木村ほか, 2007, 下岡ほか, 2009a, 2009b など) のそれ (n : 1.496-1.498, 同一噴火サイクルの大田火砕流堆積物) とも似ている点は非常に興味深い。

また、試料 20 より下位の試料から検出される屈折率 (n) が 1.506-1.510 の火山ガラスは、その値や淡褐色や褐色のバブル型ガラスが認められることなどから、約 8.5 ~ 9 万年前の阿蘇 4 テフラ (Aso-4, 町田ほか, 1985) の噴火で発生した阿蘇 4 火砕流堆積物 (小野ほか, 1977 など) に由来すると推定される。

試料 30、試料 22、試料 20、試料 18 で検出される屈折率 (n) が 1.503-1.504 の火山ガラスは、熊本市周辺に分布するテフラの中では、約 5 万年前に九重火山から噴出したと推定されている九重第 1 テフラ (Kj-P1, n : 1.503-1.506, 町田, 1980, 小林, 1984, 町田・新井, 1992, 2003, 奥野ほか, 1998) の可能性が高い。ただし、雲仙火山起源のテフラの詳細についてはまだ不明な点が多いこと、仮にテフラが東方の火山に由来する可能性も考えれば、約 5 万年前に三瓶火山から噴出したと考えられている三瓶池田テフラ (SI, 松井・井上, 1971, 三浦・林, 1991, 町田・新井, 2003 など) に含まれる火山ガラスの屈折率特性 (n : 1.502-1.504, 町田・新井, 2003) とよく似ていることなどから、現段階ではさまざまな可能性を考えておいた方が良さそうにも思える。

両輝石の比率が高いことで特徴づけられる試料 26 や試料 16 に含まれるテフラについては、3 万年前より古いとも推定されている阿蘇草千里浜テフラ (Aso-K, 小野・渡辺, 1985, 高田, 1989, 町田・新井, 2003) や、後で詳述する始良 Tn 火山灰 (AT) の可能性がある。ただし、AT 起源と推定される黄色粗粒火山灰の包含層や、AT 起源の火山ガラスの急増層準より下位にあることから、前者の可能性がより高いと考えられる。

これらの試料に含まれる火山ガラスに関しては、信頼度の高いエレクトロンプローブ X 線マイクロアナライザー (EPMA) による火山ガラスの主成分化学組成分析を実施して、指標テフラとの同定精度を向上させると良い。また、試料 26 や試料 16 などにより多く含まれる斜方輝石の特徴も詳細に把握したいところである。

試料 12 付近で出現ピークがある無色透明のバブル型ガラスで特徴づけられるテフラは、その形態や色調、さらに屈折率などから、約 2.8 ~ 3.0 万年前に南九州の始良カルデラから噴出した始良 Tn 火山灰 (AT, 町田・新井, 1976, 2003, 松本ほか, 1987, 村山ほか, 1993, 池田ほか, 1995) と考えられる。そのタイプの火山ガラスが急増する試料 24 より下位の試料から検出された火山ガラスについては、約 3.1 万年前に始良カルデラから噴出した始良深港テフラ (A-Fm, Nagaoka, 1988, 町田・新井, 2003 など) に由来するものも混在しているのかもしれない。

試料 12 でもっとも高い比率で認められる角閃石の一部については、他の指標テフラとの層位関係を考慮すると、Aso-4 以外に雲仙地域で AT の上位に認められる「カシノミ」と呼ばれている雲仙火山起源のテフラ (たとえば古環境研究所, 2001) に由来する可能性もある。

試料 4 でとくに比率が高い淡褐色や褐色のバブル型ガラスで特徴づけられるテフラは、火山ガラスの形態や色調、さらに屈折率などから、約 7.300 年前に南九州の鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰 (K-Ah, 町田・新井, 1978, 2003) と考えられる。

(2) 指標テフラの降灰層位推定と本遺跡周辺での火山灰編年学に関する課題

今回の分析に伴う土層観察では、ほぼ同じレベルに層相を異にする土層を認めることができた。そこで、特徴ある層相ごとに試料を採取して分析が実施された。通常、熊本市域たとえば石ノ本遺跡などで、土層の状態が良い場合には、試料 24 から試料 21 にかけてのように AT に由来する黄色粗粒火山灰が濃集する傾

向があるらしい。実際、試料 24 や試料 22 における AT 起源の火山ガラスの比率は高く、より色調が黄色みを帯びてテフラの純度がより高いと思われる層準から採取された試料 23 や試料 21' では、火山ガラスの比率がより高い。

しかしながら、今回の分析地点では、このような土層は一見ブロック状にあるようにもみえ、それを充填するような比較の色調が明るい土層の存在も明らかになった。このように複雑な土壌構造の成因について現段階では不明な点が多いが、ここでは前述の地点のように火山ガラス比が急増することはなく、序々に上方に向かって増加する。つまり、地点によって、AT に由来する火山ガラスの出現傾向が異なるのである。通常、指標テフラの降灰層準を求める際には、テフラ粒子の出現ピークを降灰層準と考えることが多い。しかしながら、テフラ粒子がある層準で急増し、それより上方の火山ガラスの出現ピークと同じような比率であれば、そこを降灰層準とする場合もある。

推定される AT の降灰層準について、前者の考え方は試料 12 付近、後者の考え方は試料 24 付近となり、両者の間で 20cm ほどのレベル差が生じることになる。同じように考えると、K-Ah の降灰層準も、それぞれ試料 8（4 層基底部）付近と、試料 4（3 層）付近になる。ここで重要なことは、少なくとも今回の分析対象地点では、AT や K-Ah の一次堆積層は認められなかったことで、少なくとも試料 24 より上位と試料 8 より上位に、それぞれ AT と K-Ah に由来するテフラ粒子が比較的多く含まれることを認識することであろう。つまり、少なくとも試料 24 より上位の土層は AT 降灰後、試料 8 より上位の土層は K-Ah 降灰後にそれぞれ形成されたものと理解することに意味があると思われる。

今回の結果をみると、同じ断面でも土壌の状態によっては場所ごとに異なるテフラ粒子の出現傾向が存在することが明らかになった。このことは、火山灰編年学を利用する際に標地を慎重に選定すること、ひいては土層を詳細に観察し、遺物や遺構と土層の関係について一つ一つ慎重に把握しておくことの重要性を示唆している。

6. まとめ

熊本市飛田遺跡群において、地質調査を実施するとともに、採取した試料を対象にテフラ組成分析（火山ガラス比分析および重鉱物組成分析）と、火山ガラスの屈折率測定を実施した。その結果、鬼界葛原テフラ（K-Tz, 約 9.5 万年前）、阿蘇 4 テフラ（Aso-4, 約 8.5 ～ 9 万年前）、九重第 1 テフラ（Kj-P1, 約 5 万年前）、始良 Tn 火山灰（AT, 約 2.8 ～ 3.0 万年前）、鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah, 約 7,300 年前）など多くの指標テフラに由来すると考えられるテフラ粒子を検出することができた。AT と K-Ah については、その降灰層準について具体的に議論を行った。

<参考文献>

- 林 正久・三浦 清 (1986) 三瓶雲南軽石層の鉱物特性と分布の広域性. 島根大学山陰地域研究 (自然環境), 2, p.17-26.
- 林 正久・三浦 清 (1987) 三瓶火山のテフラ層序とその分布. 島根大学山陰地域研究 (自然環境), 3, p.43-66.
- 池田晃子・奥野 充・中村俊夫・筒井正明・小林哲夫 (1995) 南九州, 始良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器質量分析法による 14C 年代. 第四紀研究, 34, p.377-379.
- 木村純一・岡田昭明・中山勝博・梅田浩司・草野高志・麻原慶憲・館野満美子・増原 徹 (2007) 大山および三瓶火山起源テフラのフィッシュ・トラック年代とその活動史における意義. 第四紀研究, 38, p.145-155.
- 小林哲夫 (1984) 由布・鶴見火山の地質と最新の噴火活動. 地質論集, 24, p.93-108.
- 古環境研究所 (2001) 布津町大崎遺跡の火山灰分析. 布津町教育委員会編「大崎遺跡」, p.34-38.
- 町田 洋 (1980) 岩戸遺跡のテフラ (火山灰). 坂田邦洋編「大分県清川村岩戸における後期旧石器文化の研究」, 広雅堂書店, p.443-454.
- 町田 洋・新井房夫 (1976) 広域に分布する火山灰—始良 Tn 火山灰の発見とその意義. 科学, 46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫 (1978) 南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ—アカホヤ火山灰. 第四紀研究, 17, p.143-163.
- 町田 洋・新井房夫 (1983) 鬼界カルデラ起源の新広域テフラと九州における更新世後期大火山噴流の噴出年代. 火山, 28, p.206.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫 (2003) 新編火山灰アトラス. 東京大学出版会, 347p.
- 町田 洋・新井房夫・百瀬 貢 (1985) 阿蘇 4 火山灰—分布の広域性と後期更新世標層としての意義—, 火山, 30, p.49-70.
- 町田 洋・新井房夫・長岡信治 (1983) 広域テフラによる南関東と南九州の後期更新世海成段丘の対比. 日本第四紀学会講演要旨集, no.13, p.45-46.
- 松井整司・井上多津男 (1971) 三瓶火山の噴出物と層序. 地球科学, 25, p.147-163.
- 松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗 (1987) 始良 Tn 火山灰 (AT) の 14C 年代. 第四紀研究, 26, p.79-83.
- 三浦 清・林 正久 (1991) 中国地方の第四紀テフラ研究—広域テフラを中心として—. 第四紀研究, 30, p.339-351.
- 村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田尚登・平 朝彦 (1993) 四国沖ビストンコア試料を用いた AT 火山灰噴出年代の再検討—タンデロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の 14C 年代. 地質雑, 99, p.787-798.
- Nagaoka, S. (1988) The late Quaternary tephra layers from the caldera volcanoes in and around Kagoshima Bay, southern Kyushu, Japan. Geogr. Rept Tokyo Metropol. Univ., 23, p.49-122.
- 奥野 充・中村俊夫・鎌田弘毅・小野見司・星住英夫 (1998) 九重火山, 飯田火砕流堆積物の加速器 14C 年代. 火山, 43, p.75-79.
- 小野見司・松本征夫・宮久三千年・寺岡易司・神戸信伸 (1977) 竹田地域の地質. 地質調査所, 145p.
- 小野見司・渡辺一徳 (1985) 阿蘇火山地質図 (5 万分の 1) および説明書. 火山地質図, 4, 地質調査所.
- 下岡順直・福岡 孝・長谷川 歩・草野高志・長友恒人 (2009a) 三瓶火山噴出物の熟ルミネッセンス (TL) 年代測定. 島根県立三瓶自然館研究報告, No.7, p.15-24.
- 下岡順直・長友恒人・長谷川 歩・川端靖子・福岡 孝 (2009b) 旧石器遺跡に関連した三瓶山起源テフラの年代測定と蛍光 X 線分析. 日本文化財科学会第 26 回大会発表要旨集, p.140-141.
- 高田英樹 (1989) 阿蘇火山中央火口丘群のテフラ概観. 熊本地学会誌, 90, p.8-11.

表1 火山ガラス比分析結果

地点名	試料	bw(cl)	bw(pb)	bw(br)	md	pm(sp)	pm(fb)	軽鉱物・岩片	重鉱物	合計
2-2 区東壁	2	73	2	2	7	3	10	132	21	250
	4	59	17	4	7	0	11	120	32	250
	6	91	6	5	11	0	5	113	19	250
	8	120	5	3	5	0	11	80	26	250
	10	110	2	1	5	0	26	95	11	250
	12	126	0	0	6	1	20	85	12	250
	14	97	0	0	11	1	21	106	14	250
	16	70	0	0	7	2	18	128	25	250
	18	37	0	0	6	2	12	152	41	250
	20	6	2	0	2	3	2	160	76	250
	22	117	1	1	8	2	15	100	6	250
	24	109	0	1	9	2	14	88	27	250
	26	7	0	0	11	5	2	150	75	250
	28	5	0	1	2	1	1	175	65	250
	30	1	1	0	2	1	0	181	64	250

bw:バブル型, pm:軽石型, md:中間型, pm:軽石型, cl:無色透明, pb:淡褐色, br:褐色, sp:スポンジ状, fb:繊維束状, 数字は粒子数。

表2 重鉱物組成分析結果

地点名	試料	ol	opx	cpx	am	bi	opq	その他	合計
2-2 区東壁	2	2	72	31	39	0	101	5	250
	4	0	81	27	31	0	109	2	250
	6	1	77	27	40	1	102	2	250
	8	0	63	18	56	0	112	1	250
	10	0	77	10	56	4	99	4	250
	12	0	66	10	85	3	83	3	250
	14	0	76	3	73	0	93	5	250
	16	2	81	4	54	0	107	2	250
	18	0	77	7	45	0	118	3	250
	20	3	39	3	85	0	115	5	250
	22	1	68	12	52	0	112	5	250
	24	0	96	9	32	0	110	3	250
	26	3	95	9	49	0	92	3	250
	28	4	71	7	66	0	97	5	250
	30	5	38	3	73	0	122	9	250

ol:カンラン石, opx:斜方輝石, cpx:単斜輝石, am:角閃石, bi:黒雲母, opq:不透明鉱物(おもに磁鉄鉱), 数字は粒子数。

表3 火山ガラス比分析結果

地点名	試料	bw(cl)	bw(pb)	bw(br)	md	pm(sp)	pm(fb)	軽鉱物・岩片	重鉱物	合計
2-2 区東壁	21'	171	0	0	4	0	13	56	6	250
	23'	126	0	0	6	0	18	90	10	250

bw: バブル型, pm: 軽石型, md: 中間型, pm: 軽石型, cl: 無色透明, pb: 淡褐色, br: 褐色, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状, 数字は粒子数。

表4 火山ガラス比分析結果

地点名	試料	ol	opx	cpx	am	bi	opq	その他	合計
2-2 区東壁	21'	0	86	7	62	0	91	4	250
	23'	2	83	7	76	2	76	4	250

ol: カンラン石, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, bi: 黒雲母, opq: 不透明鉱物 (おもに磁鉄鉱), 数字は粒子数。

表5 屈折率測定結果

地点	試料・テフラ	火山ガラスの屈折率 (n)
2-2 区東壁	試料 2	1.498-1.499 (25), 1.506-1.510 (8)
	試料 4	1.498-1.499 (26), 1.506-1.511 (13)
	試料 6	1.497-1.499 (23), 1.508-1.511 (7)
	試料 8	1.499-1.500 (25), 1.508-1.511 (6)
	試料 10	1.498-1.499 (33), 1.508-1.510 (4)
	試料 12	1.498-1.499 (27), 1.509-1.510 (2)
	試料 14	1.498-1.499 (38)
	試料 16	1.498-1.499 (32)
	試料 18	1.498-1.499 (30), 1.503 (1)
	試料 20	1.497-1.499 (20), 1.503-1.504 (6), 1.509-1.510 (3)
	試料 22	1.498-1.500 (37), 1.503 (1), 1.510 (1)
	試料 24	1.498-1.499 (30), 1.508-1.509 (2)
	試料 26	1.497-1.501 (20), 1.508-1.511 (9)
	試料 28	1.498-1.501 (10), 1.506-1.510 (3)
試料 30	1.496-1.497 (2), 1.499-1.500 (2), 1.503 (1)	
	鬼界アカホヤ (K-Ah)	1.508-1.516
	桜島薩摩 (Sz-S)	1.509-1.513
	始良 Tn (AT)	1.498-1.501
	始良深港 (A-Fm)	1.499-1.502
	三瓶池田 (SI)	1.502-1.505
	九重第 1 (Kj-P1)	1.503-1.506
	三瓶雲南・大田 (SUn, S0d)	1.496-1.498
	阿蘇 4 (Aso-4)	1.506-1.510
	鬼界葛原 (K-Tz)	1.497-1.499
	阿多 (Ata)	1.508-1.512
	阿蘇 3 (Aso-3)	1.512-1.540

屈折率の測定は、温度変化型屈折率測定装置 (RIMS2000) による。(): 測定点数。指標テフラの屈折率は、町田・新井 (2003)。

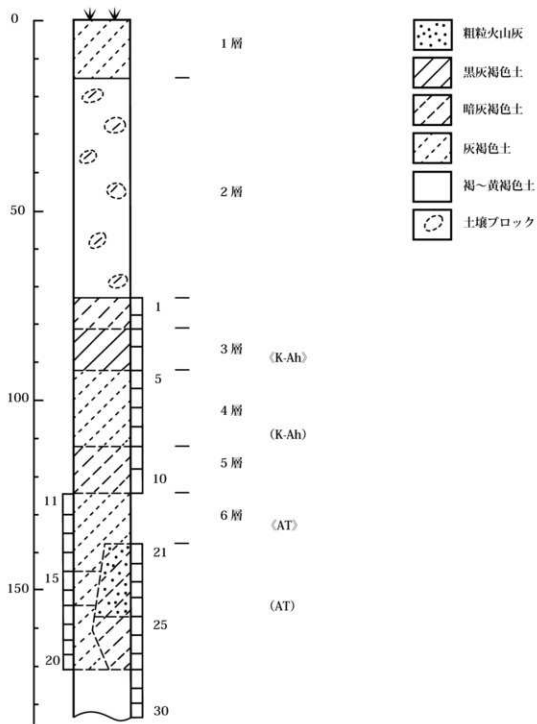


図1 2-2区東壁の土層順序および分析試料の層位

数字歯テフラ分析の試料番号

○：特徴的な火山ガラスの急増層準

⊙：特徴的な火山ガラスの出現ピーク

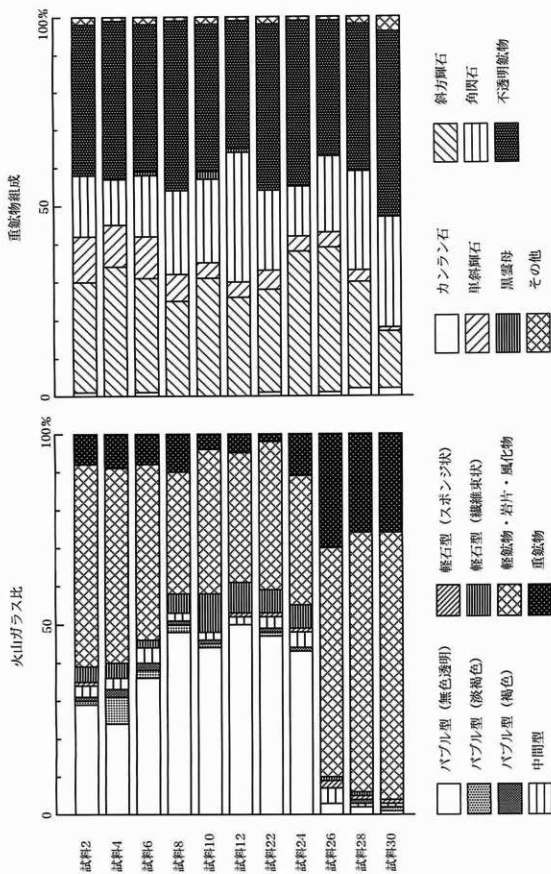


図2 2-2区東壁のテフラ組成ダイアグラム(1)

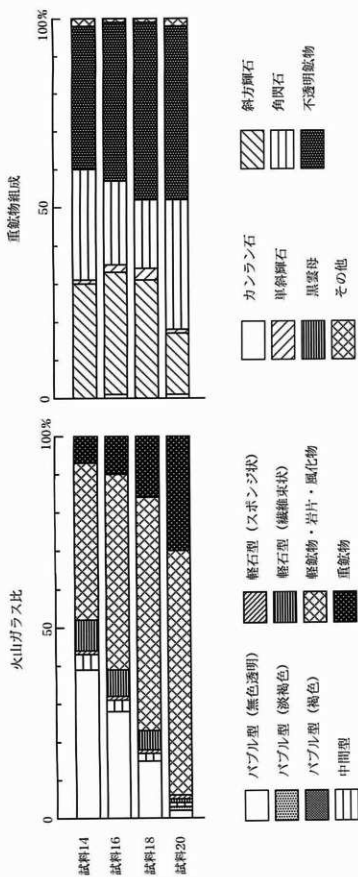


図3 2-2区東壁のテフラ組成ダイアグラム (2)

第IV章 総括

第1節 旧石器時代の遺構と遺物

旧石器時代の調査は、時間的な制約によりグリッドを絞って行われた。明らかに旧石器時代の遺物と言えるものは、第53図1・2、第54図3、第57図18・19の5点である。この外に割片等が出土していないことから、製品として搬入されたものと考えられる。よって、この調査区で出土した遺物は、ヒトの移動過程において形成されたものと考えられる。

第2節 縄文時代の遺構と遺物

2区では、遺構を検出できなかった。3区において円形を呈する竪穴建物を42基確認した。これらは、後世の耕作等、また土地利用の過程により大きく削平を受けており、切り合いも激しいため、残りは良好とは言えない。併せて、遺構の深度も浅い上に跡跡や硬化面の確認が、調査時に不十分であったため、建物跡と言えるだけの根拠に乏しい。遺構内より北久根山式、三万田式、御領式土器等の出土により、縄文時代後・晩期にかけての遺構と位置付けられるものとする。第59図からも見てとれるように、3-1区からの検出が大部分である。遺構は、調査区東側で規模の大きな遺構が確認されている。また、3-2・3-3区から検出された遺構は、直径が6mを超えるやや大きめの竪穴建物である。その他は、4～5m程の大きさである。これらの遺構内で跡跡の可能性のあるものとして検出したのは、わずかに4基である。硬化面に関しては、全て検出することができなかった。柱穴に関しても浅く、数に差が見られる。

その他、3-1～3-3区まで、散漫な状態で多くの土坑が検出されている。その中で、遺物が検出された遺構は7基である。これらの土坑の中で、SK409の土器の出土状況からも特異性が見られる。この南側から、竪穴建物も確認されていることなども含めて、何らかの事情により、土器を破壊したとも考えられる。

遺物に関して、2区においては、わずかな出土で

ある。其中で、2-3区東側m-⑩より台付鉢(第41図99)が出土しており、形状としては高環に類似している。縄文土器の器種としては珍しいように思われる。口縁に2本の沈線が施され、内器面、脚部の底部は、ケズリでの調整、全体的には磨きが見られ、とても丁寧に成形がなされている。生活での使用と言うよりは、非日常的な使用の可能性が考えられる。一方3区においては、器種も様々であるが、前述したとおり、縄文後・晩期に見られる三万田式、御領式、そして鳥井原式、太田直式と思われる土器等が出土している。石器については、調査区全体として見た場合には、打製石鏃の出土が多い。石器全体の4割弱を占める。其のうちの6割は、3-2区からの出土である。その他に、当該遺跡の特徴とも言えるべき、特殊遺物として3区から全て破片の状態出土している。他に装身具が5点出土している。位置的に3-1・3-2区共に土器が出土した場所と重なる。

第3節 古墳時代の遺構と遺物

2区において、方形周溝墓を6基確認できた(第14図)。その中の1基(SZ01)は、県内最大級を誇る塚原古墳群第6号方形周溝墓と同規模である。周溝部まで含めてほぼ全体像が確認でき、且つ、主体部が確認されたのは2基(SZ02・03)のみである。これらの方形周溝墓は、相互に切り合わないことから、当該エリアが明確に墓域として意識されていたことが窺える。

その内のSZ03は、唯一3体(男性壮年2人・女性成年1人)の骨が確認されているものである。位置的には、I・J-⑪・⑫・⑬グリッドであり、形状は、やや隅丸の方形である。6基の中では一番小さく、一辺が約11mを計る。西方向に降橋部を有する。主体部中央に土壌が検出され、石棺が確認されたものである。

3区からは、遺構は検出されていない。

遺物に関しては、40点もの土器器が出土している。4点を除いて、全て方形周溝墓からのものである。器種としては、高環が一番多く、次いで壺、甕、鉢と続く。各出土状況は、第46図のとおりである。

第4節 古代以降の遺構と遺物

2・3区共に、古代以降の竪穴建物等の遺構は確認されなかった。土坑・柱穴及び道路・溝状遺構が検出されている。

2区に関しては、柱穴が多数確認され、2-1区では調査区中央付近、2-3区ではやや北側寄り、2-4区では南側寄り、そして2-5区では、全体にて検出されている。ただし2-2区に関しては、皆無と言って良いほど検出されていない。それは、第14図からも見て取れるように古墳時代の方形周溝墓が存在しているからである。このことから、後世においても暫くは墓域として保護されていた可能性があると思われる。また2-4区南側の土壇墓ST01より、蔵骨器が出土している。古代のものと同推測されるが、長い年月と共に蓋が朽ちて土が流れ込み、骨自体も粉碎された状態であった。この蔵骨器は、先述したとおり、この周辺に古墳時代の方形周溝墓が存在し、古代においても墓域として保護されていたとするならば、そこを意識しての埋葬であったことも考えられる。

3区より確認された土坑・柱穴に関しては、出土遺物はほとんど見られず、明確な時期決定のみならず使用目的等についても不明である。

道路・溝状遺構に関しては、2-1区では、南北に走る道路状遺構SF01が1条確認されている。側溝は伴っていないが、硬化面は検出されている。この道路状遺構と同位置に、上(SD01)下(SD04)して溝状遺構が確認されていることから、3期の変遷が考えられる。比較的歩きやすかった場所を繰り返し利用し、使用していたものと思われる。その他に2-2・2-3区にも南北・東西に走る溝状遺構が幾つか確認されている。SD06に関しては、一部片側だけの溝も検出されている。東西に走り、途中で南北に折れた状態である。いずれにしろ、ほとんどの遺構が方形周溝墓を避けた状態で確認されている。

2-4・2-5区の溝は、それぞれ南北に走っているが、2-1・2-3区で確認された溝の延長と考えられる。

3区の道路状遺構は、大別すると2条検出されている。3-1区からの遺構は、南北に2条SF07と08

並走しており、北側で合流している。SF07のみ硬化面を伴っている。3-2・3-3区からの道路状遺構は、側溝を伴った道であり、また帯状に硬化面も見られる。同位置に、上下に道があった可能性があるため、補修を繰り返しながら使用されていたものと考えられる。後に埋土の様子等からも道路として使用してものを区画のために転用した可能性がある。溝状遺構に関しては、後世の土地利用等により、削平を受けており、十分な検出ができていないのと同様に、硬化面も見られないこと等から、使用目的は不明である。

遺物に関して、2区では多くの土師器・須恵器が出土している。器種で見ると坏が大部分を占め、外に椀・皿が見られる。位置的には、2-2区からの出土が、全体の6割強で最も多い。ただし、2-4区からは、土師器の蔵骨器のみの出土である。これらの遺物の中から、土師器の坏16点・皿1点、須恵器の坏2点については、底部外面に墨書が施されている。文字内容は、破片での出土が大部分であるため不明瞭なものが多い。判る範囲で、「腹」・「西□」・「図」・「□(久)？」・「(寺)？」が見てとれる。この墨書土器の出土も2-3区からが最も多い。なお細かな時期の特定は難しいが、8世紀後半～9世紀頃のものと考えられる。この2区において、19点もの墨書土器が確認されたにもかかわらず、遺構にも伴っていない。しかし、距離にして200m範囲内に熊本市の第8次調査区から、古代の竪穴建物・掘立柱建物や県が調査した1区からも竪穴建物が確認されている。しかも数こそ少ないけれど墨書土器も出土している。熊本市の調査報告書によると(2009年編)「9世紀末以降は、祭祀土器や墳墓への供献土器などに墨書が認められる程度である。」と述べられている。2-2区で確認されている方形周溝墓周辺が、この時代まで墓域として意識されていたならば、仮に熊本市が述べているように祭祀土器あるいは供献土器としていた可能性も考えられる。3区においては、大きな遺物もなく、土師器・須恵器数点のみの出土である。

第5節 まとめ

これまで県による調査が3区、熊本市による調査が9次まで実施されている（第45図）。この飛田遺跡群全体での調査から見てくることを以下、簡単に2点書き記す。

まず第一に、以前から言われていることではあるが、この遺跡群が主に縄文時代後・晩期から古代のもの重なった複合遺跡であるということ。

次いで、2区の方形周溝墓が確認された地域を墓域とし、それを境に東側に古代の居住域としての土地利用がなされていることが推察される。また、3

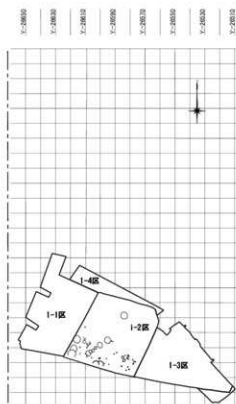
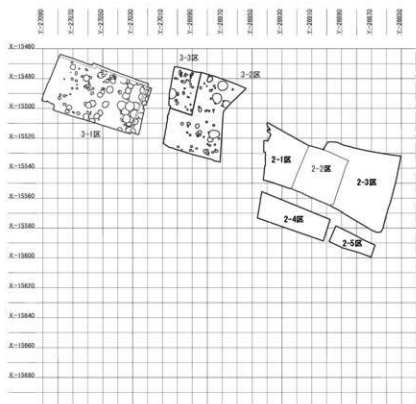
区において縄文の住居址とするには根拠に乏しいが、近辺には、大規模集落の代表的遺跡として、四方寄遺跡・太郎迫遺跡があることなども含め、同規模の集落が形成されていたとも考えられる。併せて第2・6次調査区から縄文時代の遺構及び遺物が多く確認されていることから、この遺跡群の西側が縄文時代の集落の中心として考えられる。

今回の報告書では、縄文時代・古墳時代を中心に述べてきたが、今後の調査により、飛田遺跡群の性格がより一層明らかにされることを期待したい。

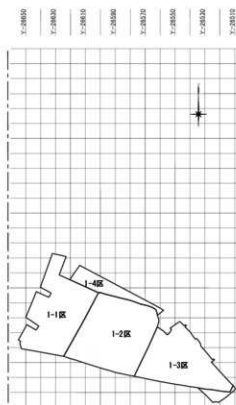
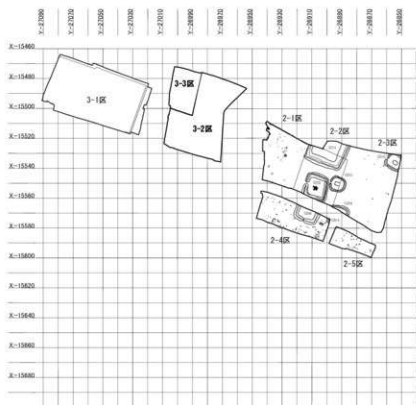
【引用・参考文献】

- 小林久雄 1967 「九州縄文土器の研究」
 北部町 1985 「北部町史」
 宮坂孝宏編 1993 『白鳥平A遺跡』熊本県文化財調査報告書第127集 熊本県教育委員会
 宮坂孝宏編 1994 『白鳥平B遺跡』熊本県文化財調査報告書第142集 熊本県教育委員会
 古森政次編 1994 『ワクド石遺跡』熊本県文化財調査報告書第144集 熊本県教育委員会
 熊本市 1996 「新熊本市史 史料編第1巻 考古資料」
 熊本市 1996 「新熊本市史 通史編第1巻 自然・原始・古代」
 坂田和弘編 1998 『鶴羽田遺跡』熊本県文化財調査報告書第168集 熊本県教育委員会
 竹田宏司編 1999 『太郎迫遺跡・妙見遺跡』熊本県文化財調査報告書第186集 熊本県教育委員会
 池田朋生編 2001 『石の本遺跡群Ⅲ』熊本県文化財調査報告書第194集 熊本県教育委員会
 熊本市埋蔵文化財調査年報第4号 6号 2001 2004 熊本市教育委員会
 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2004 「縄文の色から」 第2号
 中里伸明編 2009 『戸坂遺跡Ⅱ』熊本市教育委員会
 馬場正弘編 2013 『中山錦川遺跡』熊本県文化財調査報告書第291集 熊本県教育委員会
 村崎孝宏編 2014 『瀬田孤塚遺跡』熊本県文化財調査報告書第296集 熊本県教育委員会
 村崎孝宏編 2015 『飛田遺跡群1』熊本県文化財調査報告書第315集 熊本県教育委員会
 熊本市埋蔵文化財発掘調査報告書 2008 2009 2010 熊本市教育委員会
 中近世土器の基礎研究 1994 日本中世土器研究会
 縄文土器の世界 2014 三上徹也 新泉社

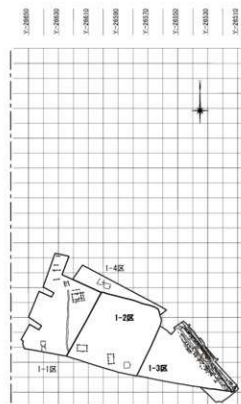
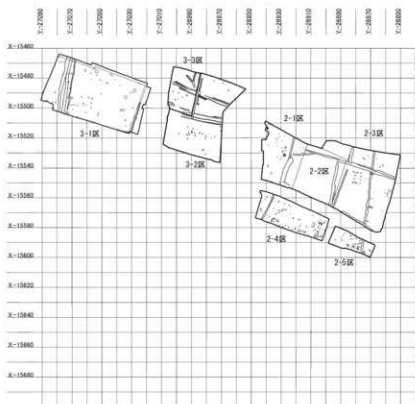
第IV章 調査の成果



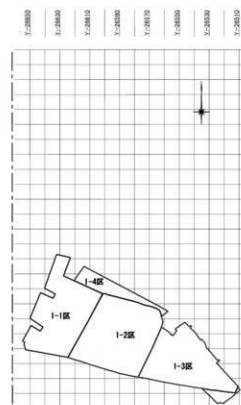
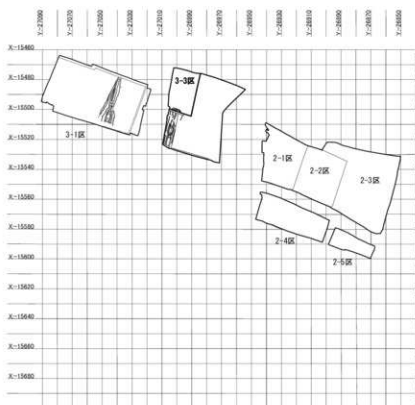
第98図 飛田遺跡群 縄文時代 (S=1:2500)



第99図 飛田遺跡群 古墳時代 (S=1:2500)



第100図 飛田遺跡群 古代 (S=1:2500)



第101図 飛田遺跡群 近世～近代 (S=1:2500)

写 真 图 版



SZ01 遺物出土状況 西より



SZ01 土層断面 東より



SZ01 土層断面 南より



SZ01 土層断面 南より



SZ01 発掘状況 東より



SZ02 遺物出土状況 南東より



SZ02 土層断面 西より



SZ02 土層断面 南より



SZ02 土層断面 西より



SZ02 遺物出土状況 南東より



SZ02 主体部1・2 検出状況 東より



SZ02 主体部1 土層断面 南東より



SZ02 主体部1 土層断面 南西より



SZ02 主体部2 土層断面 南より



SZ02 主体部2 土層断面 東より



SZ02 完掘状況 北東より



SZ03 土層断面 北西より



SZ03 土層断面 南より



SZ03 土層断面 西より



SZ03 主体部 土層断面 南より



SZ03 主体部 土層断面 東より



SZ03 遺物出土状況 南より



SZ03 主体部 石棺蓋 東より



SZ03 遺物出土状況 南より



SZ03 主体部 敷石検出状況 東より



SZ03 主体部 石棺さしこみ状況 南より



SZ03 石棺内人骨出土状況 東より



SZ03 主体部 石棺さしこみ根圓め石出土状況 南東より



SZ03 完掘状況 南東より



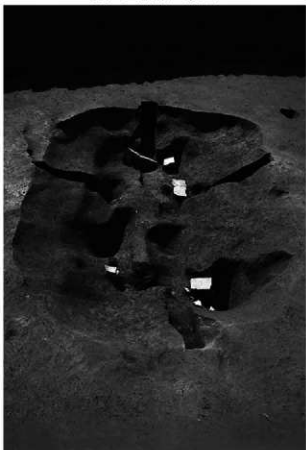
SZ04 遺物出土状況 東より



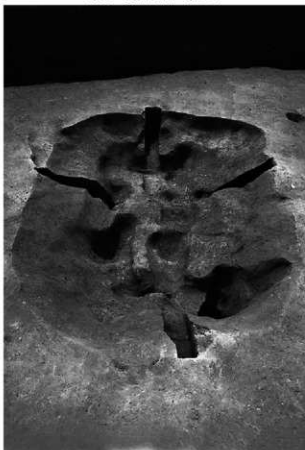
SZ04 土層断面 東より



SZ04 完掘状況 東より



SZ05 主体部 完掘状況 北西より



SZ05 主体部 さしこみ完掘状況 北西より



SZ05 遺物出土状況 南西より



SZ05 遺物出土状況 南より



SZ05 遺物出土状況 東より



SZ05 土層断面 南東より



SZ05 土層断面 南東より



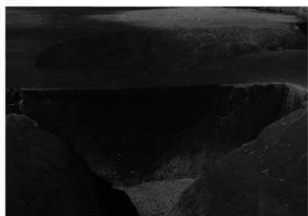
SZ05 完掘状況 南西より



SZ06 遺物出土状況 東より



SZ06 土層断面 南より



SZ06 土面断層 東より



SZ06 土面断層 東より



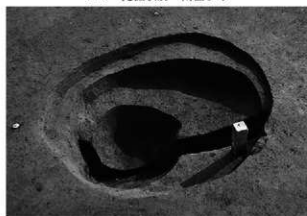
SZ06 土面断層 南より



SK10 完掘状況 南西より



ST01 遺物出土状況 西より



ST01 完掘状況 西より



SX123 検出状況 西より



SX123 完掘状況 西より



3-1 区 5 層遺物出土状況 南東より



3-2 区 5 層遺物出土状況 北西より



3-1区 拡張区完掘状況 南西より



3-1区 完掘状況 北より



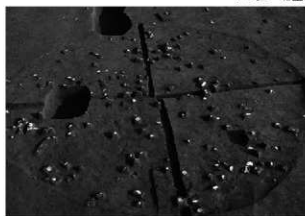
3-1区 北壁土層断面 南西より



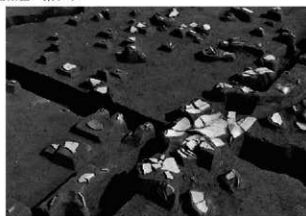
3-2区 完掘全景 北東より



3-3区 北壁土層断面 東より



3-1区 S132 遺物出土状況 西より



3-1区 S151 遺物出土状況 北西より



3-1区 S142 遺物出土状況 東より



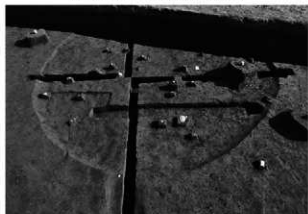
3-1区 S142 完掘状況 西より



3-1区 S163 完掘状況 東より



3-2区 S199 遺物出土状況 東より



3-2区 S1102 遺物出土状況 南東より



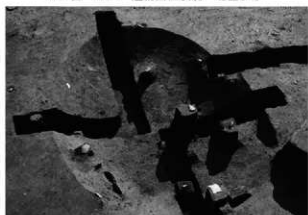
3-3区 S1109 遺物出土状況 南東より



3-1区 SK46 遺物出土状況 北西より



3-2区 SK321 土層断面 南より



3-2区 SK336 遺物出土状況 北東より



3-2区 SK336 土層断面 北より



3-2区 SK354 遺物出土状況 北より



3-2区 SK354 土層断面 東より



3-3区 SK409 遺物出土状況 北より



3-3区 SK416 土層断面 南西より



3-2区 SF10 D-1 完掘状況 東より



3-2区 SD56 ベルト完掘状況 東より



3-2・3区 完掘状況 西より









SZ03 高坏



SZ04 高坏





SZ05 壶



SZ06 出土土器



SZ06 壶



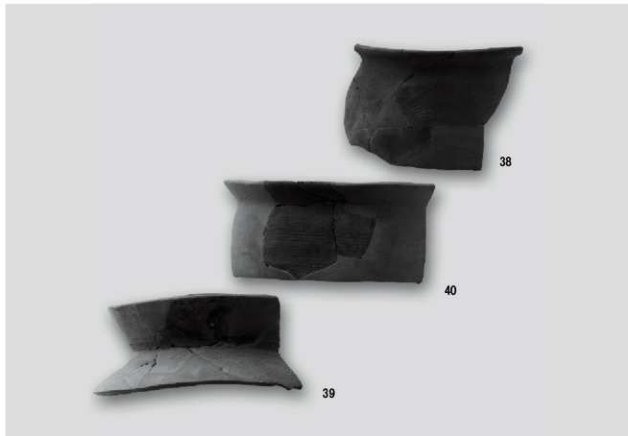
SK10 甕



SZ03・SZ05 副葬品



ST01 藏骨器



調査区出土土器 一古墳一



調査区出土土器 一古代一



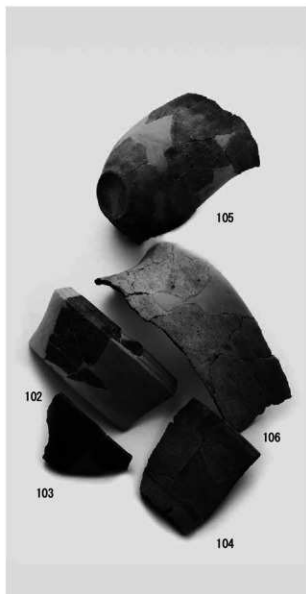
2区 墨書



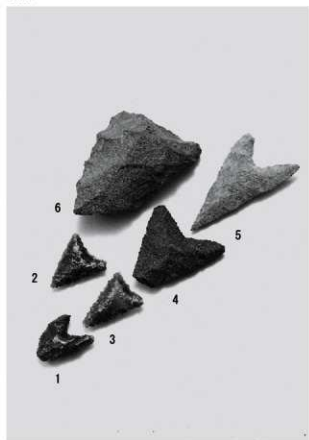
2区 墨書



2-1区 墨



調査区出土土器



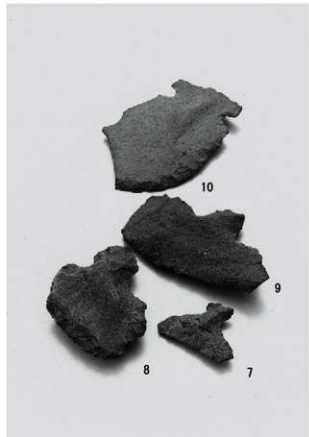
2区 石鏃・尖頭器



2-3区 紡錘車



2-5区 円盤型石器



2区 石匙



2-3区 有孔石製品



3-1区 S132 出土土器



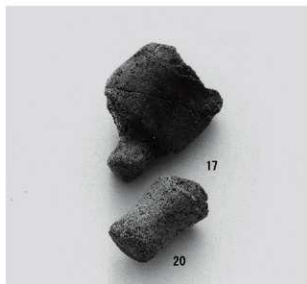
3-1区 S132 出土土器



3-1区 S151 出土土器



3-1区 S137-44 出土土器



3-1区 S134-51 土偶



3-1区 S133 出土土器



3-1区 S151 出土土器



3-1区 S134 出土土器



3-1区 S136・41・49 出土土器



3-1区 S134 出土土器



3-1区 S188 出土土器



3-1区 S143 出土土器



3-1区 S142 出土土器



3-1区 S188 出土土器



3-1区 S182 出土土器



3-1区 S150 出土土器



3-1区 S190 出土土器



3-1区 S150 出土土器



3-1区 S152 出土土器



3-1区 S160 出土土器



3-1区 S162 出土土器



3-1区 S174 出土土器



3-1区 S175 出土土器



3-2 区 S199 出土土器



3-2 区 S1102 垂飾品



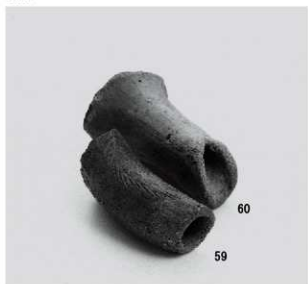
3-2 区 S1104 出土土器



3-3 区 S1109 出土土器



3-1 区 SK73 出土土器



3-3 区 S1109 出土土器



3-1 区 SK73 出土土器



3-2 区 SK354 出土土器



3-2 区 SK354 出土土器



3-3 区 SK416 出土土器



3-3 区 SK416 出土土器



3-2区 SK321 出土土器



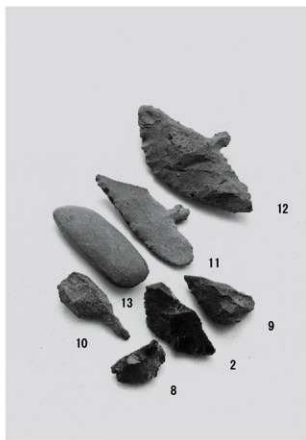
3-2区 SK336 出土土器



3-3区 SK409 出土土器



3-1区 5层 出土石器



3-1区 4层 出土石器



3-1·2·3区 4层 出土石器



3-1·2·3区 4·5层 出土石器



3-1区 S132·50·63·88 出土石器



3-1区 S133·42·44·82 出土石器



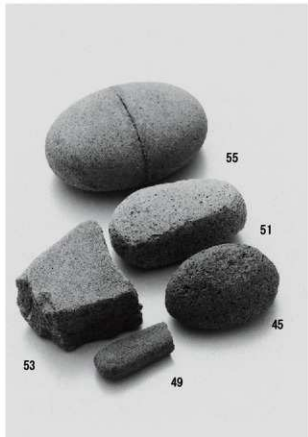
3-1 区 S133-51 出土石器



3-1 区 S134-36-42 出土石器



3-2 区 S199 出土石器



3-1 区 S136-50-60-74 出土石器



3-2 区 S1102 出土石器



3-2区 S1104 出土石器



3-1区 SK46 出土石器



3-3区 S1109 出土石器



3-1区 SK73 出土石器



3-3区 S1109 出土石器



3-1区 SK73 出土石器

飛田遺跡群検出古代道路の再評価

鶴 嶋 俊 彦

はじめに

当遺跡は熊本市北区四方寄町（大字四方寄字上古岡）にあり、地形上は植木台地の延長部にあたる標高約80mの四方寄台地の東端となる。調査地点北側に接して近世豊前街道の「御馬下角小屋」付近から分岐した直線道路の延長点に位置する。この地は筆者が想定している『延喜式』に掲載の駅名から推定される駅路のうち、高原駅と蜷養駅の中間地点となる⁽¹⁾。調査結果は、既に『飛田遺跡群1』として2015年3月に熊本県教育委員会から刊行報告されている。道路遺構の調査中に発掘現場を見学した経緯もあり、近年における県内の類似遺跡の事例も参照しながら当遺跡検出道路遺構の評価を行いたい。

1 検出された遺構

道路遺構はSF004と命名され、「直線性を維持し平行するSD025とSD028の間にあり、帯状に硬化した面や波板状の痕跡が確認された。方向軸はN40°wで、約60mにわたって検出した。」（鈎カッコ内は報告書からの引用。以下同じ。）報告者の吉留 広は、周辺の地名などを勘案し駅路か伝路の可能性をあげている。

道路遺構は溝遺構のSD025～SD028及び土坑などの切り合いから2期の変遷が想定されている。第1期道路は、「溝遺構の間隔がもっとも狭いSD025とSD028、SD027の間で、幅が約6m」とし、「SD028とSD027とは連続していない」としている。第2期道路は、「SD025とSD027の間で、SF004-X3より北西側で幅が9m、南東側で約6m」とし（SF004-X3は樹痕とするもの）、「SF004-X3付近で南西方向に拡張された結果、SD027の規格が大きくなった時期」とする。このほかにSD025との間隔が10.3mで並行するSD026があるが、「第2期以降の道路遺構に伴う溝であるかは判然としない」としている。

調査区東端の土層断面によれば、皿状の窪みの地盤面に波板状の痕跡があり、その上を幅4m最大厚さ60cmにわたる盛土がある。盛土の上部3分の2は版築層とされる路盤盛土であるが、路面は後世に削平されて残っていない。路盤盛土の両側には幅約1.5mの側溝があり、北側側溝SD025については少なくとも2回の掘り直しがあったことが指摘されている。

道路走行に直交する形で地盤面を掘り込み、粘土・小石・土器片などで整地した細長い複数の溝からなる「波板状痕跡」が確認されている。この「波板状痕跡」は平坦面では長さが2mほどだが、傾斜がきつくなる東端の斜面側では断面皿状の窪みの中央に収縮し長さは1mほどとなる。この痕跡は地盤の窪みの中央に形成され、東端ではSD025とSD027の中間にあるが、西側平坦部ではSD025側に寄り添うようになり緩やかなカーブを描いている。

共存遺物から考えられる道路構築の年代は、SD028の埋没後に掘られた土坑の埋納土器から、「第1期が8世紀後半～9世紀前半より前、第2期は8世紀後半～9世紀前半頃」（埋納土器の所属時期は、その後の検討から、8世紀後半～9世紀初頭に修正されている）とし、やはり出土した青磁片からその廃絶年代を13世紀頃に想定している。

その他に周辺では、梁間2間×桁行3間で東と南に庇をもつ建物や2間×2間の総柱の倉庫とみられる建物を含む9世紀第1四半期の掘立柱建物群4棟が確認されていて、土坑から「坂上」と刻銘が入った土器高坏が出土している。

2 検出遺構の再検討

「波板状痕跡」の上面は、西側の平坦部では道路硬化面直下であり整合的に路面を構成する一部分となっている。東側の斜面となっていく部分から「波板状痕跡」上面に硬化面は確認されていないが、地形的に雨水の流下などの外的営力を受ける部分であり路面が失われた可能性が強く、本来は硬化面が形成されていた

とみられる。東端の断面にあるように、「波板状痕跡」を覆っている路盤盛土は両側溝（SD025とSD027）を持つSF004を構築するための路盤工である。したがって、この部分の路盤盛土の下層にある「波板状痕跡」は、正確にはSF004に先行する或いは最初期の道路遺構と解釈される。また、第1期SF004の南側側溝の「SD028とSD027とは連続していない」のであれば、遺構の解釈として同時期の側溝とするには無理がある。そこで、並行し直線的なSD026とSD028に挟まれた幅3.5mの空間をもう一つの道路面とする考えを検討しておきたい。

近年、熊本県においても古代道路の調査事例が増えているが、両側溝に挟まれた道路幅が3.0～3.5mという注目すべき事例が複数報告されている。一つは黒髪町遺跡群、いま一つは植木町諏訪原遺跡の事例である。

前者は熊本大学黒髪キャンパス南地区にあり、熊本大学埋蔵文化財調査センターによる発掘調査が行われた9603・9704・0204の地点である。3地点は互いに隣接する調査地点であるが、託麻部条里の里界線ともなる駅路想定線上に正確に位置し、両側溝をもつ幅3.0～3.5mの道路跡が20mの間隔を置いて東西に2本検出されている⁽¹²⁾。先行すると考えられる0204地点の8世紀後半と推定される8号溝と9号溝に挟まれた東側道路に面する西側の9603・9704地点には東西60m規模の溝で囲まれた方形区画がある。この区画内部には複数の掘立柱建物があり、また道路際には八脚門といった大型の門が想定可能な大型の柱穴も検出されている。一方、東側道路に並走する形の西側道路は、西側側溝が前述の区画溝を切っているのて後出する遺構であることが明らかで、何らかの理由で位置をずらして改修された道路ではないかと考えられる。当遺跡群は白川の低位河岸段丘上にあり、キャンパス内のほかの地点の調査では「馬」銘のへら書き土器や「國」銘土製印も出土しており、近隣に残る「子飼」地名からも「延喜式」にある養養駅との関係が強く指摘できる遺跡である。なお、大学構内の北に隣接する熊本市教育委員会が実施した9次調査でも、浅い切り直し構造の上端幅3～4m、路面幅2m弱で「波板状連続面」をもつ駅路が確認されている⁽¹³⁾。

一方、後者の諏訪原遺跡の速報によれば、両側溝を持ち硬化面が残る幅約3.0mの道路跡で、南南西一北北東の方向の直線道として検出されている。東側に2回以上の建て替えをしている掘立柱建物群があり、平安時代の道路跡と推定している⁽¹⁴⁾。これまで古代道路のルートとして注目されていなかった箇所であるが、調査者の松永直輝は遺跡北方に富応廃寺や正院遺跡といった平安時代前期の瓦を出土する遺跡があることから、「西海道から分岐し山本都衙へ達する伝路、もしくは伝路に準ずる道の可能性」を指摘している。しかし、当調査地の南250mから古道を東行して台地上を進めば、分水嶺にある高原駅推定地の植木となる。若干の迂回的ルートとなるが、遺跡を南北に直線的に通過する古道上にあり、古道延喜式駅路の別路として開鑿された官道と考えても大きな矛盾はない。

こうした事例を考えれば、飛田遺跡群の並行するSD026とSD028に挟まれた空間を幅員3.5mの道路とすることも肯定されるであろう。すなわち、8世紀後半～9世紀初頭頃の幅員3.5mの第1期道路(SF004-1)とこれを改修する形で造られた幅員6.0mの第2期道路(SF004-2)とする考えである。

3 飛田遺跡群古代道路の評価

律令期初期の駅路として鞠智城近くを通過する「車路」と呼称された路線がある。路線上に置かれた駅家名は史料がなく不明だが、地名・伝承から南関一山鹿一菊池一泗水一子飼一託麻国府方面のルートであったことが確実である。また、阿蘇外輪山山麓の車路地名や説話、旧旭志村伊坂上原遺跡・面ヶ平遺跡より発掘された幅6mの道路遺構に着目すると、花房台地で車路から分岐し豊後へ向かった律令期初め頃の連絡道(豊肥支路)の存在も指摘できる⁽¹⁵⁾。

一方、駅制がスタートして200年ほど経過した9世紀代に機能していた『延喜式』記載の駅名から推定される駅路は、江田駅(旧菊水町江田)―高原駅(旧植木町植木)―養養駅(熊本市子飼)のルートとなる

ことは研究者で一致している。しかし、具体的な通過地点や駅家の推定地に関しては諸説がある。木下 良は植木から東方2.1kmの立石に高原駅を求め、ここから南下して蜷養駅に至るルートとする⁽⁶⁾。これに対して筆者は菊池川水系と白川水系の分水嶺で四通八達的好条件を有する植木台地中央の植木に高原駅を推定し、正院の山本郡衝を經由して植木台地上がった『延喜式』駅路は、そのまま南に直進して四方寄東方の当遺跡を經由して坪井川の河谷に降りて蜷養駅に至るルートを想定していた⁽⁷⁾。果たして筆者の想定ルートとなる当該遺跡で古代道路が検出されることになった。この遺跡で検出された道路遺構については、木本雅康が羽田遺跡で検出された「東側側溝と幅2.5m以上の路面」⁽⁸⁾を「大規模な道路遺構」と解釈し、木下による立石から南下するルートを当初からの駅路とし、飛田遺跡群の当該道路遺構を玉名郡衝と託麻郡衝を結ぶ伝路とする解釈を提唱している⁽⁹⁾。

飛田遺跡群第1期道路の廃絶は、側溝SD028の埋没後に形成された土器埋納坑の年代8世紀後半代～9世紀初頭とされ、その頃に幅3.5mの道路から幅6mの道路へと改良された可能性を持っている。同等幅の道路は黒髪町遺跡群や諏訪原遺跡においても実際に使用されており、駅路である蓋然性は強い。また、一般に6mの幅員道路は郡家間の道「伝路」で採用されていた道幅とされるが、肥後国では旧旭志村伊坂上原遺跡で検出された車路⁽¹⁰⁾や江田駅周辺で推定されている道路幅⁽¹¹⁾に該当するもので、伝路に限定せず駅路として考えることも十分に可能である。

SFO04の道路面を構成する波板状痕跡は、駅路や伝路でも検出例がある土木技術と同等のものと思われる。その道路の構築年代は、共存遺物から8世紀前半から9世紀初頭頃の期間に推定され、この期間に道幅が3.5～6mの道路に改修される画期があったことになる。この頃からおよそ半世紀後の貞観元年(859)には合志郡を削いで山本郡が分立することになり、9世紀後半代には鞠智城も史料から見えなくなつて廃城したと推定される。このことから、筆者は9世紀代中頃に鞠智城經由の車路から山本郡の郡衝を經由する『延喜式』駅路への変更を提唱したことがある⁽¹²⁾。飛田遺跡群の道路遺構は、これより半世紀早い時期に駅路の改修があったことを示唆している。そうであれば、800年前後に「車路」と呼ばれた駅路が廃され、『延喜式』記載の江田駅・高原駅經由の駅路が新しく開鑿され、次第に新路線沿いでの経済活動が活発化するなどして、合志郡を削いで山本郡分立の機運を醸成することになったと推定したい。

4 結論

飛田遺跡群で検出の古代道路遺構は、官道に相当する規模と内容をもつ道路遺構で、その立地地点からは9世紀代の駅制改変を経た『延喜式』駅路である可能性を指摘できた。延喜式駅路であれば県内で5遺跡目の検出例となる⁽¹³⁾。波板状遺構は本遺跡でも路面下に検出されており、道路の路盤工と考えることに矛盾はない。凹道となっていた東部では波板状遺構上部に盛土などで版築嵩上げて整地した上で側溝を穿って幅6mの道路敷を確保していたと推測できる。側溝は上手や路面上の雨水の処理に効果が期待されたとみられ、特に北側の側溝では2度以上の修理が確認でき、そのことの裏付けとなる。

当遺跡は急坂を控えた立地で坂道には雨水が集中し、日常的な営繕が必要であったことが無理なく想定される。遺跡から出土している「坂上」の刻書土器は遺跡の立地を表現していて示唆的で、4種の掘立柱建物や4軒の竪穴建物などの遺構も官道の営繕といった業務に関連していた可能性を考えておきたい。

古代官道の研究では駅路の幅は一般に9m以上とされ、伝路は6mとされている。駅路上記に掲げた事例で道路幅が3mほどとなっていた理由は今は明解に説明することは困難である。黒髪町遺跡群の場合は蜷養駅推定地という特殊性を考慮したが、諏訪原遺跡の事例のように幅3.0mの道路であっても『延喜式』駅路として利用されていた可能性が指摘できるようになったことは、古代道路を研究する上での大きな成果で

あり今後の調査での課題を提供したといえよう。

註

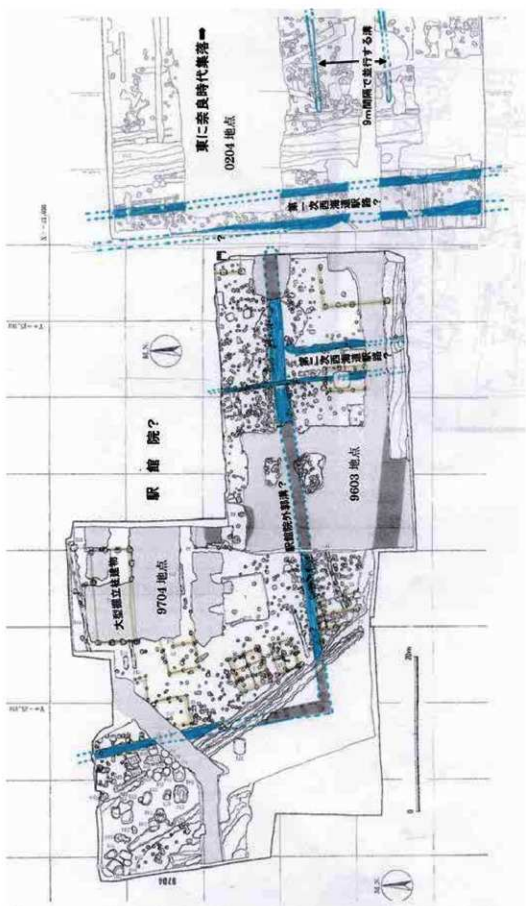
- (1) 鶴嶋俊彦 1997「肥後国北部の古代官道」古代交通研究会編『古代交通研究』第7号 八木書店
- (2) 『熊本大学埋蔵文化財調査室年報3』1997、『熊本大学埋蔵文化財調査室年報4』1998、『熊本大学構内遺跡発掘調査報告X』2014
- (3) 赤星雄一 2014「肥後国の古代官道」『国史館考古学』第6号 国史館大学考古学会
- (4) 松永直輝 2015「肥後の道路史 一植木地域を中心に」熊本市埋蔵文化財連続講座レジュメ
- (5) 前掲註(1)鶴嶋論文
- (6) 木下 良 1979「肥後国」藤岡謙二郎編『古代日本の交通路』IV 大明堂
- (7) 前掲(1)の鶴嶋論文
- (8) 前掲(3)の赤星論文
- (9) 木本雅康 2014「鞠智城西南部の古代官道について」熊本県教育委員会編『鞠智城跡Ⅱ』—論考編—
- (10) 前掲(1)の鶴嶋論文
- (11) 前掲(3)の赤星論文
- (12) 鶴嶋俊彦 1979「古代肥後国の交通路についての考察」『地理学研究』第9号 駒澤大学大学院地理学研究室
- (13) 鶴嶋俊彦 2004「肥後国」古代交通研究会編『日本古代道路事典』 八木書店

補遺

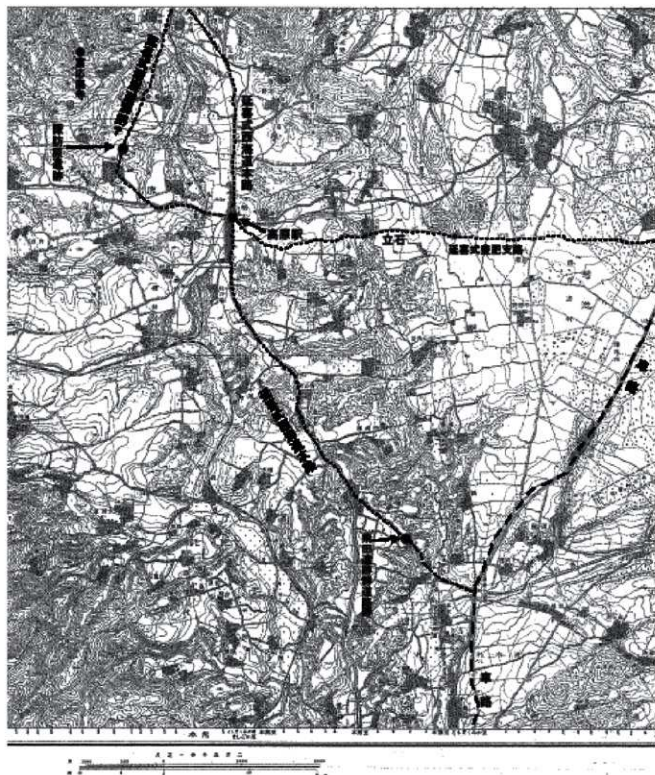
(1) 肥後の16駅のうち西海道西路の駅家とその所属郡は、次のように推定される。大水～江田(以上玉名郡)～高原(山本郡)～蚕養(龜田郡)～球磨(益城郡)～豊向～片野(以上八代郡)～朽網～佐敷～水俣(以上葦北郡)の10駅で、高原駅から分岐した豊後連絡路が坂本(合志郡)―二重・蛟薬(以上阿蘇郡)を経由し豊後に向かい、球磨駅から分岐した肥前連絡路が長崎(宇土郡)―高屋(天草郡)を経て肥前国(島原)に達し、佐敷駅から分岐した大隅連絡路は仁主(葦北郡)を経て大隅国(大口)に向かっていた。

近年、熊本県内においても古代道路の発掘調査事例が増えているが、西海道駅路跡を確認できた遺跡として熊本市大江遺跡群の成果は特筆できる。この遺跡群では託麻郡条里の南北里界線上での10回以上の調査地で駅路を調査していて、波板状凹面を持つ路面、最大道幅15mの駅路跡が確認されている。

(2) 木下 良は熊本・福岡・佐賀・山口・滋賀の各県で駅路通過地に所在する車路・車地という地名から、「クルマジ」を古代官道の遺称と提唱した(木下 良 1978「車路考」『歴史地理研究と都市研究』上巻 大明堂)。その後、筑後国周辺で幅7～9mの道が複数個所の発掘調査で確認されることになり、氏の説が正論を射たものであったことが立証されることになった。肥後国の車路の場合、木下案では国府と鞠智城の2地点間限定の軍用的道路としたが、木下が挙げた地名や説話のほかに車路・車地・車町の地名が南関町や山鹿市、菊池市に確認されることから、鶴嶋は肥後の車路もまた大水駅～蚕養駅を連絡する駅路であり、その設置は鞠智城の南を通過することから律令初期の駅路であると修正案を出した(鶴嶋俊彦 1979「古代肥後国の交通路についての考察」『地理学研究』第9号 駒澤大学大学院地理学研究室)。鶴嶋案を受けて木下は、「大水駅で」「延喜式」と分かれて鞠智城下を廻って託麻郡に至る駅路の別路であった可能性もある」として二系統の駅路が同時に存在した可能性を指摘している(木下良「事典 日本古代の道と駅」吉川弘文館 2009)。



第2図 熊本大学黒髪南キャンパス内「黒髪遺跡群」9603・9704・0204 調査地点の駅路と指定張養駅の遺構
 「熊本大学埋蔵文化財調査年報」4 (1998) 及び「熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅹ(熊本大学埋蔵文化財調査センター, 2014) の様子を合成して作成



第3図 高原駅周辺の古代道路の推定ルート
 (大正15年、大日本帝国陸地測量部図二万五千分一「植木」を使用)

報 告 書 抄 録

ふりがな	ひだいせきぐん
書名	飛田遺跡群 2
副書名	一般国道 3 号熊本北バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
シリーズ名	熊本県文化財調査報告
シリーズ番号	第 318 集
編著者	村崎孝宏 須藤美代
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒 862-8609 熊本市中央区水前寺 6 丁目 18-1 TEL. 096-333-2706
発行年月日	2016 年 3 月 31 日

ふりがな	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
ひだいせきぐん 飛田遺跡群	くまもとけんひだいせきぐん 熊本県熊本市区 上もぎまち 四方寄町	43105	066	2 区 32° 51' 36"	2 区 32° 51' 36"	20100415 ～ 20140829	2 区 4707.2 m ² 3 区 4597.9 m ²	確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
飛田遺跡群 2	集落 墓	旧石器時代 縄文時代 古墳時代 古 代	竪穴状遺構 土坑 方形周溝墓 道路 溝状遺構	石器 縄文土器 土偶・装身具 蔵骨器・高坏 壺・甕・鉢	縄文時代後期～晩期かけて 遺物土偶 16 点出土 古墳人骨の科学分析

要 約	<p>飛田遺跡群は、熊本市北部に広がる肥後台地（熊本台地）上に位置し、熊本市飛田町・四方寄町に広がる大きな遺跡である。縄文時代から古墳時代・古代の複合遺跡である。周辺の遺跡には、縄文時代後・晩期、弥生時代、古代、中世の集落遺跡が多く、その他に古墳もみられる。飛田遺跡群での本格的な発掘調査は、1979 年から実施されている。県での報告は昨年度（飛田遺跡群 1）に引き続き、今回で 2 回目となる。</p> <p>今回の調査は、2010 年から実施された 2 区・3 区である。2 区においては、主に古墳時代を主とし、方形周溝墓 6 基が検出され、3 体の古墳人骨が出土している。出土した遺物は、全て土器で、器種は高坏・鉢・壺・甕等である。その他として、古代層より蔵骨器及び墨書土器 18 点が出土している。3 区においては、主として縄文時代後・晩期の遺跡であり、竪穴建物・土坑が多数検出され、一過性の集落が存在したものと考えられる。また、土偶 16 点、装身具も出土しており、この遺跡の特徴を示す遺物として捉えられるものと思われる。その他に道路・溝状遺構を検出した。</p>
-----	---

熊本県文化財調査報告第318集

飛田遺跡群2

発行年月日 平成28年3月31日

編 集	熊本県教育委員会
発 行	〒862-8609 熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18番1号
印 刷	株式会社 トライ
製 本	〒861-0105 熊本県熊本市北区植木町味取373番地1

発行者 : 熊本県教育委員会
所 属 : 教育総務局文化課
発行年度 : 平成27年度

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第318集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：飛田遺跡群2

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

電話：096-383-1111

URL：<http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：西暦2023年1月13日